法学部 政策科学科（2018年度入学生）

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 藤田　俊	2学期 1年	1	2	1
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原　ゆうこ	2学期 1年	1	2	2
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期 1年	1	2	3
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期 1年	1	2	4
	生活世界の哲学 PHR110F 高木　駿	1学期 1年	1	2	5
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔　仁司	2学期 1年	1	2	6
	生命と環境 BIO100F 日高　京子　他	1学期 1年	1	2	7
	情報社会への招待 INF100F 中尾　泰士	2学期 1年	1	2	8
	環境問題概論 ENV100F 廣川　祐司	1学期 1年	1	2	9
	可能性としての歴史 HIS200F 藤田　俊	1学期 2年	2	2	10
	現代社会と文化 ANT210F 神原　ゆうこ	1学期 2年	2	2	11
	言語と認知 LIN210F 漆原 朗子　他	2学期 2年	2	2	12
	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期 2年	2	2	13
	共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期 2年	2	2	
	戦争論 PLS210F 戸蒔　仁司	2学期 2年	2	2	14

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F 閉講	1学期	2	2	2年	
	情報社会を読む INF200F 閉講	1学期	2	2	2年	
	地域資源管理論 ENV200F 閉講	2学期	2	2	2年	
■教養演習科目	教養演習AI（防衛セミナー） GES201F 休講	1学期	2	2	2年	
	教養演習AI（発達障がいセミナー） GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	2年	15
	教養演習AI GES201F 休講（浅羽 修丈）	1学期	2	2	2年	
	教養演習AI GES201F 未定	1学期	2	2	2年	16
	教養演習AI GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	2年	17
	教養演習AII（文化論セミナー） GES202F 休講（神原 ゆうこ）	2学期	2	2	2年	
	教養演習AII（防衛セミナー） GES202F 休講	集中	2	2	2年	
	教養演習AII GES202F 休講（浅羽 修丈）	2学期	2	2	2年	
	教養演習AII GES202F 未定	2学期	2	2	2年	18
	教養演習AII GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	2年	19
	教養演習BI GES301F 閉講	1学期	3	2	3年	
	教養演習BII GES302F 閉講	2学期	3	2	3年	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期 1年	1	2	20
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期 1年	1	2	21
	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期 1年	1	2	
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	現代人のこころ PSY003F 松本 亜紀 他	1学期 1年	1	2	22
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期 1年	1	2	23
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期 1年	1	2	24
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期 1年	1	2	25
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期 1年	1	2	
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期 1年	1	2	
	文化と表象 MCC001F 閉講	2学期 1年	1	2	
	言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期 1年	1	2	
	芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期 1年	1	2	26
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期 1年	1	2	27

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井　遼	1学期	1	2	1年	28
	社会学的思考 SOC002F 稲月　正	1学期	1	2	1年	29
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	1年	
	人権論 SOC004F 柳井　美枝	1学期	1	2	1年	30
	ジェンダー論 GEN001F 力武　由美	1学期	1	2	1年	31
	障がい学 SOW001F 伊野　憲治	1学期	1	2	1年	32
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	法律の読み方 LAW002F 中村　英樹　他	2学期	1	2	1年	33
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2	1年	
	市民活動論 RDE001F 西田　心平	2学期	1	2	1年	34
	企業と社会 BUS001F 山下　剛	1学期	1	2	1年	35
	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	1年	
	現代社会と新聞ジャーナリズム 西日本新聞社、基盤教育センター　稲月正、外国語学部　中野博文	1学期	1	2	1年	
	都市と地域 RDE002F 奥山　恭英	2学期	1	2	1年	36
	地域防災への招待 SSS001F 加藤　尊秋　他	1学期	1	2	1年（2015年度以降入学生）	37

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	地域防災への招待 SSS001F 休講	1学期 1年（2015年度以降入学生）	1	2	
	現代の国際情勢 IRL003F 北　美幸　他	1学期 1年	1	2	38
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期 1年	1	2	
	グローバル化する経済 ECN001F 魏　芳　他	1学期 1年	1	2	39
	テロリズム論 PLS001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期 1年	1	2	
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文　他	2学期 1年	1	2	40
	韓国の社会と文化 ARE010F 休講	2学期 1年	1	2	41
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期 1年	1	2	
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期 1年	1	2	
	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期 1年	1	2	
	戦後の日本経済 ECN002F 閉講	2学期 1年	1	2	
	ものと人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期 1年	1	2	
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期 1年	1	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 高木　駿	2学期 1年	1	2	42
■教職関連科目	日本史 HIS110F 古賀　康士	2学期 1年	1	2	43
	東洋史 HIS120F 植松　慎悟	2学期 1年	1	2	44
	西洋史 HIS130F 疇谷　憲洋	1学期 1年	1	2	45
	人文地理学 GEO110F 外枦保　大介	2学期 1年	1	2	46
	土地地理学 GEO111F 野井　英明	1学期 1年	1	2	47
	地誌学 GEO112F 外枦保　大介	2学期 1年	1	2	48
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田　千栄子	1学期 1年	1	2	49
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期 1年	1	2	
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 髙西 敏正	1学期 1年	1	2	50
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原　健太郎	1学期 1年	1	2	51
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期 1年	1	2	52
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 髙西 敏正	2学期 1年	1	2	53
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原　健太郎	2学期 1年	1	2	54
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期 1年	1	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	自己管理論 HSS003F 日高　京子　他	1学期	1	2	1年	55
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 黒田　次郎	1学期	1	1	1年	56
	フィジカル・エクササイズI（ソフトバレー / バレーボール） HSS081F 倉﨑　信子	1学期	1	1	1年	57
	フィジカル・エクササイズI（外種目） HSS081F 黒田　次郎	1学期	1	1	1年	58
	フィジカル・エクササイズI（ソフトバレー / バレーボール） HSS081F 小幡　博基	1学期	1	1	1年	59
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 梨羽　茂	1学期	1	1	1年	60
	フィジカル・エクササイズI（バドミントン） HSS081F 山本　浩二	1学期	1	1	1年	61
	フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ） HSS081F 下釜　純子	1学期	1	1	1年	62
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 梨羽　茂	2学期	1	1	1年	63
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 黒田　次郎	2学期	1	1	1年	64
	フィジカル・エクササイズII（バスケットボール） HSS082F 黒田　次郎	2学期	1	1	1年	65
	フィジカル・エクササイズII（ソフトバレー / バレーボー HSS082F 小幡　博基	2学期	1	1	1年	66
	フィジカル・エクササイズII（外種目） HSS082F 梨羽　茂	2学期	1	1	1年	67
	フィジカル・エクササイズII（外種目） HSS082F 仲里　清	2学期	1	1	1年	68
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	1年	69

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋　和博	1学期 1年	1	2	70
	キャリア・デザイン CAR100F 石川　敬之	1学期 1年	1	2	71
	キャリア・デザイン CAR100F 見舘　好隆	1学期 1年	1	2	72
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期 1年	1	2	
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期 1年	1	2	
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見舘　好隆	1学期 2年	2	2	73
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見舘　好隆	2学期 2年	2	2	74
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期 2年	2	2	
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川　敬之	1学期 1年	1	2	75
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川　敬之	2学期 1年	1	2	76
	プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期 2年	2	2	
	プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期 2年	2	2	
	プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期 3年	3	2	
	プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期 3年	3	2	
■教養特講	教養特講I SPL001F 休講	2学期 1年	1	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / 履修年次 / 単位 / クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養特講	教養特講II（現代社会とエシカル消費） SPL002F 大平　剛	1学期 / 1 / 2 1年	77
	教養特講III SPL003F 休講	1学期 / 1 / 2 1年	
	教養特講IV SPL004F 休講	2学期 / 1 / 2 1年	
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南　博	1学期 / 1 / 2 1年（2016年度以降入学生）	78
	地域の社会と経済 ECN170F 李　錦東	1学期 / 1 / 2 1年（2016年度以降入学生）	79
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南　博	2学期 / 2 / 2 2年（2016年度以降入学生）	80
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田　晃	1学期 / 2 / 2 2年（2016年度以降入学生）	81
	まなびと企業研究I CAR270F 小林　敏樹	2学期 / 2 / 2 2年（2016年度以降入学生）	82
	まなびと企業研究II CAR370F 見舘　好隆	1学期 / 3 / 2 3年（2016年度以降入学生）	83
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期 / 2 / 2 2年	
	情報メディア演習 INF330F 閉講	1学期 / 3 / 2 3年	
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I（律政群1-G） ENG101F 伊藤 晃	1学期 / 1 / 1 律政群1 - G	84
	英語I（律政群1-H） ENG101F 船方　浩子	1学期 / 1 / 1 律政群1 - H	85
	英語I（律政群1-I） ENG101F 酒井　秀子	1学期 / 1 / 1 律政群1 - I	86
	英語II（律政群1-H） ENG111F 相原　信彦	2学期 / 1 / 1 律政群1 - H	87

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II（律政群 1 - Ｉ ） ENG111F 木梨　安子	2学期	1	1	律政群１ - Ｉ	88
	英語III（律政群 1 - H ） ENG102F マーニー・ セイディ	1学期	1	1	律政群１ - H	89
	英語III（律政群 1 - Ｉ ） ENG102F ジェイムズ・ ヒックス	1学期	1	1	律政群１ - Ｉ	90
	英語 IV（律政群 1 - H ） ENG112F ケネス・ ギブソン	2学期	1	1	律政群１ - H	91
	英語IV（律政群 1 - Ｉ ） ENG112F マーニー・ セイディ	2学期	1	1	律政群１ - Ｉ	92
	英語V（律政群 2 - E ） ENG201F 大塚　由美子	1学期	2	1	律政群２ - E	93
	英語V（律政群 2 - F ） ENG201F 安丸　雅子	1学期	2	1	律政群２ - F	94
	英語V（律政群 2 - G ） ENG201F 船方　浩子	1学期	2	1	律政群２ - G	95
	英語VI（律政群 2 - F ） ENG211F 船方　浩子	2学期	2	1	律政群２ - F	96
	英語VI（律政群 2 - G ） ENG211F 酒井　秀子	2学期	2	1	律政群２ - G	97
	英語VII（律政群 2 - F ） ENG202F クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	律政群２ - F	98
	英語VII（律政群 2 - G ） ENG202F ロバート･マーフィ	1学期	2	1	律政群２ - G	99
	英語VIII（律政群 2 - F ） ENG212F 三宅　啓子	2学期	2	1	律政群２ - F	100
	英語VIII（律政群 2 - G ） ENG212F 薬師寺　元子	2学期	2	1	律政群２ - G	101
	英語IX（英中国済営比人律政３年 ） ENG301F 伊藤 晃	1学期	3	1	英中国済営比人律政３年	102

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語X（英中国済営比人律政３年） ENG311F 杉山 智子	2学期 英中国済営比人律政３年	3	1	103
	英語XI（英中国済営比人律政３年） ENG302F ロバート･マーフィ	1学期 英中国済営比人律政３年	3	1	104
	英語XII（英中国済営比人律政３年） ENG312F デビット･ ニール･ マクレーラン	2学期 英中国済営比人律政３年	3	1	105
■第二外国語	中国語I（ １ - a ） CHN101F 有働 彰子	1学期 済営人律政群１年	1	1	106
	中国語I（ １ - b ） CHN101F 板谷 俊生	1学期 済営人律政群１年	1	1	107
	中国語II（ １ - a ） CHN111F 有働 彰子	2学期 済営人律政群１年	1	1	108
	中国語II（ １ - b ） CHN111F 板谷 俊生	2学期 済営人律政群１年	1	1	109
	中国語III（ １ - a ） CHN102F 艾 文婷	1学期 済営人律政群１年	1	1	110
	中国語III（ １ - b ） CHN102F 于 佳	1学期 済営人律政群１年	1	1	111
	中国語IV（ １ - a ） CHN112F 艾 文婷	2学期 済営人律政群１年	1	1	112
	中国語IV（ １ - b ） CHN112F 于 佳	2学期 済営人律政群１年	1	1	113
	中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期 英済営人律政群２年	2	1	114
	中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期 英済営人律政群２年	2	1	115
	中国語VII CHN202F 黄 健	1学期 英済営人律政群２年	2	1	116
	中国語VIII CHN212F 黄 健	2学期 英済営人律政群２年	2	1	117

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I（ 1 - a ） KRN101F 呉 香善	1学期	1	1	済営律政群１年	118
	朝鮮語I（ 1 - b ） KRN101F 金 光子	1学期	1	1	済営律政群１年	119
	朝鮮語II（ 1 - a ） KRN111F 呉 香善	2学期	1	1	済営律政群１年	120
	朝鮮語II（ 1 - b ） KRN111F 金 光子	2学期	1	1	済営律政群１年	121
	朝鮮語III（ 1 - a ） KRN102F 金 光子	1学期	1	1	済営律政群１年	122
	朝鮮語III（ 1 - b ） KRN102F 崔 相振	1学期	1	1	済営律政群１年	123
	朝鮮語IV（ 1 - a ） KRN112F 金 光子	2学期	1	1	済営律政群１年	124
	朝鮮語IV（ 1 - b ） KRN112F 呉 珠熙	2学期	1	1	済営律政群１年	125
	朝鮮語V KRN201F 安 瀞珠	1学期	2	1	済営比人律政群２年	126
	朝鮮語VI KRN211F 安 瀞珠	2学期	2	1	済営比人律政群２年	127
	朝鮮語VII KRN202F 安 瀞珠	1学期	2	1	済営比人律政群２年	128
	朝鮮語VIII KRN212F 安 瀞珠	2学期	2	1	済営比人律政群２年	129
	ロシア語I RUS101F 芳之内 雄二	1学期	1	1	英中国済営比人律政１年	130
	ロシア語II RUS111F 芳之内 雄二	2学期	1	1	英中国済営比人律政１年	131
	ロシア語III RUS102F ナタリア・シェスタコーワ	1学期	1	1	英中国済営比人律政１年	132

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ロシア語IV RUS112F ナタリア・シェスタコーワ	2学期 英中国済営比人律政１年	1	1	133
	ロシア語V RUS201F 芳之内　雄二	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	134
	ロシア語VI RUS211F 芳之内　雄二	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	135
	ロシア語VII RUS202F ナタリア・シェスタコーワ	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	136
	ロシア語VIII RUS212F ナタリア・シェスタコーワ	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	137
	ドイツ語I GRM101F 古賀　正之	1学期 済営人律政１年	1	1	138
	ドイツ語II GRM111F 古賀　正之	2学期 済営人律政１年	1	1	139
	ドイツ語III GRM102F 山下　哲雄	1学期 済営人律政１年	1	1	140
	ドイツ語IV GRM112F 山下　哲雄	2学期 済営人律政１年	1	1	141
	ドイツ語V GRM201F 山下　哲雄	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	142
	ドイツ語VI GRM211F 山下　哲雄	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	143
	ドイツ語VII GRM202F 山下　哲雄	1学期 英中国済営比人律政２年	2	1	144
	ドイツ語VIII GRM212F 山下　哲雄	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	145
	フランス語I FRN101F 山下　広一	1学期 済営人律政１年	1	1	146
	フランス語II FRN111F 山下　広一	2学期 済営人律政１年	1	1	147

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語III FRN102F 中川　裕二	1学期	1	1	済営人律政１年	148
	フランス語IV FRN112F 中川　裕二	2学期	1	1	済営人律政１年	149
	フランス語V FRN201F 小野　菜都美	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	150
	フランス語VI FRN211F 小野　菜都美	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	151
	フランス語VII FRN202F 小野　菜都美	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	152
	フランス語VIII FRN212F 小野　菜都美	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	153
	スペイン語I SPN101F 富田　広樹	1学期	1	1	済営比律政１年	154
	スペイン語I SPN101F 野村　明衣	1学期	1	1	中国済営人律政１年	155
	スペイン語II SPN111F 富田　広樹	2学期	1	1	済営比律政１年	156
	スペイン語II SPN111F 野村　明衣	2学期	1	1	中国済営人律政１年	157
	スペイン語III SPN102F 辻　博子	1学期	1	1	中国済営人律政１年	158
	スペイン語IV SPN112F 辻　博子	2学期	1	1	中国済営人律政１年	159
	スペイン語V SPN201F 青木　文夫	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	160
	スペイン語VI SPN211F 青木　文夫	2学期	2	1	英中国済営比人律政２年	161
	スペイン語VII SPN202F 辻　博子	1学期	2	1	英中国済営比人律政２年	162

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語VIII SPN212F 辻　博子	2学期 英中国済営比人律政２年	2	1	163
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水　順子	1学期 留学生１年	1	1	164
	日本語II JSL102F 金　元正	1学期 留学生１年	1	1	165
	日本語III JSL103F 小林　浩明	1学期 留学生１年	1	1	166
	日本語IV JSL111F 清水　順子	2学期 留学生１年	1	1	167
	日本語V JSL112F 則松　智子	2学期 留学生１年	1	1	168
	日本語VI JSL113F 金　元正	2学期 留学生１年	1	1	169
	日本語VII JSL104F 則松　智子	1学期 留学生２年	2	1	170
	日本語VIII JSL114F 清水　順子	2学期 留学生２年	2	1	171
	日本事情（人文）A JPS101F 清水　順子	1学期 留学生１年	1	2	172
	日本事情（人文）B JPS102F 則松　智子	2学期 留学生１年	1	2	173
	日本事情（社会）A JPS103F 則松　智子	1学期 留学生１年	1	2	174
	日本事情（社会）B JPS104F 小林　浩明	2学期 留学生１年	1	2	175
■専門教育科目 ■選択科目	法哲学 LAW310M 重松 博之	2学期 ３年	3	2	176
	日本法制史 LAW312M 休講	2学期（ペア） ２年	2	4	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目	情報公開・個人情報保護法 LAW322M 岡本 博志	1学期 3年	3	2	177
	刑法犯罪各論I LAW230M 土井 和重	1学期 2年	2	2	178
	刑法犯罪各論II LAW330M 土井 和重	1学期 2年	2	2	179
	刑事司法政策I LAW332M 藤田 尚	1学期 3年	3	2	180
	刑事司法政策II LAW333M 藤田 尚	1学期 3年	3	2	181
	犯罪学 LAW232M 藤田 尚	1学期（ペア） 3年	3	4	182
	社会法の現代的展開 LAW343M 柴田 滋	2学期 3年	3	2	183
	環境法 LAW342M 鬼塚 知	1学期 3年	3	2	184
	現代国際関係法 LAW351M 二宮 正人	集中 3年	3	2	185
	現代国際関係法（英語） LAW351M 休講	集中 3年（英語）	3	2	
	親族法 LAW264M 小野 憲昭	2学期 2年	2	2	186
	相続法 LAW265M 矢澤 久純	2学期 2年	2	2	187
	民事法の実務的展開 LAW361M 尾茂田 真	2学期 3年	3	2	188
	企業活動と法 LAW273M 今泉 恵子	1学期 2年	2	2	189
	国際協力論I IRL211M 大平 剛	1学期 2年	2	2	190

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目	国際協力論II IRL212M 足立　力也	2学期 2年	2	2	191
	国際機構論I IRL312M 政所　大輔	1学期 3年	3	2	192
	国際機構論II IRL313M 政所　大輔	2学期 3年	3	2	193
	地球環境論 ENV200M 松本　治彦	1学期 2年	2	2	194
	国際関係の争点 IRL101M 足立　力也	2学期 1年	1	2	195
	国際関係の理論 IRL200M 阿部　容子	1学期 2年	2	2	196
	倫理学 PHR210M 清水　満	2学期 2年	2	2	197
	ミクロ経済学I ECN112M 休講	2学期 1年	1	2	
	ミクロ経済学II ECN210M 休講	1学期 2年	2	2	
	マクロ経済学I ECN113M 休講	2学期 1年	1	2	
	マクロ経済学II ECN211M 休講	1学期 2年	2	2	
	経済地理学I ECN242M 休講	1学期 2年	2	2	
	経済地理学II ECN243M 休講	2学期 2年	2	2	
	地域経済I ECN244M 田村 大樹	1学期 2年	2	2	198
	地域経済II ECN245M 田村 大樹	2学期 2年	2	2	199

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目	地域政策 ECN250M 松永 裕己	2学期 2年	2	2	200
	国際経済論I ECN240M 魏 芳	1学期 2年	2	2	201
	国際経済論II ECN241M 魏 芳	2学期 2年	2	2	202
	産業組織論I ECN341M 佐藤 隆	1学期 3年	3	2	203
	産業組織論II ECN342M 佐藤 隆	2学期 3年	3	2	204
	財政学I ECN361M 前林 紀孝	1学期 3年	3	2	205
	財政学II ECN362M 前林 紀孝	2学期 3年	3	2	206
	公共経済学 ECN262M 牛房 義明	1学期 3年	3	2	207
	環境経済学 ECN340M 休講	2学期 3年	3	2	
	中国経済 ECN350M 園 康寿	1学期 3年	3	2	208
	アメリカ経済 ECN351M 山崎 好裕	2学期 3年	3	2	209
	地方財政論 ECN365M 難波 利光	1学期 3年	3	2	210
	経営組織論 BUS212M 山下 剛	1学期 2年	2	2	211
	経営戦略論 BUS213M 浦野 恭平	2学期 2年	2	2	212
	人的資源管理論 BUS310M 丸子 敬仁	1学期 3年	3	2	213

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目	中小企業論 BUS313M 吉村　英俊	1学期 3年	3	2	214
	ビジネス英語研究 ENG232M ブルック 前田	2学期 3年	3	2	215
	現代法曹論０ LAW101M 中村　英樹 他	1学期 1年	1	2	216
■政策能力形成科目	政策科学入門 PLC101M 楢原 真二　他	1学期 1年	1	2	217
	政策分析入門 PLC115M 横山　麻季子　他	2学期 1年	1	2	218
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 大澤　津	1学期 1年	1	2	219
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 上條　諒貴	1学期 1年	1	2	220
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 休講	1学期 1年	1	2	
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 申　東愛	1学期 1年	1	2	
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 楢原 真二	1学期 1年	1	2	221
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 狭間　直樹	1学期 1年	1	2	222
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 中井　遼	1学期 1年	1	2	223
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 三宅 博之	1学期 1年	1	2	224
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 森　裕亮	1学期 1年	1	2	225
	政策入門演習Ⅰ SEM111M 横山　麻季子	1学期 1年	1	2	226

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策入門演習I SEM111M 田村 慶子	1学期 1年	1	2	227
	政策入門演習I SEM111M 田代 洋久	1学期 1年	1	2	228
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習I SEM211M 休講	1学期 2年	2	2	
	演習II SEM212M 大澤 津	2学期 2年	2	2	229

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習II SEM212M 中井　遼	1学期 2年	2	2	230
	演習II SEM212M 休講	2学期 2年	2	2	
	演習II SEM212M 申　東愛	2学期 2年	2	2	231
	演習II SEM212M 楢原 真二	2学期 2年	2	2	232
	演習II SEM212M 狭間　直樹	2学期 2年	2	2	233
	演習II SEM212M 上條　諒貴	2学期 2年	2	2	234
	演習II SEM212M 休講	2学期 2年	2	2	
	演習II SEM212M 休講	2学期 2年	2	2	
	演習II SEM212M 横山　麻季子	2学期 2年	2	2	235
	演習II SEM212M 田村 慶子	2学期 2年	2	2	236
	演習II SEM212M 田代　洋久	2学期 2年	2	2	237
	演習III SEM311M 大澤　津	1学期 3年	3	2	238
	演習III SEM311M 中井　遼	1学期 3年	3	2	239
	演習III SEM311M 休講	1学期 3年	3	2	
	演習III SEM311M 申　東愛	1学期 3年	3	2	240

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習III SEM311M 楢原 真二	1学期 3年	3	2	241
	演習III SEM311M 狭間 直樹	1学期 3年	3	2	242
	演習III SEM311M 上條 諒貴	1学期 3年	3	2	243
	演習III SEM311M 三宅 博之	1学期 3年	3	2	244
	演習III SEM311M 森 裕亮	1学期 3年	3	2	245
	演習III SEM311M 横山 麻季子	1学期 3年	3	2	246
	演習III SEM311M 田代 洋久	1学期 3年	3	2	247
	演習III SEM311M 田村 慶子	1学期 3年	3	2	248
	演習IV SEM312M 大澤 津	2学期 3年	3	2	249
	演習IV SEM312M 中井 遼	1学期 3年	3	2	250
	演習IV SEM312M 休講	2学期 3年	3	2	
	演習IV SEM312M 申 東愛	2学期 3年	3	2	251
	演習IV SEM312M 楢原 真二	2学期 3年	3	2	252
	演習IV SEM312M 狭間 直樹	2学期 3年	3	2	253
	演習IV SEM312M 上條 諒貴	2学期 3年	3	2	254

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	演習IV SEM312M 三宅 博之	2学期 3年	3	2	255
	演習IV SEM312M 森 裕亮	2学期 3年	3	2	256
	演習IV SEM312M 横山 麻季子	2学期 3年	3	2	257
	演習IV SEM312M 田代 洋久	2学期 3年	3	2	258
	演習IV SEM312M 田村 慶子	2学期 3年	3	2	259
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期 2年	2	1	
	政策実践プロジェクトI SEM280M 楢原 真二	2学期 2年	2	1	260
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期 2年	2	1	
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期 2年	2	1	
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期 2年	2	1	
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期 2年	2	1	
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期 2年	2	1	
	政策実践プロジェクトI SEM280M 休講	2学期 2年	2	1	
	政策実践プロジェクトI SEM280M 田代 洋久	2学期 2年	2	1	261
	政策実践プロジェクトI SEM280M 田村 慶子	2学期 2年	2	1	262
	政策実践プロジェクトII SEM380M 休講	2学期 3年	3	1	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	政策実践プロジェクトII SEM380M 楢原 真二	1学期 3年	3	1	263
	政策実践プロジェクトII SEM380M 狭間 直樹	1学期 3年	3	1	264
	政策実践プロジェクトII SEM380M 休講	1学期 3年	3	1	
	政策実践プロジェクトII SEM380M 三宅 博之	1学期 3年	3	1	265
	政策実践プロジェクトII SEM380M 森 裕亮	1学期 3年	3	1	266
	政策実践プロジェクトII SEM380M 横山 麻季子	1学期 3年	3	1	267
	政策実践プロジェクトII SEM380M 田代 洋久	1学期 3年	3	1	268
	政策実践プロジェクトII SEM380M 田村 慶子	1学期 3年	3	1	269
	卒業論文 STH410M 大澤 津	1・2学期（ペア） 4年	4	4	270
	卒業論文 STH410M 上條 諒貴	1・2学期（ペア） 4年	4	4	271
	卒業論文 STH410M 休講	1・2学期（ペア） 4年	4	4	
	卒業論文 STH410M 申 東愛	通年 4年	4	4	272
	卒業論文 STH410M 楢原 真二	1・2学期（ペア） 4年	4	4	273
	卒業論文 STH410M 狭間 直樹	1・2学期（ペア） 4年	4	4	274
	卒業論文 STH410M 中井 遼	1・2学期（ペア） 4年	4	4	275

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策能力形成科目	卒業論文 STH410M 三宅 博之	1・2学期（ペア） 4年	4	4	276
	卒業論文 STH410M 森 裕亮	1・2学期（ペア） 4年	4	4	277
	卒業論文 STH410M 横山 麻季子	1・2学期（ペア） 4年	4	4	278
	卒業論文 STH410M 田代 洋久	1・2学期（ペア） 4年	4	4	279
	卒業論文 STH410M 田村 慶子	1・2学期（ペア） 4年	4	4	280
■政策理論科目	政治学 PLS100M 上條 諒貴	1学期 1年	1	2	281
	政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期 1年	1	2	282
	西洋政治史 PLS111M 西 貴倫	1学期 1年	1	2	283
	政党政治論 PLS211M 中井 遼	1学期 2年	2	2	284
	現代政治思想 PLS212M 大澤 津	1学期 2年	2	2	285
	政策理論特講 PLS213M 松田 憲忠	集中 2年	2	2	286
	政治文化論 PLS215M 大澤 津	2学期 2年	2	2	287
	行政学 PAD100M 森 裕亮	2学期 1年	1	2	288
	行政組織論 PAD210M 横山 麻季子	1学期 2年	2	2	289
	政策構想論 PLC110M 大澤 津	1学期 1年	1	2	290

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策理論科目	比較政策論 PLC210M 休講	1学期 2年	2	2	
	公共政策論 PLC211M 楢原 真二	1学期 2年	2	2	291
	政策過程論 PLC212M 申 東愛	1学期 2年	2	2	292
	政策評価論 PLC310M 楢原 真二 他	2学期 2年	2	2	293
	都市環境論 PLC111M 三宅 博之	1学期 1年	1	2	294
	都市計画概論 PLC218M 内田 晃	1学期 2年	2	2	295
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期 1年	1	2	296
	政策情報処理 PLC223M 横山 麻季子	1学期 2年	2	2	297
	外国文献研究Ａ SEM391M 休講	1学期 3年	3	2	
	外国文献研究Ａ SEM391M チョウ ピンピン	1学期 3年	3	2	298
■政策実践科目	日本政治論 PLS110M 上條 諒貴	2学期 1年	1	2	299
	地方自治論 PAD211M 森 裕亮	1学期 2年	2	2	300
	地方行政改革論 PAD310M 森 裕亮	2学期 2年	2	2	301
	地域統合論 PLS214M 中井 遼	1学期 2年	2	2	302
	アジア地域社会論 PLC222M 三宅 博之	2学期 2年	2	2	303

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策実践科目	応用政策特講 PAD214M 湯川　勇人	集中 2年	2	2	304
	対外政策論 PLC213M 李 鍾成	1学期 2年	2	2	305
	自治体政策研究 PLC214M 楢原 真二	2学期 2年	2	2	306
	都市経済論 PLC113M 田代　洋久	2学期 1年	1	2	307
	都市経営論 PAD213M 田代　洋久	2学期 2年	2	2	308
	都市政策論 PLC219M 田代　洋久	1学期 2年	2	2	309
	環境政策論 PLC216M 申　東愛	2学期 2年	2	2	310
	途上国開発論 PLC215M 三宅 博之	1学期 2年	2	2	311
	福祉政策論 PLC217M 狭間　直樹	1学期 2年	2	2	312
	公共経営論 PAD212M 狭間　直樹	2学期 2年	2	2	313
	ＮＰＯ論 （読替科目：ＮＰＯ論） PLC114M 楢原 真二　他	1学期 1年	1	2	408
	政策実務特講 PLC220M 雪松　直子	1学期 2年	2	2	314
	政策実践特講 PLC221M 青木　将幸	集中 2年	2	2	315
	外国文献研究Ｂ SEM392M 朝倉 拓郎	2学期 3年	3	2	316
	アジアのエスニシティ政策 PLC224M 徳安 祐子	2学期 2年	2	2	317

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策関連法科目	法学総論 LAW100M 林田　幸広	1学期 1年	1	2	318
	法社会学 LAW211M 林田　幸広	1学期 2年	2	2	319
	法思想史 LAW210M 重松　博之	1学期 2年	2	2	320
	日本国憲法原論 LAW120M 中村　英樹	1学期 1年	1	2	321
	憲法人権論 LAW220M 棟形　康平	2学期 1年	1	2	322
	憲法機構論 LAW221M 棟形　康平	1学期 2年	2	2	323
	憲法訴訟論 LAW320M 中村　英樹	2学期 2年	2	2	324
	行政法総論 LAW121M 近藤　卓也	1学期（ペア） 2年	2	4	325
	行政争訟法 LAW222M 堀澤　明生	2学期 2年	2	2	326
	国家補償法 LAW321M 近藤　卓也	1学期 3年	3	2	327
	地方自治法 LAW223M 休講	1学期（ペア） 3年	3	4	
	刑法犯罪論 LAW130M 大杉　一之	2学期（ペア） 1年	1	4	328
	社会法総論 LAW140M 津田　小百合	2学期 1年	1	2	329
	社会サービス法 LAW242M 津田　小百合	2学期 2年	2	2	330
	所得保障法 LAW243M 津田　小百合	2学期 2年	2	2	331

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■政策関連法科目	雇用関係法 LAW240M 岡本　舞子	1学期 2年	2	2	332
	労使関係法 LAW241M 岡本　舞子	2学期 2年	2	2	333
	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期 2年	2	2	334
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期 2年	2	2	335
	民法総則 LAW160M 丸山　愛博	2学期（ペア） 1年	1	4	336
	物権法 LAW260M 清水　裕一郎	1学期 1年	1	2	337
	担保物権法 LAW261M 清水　裕一郎	2学期 2年	2	2	338
	債権総論 LAW263M 矢澤　久純	1学期（ペア） 2年	2	4	339
	債権各論 LAW262M 休講	2学期（ペア） 1年	1	4	
■自由科目	人間環境地理学 ENV240M 野井　英明	2学期 2年	2	2	340
	生態人類学 ANT210M 竹川 大介	1学期 2年	2	2	341
	日本の歴史と社会 HIS210M 八百 啓介	1学期 2年	2	2	342
	Advanced English I ENG353M デニス・ジョーンズ	1学期 4年	4	2	343
	Advanced English II ENG354M デニス・ジョーンズ	2学期 4年	4	2	344
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	345

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	1学期 1年	1	2	346
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期 2年	2	2	347
	教育制度論 EDU227M 休講	1学期 3年	3	2	
	教育課程論 EDU360M 児玉 弥生	2学期 3年	3	2	348
	社会科教育法A EDU240C 下地 貴樹	1学期 3年	3	2	349
	社会科教育法B EDU241C 吉村 義則	2学期 3年	3	2	350
	社会科教育法C EDU242C 休講	1学期 3年	3	2	
	社会科教育法D EDU243C 休講	2学期 3年	3	2	
	公民科教育法A EDU244C 下地 貴樹	1学期 3年	3	2	351
	公民科教育法B EDU245C 吉村 義則	2学期 3年	3	2	352
	道徳教育指導論 EDU262M 舩原 将太	2学期 2年	2	2	353
	特別活動論 EDU263M 休講	2学期 2年	2	2	
	教育方法学 EDU260M 下地 貴樹	2学期 2年	2	2	354
	生徒・進路指導論 EDU261M 休講	2学期 2年	2	2	
	教育相談 EDU264M 山下 智也	1学期 2年	2	2	355

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<昼>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 1 EDU380C 休講	2学期 3年	3	2	
	教育実習 2 EDU480C 休講	1学期 4年	4	2	
	教育実習 3 EDU481C 休講	1学期 4年	4	2	
	教職実践演習（中・高） EDU490C 休講	2学期 4年	4	2	
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下　智也	2学期 2年	2	2	356
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田　慶昭	2学期 2年	2	2	357
	教育社会学 EDU225M 恒吉 紀寿	1学期 2年	2	2	358
	人権教育論 EDU228M 休講	1学期 2年	2	2	
	生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期 2年	2	2	359
	教育工学 EDU265M 休講	2学期 2年	2	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 藤田　俊	2学期 1年	1	2	360
	異文化理解の基礎 ANT110F 閉講	1学期 1年	1	2	
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期 1年	1	2	361
	国際学入門 IRL100F 閉講	2学期 1年	1	2	
	生活世界の哲学 PHR110F 高木　駿	1学期 1年	1	2	362
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔　仁司	2学期 1年	1	2	363
	生命と環境 BIO100F 日高　京子　他	1学期 1年	1	2	364
	情報社会への招待 INF100F 中尾　泰士	2学期 1年	1	2	365
	環境問題概論 ENV100F 廣川　祐司	2学期 1年	1	2	366
	可能性としての歴史 HIS200F 休講	2学期 2年	2	2	
	現代社会と文化 ANT210F 神原　ゆうこ	1学期 2年	2	2	367
	共生社会論 SOW200F 閉講	2学期 2年	2	2	
	戦争論 PLS210F 休講	2学期 2年	2	2	
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期 1年	1	2	
	自然史へのいざない BIO001F 日高　京子　他	2学期 1年	1	2	368

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代人のこころ PSY003F 福田　恭介	1学期 1年	1	2	369
	人間と生命 BIO002F 休講	2学期 1年	1	2	
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期 1年	1	2	
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	現代正義論 PHR003F 休講	2学期 1年	1	2	
	民主主義とは何か PLS002F 休講	1学期 1年	1	2	
	人権論 SOC004F 休講	1学期 1年	1	2	
	ジェンダー論 GEN001F 閉講	 1年	1	2	
	障がい学 SOW001F 閉講	1学期 1年	1	2	
	社会調査 SOC003F 閉講	2学期 1年	1	2	
	市民活動論 RDE001F 西田　心平	2学期 1年	1	2	370
	企業と社会 BUS001F 山下　剛	1学期 1年	1	2	371
	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期 1年	1	2	
	現代の国際情勢 IRL003F 北　美幸　他	1学期 1年	1	2	372
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期 1年	1	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期	履修年次	単位	クラス	索引
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	グローバル化する経済 ECN001F 休講	1学期	1	2	1年	
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	1年	
	国際社会と日本 IRL004F 休講	2学期	1	2	1年	
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	1年	
	歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	1年	
	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	1年	
	人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 休講	2学期	1	2	1年	
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島　俊介	2学期	1	2	1年	373
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	1年	
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本　浩二	1学期	1	2	1年	374
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 閉講	2学期	1	2	1年	
	フィジカル・エクササイズII（バドミントン） HSS082F 山本　浩二	2学期	1	1	1年	375
■情報教育科目	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	1年	376
	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	2年	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目	国際協力論I IRL211M 休講	2年	2	2	
	国際協力論II IRL212M 休講	2年	2	2	
	国際機構論I IRL312M 休講	3年	3	2	
	国際機構論II IRL313M 休講	3年	3	2	
	地球環境論 ENV200M 休講	2年	2	2	
	国際関係の争点 IRL101M 休講	1年	1	2	
	国際関係の理論 IRL200M 休講	2年	2	2	
	倫理学 PHR210M 休講	2年	2	2	
	ミクロ経済学I ECN112M 朱 乙文	2学期 1年	1	2	377
	ミクロ経済学II ECN210M 朱 乙文	1学期 2年	2	2	378
	マクロ経済学I ECN113M 田中 淳平	2学期 1年	1	2	379
	マクロ経済学II ECN211M 田中 淳平	1学期 2年	2	2	380
	経済地理学I ECN242M 柳井 雅人	1学期 2年	2	2	381
	経済地理学II ECN243M 柳井 雅人	2学期 2年	2	2	382
	地域経済I ECN244M 休講	1学期 2年	2	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目	地域経済II ECN245M 休講	2学期 2年	2	2	
	地域政策 ECN250M 休講	 2年	2	2	
	国際経済論I ECN240M 休講	1学期 2年	2	2	
	国際経済論II ECN241M 休講	2学期 2年	2	2	
	産業組織論I ECN341M 休講	 3年	3	2	
	産業組織論II ECN342M 休講	 3年	3	2	
	財政学I ECN361M 休講	1学期 3年	3	2	
	財政学II ECN362M 休講	2学期 3年	3	2	
	公共経済学 ECN262M 休講	 3年	3	2	
	環境経済学 ECN340M 牛房 義明	2学期 3年	3	2	383
	中国経済 ECN350M 休講	 3年	3	2	
	アメリカ経済 ECN351M 休講	 3年	3	2	
	地方財政論 ECN365M 休講	 3年	3	2	
	経営組織論 BUS212M 休講	 2年	2	2	
	経営戦略論 BUS213M 休講	2学期 2年	2	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■専門教育科目 ■選択科目	人的資源管理論 BUS310M 丸子　敬仁	1学期 3年	3	2	384
	中小企業論 BUS313M 吉村　英俊	1学期 3年	3	2	385
	ビジネス英語研究 ENG232M 休講	 3年	3	2	
■政策理論科目	公共政策論 PLC211M 休講	1学期 2年	2	2	
■政策実践科目	地方自治論 PAD211M 森　裕亮	1学期 2年	2	2	386
	福祉政策論 PLC217M 狭間　直樹	1学期 2年	2	2	387
	ＮＰＯ論 （読替科目：ＮＰＯ論） PLC114M 楢原 真二　他	1学期 1年	1	2	409
■政策関連法科目	法学総論 LAW100M 休講	1学期 1年	1	2	
	日本国憲法原論 LAW120M 休講	1学期 1年	1	2	
	憲法人権論 LAW220M 休講	2学期 1年	1	2	
	行政法総論 LAW121M 近藤　卓也	1学期（ペア） 2年	2	4	388
	社会法総論 LAW140M 岡本　舞子	2学期 1年	1	2	389
■自由科目	人間環境地理学 ENV240M 休講	 2年	2	2	
	生態人類学 ANT210M 休講	 2年	2	2	
	Advanced English I ENG353M 休講	 4年	4	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■自由科目	Advanced English II ENG354M 休講	4年	4	2	
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期 1年	1	2	390
	教育原理 EDU110M 児玉 弥生	1学期 1年	1	2	391
	発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期 2年	2	2	392
	教育制度論 EDU227M 児玉 弥生	1学期 3年	3	2	393
	教育課程論 EDU360M 児玉 弥生	2学期 3年	3	2	394
	社会科教育法A EDU240C 休講	1学期 3年	3	2	
	社会科教育法B EDU241C 休講	2学期 3年	3	2	
	社会科教育法C EDU242C 下地 貴樹	1学期 3年	3	2	395
	社会科教育法D EDU243C 下地 貴樹	2学期 3年	3	2	396
	公民科教育法A EDU244C 休講	1学期 3年	3	2	
	公民科教育法B EDU245C 休講	2学期 3年	3	2	
	道徳教育指導論 EDU262M 舩原 将太	2学期 2年	2	2	397
	特別活動論 EDU263M 楠 凡之	2学期 2年	2	2	398
	教育方法学 EDU260M 休講	2学期 2年	2	2	

法学部 政策科学科（2018年度入学生）

<夜>

科目区分	科目名 / 担当者 / 備考	学期 / クラス	履修年次	単位	索引
■教職に関する科目 ■必修科目	生徒・進路指導論 EDU261M 楠 凡之	2学期 2年	2	2	399
	教育相談 EDU264M 山下 智也	1学期 2年	2	2	400
	教育実習１ EDU380C 児玉 弥生 他	2学期 3年	3	2	401
	教育実習２ EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	402
	教育実習３ EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期 4年	4	2	403
	教職実践演習（中・高） EDU490C 楠 凡之 他	2学期 4年	4	2	404
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期 2年	2	2	405
	障害児の心理と指導 PSY223M 休講	2学期 2年	2	2	
	教育社会学 EDU225M 恒吉 紀寿	1学期 2年	2	2	406
	人権教育論 EDU228M 河嶋 静代	1学期 2年	2	2	407
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期 2年	2	2	
	教育工学 EDU265M 休講	2学期 2年	2	2	

歴史と政治 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　藤田　俊 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史と政治	PLS110F

授業の概要　/Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

・本授業の到達目標
「知識」
　→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
　→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
　→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　大学で学ぶ歴史
第2回　現代の起点としての第一次世界大戦
第3回　言論の「中立」化
第4回　国際協調体制と戦争の違法化
第5回　1920年代の日本と中国
第6回　近代日本と災害
第7回　政治の大衆化
第8回　軍縮をめぐる政治と世論
第9回　満洲事変と「熱狂」の創出
第10回　政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
第11回　日中戦争の諸相
第12回　新体制運動
第13回　日米交渉・日米開戦
第14回　戦時体制下における情報・宣伝・報道
第15回　太平洋戦争の終結と聖断

歴史と政治 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

異文化理解の基礎	ANT110F

授業の概要　/Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではぐくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既成概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

（到達目標）
【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書　/Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
○奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
○田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
○波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部　文化の基礎としての家族
第2回　伝統的家族の多様性
第3回　家族観の変容と近代
第4回　親族という認識
第5回　親族・家族関係から社会関係への拡張
第6回　ジェンダーと伝統文化
第7回　文化相対主義の考え方
第8回　伝統文化について：構築主義と本質主義
第9回　レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部　文化と世界観
第10回　儀礼と世界観
第11回　宗教とコミュニティ
第12回　さまざまな信仰心
第13回　不幸への対処としての呪術
第14回　政教分離と世俗化
第15回　課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート（2回）50%、毎回の授業課題　50%
毎回の授業課題は、提出時期、授業への貢献によって得点が変化する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意　/Remarks

・詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
・提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
・遠隔授業の場合はオンデマンド配信となりますが、課題は提出時期によって得点が異なります。計画的に受講しましょう。
・受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード　/Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]
DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識 を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能 を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分 の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原　朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。￥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津　由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田　直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ことばの不思議
第2回　ことばの要素
第3回　ことばの習得
第4回　普遍文法と個別文法
第5回　ことばの単位(1)：音韻
第6回　連濁
第7回　鼻濁音
第8回　ことばの単位(2)：語
第9回　語の基本：なりたち・構造・意味
第10回　語の文法：複合語・短縮語・新語
第11回　ことばの単位(3)：文
第12回　動詞の自他
第13回　日本語と英語の受動態
第14回　数量詞
第15回　まとめ

ことばの科学 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の態度・参加度…10%　　課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際学入門 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		

国際学入門	IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく２本の柱が必要となる。すなわち、①グローバライゼイションのすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）
【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバライゼイション】【多様化】
第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
第11回：「地域研究」の技法。【フィールド･ワーク】
第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
第14回：まとめ
第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

国際学入門 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

SDGs「16．平和と公正」

生活世界の哲学 【昼】

担当者名 /Instructor　高木　駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】
《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや 判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

＊この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書　/Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
・重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
・S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
・米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
・○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
・神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。
＊授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ビジョン科目

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：哲学って何？社会って何？
第2回　【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
第3回　【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
第4回　【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
第5回　【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
第6回　【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
第7回　【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
第8回　【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
第9回　【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
第10回　【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス ）
第11回　【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
第12回　【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
第13回　【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
第14回　【現代】優生思想って何？：命の法的管理
第15回　【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいのか？

＊（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法　/Assessment Method

・毎回の小テスト 45%
（オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。）
・期末テスト 55%

＊授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意　/Remarks

・初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われますが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード　/Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標
【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的 に身につけている。
【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自 分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に つけている。
【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための 学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りたいと思います。（19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません）

1　ガイダンス　/　安全保障の考え方その１（抑止について）
2　安全保障の考え方その２（国際環境について）
3　安全保障とは何か　/　専守防衛と日本
4　安全保障と外交
5　自衛隊の海外派遣
6　安全保障の非軍事的な側面
7　日米同盟と自衛隊
8　自衛隊の任務
9　防衛出動　/　存立危機事態と集団的自衛権
10　海上警備行動
11　企画動画
12　安全保障流の地図の読み方
13　スクランブル
14　弾道ミサイル防衛 (BMD)
15　イージス・アショアと代替

日本の防衛 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト（8回）100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、youTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード　/Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標
【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2020年（羊土社）3080円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1980円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1980円
宇宙と生命の起源―ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）990円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス（日高・中尾）	
２回	自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）	【物質の単位】【自然科学】
３回	自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）	【元素】【原子】【超新星爆発】
４回	自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）	【DNA】【タンパク質】
５回	生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）	【種】【学名】【系統樹】
６回	生物の多様性（２）ウイルスは生物か（日高）	【ウイルス】
７回	生物の多様性（３）単細胞生物と多細胞生物（日高）	【細胞膜】【共生説】
８回	生物の多様性（４）生態系と進化（日高）	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
９回	生物の多様性（５）多様な生命（日高）	【生物多様性】
１０回	遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）	【突然変異】【遺伝学】
１１回	遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）	【有性生殖】【減数分裂】
１２回	科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）	【血液型】【星座】
１３回	科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）	【太陽活動】【地球温暖化問題】
１４回	科学的な方法とは（３）人類の起源（日高）	【ミトコンドリア】
１５回	質疑応答とまとめ（日高）	

生命と環境 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
・ 遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう

情報社会への招待 【昼】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，現在の情報社会を俯瞰的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎とし，変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

（到達目標）
【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また，この授業で学ぶICT（情報通信技術）は，国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち，「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて，これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの 1【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの 2【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウェア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分，復習60分）。
その他，ICTに関するニュースを視聴するなど，日常的，能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、⑭捕鯨問題、⑥・⑮山の管理（治水・利水）、そして⑫経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）
【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第9回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第10回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第11回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第13回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第14回　復習
第15回　総括　- おわりに -

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20％
小レポート試験：20％
最終試験：60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史 【昼】

担当者名 /Instructor　藤田　俊 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

可能性としての歴史	HIS200F

授業の概要　/Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を歩んでいたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標
「知識」
→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自 分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学 びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　歴史学とは何か
第2回　「反実仮想」と歴史学
第3回　鎖国か、開国か
第4回　国土・国境・共通語
第5回　「望ましい」首都
第6回　通過儀礼
第7回　教育のあり方
第8回　日中戦争
第9回　日独伊三国同盟とソ連
第10回　日米開戦への道
第11回　太平洋戦争
第12回　核を巡る問題
第13回　敗戦と占領
第14回　天皇制
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

可能性としての歴史 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

現代社会と文化 【昼】

担当者名 /Instructor	神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と文化	ANT210F

授業の概要　/Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身ににつけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

（到達目標）
【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
○太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
○陳天璽 2005 『無国籍』 新潮社
○本多俊和ほか 2011『グローバリゼーションの人類学』放送大学教育振興会
○塩原良和 2010 『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入：授業の説明　/ 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部　現代社会において異文化を理解するということ
第2回　文化を「知る」とはどういうことか？
第3回　ナショナリズムと文化
第4回　「未開の人々」へのエキゾチズム
第5回　植民地主義と文化
第6回　レポートについての注意と課題レポート①の説明
第7回　マイノリティ文化の保護と多文化主義
第8回　多文化主義の可能性と限界
第9回　国籍・人種などの分類の不明瞭さ
第10回　課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部　文化の違いを超えて？
第11回　近代・ポスト近代という時代の認識と文化
第12回　身体の近代化
第13回　医療の持つ権力と文化
第14回　癒しの多様性
第15回　課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート（3回）　60%、毎回の授業課題　40%
毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変化します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
・高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意　/Remarks

・遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
・受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
・評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
・提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとすることが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
・「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード　/Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知 【昼】

担当者名 /Instructor	漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科 松田　憲 / マネジメント研究科　専門職学位課程, 日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター 植田　正暢 / UEDA Masanobu / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

言語と認知	LIN210F

授業の概要　/Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

（到達目標）
DP3　思考・判断・表現力
言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

＊本授業は多くの履修生が想定されるため、オンライン授業で行います。

教科書　/Textbooks

配布資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。
まとめ（担当者によるパネル・ディスカッション）

第1回　序・講義の進め方・担当者紹介（漆原・全員）
第2回　ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
第3回　ことばはどのように処理されるのか（言語脳内処理・失文法）（漆原）
第4回　コミュニケーション行動の初期発達過程（税田）
第5回　発達の障害とコミュニケーション（税田）
第6回　コミュニケーションにおける発達支援（税田）
第7回　ヒューマンエラー（松田）
第8回　アフォーダンスとシグニファイアー（松田）
第9回　脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
第10回　ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
第11回　モノの見方と言語表現（認知意味論）（植田）
第12回　モノの切り取り方と分類（カテゴリー論）（植田）
第13回比喩と理解（植田）
第14回　ことばとジェンダー（漆原）
第15回 まとめ：担当者によるパネル・ディスカッション（全員）

言語と認知 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　20%　　レポート　16% x 5 = 80%
(すべての教員の課題を提出しない限り評価不能(-)となります。)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの課題・レポートの提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。対面授業の場合は私語をしないことを心に銘じること。
*「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力		

共生社会論	SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探って見る。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げる中で、この問題に迫っていきたい。

（到達目標）
【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
第8回：自閉症とは【自閉症】
第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

共生社会論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意　/Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

SDGs「3．健康と福祉」「16．平和と公正」「17．パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

戦争論	PLS210F

授業の概要　/Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのyouTube仕様で配信するつもりです。（シュールです。）

到達目標
【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自 分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に つけている。
【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学び を継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1回45～60分程度（予定）の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです。

1　ガイダンス　/　戦争から何を学ぶのか
2　ホモサピエンスと戦争の起源その１（サルからヒトへ）
3　ホモサピエンスと戦争の起源その２（ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり）
4　「戦争」の始まり（国家の誕生と絶対主義）
5　フランス革命と近代戦
6　ナショナリズムの時代と戦争
7　厭戦感情と世界大戦
8　総力化した戦争
9　総力化した戦争その２（塹壕戦の恐怖）
10　イデオロギー、プロパガンダ、戦争
11　アメリカ的戦争観の影響
12　全面化した戦争
13　企画動画
14　原爆開発と投下
15　核兵器と抑止

戦争論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

１～３回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト（8回）100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。またyouTube配信なので、コメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意　/Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ(発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
第2回：発達障害とは【発達障害】
第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史的変遷【歴史的変遷】
第5回：障害の捉え方【文化モデル】
第6回：支援の基本（１）障害特性の理解【障害特性】
第7回：支援の基本（２）構造化の意味と意義【構造化】
第8回：構造化演習【演習】
第9回：支援の基本（３）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
第11回：支援の基本（４）行動問題への対応【行動問題、氷山モデル】
第12回：支援の基本（５）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
第13回：支援の基本（６）余暇支援、QOLの充実【QOL】
第14回：支援計画の立て方【支援計画】
第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法　/Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。

教養演習ＡＩ(発達障がいセミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテーマとなることがらに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意　/Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

SDGs「3．健康と福祉」「16．平和と公正」「17．パートナーシップ」

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　未定

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

教科書　/Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

成績評価の方法　/Assessment Method

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡＩ【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡＩ	GES201F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標
【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回　振り返り

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

教養演習AI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（421Lab.）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　未定

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

教科書　/Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

成績評価の方法　/Assessment Method

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教養演習ＡII 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。

教養演習ＡⅡ	GES202F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。
センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標
【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書　/Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回 ガイダンス

第２回～第１４回 の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。
①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
④短期の地域ボランティア活動に参加する
⑤上記以外で必要となる諸活動

第１５回　振り返り

成績評価の方法　/Assessment Method

実習に対する参加貢献度（１００％）

教養演習AII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意　/Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター（421Lab.）に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード　/Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor: 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year: 1年次　単位 /Credits: 2単位　学期 /Semester: 1学期　授業形態 /Class Format: 講義　クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然学のまなざし	ENV002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を２つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま（文化）」と「からだ（自然）」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

（達成目標）双方向的な学びを楽しんで下さい。
【知識】
自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】
自然の営みについての考え方を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】
自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿 徳間書店
○『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

■竹川
第１講　自然学で学ぶこと
第２講　今西錦司という人がいた
第３講　バックミンスターフラーという人がいた
第４講　人類の進化と狩猟採集生活
第５講　自然学における日常実践
第６講　カボチャ島の自然学【食と資源】
第７講　風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
第８講　自然学の視点の重要性
■岩松
第９講　近世の旅にみる自然の名所性
第１０講　古民家に求める日本の故郷
第１１講　山村の伝統的景観と村落社会
第１２講　森林風景の認識と森林文化論
第１３講　自然を言語化する曖昧さ
第１４講　木の文化の伝統と変容
第１５講　９～１４講のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

（竹川）
講義で紹介するさまざまな活動に参加する　・・・15%
講義で紹介するさまざまな本を読み考える　・・・15%
講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く　・・・20%
（岩松）
小レポート…25%　試験…25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意　/Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード　/Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor　到津の森公園、文学部　竹川大介

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		

動物のみかた	Z0L001F

授業の概要　/Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

（到達目標）
【知識】
人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】
人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】
人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編　小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　動物園学概論１（動物園の歴史）
２回　動物園学概論２（人と公園の歴史）
３回　キーパーの仕事１（動物の飼育と歴史）
４回　キーパーの仕事２（動物園のみかた）
５回　キーパーの仕事３（動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割）
６回　キーパーの仕事４（どうぶつと人間のくらい）
７回　キーパーの仕事５（動物園とデザイン）
８回　キーパーの仕事６（動物園の植栽）
９回・１０回　校外実習（到津の森公園）
１１回　獣医の仕事１（どうぶつの病気）
１２回　獣医の仕事２（どうぶつたちとくらそう）
１３回　動物園学まとめ１（動物園を振り返る）
１４回　動物園学まとめ２（新しい動物園とは）
１５回　まとめ（外部講師講演）

動物のみかた 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート … ８０％　　平常の学習状況 … ２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意　/Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることで人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード　/Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

現代人のこころ 【昼】

担当者名 /Instructor	松本　亜紀 / 人間関係学科, 田中　信利 / 人間関係学科 田島　司 / 人間関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　脳とこころ1【脳とこころの関係】
第３回　脳とこころ2【睡眠の影響】
第４回　脳とこころ3【薬物の影響】
第５回　まとめと小テスト
第６回　青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
第７回　青年期の親子関係【独自性】【結合性】
第８回　青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
第９回　青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
第10回　まとめと小テスト
第11回　こころの科学１【科学としての心理学、統計】
第12回　こころの科学２【行動主義、客観性】
第13回　こころと行動【本能、生得的プログラム】
第14回　こころと他者【愛着、葛藤】
第15回　まとめと小テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・ 100%

現代人のこころ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達的特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード　/Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命 【昼】

担当者名 /Instructor　日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人間と生命	BIO002F

授業の概要　/Course Description

ヒトの体は約６０兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には２万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで（１）体はどのような物質からできているか、（２）遺伝子は体の何をどのように決めているのか、（３）細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、（４）体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標
【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的 に身につけている。
【思考・ 判断・ 表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分 の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につ けている。
【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための 学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2020年（羊土社）3080円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1980円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1980円

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　体を作る物質（１）細胞の構成成分　【多糖・ 脂質・ タンパク質・ 核酸】
３回　体を作る物質（２）食物分子と代謝　【酵素】【触媒】
４回　体を作る物質（３）遺伝物質DNA　【二重らせん】
５回　体を作るしくみ（１）遺伝子が働くしくみ　【RNA】【セントラルドグマ】
６回　体を作るしくみ（２）遺伝子できまること　【ゲノム】【体質】【遺伝病】
７回　体を作るしくみ（３）発生と分化　【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
８回　細胞の社会（１）そのとき染色体は　【細胞周期】【染色体異常】
９回　細胞の社会（２）細胞のコミュニケーション　【受容体】【シグナル分子】
１０回　細胞の社会（３）社会の反逆者・ がん　【がん遺伝子】
１１回　関連ビデオ鑑賞
１２回　体を守るしくみ（１）寿命と老化　【早老症】【テロメア】
１３回　体を守るしくみ（２）免疫とウイルス　【ウイルス】【抗体】
１４回　体を守るしくみ（３）私たちと微生物　【腸内細菌】
１５回　質疑応答・ まとめ

人間と生命 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州 【昼】

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科 三宅　博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科, 松永　裕己 / マネジメント研究科　専門職学位課程 村江　史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。
	コミュニケーション力		

環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要　/Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぶほか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標
【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解する ための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自 分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に つけている。
【自律的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト　1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス（日高）
2回　持続可能な社会をめざしてーESDー（法学部・三宅）
3回　北九州の自然と環境（基盤・村江）
4回　北九州における環境政策（外部講師）
5回　環境問題と市民の関わり（外部講師）
6回　環境ビジネスとエコタウン事業（マネジメント研究科・松永）
7回　北九州の環境経済（経済学部・牛房）
8回　環境問題とソーシャルビジネス（外部講師）
9回　施設見学・環境ミュージアム
10回　環境首都検定に向けて（外部講師）
11回　環境問題と企業の取り組み（外部講師）
12回　環境問題とエネルギー政策（外部講師）
13回　特別講演（外部講師）
14回　環境問題と学生の取り組み（地域共生教育センター）
15回　まとめ

環境都市としての北九州 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

環境首都検定の成績･・・・４０％
授業ごとのMoodle課題（確認テストやミニレポートなど）・・・６０％

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

環境首都検定受検および施設見学（環境ミュージアム）は原則として必須とする。
・ 環境ミュージアム見学は授業期間中に各自で行うこと。
・ 環境首都検定は12月12日（日）の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第１回目ガイダンス時に確認すること。
*環境ミュージアムまでの交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd

キーワード　/Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について
7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任　13. 気候変動に具体的な対策を　14. 海の豊かさを守ろう　15. 陸の豊かさも守ろう

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor
上江洲　一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19～), 永原　正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本　亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房　義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本　恭三 / Kyozo KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野　智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19～)

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21 世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。
	コミュニケーション力		

未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要　/Course Description

　環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する (授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式)。
　具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・ エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。
豊かな「知識」:
　環境問題や環境技術を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
次代を切り開く「思考・ 判断・ 表現力」:
　環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判 断を適切な方法で表現する力を身につけている。
社会で生きる「自律的行動力」:
　環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための 学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：ガイダンス、社会における環境技術の役割、
第２回：北九州市の環境エネルギー政策と風力産業拠点化政策
第３回：世界における再生可能エネルギー
第４回：日本における風力発電【洋上風力発電事業の取組み】
第５回：日本における風力発電【風力発電のメンテナンス】
第６回：日本における風力発電【海洋産業従事者の安全技術教育】
第７回：再生可能エネルギーの産業【電力システム】
第８回：再生可能エネルギーの産業【エネルギーマネジメント】
第９回：都市の環境とエネルギー【経済学からのアプローチ】
第10回：都市の環境とエネルギー【機械工学からのアプローチ】
第11回：都市の環境とエネルギー【情報学からのアプローチ】
第12回：都市の環境とエネルギー【建築学からのアプローチ】
第13回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
第14回：都市の環境とエネルギー【化学・生物工学からのアプローチ】
第15回：まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意　/Remarks

私語をしないこと。ノートはこまめにとること。都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北九州市における次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。 皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

＿　＿
環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード　/Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間 【昼】

担当者名 /Instructor　真武　真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

芸術と人間	PHR001F

授業の概要　/Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係を浮かび上がらせ、また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって拡がる同時代の動きにつなげてみる。
毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「現代アート事典　モダンからコンテンポラリーまで…世界と日本の現代美術用語集」
　　美術手帖編集部　美術出版社 2009
「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ　アートダイバー　2014
「アート・パワー」現代企画室　ボリス・グロイス著　石田圭子ほか訳　2017
「現代アートとは何か」河出書房新社　2018年　著・小崎哲哉

芸術と人間 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ　ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司　　劇的想像力について
5. 高松次郎　存在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン　大地の改造計画
8. 青木野枝　鉄と生きる　鉄と遊ぶ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口圭啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ　人々を巻込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom　世界を公共空間として認識すること

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト　2回　　50%
レポート(学期末)　40%
日常の取組(出欠など)　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
(2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード　/Keywords

アートと社会、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor	重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代正義論	PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）
○マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録＋東大特別授業(上)（下)』(早川書房、2010年）
○深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想　第２版』（ミネルヴァ書房、2015年）
○盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
○川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
○川本隆史『ロールズ　-　正義の原理』（講談社、1997年）
瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　現代正義論とは　～　問題の所在
第２回　現代正義論とは　～　本講義の概観
［第３回～第７回まで　「正義」の応用問題（生命倫理と法）］
第３回　脳死・臓器移植①　～　臓器移植法の制定と改正
第４回　脳死・臓器移植②　～　法改正時の諸論点
第５回　脳死・臓器移植③　～　改正臓器移植法の施行と課題
第６回　安楽死・尊厳死①　～基本概念の整理と国内の状況
第７回　安楽死・尊厳死②　～諸外国の状況
第８回　現代正義論①　～　ロールズの正義論
第９回　現代正義論②　～　ロールズとノージック
第10回　現代正義論③　～　ノージックのリバタリアニズム
第11回　現代正義論④　～　サンデルの共同体主義
第12回　現代正義論⑤　～　共同体主義【論争】
第13回　現代正義論⑥　～　アマルティア・センの正義論
第14回　現代正義論⑦　～　センとロールズ・ノージック
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　　講義中に課す感想文…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ＮＨＫ教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード　/Keywords

SDGs10. 不平等をなくす　SDGs16. 平和と公正　ロールズ　ノージック　サンデル　正義　脳死　尊厳死

民主主義とは何か 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

民主主義とは何か	PLS002F

授業の概要　/Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。民主主義とは強いていえば決定を権威づける一つのメカニズムに過ぎず，社会的実体の一類型でなければ道徳的目的でもない。

では近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では，理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で，どのような状況においてその決定の品質が保たれたり，そもそも政治的安定性を維持できるのか，様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は，理念的には優れた制度と思われていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また，民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。本講義の射程は非民主主義体制にも及ぶ。これらを知ることを通じてこそ，我々は多様な人々の間において適切な集合的決定を下すことが可能となるはずだ。

受講者は本講義を通じて，１）民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し，特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について，複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；２）なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか，いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか，複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；３）民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり，それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか，実証的根拠とともに説明できるようになる：４）非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき，それが体制変動・民主化に与える影響を理解し，民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる；ことが求められる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっており，そのためにも上記の４要件を満たすことが期待され，ま

教科書　/Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

宇野重規（2019）『民主主義とは何か』
○待鳥聡史（2015）『代議制民主主義–「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
○マクファーソン，C.B.（田口訳 1978）『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
○ダール，R.（高畠・前田訳）『ポリアーキー』岩波書店
○坂井豊貴（2015）『多数決を疑う–社会的選択理論とは何か』岩波書店
エリカ・フランツ（2021）『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．イントロダクションと投票参加ついて理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に，民主主義の基礎的な制度と見られる，選挙に関して，なぜ人は選挙にいったり行かなかったりするのか，ライカ–の投票参加理論をもとに理解する。

２．民主主義と隣接概念（自由主義・共和主義）を理解する。民主政–独裁政の差異と君主政–共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り，時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度（cf司法の独立）が必然的に含まれることを理解し，現在の自由民主主義指標（Freedom House, PolityIV）は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。

３．民主主義の多義性を理解し，最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び，それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても，そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。V-dem指標を知り，たとえば民主主義の場から女性を排除してきたスイスは民主主義国だろうかといった問題を検討する。

４．直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護するシュンペーターの競争的民主主義観を理解し，他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム（とそれらがはらむ危険性）について知る。

５．この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り，それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ，旧共産圏，アジア，世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は，様々な形態を通じて発生したことを知り，それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。

６．民主政と独裁政（権威主義体制）を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り，民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか，当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から，ガバナンスにかんする最新の研究まで触れることを通じて，民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか / あるいは優れていないのかを理解する。

７．権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に，民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。また，現代の権威主義体制の3分類法（軍・議会/党・個人）を知り，それぞれの特徴と，特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから，選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく，時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。

８．政治体制の変動について理解する。第３の波に限らず，体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また，権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動（民主化）を意味しないことや，民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と，経済発展（6055ドル仮説）・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。

９．独裁制と民主政を理解したうえで，そもそも民主主義という意思決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に，最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理（CJT）について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること，結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想であることをその内容を含めて理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際，CJTに対しては批判も存在し，選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。

１０．民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り，大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際，日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない，半大統領制や首相公選制についても事例を含めて理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり，日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。

１１．民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては，特に定数と議席変換方式が重要であり，多数代表性≒小選挙区制と比例代表制≒複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では，多数代表性&複数選挙区制（いわゆる中選挙区制）の効果の理解は不可欠であり，その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。

１２．民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも，実際の民主政の運用は多様であり，様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて，世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき，どのような位置に置くことができるのか理解する。

１３．多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が，多文化社会において抱える困難を理解し，そのうえで，現実に多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた，コンソシエーショナル（多極共存型）デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で，本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく，オルタナティブな議論もあることを理解する。

１４．情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち，主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり，楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり，先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点，日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり，古典的なテクノクラシーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１５．ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など，イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回（に相当する回）を用いて，調整を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験:100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示する。復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また，各回の最後に次回授業のキーワードや前提知識となる単語を示すので，それらについては事前予習してくること。
さらに，事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに，現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり，受講者同士で議論を交わしたり，関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが，きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

教養科目ですので込み入った法学・政治学の知識は必要ありません（それらがない人を想定して授業を行います）。ただし，高校卒業程度の英語・世界史，中学程度の数学の知見は必要です。これらについては授業において逐一補足しませんので，各自で能力を維持してください。

キーワード　/Keywords

SDG 5. ジェンダー平等　SDGs 16. 平和と公正

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor　稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

社会学的思考	SOC002F

授業の概要　/Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケーム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の４点を目標とする。

（１）現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。

（２）多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。

（３）どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。

（４）社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGｓ3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

到達目標

【思考･判断･ 表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書　/Textbooks

使用しない。

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『現代の社会学的解読』,山本努･ 辻正二･ 稲月正著,学文社,2014年,￥2640（古書）

『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』,一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編,中央法規,2021年,￥2,750

その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　社会とは、社会学とは【文化、社会化】
第２回　社会学的な考え方とは【行為、規範、制度、社会構造、エスノグラフィー】
第３回　社会学の歴史的展開１ - デュルケム【規範、集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
第４回　社会学の歴史的展開２ - ウェーバー【社会的行為、理解社会学、社会的行為の意図せざる結果】
第５回　家族とジェンダー【家族類型、家族の機能、世帯の概念、男女共同参画、ワークライフバランス】
第６回　集団と組織【準拠集団、第１次集団、第２次集団、官僚制、NPO】
第７回　逸脱と社会統制【差別、偏見、マイノリティ、ラベリング理論】
第８回　都市と農山村【人口構造、人口動態、都市化と過疎化、中山間地域、コミュニティ】
第９回　社会階層と社会移動【階級、階層、社会移動、所得格差、教育格差、健康格差、社会指標】
第１０回　社会問題と社会政策（貧困、失業、過労死、非正規雇用、社会的孤立、福祉国家と福祉社会、社会運動）
第１１回　環境【公害、SDGs、ESD】
第１２回　災害【被災、支援、ボランティア】
第１３回　社会システムと社会変動【近代化、産業化、情報化、戦後日本型循環モデル】
第１４回　グローバリゼーションと移民【国境を越える移動、移民、多文化共生】
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

確認小テスト…４０％、課題レポート…６０％とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。（必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード　/Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGｓ3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor　柳井　美枝 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係･歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義･重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

人権論	SOC004F

授業の概要　/Course Description

「人権」といえば「特別なもの」というイメージを抱くかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。
本講義では「人権」についての基本的な概念、現存する人権課題やその社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権課題とは何かについて共に考えていきたい。

（目標）
【思考･判断･ 表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。
【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。
【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

教科書　/Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / (公社）福岡県人権研究所発行 ￥1000）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1「自分にとっての人権課題」　オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
2「人権とは何か」　人権とは何かについて解説する。
3「人権獲得の歴史」　人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
4「世界人権宣言と人権条約」　世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
5「平和と人権」　戦争・平和についての解説。
6「ハンセン病について」　ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
7「教育と人権～識字問題」　読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
8「教育と人権～夜間中学」　教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
9「部落問題について」　現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
10「部落問題について」　当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
11「在日外国人と人権課題」　在日外国人の現状と人権課題を解説する。
12「在日コリアンについて」　在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する
13「障害者と人権」　障害者の立場からみる人権課題を知る。
14「アジアの人権状況」　アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
15「まとめ」　現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※５～１４については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に取り組む姿勢【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権課題に関心をもち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。
・教科書及び配布資料は熟読すること。

履修上の注意　/Remarks

私語は厳禁、授業態度は重視する。
出席率7割を満たした学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を許可する。
代筆や代返などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分と他者の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「ＳＤＧｓ４　質の高い教育を」「ＳＤＧｓ10　不平等をなくす」「ＳＤＧｓ16　平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor　力武　由美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		

ジェンダー論	GEN001F

授業の概要　/Course Description

この科目では、なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学、科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのかなど、日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点および理論、ならびに社会や文化に潜むジェンダー・ギャップを可視化するツールとしての統計を読み・活用する方法を学びます。

【到達目標】
【思考・判断・表現力】ジェンダーに関する課題ついて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【コミュニケーション力】他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自立的行動力】ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

牟田和恵編『改訂版　ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2017) 2,640円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
（○）マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ジェンダー論を学ぶためのキー概念【セックス】【ジェンダー】【セクシュアリティ】【家父長制】【ホモソーシャル】【ホモフォビア】【ミソジニー】【ジェンダー統計】
2回　日本語表現に潜むジェンダー【女言葉】【男言葉】【ジェンダーバイアス】【女子力】
3回　ジェンダー・リテラシーで読み解く文学【カノン】【権力】【公と私】【眼差し】【当事者性】
4回　現代アートとジェンダー–【制度】【主体】【客体】【オリエンタリズム】
5回　ワーク・ライフ・コンフリクト問題【男らしさ】【性別役割分業】【ワーク・ライフ・バランス】
6回　多様なライフスタイルと家族【近代家族】【コレクティブ / シェア・ハウジング】【ゲイ・ファミリー】【ステップ・ファミリー】【シングルペアレント・ファミリー】【シングル化】
7回　セクシュアリティと日本社会【ジェンダー化される身体】【ロマンティック・ラブ・イデオロギー】【リプロダクティブ / ヘルス・ライツ】【性のダブル・スタンダード】【性の商品化】【JKビジネス】
8回　「性別」は「女と男」ではない【ワン・セックス・モデル】【ツゥー・セックス・モデル】【多様な性】
9回　教育とジェンダー【近代化】【国民国家】【ジェンダー・ギャップ】【隠れたカリキュラム】【理系女】
10回　年金とジェンダー【片働き・共働き】【専業主婦優遇制度】
11回　高齢者介護とジェンダー【ケアの担い手】【ケアの有償化】【介護保険制度】【ヤング・ケアラー】
12回　刑法の国際化とジェンダー【女性に対する暴力】【セカンド・レイプ】【売買春】【人身取引】【国際人権法】
13回　「従軍慰安婦」問題【戦争とジェンダー】【暴力の連続体】【女性の権利は人権である】
14回　女性差別撤廃条約と人権【ジェンダーの解消】【アファーマティブ・アクション】【個人通報制度】
15回　グローバル化とジェンダー【経済格差の拡大】【移住労働】【性別役割分業の国際的再配置】

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%、期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、授業の各回に予定されている教科書の章を読み、その内容に関連した日常生活の事象例を探して、授業に臨むこと。事後学習としては、発展的学びのために教科書の各章末尾に紹介されている図書のうち関心のあるものを読んでみること、期末課題の作成に向けて文献・資料等を探して読むこと、レポートの構想を練ることなど、計画的に準備を進めていくこと。

履修上の注意　/Remarks

(1)ジェンダー関連の法制度改正・整備等の動きを新聞等で把握しておくこと。
(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、ジェンダーにセンシィブな感覚を身につけ、レポートおよび期末試験に反映させること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

「セックス」「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」「ジェンダー統計」

「SDGs 5. ジェンダー平等、SDGs 10. 不平等をなくす」

障がい学 【昼】

担当者名 /Instructor　伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する３つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		

障がい学	SOW001F

授業の概要　/Course Description

「障害」というと否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

（到達目標）
【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
第12回：文化モデル的作品の評価【３つのモデルとの関連で】
第13回：３つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
第15回：質問日。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末レポート(100%)

障がい学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意　/Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

SDGs「3．健康と福祉」「16．平和と公正」「17．パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor	中村　英樹 / 法律学科, 重松　博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科 大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科 津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科, 近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤　明生 / Akio Horisawa / 法律学科 水野　陽一 / 法律学科, 福本　忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科 岡本　舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科 林田　幸広 / 法律学科, 矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

法律の読み方	LAW002F

授業の概要　/Course Description

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

（到達目標）
【技能】法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自律的行動力】社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

特になし。
各回、必要な資料があれば配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

法律の読み方 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　法によって人を規制するということ - 感染症をめぐる公法学
第3回　検察庁法の改正法案は何が問題だったのか？ - 行政権と内閣
第4回　肉1ポンドを担保にしてお金を借りることは許されるか？ - ヴェニスの商人に見る同意
第5回　高齢者の罪は許すべき？
第6回　人間はAIとどのように向き合うべきか？ - AIと法
第7回　電気は「物」か？ - 物に関する法
第8回　女性にだけ再婚禁止期間が原則100日も設けられているはなぜか？ - 民法における再婚禁止期間と嫡出推定の関係
第9回　法律と年齢 - ○○才になったら□□ができる！？
第10回　災害リスク管理制度としての保険
第11回　年金って私たちはもらえないんでしょ？ - 公的年金の役割
第12回　長時間労働はなぜ起きるのか？
第13回　自分の臓器を売る自由？ - 自己所有権の限界
第14回　裁判しない法専門家 - ADRとそのねらい
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末のレポートによる（100％）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGｓ」の目標の中の「３.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

（到達目標）
【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

市民活動論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢…　40％
期末試験…　60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

この講義は「SDGｓ」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「３.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

（到達目標）
【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤と なる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年 (○)
三戸公『随伴的結果』文眞堂、1994年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
第3回「株式会社」の仕組み①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第4回「株式会社」の仕組み②　【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
第5回社会における「大企業」の意味①　【大企業とは何か】【所有と支配】
第6回社会における「大企業」の意味②　【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
第7回社会における「大企業」の意味③　【官僚制】【科学的管理の展開】
第8回社会における「大企業」の意味④　【環境問題】【随伴的結果】
第9回社会における「大企業」の意味⑤　【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
第10回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第11回「家」としての日本企業②　日本企業特有の組織原理【階統制】【能力主義】【企業別組合】
第12回「家」としての日本企業③　日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第13回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第14回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第15回総括

企業と社会 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験･･･ 60%　　小テスト･･･ 40%

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財･サービス　株式会社　大企業　家の論理　社会的器官

SDGs8. 働きがい･経済成長、SDGs12. 作る･使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

都市と地域 【昼】

担当者名 /Instructor　奥山　恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

都市と地域	RDE002F

授業の概要　/Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。
「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　共通　：クラス紹介および注意事項
２回　地域１　：地域の概念：『地域』とは何か？
３回　地域２　：地域学と地域科学
４回　地域３　：地域開発とは
５回　地域４　：地域間という視点
６回　地域５　：地域を分析する
７回　地域６　：地域事例（ＬＱによる分析）
８回　地域７　：地域最終クイズ
９回　都市１　：都市はなぜ存在するか？
１０回　都市２　：都市の理論
１１回　都市３　：都市の構造
１２回　都市４　：都市の変遷・動態
１３回　都市５　：都市を分析する
１４回　都市６　：都市事例
１５回　都市７　：都市最終クイズ

成績評価の方法　/Assessment Method

クイズ（合計）…３０％　授業内貢献…１０％　最終クイズ（２回合計）…６０％

都市と地域 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨もこと。新聞やＴＶニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意　/Remarks

本授業は毎週行われ、講義および討論の形式をとります。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、複数の（Moodleによる）クイズへの回答、および 2 回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業貢献は授業内ディスカッションでの発言回数および発言内容を重要視する
また、不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数（授業貢献を含む）が 0 点になる。

キーワード　/Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域防災への招待 【昼】

担当者名 /Instructor	加藤　尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科（19～）, 上江洲　一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科（19～） 村江　史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸　將江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科（19～） 二宮　正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年（2015年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見いだし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		

地域防災への招待	SSS001F

授業の概要　/Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。

地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。

さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

岡田恒男、土岐憲三(2006)：地震防災のはなし、朝倉書店
京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第２版、じほう
片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
2　組織連携のための課題と訓練（北九大・加藤）
3　気象と地震（北九州市危機管理室）
4　防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
5　大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
6　学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
7　災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
8　都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
9　ジェンダーと防災：地域での実践（北九大・二宮）
10　産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
11　大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大・村江）
12　北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
13　学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
14-15　人が死なない防災（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）
市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）
14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法　/Assessment Method

活発な授業参加　20%
レポートおよび小テスト　80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

北九州市派遣講師の回は、教室での対面講義を予定しているため、受講人数制限あり。
講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。
本年度は、新型コロナウイルス対策のため、会場での合同ワークショップは実施しない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード　/Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業
SDGsで関連するゴール（3. 健康と福祉を、5. ジェンダー平等、6. 水とトイレを、13. 気候変動対策)

現代の国際情勢 【昼】

担当者名 /Instructor	北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平　剛 / 国際関係学科 ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科 白石　麻保 / 中国学科, 久木　尚志 / 国際関係学科 篠崎　香織 / 国際関係学科, 柳　学洙 / 国際関係学科 政所　大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標
【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　北　日系アメリカ人の歴史と今日（１）概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
第3回　北　日系アメリカ人の歴史と今日（２）現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
第4回　阿部　米中の技術覇権争いと日本経済　【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
第5回　政所　国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
第6回　政所　国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
第7回　久木　2010年代以降のイギリス（１）【政権交代】【国民投票】
第8回　久木　2010年代以降のイギリス（２）【EU離脱】
第9回　篠崎　東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
第10回　篠崎　世界文化遺産ペナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
第11回　リーダー　Humour in British Politics（イギリス政治におけるユーモア）【British politics（イギリス政治）】【Protest（抵抗）】【Humour（ユーモア）】
第12回　白石　中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
第13回　柳　朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
第14回　柳　北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
第15回　下野　台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回）100%

現代の国際情勢 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

SDGsとの関連
第4回　阿部　9「産業・技術革命」
第5回、第6回　政所　16「平和と公正」
第9回、第10回　篠崎　11「まちづくり」
第12回　白石　17「グローバル・パートナーシップ」
第15回　下野　5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

グローバル化する経済 【昼】

担当者名 /Instructor	魏　芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田　淳 / MAEDA JUN / 経済学科 柳井　雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科 田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科, 城戸　宏史 / ＫＩＤＯ　ＨＩＲＯＳＨＩ / マネジメント研究科 専門職学位課程 王　効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身についてる。
	コミュニケーション力		

グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要　/Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

（到達目標）
【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション－グローバル化とは何か
2回　自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
3回　地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
4回　企業の海外進出と立地（１）【直接投資】
5回　企業の海外進出と立地（２）【人件費】【為替レート】
6回　海外との取引の描写 【経常収支と資本移動の関係について】
7回　先進国と途上国間の資本移動 【経済成長と資本移動について】
8回　内なる国際化と地域経済（１）【外国人労働者】【自動車産業】
9回　内なる国際化と地域経済（２）【外国人労働者】【サービス業】
10回　アジアにおける日系企業の事業展開 【経営現地化】
11回　外資系による日系企業の買収合併【外資政策による規制】【S社の事例】
12回　国際労働移動（１）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
13回　国際労働移動（２）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
14回　グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
15回　グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

グローバル化する経済 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験: 100％。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意　/Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際社会と日本 【昼】

担当者名 /Instructor	中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		

国際社会と日本	IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]
【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤とな る知識を総合的に身につけている。
【思考・ 判断・ 表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、 自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見 し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス
2回 戦後日本外交の構図
3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
5回 独立国の条件1 【自主外交】【二大政党制】
6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
8回 経済大国外交の原型2 【沖縄復帰】
9回 自立的協調の模索1 【デタント】
10回 自立的協調の模索2 【石油危機】
11回 「国際国家」の使命と苦悩1 【日米同盟】
12回 「国際国家」の使命と苦悩2 【経済摩擦】
13回 冷戦後の外交1 【軍縮】【湾岸戦争】
14回 冷戦後の外交2 【テロとの戦い】
15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

国際社会と日本 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意　/Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード　/Keywords

近現代　国際関係史　東アジア

韓国の社会と文化 【昼】

担当者名 /Instructor　休講

履修年次 1年次 /Year　単位 2単位 /Credits　学期 2学期 /Semester　授業形態 講義 /Class Format　クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

韓国の社会と文化	ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

（到達目標）
【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。
【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。
【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

韓国の社会と文化 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
3　韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
4　韓国の文字・ハングルの仕組みについて
5　韓国人の名字と名前①【苗字について】
6　韓国人の名字と名前②【名前について】
7　現代韓国社会と文化の特徴I（外部講師）
8　ドラマで「植民地時代」を追体験する
9　韓国（人）にとって日本（人）とは？
10　日本（人）にとって韓国（人）とは？
11　韓国における日本大衆文化の受容政策
12　グローバル化するK-POP
13　現代韓国社会と文化の特徴II（外部講師）
14　歴代大統領でみる韓国の社会と文化
15　韓国の宗教＆詩人・尹東柱

＊上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の視聴レポート　25%
毎回のコメントカード　40%
その他、小レポートなど　35%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

韓国　社会　文化　歴史　異文化理解　日韓関係

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

担当者名 /Instructor	高木　駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

ヨーロッパ道徳思想史	PHR005F

授業の概要　/Course Description

倫理学って何でしょうか？まず、倫理学は、考える学問である哲学の一分野です。では、何を考えるのか？それは、私たちの行動や振る舞い、そしてその善さや悪さです。少し専門的に言えば、倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとします。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死 / 尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にしていただくことが、本講義の目的となります。

【到達目標】
《思考・判断・表現力】倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

＊この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「社会哲学入門」があります。

教科書　/Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
・柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
・○中島義道『悪について』, 岩波新書
・品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
・児玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。
＊授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：倫理学って何？
第2回　【基礎】義務論①：多数者のために一人を殺すべきか？（トロッコ問題）
第3回　【基礎】義務論②：無条件の義務（カント）
第4回　【基礎】功利主義①：幸福とは何か？（ハチソン、ベンタム、ミル）
第5回　【基礎】功利主義②：選好功利主義（ヘア）
第6回　【基礎】徳倫理学①：徳とは何か？（プラトン、アリストテレス）
第7回　【基礎】徳倫理学②：善い人間と善い社会（マッキンタイア）
第8回　【基礎】メタ倫理学：善さとは何か？（ムーア）
第9回　【応用】討議倫理学：コミュニケーションと倫理（ハーバーマス ）
第10回　【応用】生命医療倫理学①：いつから人間になる？（中絶、ES / IPS細胞）
第11回　【応用】生命医療倫理学②：いつまで人間でいられる？（認知症、安楽死 / 尊厳死）
第12回　【応用】環境倫理学①：人間中心主義と自然中心主義（クレプス、アービッヒ、ネス）
第13回　【応用】環境倫理学②：動物の権利（シンガー、ヌスバウム）
第14回　【応用】ケアの倫理学①：道徳とジェンダー（ギリガン）
第15回　【応用】ケアの倫理学②：ケアは誰が担うべきなのか？（フェミニズム、ジェンダー論）

＊（ ）の中は、その回に扱う主な思想家や問題です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法　/Assessment Method

・毎回の小テスト 45%
（オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。）
・期末テスト 55%

＊授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意　/Remarks

・初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われますが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード　/Keywords

哲学、倫理学、社会学

日本史 【昼】

担当者名 /Instructor　古賀　康士 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本史	HIS110F

授業の概要　/Course Description

「歴史」を学ぶとはどういうことでしょうか？　それは単に過去の出来事を暗記するだけのことでも、書かれた歴史を受動的に受け入れるだけのことでもありません。
　この授業では、日本史に関係する重要なテーマ・トピックスを掘り下げ、歴史を学び / 教えるのに必要となる考え方を学習します。具体的には歴史学・日本史で使われる基礎的な知識・概念の習得を目指し、歴史の諸問題を主体的に考えられる能力を身に付けることを目標とします。

教科書　/Textbooks

各回でレジュメ、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：ガイダンス
第２回：「歴史」を学ぶとはどういうことか？　―過去・史料・歴史家―
第３回：ヒトはどこから来たのか？　―人類の拡散と日本列島―
第４回　狩猟採集社会と農耕社会　―気候変動と縄文・弥生人―
第５回：前方後円墳とヤマト王権　―初期国家の成立―
第６回　日本の古代国家　―東アジアの律令国家―
第７回：日本の中世社会　―分権化する国家と社会―
第８回：越境するヒトとモノ　―銭貨・倭寇・鉄砲―
第９回：世界史のなかの「近世」　―東アジアにおける伝統社会の形成―
第10回：歴史人口学の世界
第11回：結婚と離縁　–歴史のなかの男と女–
第12回：貨幣からみる近世社会
第13回：日本の「近代」
第14回：「日本人」と戦争
第15回：まとめ　–「歴史」を学ぶということ–

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%、小レポートなどを含む)、期末試験 (50%) によって評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業のなかで紹介する関係図書・文献を事前・事後学習として読む必要がある。

履修上の注意　/Remarks

日本史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

東洋史 【昼】

担当者名 /Instructor　植松　慎悟 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

東洋史	HIS120F

授業の概要　/Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、秦の始皇帝による中国統一から、三国時代までの歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書　/Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義のガイダンス
2回　古代の中国と日本 –日中交流史–
3回　秦の始皇帝
4回　前漢の高祖
5回　前漢の武帝
6回　前漢の昭帝
7回　前漢の宣帝
8回　前漢の元帝
9回　前漢の成帝
10回　新の王莽
11回　後漢の光武帝
12回　後漢時代と『三国志』の幕開け
13回　魏の曹操
14回　蜀の劉備と呉の孫権
15回　まとめ
期末試験 (場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験・・・７０％　日常の授業への取り組み・・・３０％
＊なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

東洋史 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。（60分）
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。（60分）

履修上の注意　/Remarks

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があり、その際は授業中に指示する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくと、理解が深まるでしょう。

キーワード　/Keywords

中国　歴史　政治　社会　文化　皇帝支配

西洋史 【昼】

担当者名 /Instructor	疇谷　憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

西洋史	HIS130F

授業の概要　/Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
1回　「１３世紀世界システム」とヨーロッパ　【パックス・モンゴリカ】
2回　ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界　【港市国家】
3回　イベリア諸国の形成　【レコンキスタ】
4回　「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
5回　新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
6回　ポルトガル海洋帝国の形成①　【香辛料】
7回　ポルトガル海洋帝国の形成②　【点と線の支配】
8回　スペインによる植民地帝国の形成①　【ポトシ】
9回　スペインによる植民地帝国の形成②　【モナルキーア・イスパニカ】
10回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
11回　「１７世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
12回　環大西洋世界の展開①　【第二次英仏百年戦争】
13回　環大西洋世界の展開②　【環大西洋革命】
14回　ヨーロッパ勢力とアジアの海　【近代世界システム】
15回　まとめ　【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法　/Assessment Method

講義内に課す小レポート（５回）・・・２５％、期末試験・・・７５％
（小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください（とくに世界史）。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

特にありません。

西洋史 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード　/Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor　外杤保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

人文地理学	GE0110F

授業の概要　/Course Description

本講義では、人文地理学の基礎的な理論や概念を概説する。
人文地理学は、地域、環境、空間に関する多様な対象を扱う学問領域である。
講義を5つのセクションに分け、「人文地理学の基礎」「社会・文化と地域」「経済発展と人口移動」「都市構造と都市システム」「産業立地と集積」について講義を行う。人文地理学の領域に含まれる社会地理学、文化地理学、人口地理学、経済地理学、都市地理学などから主要なトピックを取り上げる。
具体的な事例を通じて、人文地理学のキーコンセプトに対する理解を深めてもらいたい。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　人文地理学の基礎(1)　地理学の歴史
第2回　人文地理学の基礎(2)　地域概念と重力モデル、時間地理学、空間認識
第3回　社会・文化と地域(1)　言語と地域
第4回　社会・文化と地域(2)　食文化と地域
第5回　社会・文化と地域(3)　町並み保存
第6回　経済発展と人口移動(1)　近世・近代日本の都市発展
第7回　経済発展と人口移動(2)　現代日本の都市発展
第8回　都市構造と都市システム(1)　世界都市、オフィスの立地、大都市の構造と動態(東京)
第9回　都市構造と都市システム(2)　都市の内部構造、大都市の構造と動態(大阪)
第10回　都市構造と都市システム(3)　都市と郊外、規制緩和と郊外商業地の拡大
第11回　都市構造と都市システム(4)　都市システム、広域中心都市、大都市の構造と動態(福岡)
第12回　産業立地と集積(1)　チェーンストアの配送と立地
第13回　産業立地と集積(2)　産業集積、企業城下町
第14回　産業立地と集積(3)　コンテンツ産業の集積
第15回　産業立地と集積(4)　空間分業

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、ミニレポート (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

人文地理学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。
授業中の説明に注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor　野井　英明 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

土地地理学	GE0111F

授業の概要　/Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必要で、地図は「地理学の言語」と言われるくらい重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法も学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書　/Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　地理学では何を学ぶか
2回　地図の役割と地図の能力　【地理的情報を整理する働き】
3回　地図の歴史　【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
4回　地図にはどのような種類があるか　【地図には様々な種類がある】
5回　地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
6回　地図記号と景観　【地図を読む楽しみ】
7回　山の地形を地形図から描く1　（講義・実習）【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
8回　山の地形を地形図から描く2　（実習）
9回　地図を利用して地表を計測する　【山の堆積を地図から測定できる】
10回　地形図を利用して景観を読みとる1（実習）　【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
11回　地形図を利用して景観を読みとる2（実習）　【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
12回　リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
13回　空中写真を利用して高さを測定する（講義・実習）
14回　衛星データを利用して地表の環境を調べる
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…30%　試験…70%

土地地理学 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 /Instructor　外枦保　大介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

地誌学	GE0112F

授業の概要　/Course Description

グローバル化が進行しつつある現代世界において、世界や日本の諸地域を正確に認識することがますます重要となっている。
この科目では、様々な空間スケールにおける、先進国地域の地誌をテーマとする。欧米諸国や日本の諸地域は、近現代においてどのような変化・発展を遂げ、今日に至っているのか、それらの比較を通じて、動態的な地誌について理解を深めてもらいたい。
必要に応じて、講義内容に関係する時事的事項を扱う。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

松原　宏編　『先進国経済の地域構造』　東京大学出版会　2003年　4,800円
平岡昭利編　『地図で読み解く日本の地域変貌』　海青社　2008年　3048円

高校で使用する程度の「地図帳」を持参しておくことが望ましい。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
第2回　欧米地誌(1)　ヨーロッパ総論(1)：ヨーロッパの地形・気候と農業、ヨーロッパの諸民族と市民生活など
第3回　欧米地誌(2)　ヨーロッパ総論(2)：ヨーロッパ統合の歩み、EUによる地域統合など
第4回　欧米地誌(3)　イギリス地誌
第5回　欧米地誌(4)　ドイツ地誌
第6回　欧米地誌(5)　スペイン・フランス地誌
第7回　欧米地誌(6)　イタリア・北欧地誌
第8回　欧米地誌(7)　ベネルクス・スイス地誌
第9回　欧米地誌(8)　アメリカ合衆国地誌
第10回　日本地誌(1)　近世城下町の変容：島根県松江市、鹿児島県鹿児島市
第11回　日本地誌(2)　干拓地域の変容：山口県防府市、県庁所在地の変容：宮崎県宮崎市
第12回　日本地誌(3)　軍事都市の変容：広島県呉市、熊本県熊本市
第13回　日本地誌(4)　鉱業地域の変容：福岡県筑豊地域、愛媛県新居浜市
第14回　日本地誌(5)　港湾都市の変容：山口県下関市
第15回　日本地誌(6)　工業都市の変容：福岡県北九州市

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験 (80%)、日常の授業の取り組み (20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の事前・事後に、授業の理解に有益な文献を精読すること。

地誌学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

オンライン開講の場合、成績評価等が一部変更になることがあります。
授業中の説明に注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

メンタル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　寺田　千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅠ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なこころで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

(到達目標)
【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　メンタルヘルスを学ぶ目的
第2回　メンタルヘルスに関する基礎知識（１）【日本における現状と課題】
第3回　メンタルヘルスに関する基礎知識（２）【問題の種類、よくある誤解】
第4回　ライフサイクルとメンタルヘルス（１）【子ども】
第5回　ライフサイクルとメンタルヘルス（１）【大人】
第6回　精神と行動の異変（１）【精神症状】
第7回　精神と行動の異変（２）【精神疾患】
第8回　大学生とメンタルヘルス（１）【ボディメイクと摂食障害】
第9回　大学生とメンタルヘルス（２）【アディクション】
第10回　自己分析
第11回　セルフケア①【ストレスの仕組み】
第12回　セルフケア②【ストレスマネジメント】
第13回　セルフケア③【相談の有用性】
第14回　セルフケア④【ソーシャルサポート】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%　　日常の授業への取り組み　50%

メンタル・ヘルスI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業のリアクションをMoode 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意　/Remarks

本授業は、基本的には講義形式で進行しますが、内容に応じて演習形式の体験学習を行います。実際に他者とのコミュニケーションを行う作業を含みますので、履修生はこの点を理解し受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰しも精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード　/Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

フィジカル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　髙西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

（到達目標）
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor　柴原　健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は，体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　ソフトバレーボール（実習）
４回　ストレッチの理論（講義）
５回　ストレッチの実際、ゲーム（実習）
６回　生活習慣病の予防と対策（講義）
７回　生活習慣病の予防と対策（実習）
８回　フェアプレイ、スポーツマンシップとは（講義）
９回　球技を楽しもう①（卓球、バドミントン、ショートテニス）（実習）
１０回　球技を楽しもう②（卓球、バドミントン、ショートテニス）（実習）
１１回　これからの運動①（心臓の予備力、体力の変化）（講義）
１２回　これからの運動②（体力の維持・向上、継続性）（講義）
１３回　スポーツ実施の心理的効果（講義）
１４回　スポーツ実施の心理的効果（実習）
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み …７０％　レポート …３０％

フィジカル・ヘルスI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フィジカル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor	徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義・演習	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要 /Course Description

到達目標
コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自律的駆動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことと考えます。
スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。
また、特別講師としておがわ整骨院院長の小川博久先生からテーピングを中心に授業を行います。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　健康体力の理解
３回　身体のケアについて　メンタル面
４回　身体のケアについて　フィジカル面
５回　ウォーミングアップとクーリングダウン
６回　用具を使って身体を整える
７回　セルフマッサージで身体を整える
８回　テーピングによる簡単な予防
９回　トレーニングによって身体を整える
１０回　ウエイトトレーニングの注意点
１１回　体脂肪を減らすトレーニング
１２回　柔軟性を高める運動　一人で行うもの
１３回　柔軟性を高める運動　二人で行うもの
１４回　腰痛と運動
１５回　運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…５０％
まとめ…５０％

フィジカル・ヘルスI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業の理解に有益な情報収集を行うこと
授業後は文献等で再度復習しましょう。

履修上の注意　/Remarks

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること
気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容（講義･実習）によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

身体活動をとおして理論と実践を学びます。
積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

健康・安全・衛生

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　髙西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

（到達目標）
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　健康と体力（体力とトレーニング）
３回　体力測定（筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など）＜実習＞
４回　準備運動と整理運動
５回　ストレッチング実習 ＜実習＞
６回　自分にとって必要な体力とは？
７回　運動処方
８回　運動強度測定（心拍数測定）＜実習＞
９回　自分にとって最適な運動強度とは？
１０回　自分に適した運動の種類や方法とは？
１１回　正しいウォーキングとは？ ＜実習＞
１２回　道具を使用したトレーニング（バランスボールなど）＜実習＞
１３回　スポーツビジョントレーニング（バレーボールを利用して）＜実習＞
１４回　運動・スポーツの動機付け
１５回　北九州市立大学散策マップ作成（100kcal運動）＜実習＞

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

フィジカル・ヘルスI【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI 【昼】

担当者名 /Instructor　柴原　健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われており、特に運動は，体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
３回　ソフトバレーボール（実習）
４回　ストレッチの理論（講義）
５回　ストレッチの実際、ゲーム（実習）
６回　生活習慣病の予防と対策（講義）
７回　生活習慣病の予防と対策（実習）
８回　フェアプレイ、スポーツマンシップとは（講義）
９回　球技を楽しもう①（卓球、バドミントン、ショートテニス）（実習）
１０回　球技を楽しもう②（卓球、バドミントン、ショートテニス）（実習）
１１回　これからの運動①（心臓の予備力、体力の変化）（講義）
１２回　これからの運動②（体力の維持・向上、継続性）（講義）
１３回　スポーツ実施の心理的効果（講義）
１４回　スポーツ実施の心理的効果（実習）
１５回　まとめ、レポート提出

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み …７０％　レポート …３０％

フィジカル・ヘルスI【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

理論を受けて実習を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor
日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡　栄寿 / 基盤教育センター
村江　史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	講義	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

自己管理論	HSS003F

授業の概要　/Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標
【自律的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　（基盤教育セ・日高）
２回　社会人のマナー　（キャリアセンター・木村）
３回　身体の健康（保健室看護師）
４回　心の健康（相談室・臨床心理士）
５回　スポーツと健康（基盤教育セ・日高）
６回　市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
７回　災害への備え（基盤教育セ・村江）
８回　犯罪防止（小倉南警察署生活安全課）
９回　自転車の交通安全（小倉南警察署交通課）
１０回　消防と救急（消防局予防課・救急課）
１１回　消費者トラブル（消費生活センター）
１２回　大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
１３回　ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
１４回　課題研究
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
・終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

自己管理論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード　/Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１３回　ダブルスゲーム (リーグ戦)
１４回　スキル獲得テスト②
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（ソフトバレー / バレーボール）【昼】

担当者名 /Instructor　倉﨑　信子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I　HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）＜アンダーサーブ＞
３回　サーブ練習（２）＜オーバーサーブ＞
４回　パス練習（１）＜アンダーパス＞
５回　パス練習（２）＜オーバーパス＞
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）＜サイド＞
８回　アタック練習（２）＜センター＞
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　＜サーブに留意して＞
１２回　ゲーム（２）　＜サーブカットに意識して＞
１３回　ゲーム（３）　＜アタックに留意して＞
１４回　ゲーム（４）　＜フォーメーションに留意して＞
１５回　スキル獲得テスト

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅠ	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー，ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　テニス (ストロークの基礎練習)
３回　テニス (サービス・スマッシュの基礎練習)
４回　テニス (ゲーム①シングルス)
５回　テニス (ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
６回　サッカー (パスの基礎練習)
７回　サッカー (シュート・連携)
８回　サッカー (戦術・ルール把握・ゲーム①)
９回　サッカー (ゲーム②)
１０回　サッカー (ゲーム③・スキル獲得の確認)
１１回　ソフトボール (キャッチボール・守備)
１２回　ソフトボール (バッティング・ルール解説)
１３回　ソフトボール (ゲーム①)
１４回　ソフトボール (ゲーム②)
１５回　ソフトボール (ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが，天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI（ソフトバレー / バレーボール）【昼】

担当者名 /Instructor　小幡　博基 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I　HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）＜アンダーサーブ＞
３回　サーブ練習（２）＜オーバーサーブ＞
４回　パス練習（１）＜アンダーパス＞
５回　パス練習（２）＜オーバーパス＞
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）＜サイド＞
８回　アタック練習（２）＜センター＞
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　＜サーブに留意して＞
１２回　ゲーム（２）　＜サーブカットに意識して＞
１３回　ゲーム（３）　＜アタックに留意して＞
１４回　ゲーム（４）　＜フォーメーションに留意して＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　梨羽　茂 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >
【コミュニケーションカ】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケー ションカを有している。
【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ゲーム法の解説
９回～１４回　ゲーム (リーグ戦)
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs ３．健康と福祉を

フィジカル・エクササイズI（バドミントン）【昼】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅠ	HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（授業の展開方法や履修に関しての諸注意）
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト（ヘアピン・クリアー）
５回　基本的な打ち方とフライト（ドロップ）
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１４回　ダブルスゲーム（リーグ戦）
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前，運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し，怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

担当者名 /Instructor　下釜　純子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズ I　HSS081F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス（受講上の注意）
２回　ヨガストレッチ（１）
３回　ヨガストレッチ（２）
４回　体幹トレーニング（１）
５回　体幹トレーニング（２）
６回　バランスボール（１）
７回　バランスボール（２）
８回　バスケットボール（１）　ドリブル、パス、シュートの基礎練習
９回　バスケットボール（２）　ルール説明とゲーム・スキル獲得の確認
１０回　選択種目（１）　【バドミントン】　【卓球】
１１回　選択種目（２）　【バレーボール】　【トレーニング】
１２回　選択種目（３）　【ソフトバレーボール】　【バドミントン】
１３回　女性のためのエクササイズ（１）
１４回　女性のためのエクササイズ（２）
１５回　スキル獲得の確認（選択種目）

フィジカル・エクササイズI（女性のスポーツ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み　…７０％　　スキル獲得テスト　…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、　ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　梨羽　茂 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >
【コミュニケーションカ】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケー ションカを有している。
【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　導入実技
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・ クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
８回　応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
９回　ゲームの展開方法と審判法の習得
１０回　戦術の説明
１１回　ダブルスのゲーム法の解説
１２回　ダブルスの陣形の解説
１３回　ダブルスゲームの実践
１４回　ダブルスゲームのまとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

バドミントン、基礎技術、ゲーム、SDGs ３．健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）＜ヘアピン＞
４回　フライト練習（２）＜ハイクリアー＞
５回　フライト練習（３）＜ドライブ、スマッシュ＞
６回　サービス練習　＜ショートサービス、ロングサービス＞
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）＜ヘアピンからリターン＞
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）＜ドロップからリターン＞
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）＜ゲーム法の解説＞
１２回　ダブルスゲーム（２）＜陣形の解説＞
１３回　ダブルスゲーム（２）＜ゲームの実践＞
１４回　ダブルスゲーム（３）＜まとめ＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（バスケットボール）【昼】

担当者名 /Instructor　黒田　次郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　集団行動〔走る（ラン）・跳ぶ（ジャンプ）・投げる（スロー）〕
３回　ボールに慣れる（ドリブル・パス・シュート）
４回　シュートの基礎練習（レイアップシュート・ジャンプシュート）
５回　応用練習（２対１）
６回　応用練習（３対２）
７回　ルール・戦術の説明
８回　簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
９回　スキルアップ（ドリブルシュート・リバウンド）
１０回　スキルアップ（速攻、スクリーンプレイ）
１１回　ゲーム（１）　ゾーンディフェンス（２－３）
１２回　ゲーム（２）　ゾーンディフェンス（２－１－２）
１３回　ゲーム（３）　マンツーマンディフェンス
１４回　ゲーム（４）　まとめ
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII（ソフトバレー / バレーボール）【昼】

担当者名 /Instructor　小幡　博基 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズII　HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　サーブ練習（１）＜アンダーサーブ＞
３回　サーブ練習（２）＜オーバーサーブ＞
４回　パス練習（１）＜アンダーパス＞
５回　パス練習（２）＜オーバーパス＞
６回　サーブカット練習
７回　アタック練習（１）＜サイド＞
８回　アタック練習（２）＜センター＞
９回　ルール説明
１０回　チーム練習
１１回　ゲーム（１）　＜ソフトバレーボール＞
１２回　ゲーム（２）　＜ソフトバレーボール＞
１３回　ゲーム（３）　＜バレーボール＞
１４回　ゲーム（４）　＜バレーボール＞
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor　梨羽　茂 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー，ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >
【コミュニケーションカ】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケー ションカを有している。
【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　テニス (ストロークの基礎練習)
３回　テニス (サービス・スマッシュの基礎練習)
４回　テニス (ゲーム①シングルス)
５回　テニス (ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
６回　サッカー (パスの基礎練習)
７回　サッカー (シュート・連携)
８回　サッカー (戦術・ルール把握・ゲーム①)
９回　サッカー (ゲーム②)
１０回　サッカー (ゲーム③・スキル獲得の確認)
１１回　ソフトボール (キャッチボール・守備)
１２回　ソフトボール (バッティング・ルール解説)
１３回　ソフトボール (ゲーム①)
１４回　ソフトボール (ゲーム②)
１５回　ソフトボール (ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが，天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs ３．健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor　仲里　清 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー，ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >
【コミュニケーションカ】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケー ションカを有している。
【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　ソフトボール (キャッチボール・守備)
３回　ソフトボール (バッティング・ルール解説)
４回　ソフトボール (ゲーム①)
５回　ソフトボール (ゲーム②)
６回　ソフトボール (ゲーム③・スキル獲得の確認)
７回　ソフトボール (ゲーム④・スキル獲得の確認)
８回　サッカー (パスの基礎練習)
９回　サッカー (シュート・連携)
１０回　サッカー (戦術・ルール把握・ゲーム①)
１１回　サッカー (ゲーム②)
１２回　サッカー (ゲーム③・スキル獲得の確認)
１３回　フットサル (戦術・ルール把握)
１４回　フットサル (ゲーム①)
１５回　フットサル (ゲーム②・スキル獲得の確認)

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが，天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。体育館ではフットサルおよびテニスに替わるラケット種目を実施します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

ラケット種目、サッカー、ソフトボール、SDGs ３．健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor	徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	1単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	実技
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要 /Course Description

到達目標
コミュニケーション力；他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自律的行動力；自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。
また、フェアプレーも学びます。

教科書 /Textbooks

授業中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　バドミントンの基本原則・知識の習得
３回　フライト練習（１）<ヘアピン>
４回　フライト練習（２）<ハイクリアー>
５回　フライト練習（３）<ドライブ、スマッシュ>
６回　サービス練習　<ショートサービス、ロングサービス>
７回　攻めと守りのコンビネーション練習（１）<ヘアピンからリターン>
８回　攻めと守りのコンビネーション練習（２）<ドロップからリターン>
９回　ルール説明
１０回　審判法
１１回　ダブルスゲーム（１）<ゲーム法の解説>
１２回　ダブルスゲーム（２）<陣形の解説>
１３回　ダブルスゲーム（３）<ゲームの実践>
１４回　ダブルスゲーム（４）<まとめ>
１５回　スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％
スキル獲得テスト…３０％

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみること。

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

時速４００キロ・フェアプレー

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　眞鍋　和博 / MANABE　KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

大学生活を実りあるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。
①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話しを頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

(到達目標)
【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身 につけている。
【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解 決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

①全体ガイダンス
②学びのアップデート
③日本の「キャリアデザイン」
④日本が迎える大きな変化
⑤情報革命
⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
⑦中間振り返り
⑧お金と情報
⑨ビジネスと就活
⑩もう一つのキャリアデザイン
⑪「働き方」の最新事情
⑫日本の潮流、世界の潮流
⑬誰もが持つリーダーシップを知る
⑭キャリアデザイン全体を総括する
⑮全体振り返り

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…60％
授業内のレポート…20％
まとめのレポート…20％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。
外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード　/Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、ＳＰＩ、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール
「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

月曜２限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて、いま何を考え、何をすべきかということを考える授業を行います。皆さんの将来は未来に独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは皆さんの「キャリア」に直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。特に、本授業では、ゲストスピーカーによる講演会を数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また、様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）
【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス　キャリアデザインとは
第2回　キャリアデザインと大学生活
第3回　日本の大学生の姿を通じて
第4回　大学生活の落とし穴とその回避のために
第5回　来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
第6回　自分を知る
第7回　キャリアは「デザイン」できるのか？
第8回　留学とキャリアデザイン
第9回　これからの働き方
第10回　就職とキャリアデザイン
第11回　自分の新たな扉を開く
第12回　「幸せ」な人生とは？
第13回　作品に学ぶキャリアデザイン
第14回　先輩からのメッセージ
第15回　まとめ

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（１００％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は６０分程度）。

履修上の注意　/Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１年生だけでなく、２年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード　/Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。

キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞
本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第１位、「主体性」が10年連続で第２位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をくるくる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればいい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをくるくる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

＜進め方＞
まずグループワーク・ペアワークを実践して「コミュニケーション能力」を獲得します。同時に、たくさんの先輩や社会人のゲスト（ロールモデル）との対話や、その他様々な課題を通して「幅広い視野・柔軟性」や「失敗を恐れない志向性」を理解し、毎回の小レポートなどで「経験を振り返る力」を身に付けます。そして、他の授業や課外活動、そして日常生活において授業での学びを実践し、これらの4つの力を高めつつ、夏休みには身の丈を超えた経験に挑戦し、「答えのない課題を解決する力」を身に付けていただきたいと思います。授業の途中で、様々なイベント（ボランティア活動やプロジェクト活動、海外インターンシップなど）の情報を提供しますので、楽しみにしていてください。

＜目標＞
経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。そして、アイデンティティ（自分らしさの探求）やコミュニケーション能力、課題解決力などを身に付け、社会が必要する創造力を発揮できる基礎を身につけること。
（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書　/Textbooks

見舘好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

キャリア・デザイン 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。
○キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究–能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
○大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
○渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
○モーガン・マッコール『ハイフライヤー　次世代リーダーの育成法』プレジデント社
○エドガー H.シャイン『キャリア・アンカー　自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
○平木典子『改訂版　アサーション・トレーニング –さわやかな〈自己表現〉のために』金子書房
○中原淳・長岡健『ダイアローグ 対話する組織』ダイヤモンド社
○香取 一昭・大川 恒『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社
○金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
○J.D.クランボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○スプツニ子!『はみだす力』宝島社
○アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット) –人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
○リンダ グラットン『ワーク・シフト–孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
○リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト) 』東洋経済新報社
○見舘好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方–マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究 』プレジデント社
○中原淳、見舘好隆ほか『人材開発研究大全』東京大学出版会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　全体ガイダンス・社会で求められる力
２回　振り返りの仕方
３回　コミュニケーション技法①傾聴
４回　コミュニケーション技法②アサーション
５回　コミュニケーション技法③リーダーシップ
６回　社会人インタビューレポート①
７回　ロジカルシンキング
８回　働くということ (社会人登壇)
９回　Digital transformation
１０回　新しい仕事を創る (ジョブスタ)
１１回　企業団体研究のノウハウ
１２回　自分らしい就職活動 (先輩登壇)
１３回　社会人インタビューレポート②
１４回　計画された偶発性
１５回　自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業への取り組み (予習・復習・学びの実践レポート) ･･･78%
社会人インタビューレポート･･･12%
最終レポート･･･10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

< 通常授業 > Moodleに予習・復習・実践課題を掲示しますので、締め切りまでに行ってください。
< インタビューレポート > 提示する課題をもとに、各自インタビューを実施し、指定するフォーマットで、期日までに提出してください。
< 最終レポート > 提示する課題をもとに、授業を振り返り、授業最終回に持参してください。

履修上の注意　/Remarks

< 基本事項 >
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくは眞鍋和博先生ほかの「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違って履修しても出席にはなりませんので注意してください。

< 履修者調整について >
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「ハートが震える機会」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊か

キャリア・デザイン 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

にする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

※人事および販売促進、新規事業立ち上げなどの経験を持つ教員が、企業団体で働く上で必要とされる能力や、その能力の獲得の仕方について、アクティブ・ラーニング形式で運営。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

担当者名 /Instructor	見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所										
履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	２年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事が社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ｉ	CAR210F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状　②仕事の現実　③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。授業の流れは以下です。

1.事業の概要（特にコロナ禍における現状、および今後の方向性について）
2.仕事の概要（ご自身の1年目、3年目、5年目の仕事内容と、仕事のやりがい）
3.大学時代にすべきこと・してほしいこと
4.学生へのメッセージ（学生が自分の将来を考えていく上でのアドバイス）

＜進め方＞講演者の企業団体および仕事を予習して、講演を傾聴します。そこで得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

＜目標＞様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。（到達目標）【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページをみて予習してください。

プロフェッショナルの仕事I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　　全体ガイダンス
第2～15回　各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。
＜2020年度＞TOTOインフォム、タカギ、日本航空（JAL）、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会（NHK）、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
＜2019年度＞サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドギヴ・ニーズ（T&G）、サニーサイドアップ、チームラボキッズ（teamLab）、労働基準監督官（厚生労働省）、カモ井加工紙（mt）、大創産業（ダイソー）、西日本旅客鉄道（JR西日本）、スノーピーク、全日本空輸（ANA）、本田技研工業（HONDA）、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド
＜2018年度＞ファミリア、日本航空（JAL）、メルカリ、ペンシル、ソニー、ヤフー、アサヒ飲料、三菱電機、星野リゾート・マネジメント、日立製作所、北九州市役所、マツダ、JTB、宇宙航空研究開発機構（JAXA）
＜2017年度＞サニーサイドアップ、ジンズ（JINS）、JR九州エージェンシー、全日本空輸（ANA）、日本放送協会（NHK）、キャメル珈琲（カルディ・コーヒーファーム）、ヒルトン福岡シーホーク、モスフードサービス（モスバーガー）、日本たばこ産業（JT）、ZOZO、京セラ、北九州市役所、西日本新聞社、近畿日本ツーリスト九州
＜2016年度＞電通九州、studio-L、フジドリームエアラインズ、アイリスオーヤマ、福岡県庁、力の源ホールディングス（一風堂）、ジャパネットホールディングス、ワークスアプリケーションズ、福岡地方検察庁、エイチ・アイ・エス、西日本シティ銀行、星野リゾート・マネジメント、ウェザーニューズ、旭酒造（獺祭）
＜2015年度＞ムーンスター、日本放送協会（NHK）、ホテルオークラ福岡、宇宙航空研究開発機構（JAXA）、九州旅客鉄道（JR九州）、旭化成ホームズ、福岡銀行、タカギ、ソニーリージョナルセールス、阪急交通社、博報堂プロダクツ、日本航空（JAL）、ニトリ、北九州市

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業で課される予習と復習…91%
最終レポート…9%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前にMoodleにて、期日までに登壇企業団体の事前学習（予習）を提出すること。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメやワークシートがあれば印刷して精読し持参すること。授業終了後にMoodleにて、期日までに授業の振り返り（復習）を提出すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体で働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード　/Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

プロフェッショナルの仕事Ⅱ	CAR211F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞社会で働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけるために、地元企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことが目的です。通常、そのような力は課外におけるインターンシップやプロジェクト活動などで身に付けますが、本授業はそれを明確に単位化したものです。

＜進め方＞以下の流れで企業団体（3団体を予定）の課題に挑戦し、各チームで競います。課題解決のノウハウは、その他の回で講義します。

1.企業団体の社会人にご登壇頂き、現場で対峙しているリアルな課題を提示していただきます。
2.提示された課題についての解決プランを作成します。
3.企業団体の社会人に対し、解決プランを中間発表します。
　ここで社会人の方から直接、修正・改善のフィードバックを頂きます。
4.フィードバックを手掛かりに、提示された課題についての解決プランの最終案を作成します。
5.企業団体の社会人に対し、解決プランの最終案を提示します。
　社会人の方が直接評価を行い、その結果がそのまま成績に反映されます。

＜目標＞現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。（到達目標）【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。
また、以下書籍を参考にしてください。
見舘好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
○ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
○大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
○大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
○伊藤羊一『１分で話せ　世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回　ガイダンス
第02回　【団体A】課題提示
第03回　【団体B】課題提示
第04回　【団体C】課題提示
第05回　ロジカルシンキング
第06回　アイデアの作り方
第07回　相談日
第08回　【団体A】中間発表とフィードバック
第09回　【団体B】中間発表とフィードバック
第10回　【団体C】中間発表とフィードバック
第11回　課題解決の仕方（デザイン思考）
第12回　相談日
第13回　【団体A】最終プレゼンテーション
第14回　【団体B】最終プレゼンテーション
第15回　【団体C】最終プレゼンテーション

※参考
＜2020年度の企業団体と課題＞
■TOTOインフォム株式会社
新たな採用活動手法の提案（選ばれる・目につく）
■アイ・ケイ・ケイ株式会社
これからのウエディングに求められるものとは？（誰のためか・他社との違い・今までとの違い・明確な目的）
■株式会社タカギ
コロナショックの今だからこそ、タカギができることは何か？（資産を活用する・1000万円・2021年4月成果報告）
■SALASUSU（カンボジアのNPO）
新規プロジェクトを盛り上げよ！（オンラインショッピング、オンラインツアーなど）

＜2019年度の企業団体と課題＞
■TOTOインフォム株式会社
社員が安心して働ける職場を実現するには？
■アイ・ケイ・ケイ株式会社
今までにない感動を体感できるウェディングとは？
■株式会社タカギ
タカギの資産を利用した新提案

＜2018年度の企業団体と課題＞
■NHK北九州放送局
毎日見たくなる「ニュースブリッジ北九州」になるためには？
■株式会社タカギ
タカギの資産を利用した新提案
■株式会社スターフライヤー
新しい機内販売の提案

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）･･･56%
最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）･･･30%
最終レポート･･･14%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなど行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後はMoodleで振り返りを行ってください。

履修上の注意　/Remarks

※第2～4回までの各企業団体の課題を理解した上で、挑戦する課題とグループを決めます。
※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード　/Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I 【昼】

担当者名 /Instructor	石川　敬之 / 地域共生教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	地域で活動する上で求められる自己管理力を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力		

サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要　/Course Description

本講義は地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、主に以下の点を目的とします。
・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
・ 地域活動の実践と学び

この講義の到達目標は以下のとおりです

【知識】サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
【自律的行動力】地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

サービスラーニング入門I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
第2回　サービス・ラーニングの考え方
第3回　サービス・ラーニングとボランティア
第4回　サービス・ラーニングを行う理由
第5回　サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
第6回　サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
第7回　サービス・ラーニングと地域の変化
第8回　これからの社会とサービス・ラーニング
第9回　日本における社会貢献活動の歴史
第10回　経験学習について
第11回　サービス・ラーニングの実践に向けて
第12回　良き市民としてのサービス・ラーニング
第13回　受講生による実践報告（１）
第14回　受講生による実践報告（２）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

「第一回講義時のレポート＋実践報告最終レポート」（５５％）＋「授業内での小テスト＋授業への取り組み」（４５％）＝合計１００％評価

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は６０分程度）。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意　/Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（１５００字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。
また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

サービスラーニング入門II 【昼】

担当者名 /Instructor　石川　敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。

サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要　/Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気付きを得られることを期待します。

（到達目標）
【知識】サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
【自律的行動力】地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　ガイダンス
2　サービス・ラーニング概論①（サービスラーニングの理論枠組み）
3　サービス・ラーニング概論②（実践としてのサービスラーニングについて）
4　サービス・ラーニングの実践と学び①（受入先の探索）
5　サービス・ラーニングの実践と学び②（実践にむけての心構えと準備）
6　サービス・ラーニングの実践に向けて①（実習先での学習計画の作成・提出）
7　サービス・ラーニングの実践に向けて②（学習計画書の修正・提出）
8　計画発表会①
9　計画発表会②
10　実践報告①
11　実践報告②
12　実践報告③
13　実践報告④
14　受講生による振り返り
15　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

「第一回講義時のレポート＋実践報告最終レポート」（５５％）＋「授業内での小テスト＋授業への取り組み」（４５％）＝合計１００点評価

サービスラーニング入門II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は６０分程度）。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意　/Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、１学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門Iの内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題＋「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。
また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に出向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード　/Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

教養特講II (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	設定されたテーマと人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

教養特講Ⅱ	SPL002F

授業の概要　/Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い地の出来事を他人事として済ますことはできなくなってきた。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、具体的な事例をもとに、私たちの消費活動を倫理的観点から捉え直してみたい。そのためにいくつかの具体的事例を取り上げ、主にDVD鑑賞を通して倫理的消費について受講生とともに考えたい。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、環境に負荷をかけない生活を考える契機にしてもらいたい。

【知識】設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
○子島進他『館林発フェアトレード - 地域から発信する国際協力』上毛新聞社、2010年。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、「エシカル消費」とは何か？
第2回　【ファッション】『ザ・トゥルー・コスト』(DVD) 前半の鑑賞
第3回　『ザ・トゥルー・コスト』(DVD) 後半の鑑賞、論点整理
第4回　ファッション、綿花栽培に関してのディスカッション
第5回　【種子】『種子ーみんなのもの？　それとも企業の所有物？』(DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第6回　【食べ物】『甘いバナナの苦い真実』(DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第7回　『Food Inc.』(DVD) 前半の鑑賞
第8回　『Food Inc.』(DVD) 後半の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第9回　【フードロス】『0円キッチン』(DVD) の観賞、ディスカッション
第10回　【アニマル・ウェルフェア】論点整理、ディスカッション
第11回　【プラスティック】『プラスチックごみ–日本のリサイクルの幻想』(DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第12回　【鉱物資源】『スマホの真実』(DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
第13回　【フェアトレード】『もっと！フェアトレード』(DVD) の鑑賞
第14回　フェアトレードの展開、役割、課題
第15回　まとめ

教養特講II（現代社会とエシカル消費）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

3回のレポート（60%）、エッセイ（40%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、3回レポート（A4一枚程度）を課しますので、振り返りをしてください。また、学んだことを実生活で確認してください。

履修上の注意　/Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フェアトレード、エシカル
「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」
「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」
「SDGs 17. パートナーシップ」

地域の文化と歴史 【昼】

担当者名 /Instructor　南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
	コミュニケーション力		

地域の文化と歴史	HIS170F

授業の概要　/Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

(到達目標)
【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回：　ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
第　２回：　《歴史》現在の地域
第　３回：　《歴史》古代の地域
第　４回：　《歴史》中世・近世の地域
第　５回：　《歴史》幕末期の地域
第　６回：　《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
第　７回：　《歴史》昭和期の地域
第　８回：　《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
第　９回：　《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
第１０回：　《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
第１１回：　《文化》地域の映画文化
第１２回：　《文化》地域の文化財
第１３回：　《文化》地域の芸術、音楽、演劇
第１４回：　《文化》地域の文学
第１５回：　《文化》文芸活動等による地域への政策効果

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：2020年度のゲストの所属組織の例（2021年度も概ね同様の予定だが、一部変更となる可能性がある）
《　北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課　など　》

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）：　100%
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意　/Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

　皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

_____

　北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード　/Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、 SDGs 11.まちづくり、 SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済 【昼】

担当者名 /Instructor　李　錦東 / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

地域の社会と経済	ECN170F

授業の概要　/Course Description

この授業は、北九州・下関地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指している。
本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、北九州・下関地域出身者はもとより地域外出身にとっても、学生生活を過ごす地域への理解深化や自身のキャリア形成等にとって学びとなるお話をしていただく。

（到達目標）
【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
第2回：北九州の産業・社会
第3回：北九州市政と市民
第4回：人口でみる北九州地域の概況
第5回：下関地域の概況と北九州との関係
第6回：人口でみる北九州地域の産業構造・経済
第7回：データでみる北九州地域の社会・生活
第8回：地域の企業①　【地元企業関係者等による説明】
第9回：地域の企業②　【地元企業関係者等による説明】
第10回：地域の企業③　【地元企業関係者等による説明】
第11回：地域の起業環境　【NPO等の専門家による説明】
第12回：地域社会とのつながり　【関連活動に参加している団体との座談会】
第13回：地域社会を新しく考えるための思考　【NPO等の専門家による説明】
第14回：地域を新しく考えるための思考　【NPO等の専門家による説明】
第15回：まとめ・住みたいまちのために

※講義のテーマ、順番等については一部変更となる場合がある。

地域の社会と経済 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

各回ごとのショートレポート（14回）：100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

北九州・下関地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われている。日ごろから新聞、TV、インターネット等を通じて、アンテナを張って事前・事後に情報収集に努めること。
また、授業中に興味を持った事項について、各授業後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意　/Remarks

ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容が一部変更する場合がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

皆さんがこれから学生時代を過ごす北九州・下関地域の社会や経済を学ぶことで、皆さんがこれからの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識等を得ることができ、地域に対する関心が増やして有意義な学生生活を送ることにつながる授業になると考えます。また、地域の現状と事情に密着した人材として、創造性の持つ人材として、地域での活躍ができる一歩であるとも考えています。

キーワード　/Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8．働きがい・経済成長、SDGs11．まちづくり

地域のにぎわいづくり 【昼】

担当者名 /Instructor　南　博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

地域のにぎわいづくり	RDE270F

授業の概要　/Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を把握・分析し、自らの考えをまとめたり対応方策を考えたりすること等を通じ、地域課題の解決に向けた基礎的な力を得ることを目指す。

2021年度授業においては、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興政策、市民主体のにぎわいづくり等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

本授業は、行政および地域の各種団体等の協力のもとで実施する。

（到達目標）
【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　ガイダンス
第　２回　《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性①　【総論】
第　３回　《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性②　【事例研究】
第　４回　《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③　【スタジアム・アリーナ整備】
第　５回　《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり
第　６回　《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
第　７回　《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
第　８回　《文化芸術》東アジア文化都市について
第　９回　《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
第１０回　《文化芸術》MICE、大型イベントによるにぎわいづくり
第１１回　《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
第１２回　《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
第１３回　《市民主体》食を活かしたにぎわいづくり
第１４回　《市民主体》企業の視点からみたにぎわいづくり
第１５回　まとめ

※ゲスト（にぎわいづくりの実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考：　2020年度のゲストの所属組織の例（2021年度も概ね同様の予定だが、変更・追加の可能性がある）
《　北九州市役所（観光課、MICE推進課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室）、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州　》

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す提出課題）：　100%
※課題はMoodleで提出することを基本とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意　/Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることができる授業をめざす。

＿＿＿

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor　内田　晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　2年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

北九州市の都市政策	PLC270F

授業の概要　/Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をしていただく。

（到達目標）
【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

北九州市の都市政策 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
第２回　北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
第３回　北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
第４回　北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
第5回　北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
第6回　公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
第7回　市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
第8回　北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
第9回　北九州市の産業・雇用政策【新成長戦略、企業誘致】
第10回　北九州市の保健福祉政策【子育て支援、高齢者支援】
第11回　公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
第12回　環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、ＰＣＢ処理、リスクマネジメント、生物多様性】
第13回　ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
第14回　地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
第15回　まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・・20%　　毎回の授業レポート・・30%　　期末レポート・・50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60 分）
授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意　/Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

＿　＿
北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード　/Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　2年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

まなびと企業研究Ⅰ	CAR270F

授業の概要　/Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。
特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。
本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。
身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。
なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

（到達目標）
【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター（2019）「学生による学生のための北九州・下関地域　業界MAP」
https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf　から入手可
○大室悦賀（2016）「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
○饗庭伸ほか（2016）「まちづくりの仕事ガイドブック:まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
○日本都市計画学会関西支部（2011）「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
○山崎亮（2015）「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
○山崎亮ほか（2014）「ハードワーク! グッドライフ!:新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
・北九州・下関まなびとぴあホームページ（https://manabitopia.jp/）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2～15回　企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論（グループワーク）、レポート記述
第15回　まとめ

まなびと企業研究I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート（全14回）・・・ 90%
質疑応答、議論・・・ 10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、どういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意　/Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード　/Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向
SDGs：Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor　見舘　好隆 / Yoshitaka　MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　3年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。

まなびと企業研究Ⅱ	CAR370F

授業の概要　/Course Description

＜目的＞北九州市や下関市および周辺の企業団体と連携しながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。
2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。これは同時に今までの「就活」が終焉し、それに対応していた従来の「キャリア教育」もゼロリセットされたと考えていいでしょう。従来の就職支援は、3年生は業界研究を皮切りに、夏のインターンシップ、秋からの就職ガイダンス、自己分析、企業研究、エントリーシートや面接対策、そして3年生3月の合説解禁からの選考といった流れでした。しかし、自由化になった以上、いつ、何をするかは、大学や企業団体に決められたレールに乗る必要はもうありません。リクルートキャリア「就職白書2019」によると、「プレエントリー受付」以外は2018年卒を下回る一方で、2018年度のインターンシップ実施率は95.9%となり、2017年度よりも11.3ポイント増加しています。つまり、夏から始まるインターンシップ経由での採用が増えたことを意味しています。また「キャリタス就活2020 学生モニター調査」（3月1日）によると、エントリーシート提出者は52.0%で、筆記試験受験者は54.6%、面接試験受験者は46.4%と、いずれも前年同期から10ポイント以上増えています。さらに「キャリタス就活2020 学生モニター調査」（4月1日）によると、2020年春卒業予定の大学生・大学院生の4月1日時点の内定率（内々定を含む）が26.4%と発表。3月1日時点（13.9%）に比べて12.5ポイント、昨年度同時期（18.8%）に比べ7.6ポイント上回りました。これは学生優位の売り手市場が鮮明となるなか、企業の採用活動の前倒しがさらに進んだことを意味します。
以上のように、従来の就職活動より早まっている中、少なくとも5月から始まるインターンシップ募集までに、今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用し、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。
本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手（企業団体）を知る」、さらに夏のインターンシップに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

＜進め方＞形式は問題基盤型学習（Problem-based-Learning）です。
【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体を一つ選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

＜目標＞自分を知る（自己分析）、相手を知る（企業団体研究）、就職活動のプランを創る。
（到達目標）【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

課題を解く時の参考にしてください。
見舘好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
○金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
○キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究–能力を開花させるマインドセットの力』草思社
○アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット) –人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
○リンダ グラットン『ワーク・シフト–孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
○リンダ グラットン、アンドリュー スコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト) 』東洋経済新報社
○松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
○児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』筑摩書房
○本田由紀『教育の職業的意義–若者、学校、社会をつなぐ』筑摩書房
○スプツニ子!『はみだす力』宝島社
○J.D.クランボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
○ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
○大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
○早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
○伊藤羊一『１分で話せ　世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
○宇田川元一『他者と働く　「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
○見舘好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方–マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究 』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　全体ガイダンス
２回　振り返りの仕方
３回　マインドセット
４回　計画された偶発性
５回　企業団体研究事例①DX
６回　インターンシップ対策 (経験学習)
７回　グリット (やり抜く力)
８回　企業団体研究事例②グリット
９回　問いを立てる力
１０回　デザイン思考
１１回　企業団体研究事例③VUCA
１２回　GD対策 (アイデアの作り方)
１３回　自己分析 (アイデンティティ資本)
１４回　面接対策 (インプロビゼーション)
１５回　企業団体研究成果発表会

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業のプレゼンテーション…75%　最終プレゼンテーション…20%　　最終レポート…5%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor　伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書　/Textbooks

QUICK EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST 400 Listening ISBN 9784889187483 松柏社　1404円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Travel/Food
2回 At the Office/Hotels
3回 Office Life/Recreation
4回 Advertising/On the Job
5回 Business/Restaurants
6回 Travel/Office Life
7回 Transportation/Culture
8回 At Work/Holidays
9回 On the Job/Restaurants
10回 Weather/Business World
11回 Travel/Human Resources
12回 Education/Celebrations
13回 Office Environment/Restaurants
14回 Business World/Shopping
15回 Office Meetings/Recreation

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…90%　授業への取組…10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

英語I（律政群 1-G）【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語I (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST（600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー）
（成美堂）（￥2,200）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　Unit 1 Sightseeing / Guided Tour ①
3回　Unit 1 Sightseeing / Guided Tour ②
4回　Unit 2 Restaurant、U.1 単語小テスト
5回　U. 2、Unit 3 Hotel / Service
6回　Unit 3 、U.2 単語小テスト
7回　Unit 4 Employment、U.3 単語小テスト
8回　U. 4、 Unit 5 Entertainment
9回　U. 5、U.4 単語小テスト
10回　Unit 6 Shopping / Purchases、U.5 単語小テスト
11回　U. 6, Unit 7 Sports / Health
12回　Unit 7 Sports / Health、U.6 単語小テスト
13回　Unit 8 Doctor's Office / Pharmacy
14回　U. 8, U.7 単語小テスト
15回　まとめ、試験説明

英語I（律政群 1-H）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…70%、平常の学習状況（課題、小テスト）…30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード　/Keywords

英語I (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor　酒井　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語 I	ENG101F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズに充足することができる。

教科書　/Textbooks

First-Time Trainer for the TOEIC TEST　（センゲージラーニング株式会社）（2,000円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1~5　（国際コミュニケーション協会）（3,000円＋税）
TOEICテスト公式問題集：新形式対応編　（国際コミュニケーション協会）（2,800円＋税）
TOEIC 新公式問題集 vol. 2~6　（国際コミュニケーション協会）（2,800円＋税）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション・ Unit 1
2回　Daily Life（日常生活）
3回　Transportation（交通）
4回　TOEIC演習（ 1 ）【リスニング＋リーディング】
5回　Jobs（仕事）
6回　Meals（食事）
7回　TOEIC演習（ 2 ）【公式問題集・リスニング】
8回　Communication（コミュニケーション）
9回　Fun（楽しみ）
10回　TOEIC演習（ 3 ）【リーディング問題】
11回　Office Work（オフィスワーク）
12回　Meeting（会議）
13回　Travel（旅行）
14回　Finance（お金）
15回　Business（ビジネス）

成績評価の方法　/Assessment Method

定時試験（期末試験を含む）…40%、平常の学習状況（小テストを含む）…60%
最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語I (律政群 1 - I) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従ってください。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は、授業で説明します。

キーワード　/Keywords

英語II（律政群１-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　相原　信彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１ - Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rてすとの演習を取り込みます。

（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することが出来る。

教科書　/Textbooks

Surprising Japan! 2（松柏社、２０１７）1,850円+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指摘する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の進め方の説明
第２回　What makes Kobe beef so special?
第３回　What are those backpacks Japanese schoolchildren wear?
第４回　What are the seven things in shichimi?
第５回　Why does Japan's postal symbol look like that?
第６回　Why is there plastic grass in my bento?
第７回　Why is there a 5 o'clock bell?
第８回　Why do train drivers in Japan make those strange gestures?
第９回　How is nori made?
第１０回　Why do Japanese wear masks?
第１１回　What do the dates on food packages mean?
第１２回　Why do Japanese ask about blood type?
第１３回　Do Japanese mosquito coils work?
第１４回　Why does miso soup move by itself?
第１５回　授業のまとめと定期試験について

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点　３０％
定期試験　７０％

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第１回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習は絶対条件。

英語II（律政群 1-H ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

欠席 4 回で失格とし、定期試験の受験資格はなくなる。なお、遅刻 2 回で欠席 1 回とカウントする。

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられて
います。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor　木梨　安子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅱ	ENG111F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力 (リーディング力) と聴く力 (リスニング力) の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。
(到達目標)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では英語力の基盤となる文法知識の復習とともに、リーディング学習では教科書の精読に英文多読を適宜交えて、読む力を伸ばします。リスニング学習では、事前・事後学習を含めて、実践的な聴く力を伸ばします。また授業では、理解度を測る小テスト[事前に指定された教科書の内容が中心となる]を実施します。

教科書　/Textbooks

北尾泰幸 他『一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 3 -advanced-』(朝日出版社)
(￥1870 [税込み])

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle (学習システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　Unit 1　Eating Out リスニング & 文法(八品詞・句と節)
3回　Unit 1　Eating Out リーディング & 文法(文型)
4回　Unit 2　Travel　リスニング & 文法(時制 - 現在・過去)
5回　Unit 2　Travel　リーディング & 文法(時制 - 未来)
6回　Unit 3　Amusement　リスニング & 文法(時制 3 - 現在完了形)
7回　Unit 3　Amusement　リーディング & 文法(時制4 - 過去・未来完了形)
8回　Unit 4　Meetings　リスニング & 文法(動詞 - 動詞分類)
9回　Unit 4　Meetings　リーディング & 文法(動詞2 - 能動態・受動態)
10回　Unit 5 Personnel リスニング & 文法(動詞 3 - 現在分詞)
11回　Unit 5 Personnel リーディング & 文法(動詞4 - 過去分詞)
12回　Unit 6 Shopping　リスニング & 文法(関係代名詞 1 - 制限用法)
13回　Unit 6 Shopping　リーディング & 文法(関係代名詞 2 - 非制限用法)
14回　Unit 7 Advertisement リスニング & 文法(関係副詞 1 - 制限用法)
15回　Unit 7 Advertisement リーディング & 文法(関係副詞 2 - 非制限用法) & まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末テスト・・・ 30%,　平常の学習状況 (小テストを含む)・・・ ７０％

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第１回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード　/Keywords

英語III（律政群１-Ｈ）【昼】

担当者名 /Instructor　マーニー・セイディ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群１－Ｈ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書　/Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Syllabus Review & Introductions
2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
14回 Final Test Preparation/Project Presentation
15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法　/Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

英語III（律政群 1-H ）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意　/Remarks

None

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード　/Keywords

英語III（律政群 1 - I ）【昼】

担当者名 /Instructor　ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

教科書　/Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Syllabus and Orientation
2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
6回 Topic 2 – Expansion
7回 Topic 2 Presentation Preparation
8回 Topic 2 Presentation
9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
15回 Topic 5 Presentation Preparation

英語III（律政群 1 - I ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意　/Remarks

none

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語 IV (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor　ケネス・ギブソン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class. Focus on conversation and writing.

教科書　/Textbooks

Title: Pathways 1B 2B (Second edition)
Publisher: Cengage
ISBN: 978-1-337-56256-0

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

NA

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Orientation
Week 2: Unit 6
Week 3: Unit 6
Week 4: Unit 7
Week 5: Unit 7
Week 6: Unit 8
Week 7: Unit 8
Week 8: Unit 6 - 8 Review
Week 9: Activity
Week 10: Unit 9
Week 11: Unit 9
Week 12: Unit 10
Week 13: Unit 10
Week 14: Review
Week 15: Review continued

成績評価の方法　/Assessment Method

Homework - 33.33%
Final written and spoken exam - 33.33%
Participation and in class work- 33.33%

英語 IV (律政群 1 - H) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

NA

履修上の注意　/Remarks

NA

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

I look forward to meeting all of you and helping you to improve your English. Please don't worry about making mistakes or being too shy to speak in class! Just do your best and have fun!

キーワード　/Keywords

Speaking, Reading, Writing

英語IV (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor　マーニー・セイディ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IV	ENG112F

授業の概要　/Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書　/Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回 Syllabus Review & Introductions
2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
14回 Final Test Preparation/Project Presentation
15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法　/Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 10%, Quizzes and Presentations 40%, Final Exam 20%

英語IV (律政群 1 - I) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意　/Remarks

None

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード　/Keywords

英語V（律政群2-E）【昼】

担当者名 /Instructor　大塚　由美子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - E

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語V	ENG201F

授業の概要　/Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では最初にTOEIC形式のPre-testで現在の実力を把握します。その後、12のユニットで各パートで「解答力アップのポイント」を確認しながら練習問題に取り組み、現在の実力と目標のスコアとの差を埋めていく努力をします。同時に各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。仕上げに、Post-testを解いて、それまでの練習の効果を確認し、その後の目標達成までの継続的な自己学習へとつなげていきます。

教科書　/Textbooks

Ayako Yokogawa, Tony Cook著
“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
センゲージ・ラーニング　2016年　￥2,310（税込）
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

英語V（律政群2-E）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　Orientation（授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明）
2回　Pre-test の実施。
3回　Unit 1　テキスト形式を知る
4回　Unit 2　基本戦略①
5回　Unit 3　基本戦略②
6回　Unit 4　英文の基本構造を見抜く
7回　Unit 5　解答根拠の登場順
8回　Unit 6　正解の言い換えパターンを知る
9回　Unit 7　機能疑問文を聞き取る
10回　Unit 8　動詞の時制を見極める
11回　Unit 9　接続詞 vs. 前置詞
12回　Unit 10　複数パッセージの攻略
13回　Unit 11　続副詞に強くなる
14回　Unit 12　NOT型設問のコツ
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

成績は、課題（小テスト）、授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況と課題（小テスト）・・・ 40 %　　期末試験・・・ 60 %
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳細については第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

①音声ファイルを必ずダウンロードして活用しましょう。本文の予習をして授業に臨みましょう。
②各ユニットの演習問題は毎回、予習課題となります。授業で間違えた箇所を確認しましょう。
　TOEIC対策問題として必ず取り組みましょう。
③巻末付録のWord Listを予習・復習に活用し、単語をどんどん覚えていきましょう。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。

キーワード　/Keywords

英語V (律政群２-Ｆ) 【昼】

担当者名 /Instructor　安丸　雅子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	律政群２ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅴ	ENG201F

授業の概要　/Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書　/Textbooks

①SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST：INTERMEDIATE「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」　番場直之 他著　金星堂　￥2200(税込)
②TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ　TEX加藤 著　朝日新聞出版　￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義概要・ガイダンス
2回　Unit 1　Travel
3回　Unit 2　Dining Out
4回　Unit 3　Media
5回　Unit 4　Entertainment
6回　Unit 5　Purchasing
7回　Unit 6　Clients
8回　Unit 7　Recruiting
9回　Unit 8　Personnel
10回　Unit 9　Advertising
11回　Unit 10　Meetings
12回　Unit 11　Finance
13回　Unit 12　Offices
14回　Unit 13　Daily Life
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストによる平常点(30%)と筆記試験(70%)に、TOEICテストのスコアを反映して評価します。TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

英語V（律政群2-F）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意　/Remarks

・第1回の授業に必ず出席すること。
・基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC（TOEFL）を受験することが義務付けられています。
・受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
・単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語V（律政群2-G）【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - G

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語V	ENG201F

授業の概要　/Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST：INTERMEDIATE”
（著者）早川幸治他共著　金星堂　¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　Unit 1　Travel
3回　U. 1、Unit 2　Dining Out
4回　U. 2、U. 1単語小テスト
5回　Unit 3 Media、U. 2単語小テスト
6回　U. 3、Unit 4　Entertainment
7回　U. 4、U. 3単語小テスト
8回　Unit 5　Purchasing、U. 4単語小テスト
9回　U. 5、Unit 6　Clients
10回　U. 6、U. 5単語小テスト
11回　Unit 7　Recruiting、U. 6単語小テスト
12回　U. 7、Unit 8　Personnel
13回　U. 8、U. 7単語小テスト
14回　Unit 9　Advertising、U. 8単語小テスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%
最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

英語V（律政群2-G）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード　/Keywords

英語VI (律政群２-Ｆ) 【昼】

担当者名 /Instructor　船方　浩子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書　/Textbooks

“BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST –REVISED EDITION-”
（TOEIC LISTENING AND READING TESTへの総合アプローチ-改訂新版-）（著者）吉塚弘他共著　成美堂　￥2,420

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス、語彙演習
2回　Unit 1 Restaurant
3回　U. 1、Unit 2 Entertainment
4回　U. 2 、U. 1単語小テスト
5回　Unit 3 Business 、U .2単語小テスト
6回　U. 3、Unit 4 Office
7回　U. 4 、U. 3単語小テスト
8回　Unit 5 Telephone 、U. 4単語小テスト
9回　U. 5、 Unit 6 Letter & E-mail
10回　U. 6、U. 5単語小テスト
11回　Unit 7 Health 、U. 6単語小テスト
12回　U. 7、Unit 8 Bank & Post Office
13回　U. 8、U. 7単語小テスト
14回　Unit 9 New Products 、U. 8単語小テスト
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

英語VI (律政群２-Ｆ) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード　/Keywords

英語VI（律政群２-G）【昼】

担当者名 /Instructor　酒井　秀子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - G

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VI	ENG211F

授業の概要　/Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R) の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書　/Textbooks

Before-After Practice for the TOEIC L&R TEST: Revised Edition　（センゲージラーニング株式会社）（2,000円+税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References（Available in the library: ○ ）

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1~5　（国際コミュニケーション協会）（3,000円+税）（○）
TOEICテスト公式問題集：新形式対応編　（国際コミュニケーション協会）（3,000円+税）（○）
TOEICテスト新公式問題集 vol. 2~6　（国際コミュニケーション協会）（2,800円+税）　（○）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション・ Unit 1 Listening Section
2回　Unit 2 Reading Section
3回　Unit 3 Listening Section
4回　Unit 4 Reading Section
5回　Unit 5 Listening Section
6回　TOEIC演習【リスニング問題】
7回　Unit 6 Reading Section
8回　Unit 7 Listening Section
9回　Unit 8 Reading Section
10回　Unit 9 Listening Section
11回　Unit 10 Reading Section
12回　Unit 11 Listening Section
13回　Unit 12 Reading Section
14回　Unit 13 Listening Section
15回　Unit 14 Reading Section

成績評価の方法　/Assessment Method

定時試験（期末試験を含む）…40%、平常の学習状況（小テストを含む）…60%
最終評価にはＴOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

履修上の注意　/Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は、授業で説明します。

キーワード　/Keywords

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor　クリストファー・ オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティングカ) と話す力 (スピーキングカ) の更なる向上を目指します。
(到達目標 - goals)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語VII（律政群２-Ｆ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.

Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.

Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト

Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 10: Unit 4 : Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

Week 15: まとめ　Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法　/Assessment Method

Mid-term exam 50%
Final exam 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Education is the key to a bright future.

Although the plan at this time is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone. I do look forward to teaching you.

キーワード　/Keywords

英語Ⅶ（律政群２-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅶ	ENG202F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

We will work together and enjoy conversations in English.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.
英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書　/Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing
第2回 Cycle 1: Video clip 1A, discussion and writing.
第3回 Cycle 1: Video clip 1B, discussion and writing.
第4回 Cycle 1: Video clip 1C, discussion and writing.
第5回 Cycle 1: Presentations, assessments, and concluding essay
第6回 Cycle 2: Video clip 2A, discussion and writing.
第7回 Cycle 2: Video clip 2B, discussion and writing.
第8回 Cycle 2: Video clip 2C, discussion and writing.
第9回 Cycle 2: Presentations, assessments, and concluding essay
第10回 Cycle 3: Video clip 3A, discussion and writing.
第11回 Cycle 3: Video clip 3B, discussion and writing.
第12回 Cycle 3: Video clip 3C, discussion and writing.
第13回 Cycle 3: Presentations, assessments, and concluding essay
第14回 Begin review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice
第15回 Complete review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice

英語Ⅶ（律政群２-Ｇ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Cycle 1プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 2プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 3プレゼンテーション とライティングが25%
試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、（１）宿題をアップロード、（２）変更等の確認をすること。

履修上の注意　/Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業が対面式から遠隔式に変わる可能性があるので必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表
現できるようになりましょう。文法の用法や単語の表現方法などの質問も大歓迎です。

キーワード　/Keywords

英語Ⅷ（律政群２-Ｆ）【昼】

担当者名 /Instructor　三宅　啓子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｆ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

この授業は、一学期に引き続き、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

アクティブ・ラーニングの学習方法を使ったテキストに従い、以下のように学習を進めます。
Let's Chat: ユニットのテーマに関連した問題を考える
Main Text: 本文の要点を考えながら読み進める
Graphic Organizer: 本文の内容や展開の仕方をまとめる
Active Learning: 語彙や表現法を学習する
Further Thinking: テーマをさらに掘り下げる
Words in Action: 英語をアクティブに使いこなす

教科書　/Textbooks

English through Active Learning, 978-4-255-15616-3, 朝日出版社, ￥1,870

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業時や Moodle (学習管理システム）にて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　Unit 1　Desert Wisdom
第3回　Unit 2　The Power of Friendship
第4回　Unit 3　Cell Phone Culture: How Cultural Differences Affect Mobile Use
第5回　Unit 4　Men are from Mars, Women are from Venus
第6回　Unit 5　The Beginning Parts of Botchan
第7回　Unit 6　Guernica
第8回　Unit 7　The Art of Lying
第9回　Unit 8　Fuji-san
第10回　Unit 9　The Three Secrets to Persuasion
第11回　Unit 10　Malala Yousafzai Nobel Peace Prize Lecture
第12回　Unit 11　Eating Disorders
第13回　Unit 12　Working Conditions, Death from Overwork
第14回　Unit 13　Emotional Robots
第15回　Unit 14　Waslow's Hierarchy of Needs

英語VIII（律政群２-Ｆ）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験 50%，小テスト 30%，平常点（課題を含む）20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業範囲の予習を行う
事後学習：学習内容の復習を行い、同意語リスト、Word Formation のリストを作成する

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語Ⅷ（律政群２-Ｇ）【昼】

担当者名 /Instructor　薬師寺　元子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　律政群２ - Ｇ

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要　/Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

（到達目標）
[技能]英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足できる。

[授業の概要]
① 授業開始時に小テスト（１０分）を実施する。
② 教科書のポイントを押さえながら、 Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]
① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書　/Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』
著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月　発行、　￥2,970 (税入)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

英語VIII（律政群２-Ｇ）【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　Introduction
２回　Chapter 1 Boston, Massachusetts
３回　Chapter 2 Maine
４回　Chapter 3 New York City 1
５回　Chapter 4 New York City 2
６回　Chapter 5 Washington, D.C.
７回　Chapter 6 Charleston, South Carolina
８回　Chapter 7 Savannah, Georgia
９回　Chapter 8 Oswego, New York
１０回　Chapter 9 Austin, Texas
１１回　Chapter10 Saint Jo, Texas
１２回　Chapter11 Santa Fe, New Mexico
１３回　Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
１４回　Chapter13 Los Angeles 1
１５回　Review

成績評価の方法　/Assessment Method

①　小テスト、レポート(20%)
②　授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
③　期末考査 (60%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業中に説明する。

履修上の注意　/Remarks

①　授業の準備を毎回十分にやること。
②　英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。（電子辞書も可）
③　授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
④　発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

①　日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
②　能動的な勉学に徹すること。
③　少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

キーワード　/Keywords

英語IX（英中国済営比人律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor	伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター
履修年次 /Year	3年次
単位 /Credits	1単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	英中国済営比人律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語IX	ENG301F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Mark D. Stafford, successful keys to the TOEIC listening and reading test 2 , 桐原書店 , 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回 Unit 1 Daily life
第２回 Unit 2 Places
第３回 Unit 3 People
第４回 Unit 4 Travel
第５回 Unit 5 Business
第６回 Unit 6 Office
第７回 Technology
第８回 Personnel
第９回 Management
第１０回 Purchasing
第１１回 Finances
第１２回 Media
第１３回 Entertainment
第１４回 Health
第１５回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・ 90%　授業への取り組み・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

英語IX（英中国済営比人律政３年）【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語X（英中国済営比人律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor	杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター
履修年次 /Year	3年次
単位 /Credits	1単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	英中国済営比人律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、応用的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド（２）ビデオで見る映画とスターたち（朝日出版）ISBN4-255-15355-8　1,800円
TOEIC　5分間ドリル　リスニング３（マクミラン・ランゲージハウス）ISBN978-4-7773-6258-5　1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　はじめに　英語を学ぶということ
2回　聴解（単語と文法の力をつける①）　読解（単語と文法の力をつける①）
3回　聴解（単語と文法の力をつける②）　読解（単語と文法の力をつける②）
4回　聴解（単語と文法の力をつける③）　読解（単語と文法の力をつける③）
5回　聴解（単語と文法の力をつける④）　読解（文脈を考える①）
6回　聴解（英語の音に注目する①）　読解（文脈を考える②）
7回　聴解（英語の音に注目する②）　読解（文脈を考える③）
8回　聴解（英語の音に注目する③）　読解（言語外の知識を利用する①）
9回　聴解（英語の音に注目する④）　読解（言語外の知識を利用する②）
10回　聴解（多様なアクセントに注目する①）　読解（言語外の知識を利用する③）
11回　聴解（多様なアクセントに注目する②）　読解（言外の意味を捉える①）
12回　聴解（多様なアクセントに注目する③）　読解（言外の意味を捉える②）
13回　聴解（多様なアクセントに注目する④）　読解（言外の意味を捉える③）
14回　聴解（音の聞き取りから意味の理解へ）　読解（文法的な意味を超えたテクスト理解へ）
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト　80%
課題　20%

英語X（英中国済営比人律政３年）【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

英語XI（英中国済営比人律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor	ロバート･マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸＩ	ENG302F

授業の概要　/Course Description

This is a "deep thinking in English" class. We will work together and enjoy conversations in English.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、英語会話コミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書　/Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回 Introduction / Writing
第2回 Cycle 1: Video clip 1A, discussion and writing.
第3回 Cycle 1: Video clip 1B, discussion and writing.
第4回 Cycle 1: Video clip 1C, discussion and writing.
第5回 Cycle 1: Presentations, assessments, and concluding essay

第6回 Cycle 2: Video clip 2A, discussion and writing.
第7回 Cycle 2: Video clip 2B, discussion and writing.
第8回 Cycle 2: Video clip 2C, discussion and writing.
第9回 Cycle 2: Presentations, assessments, and concluding essay

第10回 Cycle 3: Video clip 3A, discussion and writing.
第11回 Cycle 3: Video clip 3B, discussion and writing.
第12回 Cycle 3: Video clip 3C, discussion and writing.
第13回 Cycle 3: Presentations, assessments, and concluding essay

第14回 Begin review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice
第15回 Complete review of Cycle 1, 2, and 3; writing, Q&A, and advice

英語XI（英中国済営比人律政３年）【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Cycle 1プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 2プレゼンテーション とライティングが25%
Cycle 3プレゼンテーション とライティングが25%
試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、（１）宿題をアップロード、（２）変更等の確認をすること。

履修上の注意　/Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業が対面式から遠隔式に変わる可能性があるので必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法などの質問は大歓迎です。

キーワード　/Keywords

英語XII（英中国済営比人律政３年）【昼】

担当者名 /Instructor	デビット・ニール・マクレーラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

英語ＸⅡ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion during and after class. The focus will be on developing critical thinking skills and academic writing ability.

教科書 /Textbooks

English Central (4 Month Academic Premium)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回: Orientation
第２回: Case Study 1 - and discussion in class
第３回: Case Study 2 - and discussion in class
第４回: Case Study 3 - and discussion in class
第５回: Student Presentations (1)
第６回: Case Study 4 - and discussion in class
第７回: Case Study 5 - and discussion in class
第８回: Case Study 6 - and discussion in class
第９回: Case Study 7 - and discussion in class
第１０回: Student Presentations (2)
第１１回: Case Study 8 - and discussion in class
第１２回: Case Study 9 - and discussion in class
第１３回: Case Study 10 - and discussion in class
第１４回: Case Study 11 - and discussion in class
第１５回: Student Presentations (3)

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

英語XII（英中国済営比人律政３年）【昼】

履修上の注意　/Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード　/Keywords

Topic based discussion and writing

中国語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅰ	CHN101F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』(日本語版) 中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です (本文)　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文)　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文)　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文)　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文)　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

中国語I (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

１．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
２．教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語 I	CHN101F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』(日本語版) 中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】
２回　第二課　発音【子音】
３回　第二課　発音【複合母音】【鼻母音】
４回　第三課　総合知識
５回　第三課　総合練習
６回　第四課　私達はみんな友達です　【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
７回　第四課　これは一枚の地図です (本文)　練習
８回　第五課　私は最近忙しい　【形容詞の文】【動詞の文】など
９回　第五課　あなたはいつ北京へ行きますか(本文)　練習
１０回　第六課　私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
１１回　第六課　私は松本葉子です(本文)　練習
１２回　第七課　私達の学校は九州にあります　【在】【方位詞】【了】など
１３回　第七課　大学の生活(本文)　練習
１４回　第八課　あなたは長城に行ったことがありますか【動詞＋过】【是……的】など
１５回　第八課　全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文)　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

中国語I (１ - ｂ) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

１．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
２．教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II (１ - a) 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』(日本語版) 中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文)　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文)　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文)　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文)　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文)　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文)　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文)　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

中国語II (１ - a) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3 . 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語II (１ - ｂ) 【昼】

担当者名 /Instructor　板谷　俊生 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
(1)発音から学び始め、語彙力を増やしながら、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
(2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
(3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、中国に対して理解することができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『精彩漢語　基礎』(日本語版) 中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
２回　第九課　田中さんが病気になりました(本文)　練習
３回　第十課　私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
４回　第十課　雪中に炭を送る(本文)　練習
５回第十一課　彼らが言ってることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
６回第十一課　電話を掛ける(本文)　練習
７回第十二課　私と外灘にコーヒーを飲みに行ってくれますか【要】【"把"構文】など
８回第十二課　ウィンドウショッピング(本文)　練習
９回第十三課　陳紅さんは私に上海に転校して留学をしてほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
１０回第十三課　"福"字を貼る(本文)　練習　【存現文】【因为……所以　】など
１１回第十四課　私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【"被"の文】
１２回第十四課　円明園(本文)　練習　【不但……而且】など
１３回第十五課　あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
１４回第十五課　日本概況(本文)　練習　【虽然……但是】など
１５回総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・６０％　小テスト・・２０％　日常の授業への取り組み・・２０％

中国語II（ １ - ｂ ） 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3 . 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　中国への理解

中国語III（ １ - a ）【昼】

担当者名 /Instructor　艾 文婷 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語III（ １ - a ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

１．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
２．教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語III（ １ - ｂ ）【昼】

担当者名 /Instructor　于　佳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　発音【単母音】【声調】【軽声】、練習問題
２回　第二課　発音【子音】、練習問題
３回　第三課　発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
４回　総合知識
５回　総合練習
６回　第四課　紹介
７回　第四課　自己紹介　練習問題
８回　第五課　入国・北京紹介
９回　第五課　飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
１０回　第六課　レストランにて・天津紹介
１１回　第六課　レストランにて、練習問題
１２回　第七課　道を尋ねる・上海紹介
１３回　第七課　交通、練習問題
１４回　第八課　観光する・蘇州と杭州紹介
１５回　第八課　観光、練習問題

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

中国語III（ １ - ｂ ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

１．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
２．教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語IV (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor　艾 文婷 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語IV	CHN112F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　第九課　　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　　買い物、練習問題
３回　第十課　　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語IV (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意　/Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3 . 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語IV (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor　于　佳 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語IV	CHN112F

授業の概要　/Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れることを目指します。
(1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
(2)日常会話に必要な語彙力を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
(3)会話文の学習を通して場面に応じる中国会話力を高めます。
(4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

(到達目標)
【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　買い物をする・義烏と横店紹介
２回　第九課　　買い物、練習問題
３回　第十課　　お金を両替・西安と洛陽紹介
４回　第十課　　銀行にて、練習問題
５回　第十一課　ホテルに泊まる・成都紹介
６回　第十一課　ホテルにて、練習問題
７回　第十二課　電話を掛ける・昆明紹介
８回　第十二課　電話、練習問題
９回　第十三課　興味について語る・広州紹介
１０回　第十三課　興味、練習問題
１１回　第十四課　見方について語る・大連紹介
１２回　第十四課　語り合い、練習問題
１３回　第十五課　搭乗手続き・日本の紹介
１４回　第十五課　空港での搭乗手続き・免税店にて
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

中国語IV (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修完了者。
2 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3 . 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音　語彙力　会話　表現　コミュニケーション

中国語V 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語V	CHN201F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

（到達目標）
【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

中国語V 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　ポイント説明 日本紹介（本文）
２回　第二課　ポイント説明
３回　第二課　東京（本文）
４回　第三課　ポイント説明
５回　第三課　横浜（本文）
６回　第四課　ポイント説明
７回　第四課　富士山と東照宮（本文）
８回　第五課　ポイント説明
９回　第五課　静岡と名古屋（本文）
１０回　第六課　ポイント説明
１１回　第六課　京都（本文）
１２回　第七課　ポイント説明
１３回　第七課　奈良（本文）
１４回　第八課　ポイント説明
１５回　第八課 大阪（本文）

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修完了者。
2．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3．授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　有働　彰子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語VI	CHN211F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。
(1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
(2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
(3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

（到達目標）
【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　ポイント説明
２回　第九課　　宮島と下関（本文）
３回　第十課　　ポイント説明
４回　第十課　　九州（本文）
５回　第十一課　ポイント説明
６回　第十一課　福岡（本文）
７回　第十二課　ポイント説明
８回　第十二課　佐賀（本文）
９回　第十三課　ポイント説明
１０回　第十三課　長崎（本文）
１１回　第十四課　ポイント説明
１２回　第十四課　四国（本文）
１３回　第十五課　ポイント説明
１４回　第十五課　仙台と北海道（本文）
１５回　総合練習

中国語VI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…６０％　　日常の授業への取り組み、小テスト等…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず予習と復習すること。

履修上の注意　/Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修完了者。
2．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3．授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　黄　健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅶ	CHN202F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

（到達目標）
【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

中国語VII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第一課　日本紹介（会話）　練習
２回　第二課　東京（会話）
３回　第二課　練習
４回　第三課　横浜（会話）
５回　第三課　練習
６回　第四課　富士山と東照宮（会話）
７回　第四課　練習
８回　第五課　静岡と名古屋（会話）
９回　第五課　練習
１０回　第六課　京都（会話）
１１回　第六課　練習
１２回　第七課　奈良と神戸（会話）
１３回　第七課　練習
１４回　第八課　大阪（会話）
１５回　第八課　練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修完了者。
2．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3．授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4．教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　黄　健 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要　/Course Description

近年、日本を訪れる中国人観光客は増加の一途を辿るばかりです。外国語を学ぶというと、相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは自国日本についての知識を身につけ、外国語で自国を表現する、という能力を身につけることを目標としています。
皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれません。本テキストを通じ、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。
(1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかり定着させます。
(2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

（到達目標）
【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『遊学漢語シリーズ　東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

中国語VIII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第九課　　宮島と下関（会話）
２回　第九課　　練習
３回　第十課　　九州（会話）
４回　第十課　　練習
５回　第十一課　福岡（会話）
６回　第十一課　練習
７回　第十二課　佐賀（会話）
８回　第十二課　練習
９回　第十三課　長崎（会話）
１０回　第十三課　練習
１１回　第十四課　四国（会話）
１２回　第十四課　練習
１３回　第十五課　仙台と北海道（会話）
１４回　第十五課　練習
１５回　総合練習

成績評価の方法　/Assessment Method

複数回の小テスト・・４０％　暗誦・・３０％　日常の授業への取り組み・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず事前の予習と練習すること、または事後の復習すること！

履修上の注意　/Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修完了者。
2．CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3．授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4．教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード　/Keywords

発音　語彙力　文法　日本の理解

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor　呉　香善 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語 I	KRN101F

授業の概要　/Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。
到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』　（厳基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス　/　【ハングルの特徴と構成】
2回　文字と発音①　【母音字】とその発音
3回　文字と発音②　【子音字】とその発音
4回　文字と発音③　【子音字＋母音字】とその発音
5回　文字と発音④　【濃音、激音、平音】の発音比較
6回　文字と発音⑤　【二重母音字】とその発音
7回　文字と発音⑥　【パッチム】の読み方と発音
8回　【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
9回　【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
10回　発音ルール①　【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
11回　発音ルール②　【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
12回　まとめと復習
13回　体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
14回　体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…３０％、小テスト・課題…３0%、定期試験…４0%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor　金　光子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語 I	KRN101F

授業の概要　/Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩　三訂版』厳基珠他（白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』　油谷幸利他（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　文字と発音【母音】【基本挨表現①】
3回　文字と発音【子音①】【基本表現②】
4回　文字と発音【子音②】【基本表現③】
5回　文字と発音【子音③】【合成母音①】【基本表現④】
6回　文字と発音【激音】【合成母音②】
7回　文字と発音【濃音】【合成母音③】
8回　発音の規則【終声・パッチム】
9回　発音の規則【連音化】【激音化】
10回　発音の規則【濃音化】【流音化】【その他】
11回　文字と発音の復習【日本語のハングル表記】
12回　指定詞の丁寧形【～は～です】
13回　指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
14回　語彙と文型の復習
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・ 25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・ 25%
学期末試験・・・ 50%

朝鮮語I (１ - ｂ) 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード　/Keywords

朝鮮語II（ １ - a ） 【昼】

担当者名 /Instructor　呉　香善 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要　/Course Description

本講義は朝鮮語Iで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。
到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（厳基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』　（小学館、8000円）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　前期の復習
2回　どこでならってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
3回　どこでならってますか②【用言の丁寧形】
4回　暑くありません【用言の否定形】
5回　数詞【漢数字】【固有数字】
6回　誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
7回　どこに住んでいますか①【用言の連用形】
8回　どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
9回　先生いらっしゃいますか【電話応対】と【敬語表現】
10回　何をお探しですか【買い物】と【敬語表現】
11回　何をしましたか①【過去形】
12回　何をしましたか②【過去形】の確認と応用
13回　何を召し上がりますか①【意思・推量形】
14回　何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…３０％、小テスト・課題…３０％、定期試験…４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

朝鮮語II (１ - a) 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

朝鮮語II（ 1 - b ）【昼】

担当者名 /Instructor　金　光子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅱ	KRN111F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語Iで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『韓国語の初歩　三訂版』厳基珠他　（白水社）2,200円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』　油谷幸利他（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　朝鮮語Iの復習
2回　動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
3回　形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
4回　否定表現【～しません】【～くありません】
5回　指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
6回　数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
7回　助詞のまとめ【作文練習】
8回　動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
9回　否定表現【～しません】【～くありません】
10回　用言の尊敬形①【ハムニダ体】
11回　用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
12回　尊敬形のまとめ【作文練習】
13回　用言の過去形①【ハムニダ体】
14回　用言の過去形②【ヘヨ体】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

朝鮮語II（ １ - ｂ ） 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語III（ 1 - a ）【昼】

担当者名 /Instructor　金　光子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要　/Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』　金順玉・阪堂千津子（白水社）　定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』　油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』　李恩周（高橋書店）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　文字と発音【基本母音】
2回　文字と発音【基本子音】
3回　文字と発音【激音】【濃音】
4回　文字と発音【合成母音字】
5回　文字と発音【終声①】【終声②】
6回　発音のルール【連音化】【濃音化】
7回　発音のルール【激音化】【鼻音化】
8回　その他の発音法則
9回　【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
10回　疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
11回　自己・物を紹介する時の表現【～といいます】
12回　存在詞の丁寧形【～があります】
13回　場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
14回　位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

朝鮮語III（ １ - a ） 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

朝鮮語III（ 1 - b ）【昼】

担当者名 /Instructor　崔　相振 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要　/Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
2回　文字の発音及び書き順１【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
3回　文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
4回　文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
5回　単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
6回　発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
7回　発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
8回　発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
9回　自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
10回　簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
11回　疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
12回　韓国文化紹介【映画など】
13回　存在詞、場所名、ゼスチュアー位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
14回　指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで練習】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…50％
平常の学習状況、小テスト、課題…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語III（ １ - ｂ ）【昼】

履修上の注意　/Remarks

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていきますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語IV (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor　金　光子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語IV	KRN112F

授業の概要　/Course Description

朝鮮語IIIで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』　金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　朝鮮語IIIの復習
2回　持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
3回　疑問詞を使った表現【～は何 / どこですか？】
4回　時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
5回　用言の丁寧形①【ヘヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
6回　用言の丁寧形②【ヘヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
7回　用言の否定形　【～しません、～くありません】【一週間の予定】
8回　目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
9回　数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
10回　丁寧形の変則活用
11回　用言の尊敬形
12回　用言の過去形①【～ました、でした】
13回　用言の過去形②【変則活用】
14回　意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

朝鮮語IV（ 1 - a ） 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語IV (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor　呉　珠熙 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営律政群１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語IV	KRN112F

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法においての類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習帳（朝日出版社）
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　朝鮮語IIIの学習内容確認、丁寧形１【自己紹介】【授業で必要な言葉】
2回　助詞１【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字１【【おいくらですか】【買い物】
3回　助詞２、漢数字２【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
4回　時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
5回　丁寧形２【해요体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
6回　丁寧形２【해요体】文章に於いての丁寧形ドリル
7回　「해요体」の不規則、固有数字１【一つ、二つ．．．】
8回　「해요体」のドリル、固有数字２【おいくつですか】
9回　時刻【（固有数字）時（漢数字）分】【何時ですか】
10回　数量単位名詞【人・物を数える】【韓国語でクリスマスキャロルを歌う】【相づち】
11回　希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
12回　否定及び不可能表現【못～, ~지 못해요】
13回　過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
　　過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
14回　韓国文化紹介【映画など】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験…５０%
平常の学習状況、小テスト、課題…５０%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語IV（ １ - ｂ ） 【昼】

履修上の注意　/Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIの授業を並行して受講すれば、しっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語V 【昼】

担当者名 /Instructor　安　瀞珠 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語V	KRN201F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠　『おはよう韓国語２』朝日出版社　2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館　2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
2回　第1課　過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
3回　第１課　フランスから来ました【練習問題、スキット】
4回　第２課　尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
5回　第２課　家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
6回　第３課　尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
7回　第３課　으変則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
8回　第３課　キム・ミンスさんのお宅ですよね【練習問題、スキット】
9回　韓国文化紹介、映画鑑賞
10回　第４課　ㅂ変則用言ドリル、用言＋아서/어서、意志表現【-을래요/ㄹ래요】
11回　第4課　野菜が多くて体にもいいです 【練習問題、スキット】
12回　第５課　意志・推測【을/ㄹ 거예요】、現在連体形
13回　第５課　未来意志・推測・婉曲【겠】、～しに・～ために表現。【未来の計画発表】
14回　第５課　夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験…50%、　日常の授業への取り組み・課題・小テスト…50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語V 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　安　瀞珠 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要　/Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかり学習するのを目指したい。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

崔柄珠　『おはよう韓国語２』朝日出版社　2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館　2004年。3520円。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
2回　第6課　条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
3回　第６課　ㄹ変則ドリル、理由表現【用言＋으니까/니까、指定詞・名詞＋이니까/니까】
4回　第６課　どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
5回　第７課　名詞＋하고/과/와，可能・不可能表現
6回　第7課　過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言＋을/ㄹ게요】
7回　第７課　写真を添付しますよ【練習問題、スキット】【メール文を書く】
8回　第８課　未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
9回　第８課　みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
10回　第９課　ㅎ変則ドリル、義務【用言＋아/어야 되다(하다)】
11回　第9課　未来形推測【用言＋을/ㄹ 것 같다】、許可【用言＋아/어도 되다】
12回　第９課　どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
13回　第10課　ㄷ変則ドリル、不可能【못～/～지 못하다】
14回　第10課　現在形推測【는 것 같다/ 은/ㄴ 것 같다/ 인 것 같다】、経験表現
15回　第10課　何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VI 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　安　瀞珠 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語Ⅶ	KRN202F

授業の概要　/Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美　『ちょこっとチャレンジ！韓国語　改訂版』白水社　2017年。2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 小学館　2004年。3520円。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回．オリエンテーション
2回．第1課　打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
4回．第2課　説明・紹介【-인데】、期間【-ㄴ/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
5回．第2課動作の順序【-ㄴ/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
7回．第3課　義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
8回．第3課　許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
9回．第4課　形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
10回　第4課　決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
12回．第5課　位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
13回．第5課　動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
14回．第6課　動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
15回．第6課　物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50％　日常の授業への取り組み課題・小テスト…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語Ⅶ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード　/Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　安　瀞珠 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

朝鮮語VIII	KRN212F

授業の概要　/Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

（到達目標）
【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美　『ちょこっとチャレンジ！韓国語（改訂版）』白水社　2017年。2400円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか　『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館　2004年。3520円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第5・6課　聞き取り、会話文復習
2回　第7課　依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
3回　第7課　より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
4回　第8課　理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
5回　第8課　プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
6回　第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
7回　第9課　かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
8回　第9課　時間・場合【-(으)ㄹ 때】
9回　第10課　傾向【-(으)ㄴ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
10回　第10課　～するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
11回　第9．10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
12回　韓国文化紹介、映画鑑賞
13回　第11課　間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
14回　第11課　間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっている二ュースを友達に伝える】
15回まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…50%　日常の授業への取り組み・課題・小テスト…５０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合いましょう。

キーワード　/Keywords

ロシア語I 【昼】

担当者名 /Instructor	芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	1単位	1学期	講義	英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅰ	RUS101F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説することにより、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

「１年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社、1994年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語概論、アルファベット
２回　文字と発音：母音、子音(１)、アクセント、疑問詞のある疑問文と答え方(１)
３回　子音(２)、疑問詞のある疑問文と答え方(２)、硬子音と軟子音、名詞の性
４回　所有代名詞、疑問詞のある疑問文と答え方(３)、有声子音と無声子音、子音の発音規則
５回　硬音記号と軟音記号、疑問詞のない疑問文と答え方、イントネーション
６回　50音のロシア文字表記法
７回　一課前半　テキストの読み、内容解説、挨拶表現、ロシア人の名、自己紹介の練習
８回　一課後半　テキストの読み、内容解説、人称代名詞、国名・国民名、名詞複数形
９回　二課前半　テキストの読み、内容解説、動詞の現在変化、接続詞、副詞、練習問題
１０回　二課後半　テキストの読み、内容解説、名詞格変化(対格)、和文露訳
１１回　三課前半　テキストの読み、内容解説、所有表現、名詞格変化(前置格)、練習問題
１２回　三課後半　テキストの読み、内容解説、形容詞、複数専用名詞、前置詞用法、和文露訳
１３回　四課前半　テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞、時間表現、練習
１４回　四課後半　テキストの読み、内容解説、動詞の体、名詞格変化(生格)、和文露訳
１５回　復習とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

直接対面授業の場合　期末試験60%　小テスト・和文露訳課題等40%
遠隔授業の場合　　期末試験40%、小テスト・和文露訳課題等60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

最初数回の授業でアルファベットの読み書きを学習するので、スタート時期に欠席するのは好ましくない。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語II 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅱ	RUS111F

授業の概要　/Course Description

読み書き、標準的発音の習得に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行なう。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣などについて解説し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行ない、異文化理解を深める。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

「１年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社、2000年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社、1997年
「パスポート初級露和辞典」米重文樹編　白水社、1994年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　一学期に習ったことの復習(１)
２回　一学期に習ったことの復習(２)
３回　四課前半　テキストの読み、内容解説、動詞過去、個数詞・時刻表現
４回　四課後半　テキストの読み、内容解説、動詞の体、生格、指示代名詞、限定代名詞、和文露訳
５回　四課の復習、練習問題
６回　五課前半　テキストの読み、内容解説、動詞未来、前置詞句(１)、曜日
７回　五課後半　テキストの読み、内容解説、完了動詞未来、不定人称文、命令形、和文露訳
８回　五課の復習、練習問題
９回　六課前半　テキストの読み、内容解説、運動の動詞、行先表現、交通手段表現
１０回　六課後半　テキストの読み、内容解説、出発と到着表現、場所に関する疑問詞、和文露訳
１１回　六課の復習、練習問題
１２回　七課前半　テキストの読み、内容解説、形容詞と副詞について、数量表現
１３回　七課後半　テキストの読み、内容解説、述語副詞、四季、方位、月、和文露訳
１４回　七課の復習、練習問題
１５回　復習とまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

直接対面授業の場合　　期末試験60%、　小テスト・和文露訳課題など60%
遠隔授業の場合　　期末試験40%、小テスト・和文露訳課題など60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業後、授業前に、前回習った重要な文法事項、語彙などの復習をすること。小テスト、或は和文露訳の問題を課するので復習と合わせて準備を怠らぬように。

ロシア語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語I」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語III 【昼】

担当者名 /Instructor	ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅲ	RUS102F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社 ￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語とはどんな言葉か？【母音と母音文字】、【こんにちは】
２回　ロシア語のアルファベット【交際】
３回　短文のイントネーション　【これは誰ですか】、【これは何ですか】
４回　簡単な問いと答え　【あなたは学生ですか】、【お元気ですか】
５回　第１課①　【挨拶】、【紹介】
６回　第１課②　【ロシア人の名前】、【これは誰のものですか】
７回　第１課③　会話
８回　第２課①　【教室でロシア語】
９回　第２課②　【動詞現在変化】、【私は本を読んでいます】
１０回　第２課③　【趣味】、【私はロシア語を話します】
１１回　第３課①　【家族の紹介】
１２回　第３課②　【名詞の前置格】、【あなたの家族はどこにお住まいですか】
１３回　第３課③　【形容詞】、【これは新しい車です】
１４回　復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　　宿題…１０％　　期末試験…８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習 60分、
復習 60分です。）

ロシア語III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor	ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律 政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅳ	RUS112F

授業の概要　/Course Description

「聞き取り・発音」、「会話」に重点を置き、ロシア語の基礎力養成を行う。また、ロシア語の背景としての歴史・社会・文化・生活習慣について説明し、ロシア語学習への興味を呼び起こし、学習の動機付けを行い、異文化理解を深める。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、基礎的レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社　￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　第４課①　【一日の生活】、【過去の表現】
２回　第４課②　【時間表現】
３回　第４課③　【動詞の体】、【昨日あなたは何をしましたか】
４回　第４課④　【不完了体と完了体】、【あなたは宿題をしてしまいましたか】
５回　第５課①　【休日】、【動詞の未来】
６回　第５課②　【曜日名】、【明日あなたは何をしますか】
７回　第５課③　【名詞の造格】、【命令形】
８回　第５課④　【どうぞ、午後に私に電話してください】
９回　第６課①　【交通】、【運動の動詞】
１０回　第６課②　【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
１１回　第６課③　【電話】、【出発と倒着の表現】
１２回　第６課④　【あなたはどこから来ましたか】
１３回　会話　【どこへ】、【どこに】、【どこから】
１４回　復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…１０％　期末試験…８０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は、予習 60分、
復習 60分です。）

ロシア語IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

できるだけロシア語の音声資料などで耳慣らしをして発音練習をすること、また
毎回、授業の前と後で単語・表現、挨拶言葉などの予習・復習を怠らないこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語V 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語V	RUS201F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、書き言葉でよく使われる現在分詞、過去分詞、仮定法、最上級表現など複雑な構文について解説する。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

１年生のロシア語

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」安藤厚他編　白水社
佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○プリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ロシア語IIで習ったことの復習１
２回　ロシア語IIで習ったことの復習２
３回　八課前半　テキストの読み、内容解説、無人称述語、動詞の格支配(１)(２)
４回　八課後半　テキストの読み、内容解説、義務・可能性表現、動詞の格支配(３)、和文露訳
５回　八課の復習
７回　九課前半　テキストの読み、内容解説、年齢表現、年月日表現、比較級
８回　九課後半　テキストの読み、内容解説、値段表現、授与動詞、仮定法、和文露訳
９回　九課の復習
１０回　十課前半　テキストの読み、内容解説、関係代名詞、形容詞最上級、形容詞格変化
１１回　十課後半　テキストの読み、内容解説、単文と複文、直接話法と間接話法、ことわざ
１２回　十課の復習
１３回　副動詞、形動詞現在
１４回　形動詞過去、特殊変化動詞
１５回　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

直接対面授業　期末試験60%　小テスト・和文露訳課題等40%
遠隔方式授業　期末試験40%　小テスト・和文露訳課題等60%

ロシア語V 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストの読み・和訳の発表等を課すので授業前準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

ロシア語I、IIを履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　芳之内　雄二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語VI	RUS211F

授業の概要　/Course Description

書き言葉に特徴的な複文（関係代名詞、関係副詞、分詞、仮定法などを使った構文）の「文法・語法」学習、動詞の体の意味用法理解など、より複雑な文法の学習を行う。読み物テキストの読解を通じて文章読解力を養うことを目指す。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

安藤厚ほか編「ロシア語ミニ辞典」白水社、1997年
中村建之介著「自習ロシア語問題集」白水社、2014年
佐藤純一著『NHK新ロシア語入門』日本放送出版協会
○プリキナ著『新ロシア語文典』我妻書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　＜СКОРО ПЕРВОЕ СЕНТЯБРЯ＞　名詞の性、不規則変化動詞、形容詞前置格
２回　＜МАМА И ФУТБОЛ＞　多義動詞の用法、関係副詞構文、形容詞短語尾、全否定構文
３回　＜МАТЬ＞　関係副詞構文、関係代名詞構文、不規則変化動詞、名詞単数・複数の使分け
４回　＜САЛЮТ＞　複文の種類と構造、不規則変化動詞、第二生格
５回　＜ГИПНО'З＞　不定人称文、「・・する」の後結合、完了動詞・不完了動詞
６回　＜ВАЖНЫЙ РАЗГОВОР＞　願望を意味する動詞と複文、運動の動詞の派生語
７回　＜ТРУДНЫЙ ЭКЗАМЕН＞　動詞の格支配、複文、否定生格
８回　＜ДОМ ОТДЫХА＞　時の表現、動詞の体
９回　＜БАБУШКА И ВОВКА＞　動詞の格支配、不規則変化動詞
１０回　＜ВТОРАЯ МОЛОДОСТЬ＞　複文、動詞の体
１１回　＜О ЧЁМ ДУМАЕТ МАРАБУ＞　年月日表現、年齢表現、形容詞格変化復習
１２回　＜КАК Я ВСТРЕЧАЛ НОВЫЙ ГОД＞　不定法構文、無人称文
１３回　＜ЛЮБИМЫЙ ПРАЗДНИК＞　個数詞＋形容詞＋名詞の語結合、所有形容詞
１４回　＜ЭТО СЛУЧИЛОСЬ В ВОЗДУХЕ＞「互いに」の表現、運動の動詞、不定代名詞
１５回　まとめと復習

成績評価の方法　/Assessment Method

直接対面授業　期末試験60%　普段の授業発表等40%
遠隔方式授業　期末試験40%　小テスト・課題など60%

ロシア語VI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・訳の発表を課するので授業前に準備が必要。なお、授業後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

ロシア語I、IIを履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor	ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅶ	RUS202F

授業の概要　/Course Description

これまでに習ったロシア語の語彙、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上をめざす。「聞き取り･会話」と「作文」に重点を置く。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社　￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第５課の復習
2回　第６課①　【交通】、【運動の動詞】
3回　第６課②　【交通手段と行先】、【あなたはどこへ行くのですか】
4回　第６課③　【電話】、【出発と倒着の表現】
5回　第７課①　【天候】、【КАКАЯ СЕГОДНЯ ПОГОДА ?】
6回　第７課②　【気温】、【雨が降る】
7回　第７課③　【四季】、【КАКОЕ ВРЕМЯ ГОДА ВЫ ЛЮБИТЕ ?】
8回　ビデオ学習①【В ГОСТИНИЦЕ】
9回　ビデオ学習②　会話練習
10回　第８課①　【病気と健康】、【ЧТО У ВАС БОЛИТ ?】
11回　第８課②　【必要性】、【可能】、【不可能】、【許可】、【禁止】
12回　第８課③　【ЧТО ВЫ ДОЛЖНЫ СДЕЛАТЬ ЧЕРЕЗ НЕДЕЛЮ ?】
13回　ビデオ学習③【ЗИМНЯЯ СЮИТА】
14回　ビデオ学習④　会話練習、　作文【Я И СПОРТ】
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況 (小テスト含む) …１０％　　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語Ⅶ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修しておくこと。
正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ロシア語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor	ナタリア・シェスタコーワ / Natalia Shestakova / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ロシア語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ロシア語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ロシア語Ⅷ	RUS212F

授業の概要　/Course Description

一年次に習ったロシア語の語彙、基礎文法、読み書き、聞き取り・発音を練磨しつつ、応用力の向上を目指す。「読解・解釈」と「文法・語法」に重点を置く。

(到達目標)
【技能】ロシア語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

「一年生のロシア語」戸辺又方編著　白水社￥１，４００
DVD教材も活用する予定

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「ロシア語ミニ辞典」　安藤 厚編　白水社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　第９課①　【年齢】、【年月日の表現】、【КОГДА ВЫ РОДИЛИСЬ ?】　2回　第９課②　【買い物】、【値段】
3回　第９課③　会話練習
4回　ビデオ学習①　【В ГОСТЯХ】
5回　ビデオ学習②　会話練習【В ГОСТЯХ】
6回　ビデオ学習③　作文【КАК ПРИГЛАШАЮТ В ГОСТИ В ЯПОНИИ 】
7回　第１０課①【モスクワの町】
8回　第１０課②【関係代名詞 КОТОРЫЙ】、【КАКАЯ ГОРА САМАЯ ВЫСОКАЯ?】
9回　第１０課③【モスクワの町】、【単文と複文】
10回　第１０課④【ことわざ】、【МОЙ РОДНОЙ ГОРОД】
11回　読み物①　12回　読み物②
13回　読み物③
14回　練習
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…６０％　平常の学習状況（小テスト含む）…１０％　宿題…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修者には毎回、テキストの読み・和訳の発表を課するので授業前までに準備が必要。なお、授業終了後その日に習った重要な文法事項、語彙、表現などの復習をすること。

ロシア語VIII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

この授業を履修する場合は、「ロシア語III」「ロシア語IV」を履修してくこと。正当な理由なく遅刻欠席をしないこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語I 【昼】

担当者名 /Instructor　古賀　正之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要　/Course Description

現代のドイツは拡大したＥＵ（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

＊到達目標は、以下の「基盤教育センター　到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

＊このシラバスは、対面授業を実施することを前提に作成されています。遠隔授業への変更に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて連絡します。
ただし、教科書の変更はありません。

教科書　/Textbooks

『アプファールト＜ノイ＞　スキットで学ぶドイツ語』　飯田道子・江口直光　三修社　２,４００円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

ドイツ語I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　テーマ：あいさつ(１)　文法：人称代名詞
第2回　テーマ：人と知り合う　文法：動詞の現在人称変化（規則動詞，sein）
第3回　テーマ：紹介(名前･出身地･居住地･職業･趣味)　文法：疑問文の種類と答え方
第4回　テーマ：時刻 / あいさつ(２) / 時を表す表現　文法：動詞の現在人称変化（haben）
第5回　テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号　文法：動詞の現在人称変化（不規則動詞）
第6回　テーマ：食べ物と飲み物 / メール　文法：定動詞第２位の原則，疑問文の語順
第7回　テーマ：道の尋ね方・答え方　文法：duとSie / 命令形
第8回　テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など　文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
第9回　テーマ：～してください　文法：冠詞と名詞の格変化（１・４格）
第10回　テーマ：持ってる？　持ってない？　文法：否定冠詞と所有冠詞（１．４格）
第11回　テーマ：買い物 / 値段　文法：名詞と冠詞の３格 / 複数形
第12回　テーマ：プレゼント　文法：人称代名詞の格変化
第13回　テーマ：気に入った？　文法：前置詞（１）
第14回　テーマ：家族・親戚　文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50％
日常の授業への取り組み　50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意　/Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。
ただし、毎時間必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。
授業の中でもドイツ語圏の社会や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード　/Keywords

パートナー練習　役割練習　正確な発音と初級文法の習得　楽しく学習

ドイツ語II 【昼】

担当者名 /Instructor　古賀　正之 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅱ	GRM111F

授業の概要　/Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識および運用力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

＊到達目標は、以下の「基盤教育センター　到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

＊このシラバスは、対面授業の実施を前提に作成されています。遠隔授業の実施に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて連絡します。ただし、教科書の変更はありません。

教科書　/Textbooks

『アプファールト＜ノイ＞　スキットで学ぶドイツ語』　飯田道子・江口直光　三修社　２,４００円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　テーマ：週末や休暇の予定　文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
第2回　テーマ：天候　文法：話法の助動詞 / 非人称のes
第3回　テーマ：一日の行動・日常生活　文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
第4回　テーマ：過去のできごと（１）　文法：過去分詞
第5回　テーマ：時を表す表現（２）　文法：現在完了
第6回　テーマ：過去のできごと（２）　文法：過去基本形 / 過去時制
第7回　テーマ：位置の表現　文法：前置詞（２）
第8回　テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン　文法：es gibt…
第9回　テーマ：修理 / 家事　文法：受動文
第10回　テーマ：開店時間・閉店時間　文法：再帰代名詞と再帰動詞
第11回　テーマ：料理 / 比較の表現　文法：比較級・最上級
第12回　テーマ：病気 / 色彩　文法：zu不定詞句
第13回　テーマ：ふたつの文をひとつにする　文法：従属の接続詞と副文
第14回　テーマ：非現実の仮定　文法：接続法２式（非現実話法）
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み５０％　　期末試験 ５０％

ドイツ語II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅するドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提にして行われます。受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話テキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。ドイツ語IIの時間でも、必要に応じてドイツ語圏の生活や文化を紹介する動画を見てもらいます。

キーワード　/Keywords

パートナー練習　役割練習　正確な発音と初級文法の習得　楽しく学習

ドイツ語III 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅲ	GRM102F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標
日常の生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。
Was ist dein Vater von Beruf?
Mein Vater ist Angestellter.

（到達目標）
【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、１・２人称、】
２回　名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
３回　紹介、数字、電話番号【３人称、数詞】
４回　各国の国名、車のナンバープート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
５回　履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
６回　ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
７回　趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
８回　ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
９回　好物、外国料理【接続詞】
１０回　ドイツの食事【頻度を表す副詞】
１１回　家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、１（主）格】
１２回　ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

ドイツ語III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツァウン、「垣根」) とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要　/Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標
日常の生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。
Was hast du am Wochenende gemacht?
Ich habe gejoggt.

（到達目標）
【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン１　場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
２回　傘はドイツ語でなんと言うか【４（直接目的）格】
３回　住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の３格、】
４回　家賃はいくらですか、部屋の広さは
５回　時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
６回　日付、曜日、誕生日、今週の予定
７回　大学の建物、道案内、【副詞】
８回　交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
９回　休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
１０回　ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
１１回　過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
１２回　クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
１３回　１回から６回までのキーワードの復習
１４回　７回から１２回までのキーワードの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

ドイツ語IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を３度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意　/Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツァウン、「垣根」) とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に生かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語V 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語V	GRM201F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標
自分の日常の生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。
Was isst du zu Mittag?
Ich esse Udon.

（到達目標）
【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
（Szenen 2）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
２回　駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
３回　私達は注文したいのですが。【レストランで】
４回　部屋は空いていますか？【ホテルで】
５回　郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
６回　円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
７回　フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
８回　ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
９回　どこが悪いのですか？【病気】
１０回　頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
１１回　君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
１２回　ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生祝い】
１３回　ドイツ語でクロスワード遊び。
１４回　一日の活動を日記に書く。
１５回　まとめ

ドイツ語V 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツの二ュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VI	GRM211F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標
日常の生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。
Freust du dich schon auf Weihnachten?
Ja, schon.

（到達目標）
【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『スツェーネン２　場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
（Szenen 2）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　パーティーに何を着ますか？【服装】
２回　このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
３回　家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
４回　ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
５回　ここで犬を放してはいけません。【禁止】
６回　何歳になったら何ができますか？【選挙権】
７回　ドイツの学校制度。【教育】
８回　パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
９回　あなたは何に興味がありますか？【職業】
１０回　イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
１１回　イースターのウサギが語ります【祭り】
１２回　君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
１３回　君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
１４回　クリスマスクッキーの作り方。
１５回　まとめ

ドイツ語VI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　　学期末試験（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を３回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツの二ュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VII 【昼】

担当者名 /Instructor	山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VII	GRM202F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標
スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、
理解し、シャドーイングする。

（到達目標）
【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
２回　人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
３回　軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
６回　相手の言うことが聞き取れないとき
７回　理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くとき
８回　綴りを聞くとき、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　場所を聞くとき、道順・方向を聞くとき、距離を聞くとき
１１回　時刻を聞くとき、時間を聞くとき、曜日を聞くとき、日付を聞くとき
１２回　値段を聞くとき、数量を聞くとき、方法を聞くとき、理由を聞くとき
１３回　目的を聞くとき、住所を聞くとき、出身地を聞くとき、生年月日を聞くとき
１４回　ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　　学期末試験（５０％）

ドイツ語VII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を 3 回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ドイツ語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　哲雄 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

ドイツ語VIII	GRM212F

授業の概要　/Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。
　旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標
スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、
理解し、シャドーイングする。

（到達目標）
【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
２回　両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
３回　服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
４回　ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
５回　相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
６回　自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
７回　相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
８回　予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
９回　ドイツのビデオ、５回から８回までの復習
１０回　病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
１１回　会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
１２回　自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
１３回　贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
１４回　ドイツビデオ、１０回から13回までの復習
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

数回の小テスト（５０％）　学期末試験（５０％）

ドイツ語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で理解した文を 3 回音読しましょう。

履修上の注意　/Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語I 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅰ	FRN101F

授業の概要　/Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『パリーボルドー』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２５００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１４課、配列に従って原則二回で１課進み、1学期は第７課まで終了。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　フランス語の発音と綴り字
２回　自己紹介をする
３回　主語人称代名詞と動詞 etre の活用
４回　物を指し示す
５回　名詞と不定冠詞、形容詞の性・数の一致と位置
６回　尋ねる
７回　第一群規則動詞、定冠詞
８回　買い物をする
９回　動詞avoirの活用、否定文
１０回　物や人について尋ねる
１１回　動詞allerと近接未来、疑問代名詞
１２回　場所を尋ねる
１３回　所有形容詞、疑問形容詞
１４回　～したいと言う
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属ＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい）
遅くとも２回目の講義までには教科書を用意しておくこと（事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること）

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語II 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　広一 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『パリーボルドー』　（藤田裕二著　朝日出版社　￥２５００＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

教科書は全１４課、配列に従って２学期は第８課から第１４課まで。
以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

１回　興味を述べる
２回　定冠詞の縮約、補語人称代名詞
３回　誘う
４回　代名動詞、中性代名詞 y
５回　天候と時刻を言う
６回　非人称構文、命令形
７回　数量を表す
８回　部分冠詞、中性代名詞 en
９回　比較する
１０回　比較級、単純未来
１１回　過去のことを話す
１２回　複合過去、半過去
１３回　仮定する
１４回　条件法現在
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…20%　　期末試験…80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のＣＤをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
１学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード　/Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語III 【昼】

担当者名 /Instructor　中川　裕二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅲ	FRN102F

授業の概要　/Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいはＣＤを使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

新装　カフェ・フランセ　ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　日本のアニメをフランス語で見てみる（１）
　　〈文法〉フランス語の子音と母音
２回　日本のアニメをフランス語で見てみる（２）
　　〈文法〉フランス語の読み方
３回　自己紹介とあいさつ、フランスという国（１）
　　〈文法〉名詞の性と数
４回　職業について語る、フランスという国（２）
　　〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
５回　住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語（１）
　　〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
６回　カフェで注文してみる、世界の中のフランス語（２）
　　〈文法〉形容詞〔1〕
７回　様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語（１）
　　〈文法〉動詞 avoir 、疑問文
８回　持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語（２）
　　〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11〜20
９回　家族について語る、ジャパン・エキスポ（１）
　　〈文法〉所有形容詞
10回　人物を描写してみる、ジャパン・エキスポ（２）
　　〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
11回　インタビュー、フランスの地方の魅力（１）
　　〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
12回　さまざまな質問、フランスの地方の魅力（２）
　　〈文法〉疑問代名詞
13回　好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん（１）
　　〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
14回　服装について語る、フランスの朝ごはん（２）
　　〈文法〉命令形、-ir 動詞
15回　復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法　/Assessment Method

講義中の課題（50％）、学期末試験の結果（50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験５級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Ｃを保証します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　中川　裕二 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要　/Course Description

１学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

新装　カフェ・フランセ　ニコラ・ガイヤール　他著、朝日出版社　刊

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語IV 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　スポーツについて語る、フランスのヴァカンス（１）
　　〈文法〉形容詞〔2〕
２回　朝食について語る、フランスのヴァカンス（２）
　　〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
３回　人を誘ってみる、フランスの世界遺産（１）
　　〈文法〉目的補語人称代名詞
４回　行き先を聞く、フランスの世界遺産（２）
　　〈文法〉非人称構文、数字 21〜69
５回　日常生活について（１）、フランスのホームパーティー（１）
　　〈文法〉代名動詞（１）
６回　日常生活について（２）、フランスのホームパーティー（２）
　　〈文法〉代名動詞（２）
７回　有名人について語る、フランスのスポーツ（１）
　　〈文法〉形容詞と副詞の比較級（１）
８回　アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(２）
　　〈文法〉形容詞と副詞の比較級（２）
９回　レストランで（１）、フランス人の余暇（映画・音楽）（１）
　　〈文法〉複合過去（１）
10回　レストランで（２）、フランス人の余暇（映画・音楽）（２）
　　〈文法〉複合過去（２）、中性代名詞 en
11回　過去について語る（１）、フランスの美術館（１）
　　〈文法〉半過去（１）
12回　過去について語る（２）、フランスの美術館（２）
　　〈文法〉半過去（２）、中性代名詞 y と le
13回　メールを書く、フランスの教育制度
　　〈文法〉命令形
14回　近い未来の計画について話す、フランスの大学生活
　　〈文法〉近接未来
15回　復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想）

成績評価の方法　/Assessment Method

講義中の課題（50%)と学期末試験の結果（50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験４級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Ｃを保証します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード　/Keywords

フランス語V 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	1単位	1学期	講義	英中国済営比人律 政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語V	FRN201F

授業の概要　/Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
リスニングや長文のリーディングも行います。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『クロワッサン　2』（松村博史他　朝日出版　2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：1課Dialogue、自己紹介
第2回：複合過去の復習、子音の発音
第3回：２課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語、母音の発音
第4回：強制形、複合母音、鼻母音の発音、数字1〜20
第5回：小テスト①３課Dialogue、代名動詞、数字21〜69
第6回：代名動詞の複合過去、数字70〜100
第7回：４課Dialogue、中性代名詞、
第8回：指示代名詞、eの発音
第9回：小テスト②、５課Dialogue、月の言い方
第10回：前未来、曜日の言い方
第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
第12回：小テスト③、所有代名詞
第13回：６課
第14回：７課Dialogue、複合過去と半過去
第15回：大過去
※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

フランス語V 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

復習をしっかり行うこと

履修上の注意　/Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語VI	FRN211F

授業の概要　/Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
リスニングや長文のリーディングも行います。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『クロワッサン２』（村松博史　朝日出版　2300円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：７課までの復習
第2回：８課Dialogue、時を表す接続詞
第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
第4回：長文読解（歌詞）
第5回：９課Dialogue、条件法現在
第6回：条件法過去
第7回：12課
第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
第9回：強調構文
第10回：11課Dialogue、接続法
第11回：小テスト③、リスニング
第12回：長文読解（『星の王子さま』狐の話）
第13回：長文読解（『星の王子さま』献辞）
第14回：長文読解（『星の王子さま』第１章）
第15回：長文読解（『星の王子さま』バオバブの話）

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト30％
授業中の取り組み20％
期末テスト50％
ただし出席が前提です。欠席が多い場合にはこの通りではありません。

フランス語VI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書中心の回は復習をしっかりすること。読解などの場合は指示された予習をおこなうこと。

履修上の注意　/Remarks

すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅶ	FRN202F

授業の概要　/Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版　2500円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１）unité 1：自己紹介（前半）
２）unité 1：自己紹介（後半）
３）unité 1：自己紹介（総括）
４）unité 2：質問する（前半）
５）unité 2：質問する（後半）
６）unité 2：質問する（総括）、小テスト
７）unité 3：買い物をする（前半）
８）unité 3：買い物をする（後半）
９）unité 3：買い物をする（総括）
１０）unité 4：いつ（前半）
１１）unité 4：いつ（後半）
１２）unité 4：いつ（総括）、小テスト
１３）unité 5：どこ（前半）
１４）unité 5：どこ（後半）
１５）unité 5：どこ（総括）
上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

フランス語Ⅶ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（２回）・・・４０％
期末テスト・・・４０％
授業中の取り組み・・・２０％
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

フランス語

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　菜都美 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要　/Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。
ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。
授業は主に教科書に沿って進めますが、適宜プリントや映像を用いて、リスニングやリーディングの練習も行います。

（到達目標）
【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞 き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』朝日出版　2017年　税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

１）前期の復習、unité 6：誰（前半）
２）unité 6：誰（後半）
３）unité 6：誰（総括）、リスニング
４）unité 7：何（前半）
５）unité 7：何（後半）
６）unité 7：何（総括）、小テスト
７）unité 8：どのように（前半）
８）unité 8：どのように（後半）
９）unité 8：どのように（総括）、読解
１０）unité 9：過去について（前半）
１１）unité 9：過去について（後半）
１２）unité 9：過去について（総括）、小テスト
１３）unité 10：仮定、条件（前半）
１４）unité 10：仮定、条件（後半）
１５）後期の復習、プレゼンテーション
上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の取り組み・・・２０％
小テスト（２回）・・・４０％
プレゼンテーション・・・２０％
レポート・・・２０％
ただし出席が前提です。欠席が多い場合はこの通りではありません。

フランス語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review
会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords
フランス語

スペイン語I 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅰ	SPN101F

授業の概要　/Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなった特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずです。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

（到達目標）
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法　全音声DL版』朝日出版社　ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『西和中辞典』（小学館）
○『現代スペイン語辞典』（白水社）
○『クラウン西和辞典』（三省堂）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　アルファベット、発音
第３回　音節の分け方、アクセント
第４回　名詞の性と数
第５回　冠詞
第６回　形容詞
第７回　動詞
第８回　現在形（規則活用）
第９回　疑問詞、接続詞
第１０回　指示詞
第１１回　所有詞
第１２回　動詞estar
第１３回　動詞ser
第１４回　現在形（不規則活用）
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の小テストの累計７０％　日常の授業への取り組み３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビュを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書（スペイン語→日本語）を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード　/Keywords

スペイン語　文法

スペイン語I 【昼】

担当者名 /Instructor　野村　明衣 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語 I	SPN101F

授業の概要　/Course Description

この授業は、スペイン語の基礎文法を学び、学生間あるいは教員学生間の会話練習を通して、スペイン語での日常的なコミュニケーション能力の習得を目指します。
また、スペイン各地の世界遺産、歴史や文化なども紹介します。
スペイン語には５つの母音がありますが、これは日本語の母音の発音と似ているので、日本人にとって発音しやすい言語です。また発音のしやすさから、私たちの周りにある店やモノの名前が実はスペイン語であることも多々あります。こういった身近にあるスペイン語に気づくとき、言語を学ぶおもしろさを感じることができるでしょう。

（到達目標）
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

辻博子・野村明衣　『彩（いろど）りスペイン語』　朝日出版社　２０２１年
ISBN:　978-4-255-55119-7

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西川喬　『わかるスペイン語文法』　同学社　２０１０年

西和辞典：
○西和中辞典（小学館）
○現代スペイン語辞典（白水社）
○新スペイン語（研究社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）

和西辞典：
○和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
○クラウン和西辞典（三省堂）
和西辞典（小学館）

スペイン語I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、アルファベット
第２回　発音、アクセント
第３回　名詞、名詞の数
第４回　冠詞、形容詞
第５回　主格人称代名詞、動詞ser
第６回　否定文、疑問文、疑問詞（１）
第７回　直説法現在　規則動詞
第８回　疑問詞（２）、接続詞
第９回　指示詞
第１０回　所有詞
第１１回　曜日、日付、時間表現（１）
第１２回　動詞estar, serとestar
第１３回　hay, hayとestar
第１４回　総復習（１）
第１５回　総復習（２）

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験５０％　小テスト（毎回）３５％　日常の授業への取り組み１５％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に必ず単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を持参すること。くわしくは初回の授業でお知らせします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業開始５～１０分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

キーワード　/Keywords

スペイン　スペイン語

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor　富田　広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　済営比律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要　/Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなった特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはずです。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

（到達目標）
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法　全音声DL版』朝日出版社　ISBN: 978-4-255-55077-0

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『西和中辞典』（小学館）
○『現代スペイン語辞典』（白水社）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクション、授業運営と成績評価について
第２回　直接目的格人称代名詞
第３回　間接疑問文
第４回　時間の表現
第５回　現在形不規則動詞
第６回　間接目的格人称代名詞
第７回　現在形不規則動詞（完全に不規則）
第８回　前置詞格人称代名詞
第９回　gustar型動詞
第１０回　不定語・否定語
第１１回　天候表現
第１２回　比較表現
第１３回　再帰動詞
第１４回　再帰動詞のその他の用法
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の小テストの累計７０％　日常の授業への取り組み３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビュを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語II 【昼】

履修上の注意　/Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書（スペイン語→日本語）を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード　/Keywords

スペイン語　文法

スペイン語II 【昼】

担当者名 /Instructor　野村　明衣 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要　/Course Description

１学期に引き続き、スペイン語の基礎文法を学び、現在形の活用を一通り学習します。
ペアやグループでの会話練習を通して自分のことをスペイン語で表現する能力を身につけ、日常的なコミュニケーション能力のさらなる向上を目指します。
また、スペインの文化を扱った発展問題を通して異文化理解を深め、自国の文化と比較により学習者の視野を広げることを目標とします。

（到達目標）
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

Iと同じテキストを使用します。
辻博子・野村明衣　『彩（いろど）りスペイン語』　朝日出版社　２０２１年
ISBN:　978-4-255-55119-7

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西川喬　『わかるスペイン語文法』　同学社　２０１０年

西和辞典：
○西和中辞典（小学館）
○現代スペイン語辞典（白水社）
○新スペイン語（研究社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）

和西辞典：
○和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
○クラウン和西辞典（三省堂）
和西辞典（小学館）

スペイン語II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　１学期の復習
第２回　直説法現在　不規則動詞（１）
第３回　直接目的格人称代名詞
第４回　間接疑問文、時間表現（２）
第５回　直説法現在　不規則動詞（２）
第６回　間接目的格人称代名詞
第７回　直説法現在　不規則動詞（３）
第８回　前置詞格人称代名詞、動詞gustar
第９回　その他のgustar動詞、不定語・否定語
第１０回　天候表現、比較表現
第１１回　再帰動詞
第１２回　再帰動詞のその他の用法
第１３回　再帰動詞演習
第１４回　総復習
第１５回　総復習

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験５０％　小テスト（毎回）３５％　日常の授業への取り組み　１５％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に必ず辞書で単語の意味を調べておくこと。また授業後は毎回の小テストに備えて復習を怠らないこと。

履修上の注意　/Remarks

授業には辞書を持参すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業開始５～１０分程度で毎回小テストを実施します。学習した内容を毎回定着させることによって、定期試験準備の負担が軽くなります。

キーワード　/Keywords

スペイン　スペイン語

スペイン語III 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅲ	SPN102F

授業の概要　/Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデルとなる短い会話例をまず暗記します。その後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その際、ペアで、あるいは３－４人のグループでの会話練習を行います。
スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2017 第２版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　スペイン語とスペイン語圏について、教室での表現、
　　スペイン語のアルファベット「スペイン語で何といいますか？」
２回　スペイン語の発音とアクセントの位置、挨拶「おはよう。」
３回　１課　主語とser動詞、肯定文・否定文。名前・国籍・職業を言う「私はソニアです。」
４回　　estar動詞、疑問文「元気ですか？」
５回　２課　名詞の性と数、冠詞、指示詞、他人の紹介「こちらはフアンです。」
６回　　数字1 - 100「消防の電話番号は？」
７回　３課　規則活用動詞1　「わたしは文学を学んでいます。」
８回　　規則活用動詞2　「スペイン語を話しますか？」
９回　４課　ser,estar,hayの使い方「近くにレストランはありますか？」
１０回　　ir動詞　「どこに行きますか？」
１１回　５課　gustar動詞　「好きな食べ物は？」
１２回　　料理の注文　「メキシコ料理は好きですか？」
１３回　６課　家族について　「私の祖父はホルヘです。」
１４回　　家族について　tener動詞　「兄弟はいますか？」
１５回　まとめ

スペイン語III 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　　小テスト　30%、　　日常の授業への取り組み　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意　/Remarks

スペイン語I（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。
また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト：
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語IV 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語IV	SPN112F

授業の概要　/Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、モデル会話を覚えて行きましょう。口に出してジェスチャーをつけることで、フレーズを暗記しやすくなるはずです。そのあとは会話の応用練習をペアで、あるいは３－４人のグループで行います。

(到達目標)
【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

IIIと同じテキストを使用。
坂東省次、泉水浩隆、Alejandro CONTRERAS著『対話で学ぶスペイン語　改訂版』三修社、2017第2版

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。
西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　1学期の復習、7課「これはスペイン語で何といいますか？」
２回　7課　店での会話「こんな上着がほしいんですが。」
３回　8課　「カルロスの家は3部屋で、トイレは２つあります。」
４回　　「住まいはどんなですか？」
５回　9課　時間表現「何時ですか？」
６回　　再帰動詞「何時におきますか？」
７回　　1週間のスケジュール「週末は何をしますか？」
８回　10課　大学で「ガルシア先生の研究室はどこですか？」
９回　　肯定命令「クラスメートと会話をしなさい。」
１０回　　大学の時間割「週に何度スペイン語の授業がありますか？」
１１回　11課　現在完了「週末はどうでしたか？」
１２回　　「美術館はどうでしたか？」
１３回　12課　休暇の予定「夏にはどこへ行きますか？」
１４回　　「タンゴを踊りたいですか、それともフラメンコ？」
１５回　2学期まとめ

＊テキストの順に従い記していますが、進度に応じ多少変更する可能性があります。

スペイン語IV 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、　　小テスト　30%、　　日常の授業への取り組み　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意　/Remarks

スペイン語II（文法）の授業を履修しながら（あるいはすでに過去に履修など）であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。
参考サイト：
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

キーワード　/Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語V 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語V	SPN201F

授業の概要　/Course Description

中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

（到達目標）
【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語V 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
1 １年の復習（代名詞を中心に）（１）
2 １年の復習（代名詞を中心に）（２）
3 １年の復習（代名詞を中心に）（３）
4 スペイン語の動詞活用の全体像について
5 点過去・線過去・現在完了の用法（１）
6 同上　（２）
7 同上　（３）
8 動詞の派生形とその用法（進行形、完了形、命令形など）（１）
7 同上（２）
9 未来形・過去未来・過去完了（１）
10 同上　（２）
11 同上（３）
12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文（副詞節・形容詞節）（１）
13 同上（２）
14 同上（３）
15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習（１）

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。
定期試験　100％　＋　授業中評価20％　＝　120％　で60％を超えていれば単位を認定します。

なお、新型コロナウィルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意　/Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　文夫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語VI	SPN211F

授業の概要　/Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Ⅴに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

（到達目標）
【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。
最後にスペイン語版のアニメ（題材未定）を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。
スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
パスポート初級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和西辞典：
和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和西辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1 前期を含め、様々な構文のまとめ（受け身、使役、放任、比較など）（ 1 ）
2 同上 （ 2 ）
3 時制の一致
4 再帰動詞　（ 1 ）
5 同上 （ 2 ）
6　いくつかの文法事項（感嘆文、比較表現）
7　同上（2）
8 接続法の活用全般について
9 接続法の用法 （ 1 ）
10 同上 （ 2 ）
11 同上　（3）
12 スペイン語版アニメ（題材未定）による聞き取りと訳
13 同上（ 2 ）
14 同上（3）
15 まとめ
授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験に授業中の評価（小テスト、口頭での答え、作文など）も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。 具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は平常点を考慮せずに評価します。その条件を満たしていれば数回の欠席は構いません。なお、クラブなどの欠席届は認めません。平常点は普段の教室でのやりとり（読む、書くなど）や小テストの点数を年間に亘って数値化します。最大で20点くらいになるようにします。したがって、欠席が多い場合（例えば小テストを受けていないなど）は平常点が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。
定期試験　100％　+　授業中評価20％　=　120％　で60％を超えていれば単位を認定します。
なお、新型コロナウィルスの状況でオンライン授業になった場合には評価の方法を変更します。その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。（復習重視で、30分程度は必要になります）。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう（30分程度）。

履修上の注意　/Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもＯＫです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp

キーワード　/Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語VII	SPN202F

授業の概要　/Course Description

前年度のスペイン語III･ IV (会話表現) を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を発展させクラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像･ 音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)
【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和･ 和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

1回　前年度スペイン語の復習、1課　自己紹介　seの無主語文
2回　1課　リピーティング･ シャドウイング
3回　2課　カフェテリアで　趣味の話など　再帰動詞
4回　2課　リピーティング･ シャドウイング
5回　3課　花見　直説法現在完了
6回　3課　リピーティング･ シャドウイング
7回　4課　買い物　目的格人称代名詞
8回　4課　リピーティング･ シャドウイング
9回　5課　回転寿司　現在分詞
10回　5課　リピーティング･ シャドウイング
11回　6課　サッカー　直説法点過去･ 線過去･ 過去完了
12回　6課　リピーティング･ シャドウイング
13回　7課　電車にて　3人称複数の無主語文
14回　7課　リピーティング･ シャドウイング
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、日常の授業への取り組み　50%

スペイン語Ⅶ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリピートしていく、またスペイン語の速度に合わせシャドウイングを行う。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ･Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、会話テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭ放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード　/Keywords

スペイン語　スペイン語圏　中南米　ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor　辻　博子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　英中国済営比人律政２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。

スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要　/Course Description

1学期に引き続き教科書を使用しながら会話表現を更に発展させていきます。教科書を中心に会話表現を学んで行き、何度も音声を聞き暗記をし繰り返し声に出しましょう。習った会話表現を応用・発展させ、クラス内でスペイン語発表も行います。また時折、プリントや映像・音声などでネイティブの話すスペイン語理解を行います。

(到達目標)
【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、 聞き、話すことができる。

教科書　/Textbooks

『会話と通訳練習で学ぶ中級スペイン語』本間芳江、安富雄平、Enrique Almaraz Romo著、三修社、2020 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。
西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。
西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。
和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　8課　旅館で　直説法未来・過去未来
2回　8課　リピーティング・シャドウイング
3回　9課　明治神宮　受身表現
4回　9課　リピーティング・シャドウイング
5回　10課　バルで　gustar型構文
6回　10課　リピーティング・シャドウイング
7回　11課　オリンピック秘話　接続法現在
8回　11課　リピーティング・シャドウイング
9回　12課　新幹線 quizáを使った接続法、比較級
10回　12課　リピーティング・シャドウイング
11回　13課　銀座への行き方　命令文
12回　13課　リピーティング・シャドウイング
13回　14課　通訳依頼の電話　条件文
14回　14課　リピーティング・シャドウイング
15回　15課　浅草寺で　接続法過去・過去完了　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　50%、日常の授業への取り組み　50%

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、文のおおよその意味を推測してくる、最低3回は声に出して文を読んでくる。
事後学習：音声を何度も流しテキストを見ずにスペイン語をリピートしていく、またスペイン語の速度に合わせシャドウイングを行う。

履修上の注意　/Remarks

辞書必携です。
スペイン語初級（I・II・III･IV）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、テキストや実際の映像などをもとに、その会話使用例をどんどん覚えてもらいたいと考えています。授業の予習は大変ですが、目にする単語を引いて覚えること、イラストや映像の状況をもとにどんな会話がなされているか推測することも練習の一つです。また、出てきたフレーズを理解し、自分でも同じように発音することでスペイン語をより身につけることができるはずです。
また、オンラインで見られるスペインの映像・音声も随時参考にしてください。
http://www.rtve.es/　（スペイン国営放送　ＴＶＥ）
http://www.cadena100.es/　（スペインのＦＭ放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）
また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード　/Keywords

スペイン語　スペイン語圏　中南米　ラテンアメリカ

日本語I 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	1単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語Iでは、特に「大学生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の一カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための２５のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan　Times)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　大学生生(1)【自己紹介から始めよう】
3回　大学生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
4回　大学生活(3)【キャンパスツアー】
5回　大学生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
6回　大学生活(5)【図書館ツアー】
7回　大学生活(6)【大学生活のデザイン】
8回　大学生活(7)【講義の上手な受け方】
9回　大学生活(8)【演習に参加するコツ】
10回　大学生活(9)【大学の定期試験】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…　30　%
ポートフォリオ評価　…　70　%　(学習者評価30%/ピア評価20%/実習生評価20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード　/Keywords

生活日本語　大学生活日本語　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor	金　元正 / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション（書く）の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書　/Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』（由井紀久子他、凡人社）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』（簗晶子他、The Japan Times）
『外国人のためのケータイメール@にっぽん』（笠井淳子他、アスク）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
2回　アポイントをとる【PCメール】
3回　アドバイスを求める【PCメール】
4回　問い合わせる【PCメール】
5回　依頼する【PCメール】
6回　依頼される【PCメール】
7回　報告する【PCメール】
8回　謝る【PCメール】
9回　お礼を言う【携帯＆PCメール】
10回　誘う【携帯メール】
11回　誘われる【携帯メール】
12回　なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
13回　伝言する【メモ】
14回　募集する【チラシ】【掲示】
15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…70%　　小テスト…30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題をMoodleで提出すること。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生（文学部比較文化学科日本語教師養成課程）が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

プロフィシエンシー　　書く　　対人性　　場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor	小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体の感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書　/Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション
　【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
2回　【色模様のワーク】
3回　【オノマトペのワーク】
4回　【比喩のワーク】
5回　【花束のワーク】
6回　【コツのワーク】【共同詩のワーク】
7回　【励ます言葉のワーク】
8回　【マイセンテンス】
9回　【パターンを見つける】
10回　【パターンを交差させる】
11回　【自己PR文を作ろう】
12回　【資料を使って論じよう】
13回　【経験から論じよう】
14回　【感想文を書こう】
15回　評価【学びを振り返る】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み・・・30%　　発表・課題・・・30%　　自己評価…20%　　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払っていてください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。TAEを身につけることによって、感受性が豊かになるのと同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード　/Keywords

TAE　　身体の感じ　　日本語の私　　母語の私

日本語IV 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語IVでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語I同様、学期最後の一カ月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書　/Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
○『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
2回　話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
3回　自己紹介【オリジナリティ】
4回　食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
5回　失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
6回　失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
7回　情報探索【内容の深化・語彙力】
8回　質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
9回　責任を持って自慢する(1) 【責任を伴った発信力】
10回　責任を持って自慢する(2) 【学びと社会とのつながり】
11回　チュートリアル(1)【学習計画】
12回　チュートリアル(2)【振り返り】
13回　チュートリアル(3)【修正】
14回　チュートリアル(4)【評価】
15回　総括【一年間を振り返る

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み　…30%
ポートフォリオ評価　…70%(自己評価　30%　ピア評価　20%　実習生評価　20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語IVと日本語V、日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード　/Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語V 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。

教科書　/Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく　日本語ロジカルトレーニング　中級』(西隈俊哉、アルク)　￥2,400
『スタディスキルズ・トレーニング　改訂版　- 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)　￥1,200

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回「スタディスキル11」アクティブラーニングをやってみよう　「ロジカルトレーニング」発想力①
３回「スタディスキル12」テーマからトピックを取り出そう　「ロジカルトレーニング」発想力②
４回「スタディスキル14」インターネットで情報を探そう　「ロジカルトレーニング」読解力①
５回「スタディスキル15」本を手にして読んでみよう　「ロジカルトレーニング」読解力②
６回「スタディスキル16」図解で考えよう　「ロジカルトレーニング」読解力③
７回「スタディスキル17」表・グラフを使って考えよう　「ロジカルトレーニング」読解力④
８回「スタディスキル18」議論の方法を知ろう　「ロジカルトレーニング」読解力⑤
９回「スタディスキル19」レポートの文章の特徴を知ろう　「ロジカルトレーニング」読解力⑥
10回「スタディスキル20」レジュメを作成してみよう　「ロジカルトレーニング」表現力①
11回「スタディスキル21」レポートの基本を知ろう　「ロジカルトレーニング」表現力②
12回「スタディスキル23」発表の資料を作ろう (テーマ決め・準備)　「ロジカルトレーニング」表現力③
13回「スタディスキル24」発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表)
14回「スタディスキル24」発表をやってみよう (パソコンを使ったプレゼン・発表と自己評価)
15回「スタディスキル25」1年間の学びをふりかえろう (総括)

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…40%　　日常の授業への取り組み (発表・課題を含む) …60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておいてください。事後学習としては、授業や課題を通して何をどこまで身につけることができたか、何がまだ足りていないかを振り返り、どうしたら目標を達成できるか、などについて考えるようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する場合がある。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード　/Keywords

論理的思考　大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・リーディング　スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor	金　元正 / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　自己PR(1)【自分を伝える】
3回　自己PR(2)【情報を整理する】
4回　自己PR(3)【スピーチの準備をする】
5回　自己PR(4)【スピーチをする】
6回　自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
7回　ブック・トーク(1)【情報を探す】
8回　ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
9回　ブック・トーク(3)【詳しいブック・トークをもとにアウトラインを書く】
10回　ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
11回　ブック・トーク(5)【発表する】
12回　ブック・レポート(1)【情報を引用しながらブック・レポートを書く】
13回　ブック・レポート(2)【内容を検討する】
14回　ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
15回　【全体を振りかえる】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み (発表や課題を含む) …60%
ポートフォリオ評価…40% (自己評価 20%、ピア評価 20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意　/Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)　ピア・ラーニング　相互リソース化　批判的思考の獲得　社会的関係の構築

日本語VII 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語（ライフ・ジャパニーズ）」「大学生活日本語（キャンパス・ジャパニーズ）」「大学日本語（アカデミック・ジャパニーズ）」の育成を行う。
日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学で必要なクリティカル・リーディング（批判的な読み）ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『読む力（中上級）』（奥田純子監修、竹田悦子他編著　くろしお出版）￥1,900

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』（舘岡洋子、東海大学出版会）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
2回　私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
3回　価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
4回　言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
5回　経済学とは何か【分野の概要】
6回　思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
7回　住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
8回　決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
9回　メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
10回　改定　介護概論【目次から読む】
11回　ことばの構造、文化の構造【入門書】
12回　観光で行きたい国はどこ
13回　化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
14回　クリティカル・リーディングを磨こう
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…40%　授業への取り組み（ 課題を含む ）…60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進めます。事後学習として、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなってください。

履修上の注意　/Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいてください。

キーワード　/Keywords

「クリティカル・リーディング」「批判的読み」「メタ・コンテンツ」「全体把握」「言語タスク」「認知タスク」

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	2年次
単位 /Credits	1単位
学期 /Semester	2学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	留学生２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。
日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけではなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア（仲間）活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書　/Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』（大島弥生他、ひつじ書房）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『レポートの組み立て方』（木下是雄、筑摩書房）
○『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
2回　レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
3回　レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
4回　情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
5回　目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
6回　アウトラインを作る【序論・本論・結論】
7回　パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
8回　パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
9回　文章を点検する【校正/表現の点検】
10回　文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
11回　レポートの完成【体裁】
12回　発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
13回　発表する【話し手/聴き手/司会】
14回　発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
15回　学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み…40%　　レポート・発表…40%　　ピア評価…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。
日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えていてほしい。

キーワード　/Keywords

論証型レポート　ピア・ラーニング　論理的思考

日本事情（人文）A 【昼】

担当者名 /Instructor	清水　順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス　非常勤講師										
履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	留学生１年		

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。
授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書　/Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
○『「お茶」の学びと人間教育』(梶田叡一、淡交社)
○『表千家茶道十二か月』(千宗左、日本放送出版協会)
○『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
○『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
2回　茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
3回　茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
4回　茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
5回　茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
6回　歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
7回　歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
8回　歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
9回　歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
10回　歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
11回　歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
12回　歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
13回　伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
14回　伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート…40%　　ポートフォリオ評価60%(自己評価…20%　ピア評価…20%　教師評価…20%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード　/Keywords

茶道　歌舞伎　日本文化　自文化　異文化　伝統文化　現代生活　サブカルチャー　文化の伝承

日本事情（人文）B 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、3つの読み物を題材とする。これらの題材をクラス内で議論しながら、最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情ー異文化を超えるー』明石書店

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　「境目」を読む
３回　「境目」について話し合う
４回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
５回　「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
６回　「ことばと文化を結ぶために」を読む
７回　「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
８回　文化観を比較する
９回　その他の読み物を読む
10回　レポートの作成（１）「私にとって文化とは何か」
11回　ピア・リーディング　クラスメートのレポートを読んでコメントする
12回　レポートの作成（２）修正する
13回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
14回　完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%　　日常の授業への取り組み（発表や課題を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進めます。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておいてください。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めていくようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

文化　比較　交換

日本事情（社会）A 【昼】

担当者名 /Instructor　則松　智子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

「日本事情（社会）」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。
「日本事情（社会）A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、「多様性」「多文化共生とは何か」「多文化共生社会に向けて何をすればいいのか」について考えていく。テキストのトピックやテーマについて主体的に考え、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

教科書　/Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『多文化社会で多様性を考えるワークブック』（有田佳代子他編著、研究社）
○『異文化理解入門』（原沢伊都夫、研究社）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業オリエンテーション
2回　「異なりを考える」【異文化間ソーシャルスキル】
3回　「異なりを考える」【寛容性】
4回　「異なりを考える」【アサーション・トレーニング】
5回　「異なりを考える」【「日本人」・「外国人」】
6回　「差別とその感情を考える」【マイクロ・アグレッション】
7回　「差別とその感情を考える」【マイノリティとマジョリティ】【ユニバーサルデザイン】
8回　「差別とその感情を考える」【自分の家の近くはだめ？】
10回　「差別とその感情を考える」【ステレオタイプ】
11回　「言語間の平等を考える」【国境を超える子どもの言語獲得】【やさしい日本語】
12回　「多文化共生社会」について考える【私の考える「多文化共生」とは】
13回　「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実現のために】
14回　「多文化共生社会」について考える【「多文化共生」実践】
15回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

発表…50%　　授業への取り組み（課題や授業中の発表を含む）…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にトピックについての情報を調べ、自分の考えをまとめてきてください。事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ですが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められます。必ず初回のオリエンテーションには参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいてください。

キーワード　/Keywords

多文化共生　多文化社会　多様性

日本事情（社会）B 【昼】

担当者名 /Instructor　小林　浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　留学生１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。
ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋げられるように、クリティカル･リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岡益巳･ 深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
○坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
○葛文綺『中国人留学生･ 研修生の異文化適応』溪水社
　吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
○榎本博明 (2002)『＜ほんとうの自分＞のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
○高松里 (2015)『ライフストーリー･レビュー入門』創元社

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業オリエンテーション
第２回　「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル･リーディングの復習
第３回　クリティカル･リーディングの実践：研究論文を読む
第４回　留学生や元留学生にまつわる言説 (１) 日本社会の中の外国人という視点から
第５回　言説の考察 (１)
第６回　留学生や元留学生にまつわる言説 (２) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
第７回　言説の考察 (２)
第８回　自己物語とアイデンティティ
第９回　自己物語を書こう (１) 自己物語の実際
第１０回　自己物語を書こう (２) 自己物語の書き方
第１１回　自己物語を読もう (１) 論理実証モードと物語モード
第１２回　自己物語を読もう (２) 共感から共鳴へ
第１３回　自己物語を語り直そう
第１４回　留学生のキャリア発達
第１５回　「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度…30%　　課題…30%　　レポート40%

事前･ 事後学習の内容　/Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意　/Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋げます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

日本事情（社会）B 【昼】

キーワード　/Keywords
言説　　留学生のキャリア発達　　自己物語

法哲学 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法哲学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法哲学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法哲学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学	LAW310M

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

（到達目標）
【知識】法哲学に関する知識を体系的に身につけている。
【技能】法哲学の理解に必要となる情報を収集・分析・整理することができる。
【思考・判断・表現力】法哲学の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で適宜言及したいと考えている。入手可能であれば、参考書として理解に役立つと思われる。

酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）
○深田三徳, 濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）
○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
○平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣、2002年）
○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）
○大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院、1990年）
田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）
○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣、1997年）
○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
○レイモンド・ワックス『法哲学』（岩波書店、2011年）

法哲学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　法哲学とは　～　概要説明
第２回　法と道徳①　ラートブルフの法律を越える法
第３回　法と道徳②　ハート・フラー論争
第４回　法と道徳③　悪法論　～　ドイツの戦後処理をめぐって
第５回　法と道徳④　ハート・デブリン論争　～　法による道徳の強制
第６回　法と道徳⑤　理論史１　～　カント
第７回　法と道徳⑥　理論史２　～　ラートブルフ
第８回　法と強制①　～　ケルゼンの純粋法学
第９回　法と強制②　～　法と合意形成
第10回　法・社会・国家①　～　エールリッヒ・ケルゼン論争
第11回　法・社会・国家②　～　M・ヴェーバーと形式法の実質化
第12回　法・社会・国家③　～　ハーバーマスと法化
第13回　法と生命　～　安楽死・尊厳死
第14回　法と正義
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80%　　講義中に課す感想文…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

「法思想史」を受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGｓの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

法と道徳　法と強制　ケルゼン　ハート

情報公開・個人情報保護法 【昼】

担当者名 /Instructor　岡本　博志 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	情報公開・個人情報保護法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える情報公開・個人情報保護法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

情報公開・個人情報保護法	LAW322M

授業の概要　/Course Description

情報公開・個人情報保護の法制度は、国の法律と各地方公共団体の条例とにより構成されている。情報公開制度は、国民・住民が国・地方レベルで政治に参画するための手段である。また情報化社会の進展により情報の有用性が高まる中で、個人情報の保護を図ることが重要となっている。情報公開及び個人情報保護の仕組みはどのようになっているのか、それらは現実にどのように運用されているのか、具体的にどのような法律解釈上の問題が生じているのかということについて、概要を把握することが授業の狙いである。
授業では、情報公開制度及び個人情報保護制度について、基本的知識を体系的に理解すること、問題点の発見・分析と解決方法についての基礎的能力を養い、社会における問題について法的観点からの関心を高めることを目標とする。

教科書　/Textbooks

宇賀克也　『新・情報公開法逐条解説[第８版]』（有斐閣、2018年）
同　　『個人情報保護法の逐条解説[第６版]』（有斐閣、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

小早川光郎編著『情報公開法』（有斐閣、1999年）
園部逸夫編集『個人情報保護法の解説≪改訂版≫』（ぎょうせい、2005年）
行政情報システム研究所編『行政機関等個人情報保護法の解説（増補版）』（ぎょうせい、2005年）

情報公開・個人情報保護法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　情報公開の意義　　情報公開とは何か
第 2回　情報公開制度の憲法上の基礎
　　知る権利、国民主権、説明責任
第 3回　情報公開法・情報公開条例の仕組み（ 1 ）
　　情報・行政文書の意義
第 4回　情報公開法・情報公開条例の仕組み（ 2 ）
　　個人情報の不開示とプライバシー保護
第 5回　情報公開法・情報公開条例の仕組み（ 3 ）
　　法人等情報及び意思形成過程情報の不開示
第 6回　情報公開法・情報公開条例の仕組み（ 4 ）
　　事務事業情報、安全・公安情報、外交等情報の不開示
第 7回　情報公開法・情報公開条例の仕組み（ 5 ）
　　部分開示、応答拒否、裁量的開示
第 8回　情報公開法・情報公開条例の仕組み（ 6 ）
　　開示手続、不服申立て、審査会による審査等
第 9回　個人情報保護の意義
　　個人情報保護とは何か
第10回　個人情報保護制度の憲法上の基礎
　　個人の尊厳とプライバシー
第11回　個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（ 1 ）
　　個人情報、個人データ、個人情報取扱事業者
第12回　個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（ 2 ）
　　個人情報の収集、管理、利用
第13回　個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（ 3 ）
　　開示請求、非開示情報、訂正等請求
第14回　個人情報保護法・個人情報保護条例の仕組み（ 4 ）
　　不服申立て、審査会による審査
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験　８０％　　レポート（課題）　２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配付した資料等に十分目を通しておくこと。
指示した点については事後に確認すること。

履修上の注意　/Remarks

資料を配布するので、事前に読んでおくこと。
憲法学、行政法学について履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

刑法犯罪各論I 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論Ⅰ	LAW230M

授業の概要　/Course Description

刑法各論では、殺人罪や窃盗罪など各犯罪類型の基本的性格と処罰の射程について学習します。「刑法総論」で学んだ刑法典「第一編総則」の理解を前提に、ここでは刑法典「第二編各則」の各条文を丁寧に分解した上で、それぞれの要件の規範的意義を明らかにすることが課題となります。つまり、犯罪の一般的な成立要件との関係でいえば、構成要件該当性の判断が中心となります。本講義では、基本的な判例と各犯罪類型の解釈・適用の方法を学ぶことによって、具体的な犯罪の成否について論理的に結論を導けるようになることを目指します。
そのとき解釈の指針となるのは、各刑罰規定が保護しようとしている法益（保護法益）です。刑法各論Iでは、個人的法益に対する罪のうちの人身に対する罪と自由に対する罪、そして国家的法益に対する罪を取り上げます。

（到達目標）
【知識】刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。
【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎 的な技法を習得している。
【思考・判断・表現力】刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書　/Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねます。
参考までに、大塚裕史＝十河太朗＝塩谷毅＝豊田兼彦『基本刑法II各論〔第2版〕』（日本評論社、2018年）を推奨します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１．判例を学習するための判例集
○十河太朗＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱『刑法各論判例50！』（有斐閣、2017年）
２．学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・各論〔第2版〕』（有斐閣、2020年）
○山口厚『刑法各論〔第2版〕』（有斐閣、2010年3月）
３．事例の解法を学習するための参考書
○島伸一編『たのしい刑法II　各論〔第2版〕』（弘文堂、2017年）

刑法犯罪各論I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　刑法各論の体系、刑法における生命の保護
第2回　生命に対する罪（１）【殺人罪、堕胎罪】
第3回　生命に対する罪（２）【自殺関与罪、同意殺人罪】
第4回　生命に対する罪（３）【遺棄罪（遺棄概念と遺棄罪の類型）】
第5回　身体に対する罪（１）【暴行罪と傷害罪（暴行行為の性質、傷害概念）、傷害致死罪】
第6回　身体に対する罪（２）【同時傷害の特例、過失致死傷罪、危険運転致死傷罪】
第7回　自由に対する罪（１）【脅迫罪・強要罪、逮捕監禁罪、略取・誘拐罪】
第8回　自由に対する罪（２）【強制わいせつ罪、強制性交等罪】
第9回　私生活の平穏に対する罪【住居侵入罪、秘密侵害罪】
第10回　名誉・信用に対する罪（１）【秘密侵害罪、名誉毀損罪①（名誉毀損罪の基本構造）】
第11回　名誉・信用に対する罪（２）【名誉毀損罪②（真実性の証明とその誤信）、侮辱罪】
第12回　名誉・信用に対する罪（３）【信用毀損罪、業務妨害罪】
第13回　国家の作用に対する罪（１）【賄賂罪】
第14回　国家の作用に対する罪（２）【公務執行妨害罪】
第15回　国家の作用に対する罪（３）【犯人蔵匿罪、逃走罪、偽証罪】
※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間考査（10％）、期末試験（90％）。
各試験の形式については、講義の際に別途説明します。
なお、新型コロナウィルス感染症の拡大状況と教室の利用状況によって、期末試験のみでの評価に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）配布用の資料をMoodleにアップします。①まずは、取り上げられている事例を自分で図示して下さい。②その上で、空欄となっている重要用語や定義などを教科書で確認し、自分で書き込んでみることを推奨します。
（事後学習）各項目の成立要件を一覧にし、実際にその要件を一つ一つ事例にあてはめる練習をして下さい。その際には、事例に含まれた争点についても教科書で問題の所在と各学説の論拠および批判の内容を再度確認して下さい。

履修上の注意　/Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。成文法主義を採る日本において、法解釈の出発点は条文であり、それは刑法総論にも増して刑法各論に妥当します。具体的事例に即して、個々の犯罪の成否を自ら判断できるように訓練することを主眼とするので、ノート作成の創意工夫をはじめ受講者の主体的な取り組みが求められます。授業内外での質問も歓迎します。
なお、事例を解決するためには、当然に刑法総論の理解が前提とされるため、講義科目「刑法総論」の復習にも並行して取り組むことが期待されます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

刑法各論では、多様な事実の中から行為を選び出し、何罪の構成要件該当性が認められるかを判断する法解釈の実践的な方法を体験することになります。今後あらゆる法分野の問題に応用可能な法解釈の基本的な「型」を、ぜひここでしっかり体得して下さい。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　刑法各論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 /Instructor　土井　和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論Ⅱ	LAW330M

授業の概要　/Course Description

刑法各論では、殺人罪や窃盗罪など各犯罪類型の基本的性格と処罰の射程について学習します。刑法総論で学んだ刑法典「第一編総則」の理解を前提に、ここでは刑法典「第二編各則」の各条文を丁寧に分解した上で、それぞれの要件の規範的意義を明らかにすることが課題となります。つまり、犯罪の一般的な成立要件との関係でいうと、構成要件該当性の判断が中心となります。本講義では、基本的な判例と各犯罪類型の解釈・適用の方法を学ぶことによって、具体的な犯罪の成否について論理的に結論を導けるようになることを目指します。
そのとき解釈の指針となるのは、各刑罰規定が保護しようとしている法益（保護法益）です。刑法各論IIでは、刑法各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうちの財産犯、そして社会的法益に対する罪を取り上げます。

（到達目標）
【知識】刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。
【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
【思考・判断・表現力】刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書　/Textbooks

教科書は、受講者の選択に委ねます。
参考までに、大塚裕史＝十河太朗＝塩谷毅＝豊田兼彦『基本刑法II各論〔第2版〕』（日本評論社、2018年）を推奨します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１．判例を学習するための判例集
○十河太朗＝豊田兼彦＝松尾誠紀＝森永真綱『刑法各論判例50！』（有斐閣、2017年）
２．学説を理解するための基本書
○井田良『講義刑法学・各論〔第2版〕』（有斐閣、2020年）
○山口厚『刑法各論〔第2版〕』（有斐閣、2010年3月）
３．事例の解法を学習するための参考書
○島伸一編『たのしい刑法II　各論〔第2版〕』（弘文堂、2017年）

刑法犯罪各論II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　財産犯の体系
第2回　窃盗罪（１）【窃盗罪の基本構造、占有と窃取の概念】
第3回　窃盗罪（２）【財産犯の保護法益】
第4回　窃盗罪（３）【不法領得の意思、不動産侵奪罪、親族相盗例】
第5回　強盗罪（１）【強盗罪の基本構造】
第6回　強盗罪（２）【事後強盗罪、強盗致傷罪】
第7回　恐喝罪・詐欺罪（１）【詐欺罪の基本構造、財産的損害の有無】
第8回　詐欺罪（２）【訴訟詐欺、クレジットカード詐欺、電子計算機使用詐欺】
第9回　横領罪・背任罪
第10回　盗品等関与罪・毀棄隠匿罪
第11回　公共危険罪（１）【放火罪と失火罪（「公共の危険」と焼損の概念）】
第12回　公共危険罪（２）【放火罪と失火罪（現住建造物と非現住建造物の区別）】
第13回　公共の信用に対する罪（１）【文書偽造罪（文書の概念、偽造の概念）】
第14回　公共の信用に対する罪（２）【通貨偽造罪、有価証券偽造罪】
第15回　風俗に対する罪【わいせつ罪、賭博罪】
※履修者の理解度その他の理由により、講義の順序等は変更することがあります。

成績評価の方法　/Assessment Method

中間考査（10％）、期末試験（90％）。
各試験の形式については、講義の際に別途説明します。
なお、新型コロナウィルス感染症の拡大状況と教室の利用状況によって、期末試験のみでの評価に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）配布用の資料をMoodleにアップします。①まずは、取り上げられている事例を自分で図示して下さい。②その上で、空欄となっている重要用語や定義などを教科書で確認し、自分で書き込んでみることを推奨します。
（事後学習）各項目の成立要件を一覧にし、実際にその要件を一つ一つ事例にあてはめる練習をして下さい。その際には、事例に含まれた争点についても教科書で問題の所在と各学説の論拠および批判の内容を再度確認して下さい。

履修上の注意　/Remarks

毎回、「最新の」六法を必ず持参して下さい。成文法主義を採る日本において、法解釈の出発点は条文であり、それは刑法総論にも増して刑法各論に妥当します。具体的事例に即して、個々の犯罪の成否を自ら判断できるように訓練することを主眼とするので、ノート作成の創意工夫をはじめ受講者の主体的な取り組みが求められます。授業内外での質問も大歓迎です。
なお、事例を解決するためには、当然に刑法総論の理解が前提とされるため、講義科目「刑法総論」の復習にも並行して取り組むことが期待されます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

刑法各論では、多様な事実の中から行為を選び出し、何罪の構成要件該当性が認められるかを判断する法解釈の実践的な方法を体験することになります。今後あらゆる法分野の問題に応用可能な法解釈の基本的な「型」を、ぜひここでしっかり体得して下さい。

キーワード　/Keywords

刑事法　刑法　刑法各論　財産犯

刑事司法政策I 【昼】

担当者名 /Instructor　藤田　尚 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策Ⅰ	LAW332M

授業の概要　/Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。本講義では、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明し、刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

(到達目標)
【知識】刑事司法政策に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
【技能】刑事司法政策の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
【思考・判断・表現力】刑事司法政策の課題について、法的思考に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

なし。
レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○川出敏裕＝金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（２０１８年）。
○藤本哲也『刑事政策概論（第７版）』青林書院（２０１５年）。
○藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（２０１１年）。
○守山正＝安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第３版）』成文堂（２０１７年）。
○大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（２００９年）。
○法務省法務総合研究所編『令和２年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（２０２０年）。
○国家公安委員会・警察庁『令和２年版 警察白書』日経印刷株式会社（２０２０年）。

刑事司法政策I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　ガイダンス（授業の進め方と刑事政策の学び方について）
第２回　　刑事政策とは何か
第３回　　犯罪統計と暗数
第４回　　刑罰制度の概要
第５回　　死刑
第６回　　自由刑
第７回　　財産刑
第８回　　猶予制度
第９回　　保安処分
第１０回　保護処分
第１１回　犯罪者処遇の概要
第１２回　施設内処遇①受刑者の矯正処遇
第１３回　施設内処遇②受刑者の法的地位
第１４回　施設内処遇③受刑者処遇の近年の動向
第１５回　中間処遇制度

＊講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト３０％、定期試験７０％の総合評価とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】レジュメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16：平和と公平をすべての人に」及び「3：すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。
犯罪者がどのような刑を受け、どのようにして社会復帰を果たすのかについて学びましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法、刑事政策

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 /Instructor　藤田　尚 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策Ⅱ	LAW333M

授業の概要　/Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。刑事司法政策Iでは、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明するが、本講義である刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

(到達目標)
【知識】刑事司法政策に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
【技能】刑事司法政策の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。
【思考・判断・表現力】刑事司法政策の課題について、法的思考に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

教科書は使用せず、レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○川出敏裕＝金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（２０１８年）。
○藤本哲也『刑事政策概論（第７版）』青林書院（２０１５年）。
○藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（２０１１年）。
○守山正＝安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第３版）』成文堂（２０１７年）。
○大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（２００９年）。
○法務省法務総合研究所編『令和２年版 犯罪白書』昭和情報プロセス株式会社（２０２０年）。
○国家公安委員会・警察庁『令和２年版 警察白書』日経印刷株式会社（２０２０年）。

刑事司法政策II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　ガイダンス（刑事司法制度の流れ）
第２回　　社会内処遇①社会内処遇制度の概要
第３回　　社会内処遇②更生保護制度
第４回　　社会内処遇③保護観察
第５回　　少年非行
第６回　　高齢者犯罪
第７回　　女性犯罪
第８回　　精神障害者の犯罪
第９回　　暴力団犯罪
第１０回　来日外国人犯罪
第１１回　薬物犯罪
第１２回　交通犯罪
第１３回　常習犯罪
第１４回　ファミリー・バイオレンス
第１５回　犯罪被害者に対する施策

＊講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト３０％、定期試験７０％の総合評価とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】レジュメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16：平和と公平をすべての人に」及び「3：すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

刑事司法政策IとIIは、内容が繋がっているため、併せて受講することが望ましいです。
また、理解を深めるためには、刑法と刑事訴訟法を受講しておくことをお勧めします。

キーワード　/Keywords

刑事法、刑事政策

犯罪学 【昼】

担当者名 /Instructor　藤田　尚 / 法律学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	犯罪学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪学上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

犯罪学	LAW232M

授業の概要　/Course Description

犯罪学とは、「なぜ人は犯罪を犯すのか」という犯罪原因を究明し、対策を立てる学問である。広義の犯罪学は、上述の犯罪原因論と犯罪対策論の両方を意味するが、本講義では、狭義の犯罪学である犯罪原因論を取り上げることとする。犯罪学の歴史は長く、近代犯罪学の始まりは19世紀前半といわれている。いつの時代も人間の異常行動をいかに理論付けて説明するかが問題であり、今現在も人間行動を完全に説明できる理論は存在していない。したがって、本講義では、「なぜ人は犯罪を犯すのか」ということを研究してきた古典的な理論から、「なぜその人は犯罪を止めたのか」というような視点が変化した最新の理論を取り上げつつ、犯罪を多角的な視点から分析することによって、論理的思考を身に付け、自己の見解を論じられるようにすることを目標とする。

（到達目標）
【知識】犯罪学に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。
【技能】犯罪学理論の理解に必要な情報を収集・分析することができる。
【思考・判断・表現力】犯罪学の課題について、犯罪学理論に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

なし。
レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（２００３年）。
○藤本哲也『刑事政策概論（第７版）』青林書院（２０１５年）。
○守山正＝小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学（第２版）』成文堂（２０２０年）。
○瀬川晃『犯罪学』成文堂（１９９８年）。

犯罪学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　ガイダンス（授業の進め方及び犯罪学の学び方について）
第２回　　犯罪学とは何か
第３回　　犯罪学の歴史①（古典的犯罪学）
第４回　　犯罪学の歴史②（近代の犯罪学）
第５回　　社会解体理論
第６回　　文化伝播理論
第７回　　異質的接触理論
第８回　　異質的同一化理論
第９回　　文化葛藤理論
第１０回　下層階級文化理論
第１１回　アノミー理論
第１２回　非行副次文化理論
第１３回　異質的機会理論
第１４回　非行漂流理論・非行中和技術理論・潜在的価値理論
第１５回　自己観念論・牽制理論
第１６回　ラベリング理論
第１７回　新犯罪学理論
第１８回　批判的犯罪学理論
第１９回　急進的犯罪学理論
第２０回　社会的紐帯理論
第２１回　合理的選択理論
第２２回　修復的司法
第２３回　被害者学理論
第２４回　環境犯罪学
第２５回　状況的犯罪予防論
第２６回　防犯環境設計論
第２７回　日常活動理論
第２８回　ライフコース理論
第２９回　デジスタンス理論
第３０回　まとめ

＊講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト３０％、定期試験７０％の総合評価とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】レジュメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、犯罪の原因は何かを考え、犯罪をなくすためにはどうすべきかを考える政策への懸け橋になることから、SDGsの「16：平和と公平をすべての人に」の目標に関連しています。

犯罪心理学とは異なり、理論を中心に扱うため、少々、難しい印象を受けると思いますが、なぜ犯罪を犯すのかを自分なりに考えてみましょう。

キーワード　/Keywords

刑事法、犯罪学

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor　柴田　滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法における現代的問題の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法の現代的展開	LAW343M

授業の概要　/Course Description

労働法、社会保障法、衛生法、経済法などの部門で構成される社会法は、福祉国家に必須の法分野として戦後に拡充整備されてきたものですが、２０世紀末葉以降の経済社会的背景の変貌に伴って新たな課題を抱え、大きな転換期にあります。社会法の現代的展開を題材とするこの授業では、以下の内容と到達目標に基づいて講義を行います。

《講義内容の概要》

第1部「社会法の歴史と現代社会法の概要」では、社会法の歴史と現代社会法の具体的規律内容について学習します。

第2部「社会法の基本法理」では、人間本性の自由と社会法の理念との関係、市民法ないし資本主義秩序と社会法の目的との関係、社会統合ないし国家統治と社会法の性格との関係といった、多面的な観点から社会法の存在意義と基本法理についての総論的な学習を行います。

第3部「社会法思想の現代的展開」では、戦後社会の変化に伴って展開している、社会法の理念・現実的目的・方法に関する各種の社会法思想について学習します。

第4部「社会法改革の現代的展開」では、経済社会的背景の変貌に対応して進められている実定社会法の改革動向について、その課題と基調を学習します。

《到達目標》

【知識】社会法の現代的問題に関する知識を体系的に身に つけている
【技能】社会法を解釈・適用するための基礎的な技法を身に つけている
【思考・判断】社会法に関する現代的課題を発見し、法的思考に 基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

柴田滋著「社会法総論–社会法の基本法理とその現代的展開」大学教育出版　.ISBN978-4-86429-346-4.　2800円
および、パワーポイント資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

ジョン・ロック著「市民政府論」、フリードリヒ・ハイエク著「隷属への道」、我妻栄「新憲法と基本的人権」『民法研究Ⅷ憲法と私法』、その他は講義において案内します。

社会法の現代的展開 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業は、各回ごとに、各1章の内容について講義を行い、適宜質疑と討議を行います。
【第1部】社会法の歴史と現代社会法の概要
第1章　社会法の生成
第2章　福祉国家における社会法の体系的発展
第3章　経済社会的背景の変容と社会権の現況
第4章　現代労働法の概要
第5章　現代社会保障法の概要
【第2部】社会法の基本法理
第6章　法の原理と社会法の原理論的定義
第7章　人間本姓の自由と社会法の理念
第8章　社会法の現実的前提としての資本主義
第9章　市民法と社会法の現実的目的
【第3部】社会法思想の現代的展開
第10章　市民法に関する諸見解
第11章　社会法思想の現代的展開
【第4部】社会法改革の現代的展開
第12章　市場原理主義の浸透と社会法の基調転換
第13章　近年の労働法改革の動向と展望
第14章　社会保障法の改革動向と展望
第15章　配分および再配分の現況と課題

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み（比重30％）、および定期試験（比重70％）によって評価します。
定期試験は記述式試験（すべて持込み可）で行います。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキストの内容を補足し解説するパワーポイント資料を配布するので、これらの教材を活用して、講義内容の全体的関連を理解するように心がけて、予習復習をしてください。予習・復習に必要な学習時間の目安は、予習60 分、復習60 分です。

履修上の注意　/Remarks

社会法は多岐の部門にわたります。その現代的展開を題材とするこの科目では、社会法総論、労働法、所得保障法、社会サービス法など、社会法に属する他の科目の一つでも履修しているとわかりやすいと思います。
ただし、この講義では、それらの科目を履修していなくても問題なく履修できるように、第1部で社会法の概要を講義することとしています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義の内容は、公法と私法にまたがる内容や法理念論から実定法論にわたる内容を含み、また、経済社会政策と実定社会法改革との関連などを含んでんでいますので、やや難易度の高い講義になります。しかし、第1回から第15回目まで、系統的に内容を展開していますので、各回の要点を把握して系統的な内容の関連を把握するようにすれば、わかりやすいと思います。

キーワード　/Keywords

非正規雇用、格差と貧困、人間本性の自由とJ.ロックの「労働所有論」、A.メンガーの「全労働収益権・生存権」、労務賃貸借（locatio conductio operarum）、自由至上主義と相対主義の社会法論、個人の尊厳と自立支援、市場原理主義的構造改革

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor　鬼塚　知 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法	LAW342M

授業の概要　/Course Description

いわゆる環境法の考え方を学び、法解釈における思考力を鍛えることを目標とする。
受講生の数をふまえ、いわゆるソクラテスメソッドも採用しながら、知識の定着・応用を図っていく。

【到達目標】
〔知識〕環境法に関する知識を体系的に身につけている。
〔技能〕環境に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
〔思考・判断・表現力〕環境法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書　/Textbooks

各回にて講師作成のレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講師が必要に応じ、紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス
第２回　環境法とは　その１
第３回　環境法とは　その２
第４回　環境法とは　その３
第５回　環境基本法
第６回　循環基本法・環境影響評価法
第７回　水質汚濁防止法
第８回　大気汚染防止法
第９回　土壌汚染対策法
第１０回　廃棄物処理法　その１
第１１回　廃棄物処理法　その２
第１２回　容器包装リサイクル法
第１３回　自然公園法
第１４回　地球温暖化対策法
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に対する取り組み姿勢　・・・・　３０％
定期試験　・・・・　７０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

特になし。
ただ、事前学習よりも、事後学習（復習）をすることを推奨する。

環境法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

行政法・民法等と密接に関係する分野であり、これらの知識をある程度保有していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

行政法・民法等の理解を深めたいと考えている受講生にも役立つ授業にしたいと考えている。

キーワード　/Keywords

現代国際関係法 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　集中
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際関係法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代国際関係法	LAW351M

授業の概要 /Course Description

この授業は，夏休みの集中講義期間に行われます。
難民問題を題材に具体的事例の検討を進めながら，問題となる国際法上の論点を取り上げ，その学習を通じ，国際法の専門知識に関する基本的枠組みの習得を目指します。

到達目標は，
【知識】現代の国際関係法に関する知識を体系的に身につけている
【技能】現代の国際関係法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】現代の国際関係法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
となります。
具体的には、
□国際法の体系的理解に必要な基礎知識を獲得する，
□難民問題に関する課題を発見し，法的な分析と論理的な思考に基づき，その解決方法等の提示に至る，総合的な判断力を身につける，
□現代社会が抱える難民問題に対する自らの関心を高め，法と社会とのつながりを再確認することができる，とします。

This class will be offered in summer school session.
In this class, we will examine specific cases relating to refugee issues with be focused on international legal issues. You could learn the basic framework of international law.

The goal of this class is as follows:
□ To acquire the basic knowledge necessary for the systematic understanding of international law;
□ To develop your competence to judge comprehensively so that you can discover issues related to refugee issues and propose any solutions, based on legal analysis and logical thinking;
□ To raise your interest in refugee issues in modern society and reaffirm the link between law and society.

教科書 /Textbooks

ありません。
必要な資料は，適宜，配布します。

No textbooks. Related materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回授業時に，紹介します。

References will be introduced in the first class.

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

『イントロダクション』
Day 1
　第01回　コースガイダンス

『難民問題の現状を知る』
Day 1
　第02回　UNHCRのデータから，現在の難民の発生状況や受け入れ状況を学ぼう
　第03回　担当した，上位の出身国，受入国の現状を調べてみよう
Day 2
　第04回　プレゼンとディスカッション「現代の難民問題にはどのような特徴がみられるか」

『法的保護：日本の難民認定制度とその運用について考える』
Day 2
　第05回　日本の難民認定者数や難民受入率の現状を学ぼう
　第06回　担当した，諸外国の難民認定制度の状況を調べてみよう
Day 3
　第07回　プレゼンとディスカッション「日本のこれからの難民認定制度はどうあるべきか」

『物的保護：公平な負担と責任分担について考える』
Day 3
　第08回　UNHCR・WFP・UNICEFなどの人道援助活動の現状について学ぼう
　第09回　担当した，人道援助の実施上の課題について調べてみよう
Day 4
　第10回　プレゼンとディスカッション「活動継続資金の確保と難民問題への国際的な関心の維持」

『恒久的解決としての自発的帰還：難民を生み出す根本原因の解決について考える』
Day 4
　第11回　恒久的解決の3つの手法とともに，自発的帰還の現状について学ぼう
　第12回　担当した，自発的帰還の実施上の課題について調べよう
Day 5
　第13回　プレゼンとディスカッション「軍事的介入による難民を生み出す根本原因の解決」

『まとめ』
Day 5
　第14回　難民として日本で暮らす_人権と多文化共生社会
　第15回　まとめ

INTRODUCTION
Day 1
　Class 01　Orientation

STATUS-QUO OF REFUGEE ISSUES
Day 1
　Class 02　Learn about Refugee Situations in the World, REFWORLD
　Class 03　Examine top 10 countries, origin and host
Day 2
　Class 04　Presentation and Discussion, Some Aspects of Modern Refugee Issues

LEGAL PROTECTION: Refugee Recognition System and its Operation in Japan
Day 2
　Class 05　Learn about Current Numbers and Rates of Recognition of Refugee Status in Japan
　Class 06　Examine Status-quo of Refugee Recognition Systems in other Countries
Day 3
　Class 07　Presentation and Discussion, Desirable Japanese Refugee Recognition System

MATERIAL ASSISTANCE: Burden and Responsibility Sharing
Day 3
　Class 08　Learn about the Current Activities of Humanitarian Assistance, UNHCR, WFP, and UNICEF
　Class 09　Examine Issues in Implementing Humanitarian Assistance
Day 4
　Class 10　Presentation and Discussion, Ensuring Continuation Funds and Maintaining International Interest in Refugee Issues

VOLUNTARY REPATRIATION: Dissolution of the Root Causes of Refugees
Day 4

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

Class 11　Learn about 3 Options of Durable Solutions and Voluntary Repatriation
Class 12　Examine Issues in Implementing Voluntary Repatriation
Day 5
Class 13　Presentation and Discussion, Dissolving the root causes of refugees through military intervention

CONCLUSION
Day 5
Class 14　Living in Japan as a refugee _ Human Rights and Realization of Multicultural Society
Class 15　Wrap-up

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取組...50%（貢献...10%，プレゼン...20%，ディスカッション...20%）
レポート...50%

Participation in classes...50% (Contribution to classes...10%, Presentation...20%, Discussion...20%)
Essay...50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

4回のプレゼンが課されます。担当となった課題について，事前学習を進めてください。また4回のディスカッションが実施されます。事後学習として，授業内容の整理も含め，ディスカッションの振り返りを行ってください。

Four presentations will be given. Please prepare for the assigned task. There will be four discussions class. As a follow-up study, please review the contents of the class and the results of the discussion.

履修上の注意　/Remarks

授業は日本語で実施しますが，英語の資料を積極的に紹介し，受講生にはその活用を求める予定です。受講にあたっては，この点に注意してください。

Classes will be done in Japanese. However, you would be asked to learn by using English materials actively. Please keep this in mind when taking the course.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

予習・復習の時間として2コマ分の時間を確保しています。相応の作業を伴いますので，夏休み中の暑い時期で大変ですが，頑張ってください。

It is necessary to ensure 180 minutes for preparation and review. It will be hard work in the hot season during summer vacation. Please do your best.

キーワード　/Keywords

「難民 Refugee」「国境 Border」「領域 Territory」「難民条約 Convention Relating to the Status of Refugees・議定書 Protocol -」「カルタヘナ宣言 Cartagena Declaration on Refugees」「OAU難民条約 OAU Convention Governing the Specific Aspects of Refugee Problems in Africa」「UNHCR規程 Statute of the UNHCR」「法的保護 Legal Protection」「難民認定 Recognition of Refugee Status」「出入国管理 Immigration Control」「裁量 Discretion」「物的保護 Material Assistance」「負担と責任の分担 Burden and Responsibility Sharing」「人道援助アクセス Access to Humantarian Assistance」「one UN」「恒久的解決 Durable Solutions」「現地定住 Local Integration」「第3国定住 Resettlement」「自発的帰還 Voluntary Repatriation」「軍事介入 Military Intervention」「強制措置 Enforcement Measures」「保護する責任 Right to Protect」「多文化共生社会 Multicultural (simbiotic) Society」「社会統合 Social Integration」

親族法 【昼】

担当者名 /Instructor　小野　憲昭 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法	LAW264M

授業の概要　/Course Description

民法第四編親族が主な講義の内容です。民法第五編相続の概要も説明します。婚姻、離婚、親子、親権、後見、扶養、相続を規律の対象とする家族法（親族法･相続法）はとても身近な内容をもっています。それだけに、人はともすると、一般常識によって問題を解決できると思い込みがちです。民法は、長い間の人間の経験の積み重ね、歴史の所産ですから、われわれは現行制度の歴史的位置づけを学ばなければなりませんし、判例を通じて生きた法の姿を学ぶ努力を怠ってはなりません。
(到達目標)
【知識】民法学の親族法に関する知識を体系的に身につけている。
【技能】民法学の親族法に関する法令を解釈･ 適用するため の基礎的な技法を身につけている。
【思考･ 判断･ 表現力】民法学の親族法に関する課題を発見し、法的思考 に基づいた判断を行うことができる。

教科書　/Textbooks

松川正毅著 『民法　親族･相続[第６版]』有斐閣 ２０１９年　２，４００円＋税
水野紀子他編著『民法判例百選III親族･ 相続[第２版]』有斐閣　２０１８年　２、２００円＋税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○泉 久雄 『親族法』有斐閣　１９９７年　３，５００円
○泉久雄他編著『家族法基本判例３２選』信山社　２００５年　２，６２５円
○中川善之助＝泉久雄『相続法[第４版]』有斐閣　２０００年　６，０００円
○有地亨『新版家族法概論[補訂版]』 法律文化社　２００５年　３，８００円
○二宮周平『家族法〔第３版〕』新世社　２００９年　３，２００円
　窪田充見『家族法第４版』有斐閣　２０１９年　４，３００円

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

１回　家族法を学ぶための基礎知識【家族の機能】【家族法の独自性】【親族関係】
２回　婚姻制度①【婚姻制度史】【婚約】
３回　婚姻制度②【内縁】【婚姻の成立】
４回　婚姻制度③【婚姻の効果】
５回　離婚制度①【離婚制度史】【協議離婚】
６回　離婚制度②【裁判離婚】【裁判離婚】
７回　離婚制度③【離婚の一般的効果】【親権者決定】【面会交流】
８回　離婚制度④【離婚の財産的効果】【財産分与】
９回　親子制度①【実子】【嫡出推定】【認知】
１０回　親子制度②【養子】【普通養子】【特別養子】
１１回　親子制度③【親権】【身上監護】【子の引渡し】
１２回　親子制度④【親権】【財産管理】
１３回　親子制度⑤【親権】【親権濫用】【後見】
１４回　扶養制度【扶養義務】【生活保持】【生活扶助】
１５回　相続制度【相続人】【相続分】【相続財産】【遺言】

親族法 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

課題…４０％　　定期試験…６０％（状況によりレポート６０％に変更することもあります。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に教科書の該当部分、参考判例を読んでおいてください。事後は、講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意　/Remarks

「民法入門」を履修し、「民法総則」と併せて履修している場合は、本講義の内容の理解を一層深めることができます。
講義には必ず六法を持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「親族法」を基礎に家族の財産関係を規律する法である「相続法」も履修するよう心掛けてください。

キーワード　/Keywords

親族、婚姻、婚約、内縁、協議離婚、裁判離婚、実子、養子、親権、後見、扶養、相続人、相続分、遺産分割、遺言、遺留分

相続法 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	相続法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	相続法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、相続法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相続法	LAW265M

授業の概要　/Course Description

民法典第五編相続編について学習する。相続分野については、２０１８（平成３０）年７月に大きな改正が行われた。施行日は、制度ごとに若干、異なっていたが、現在ではすべて施行済みである。相続分野の改正としては、約４０年ぶりの大きな改正であり、新しい制度も定められている。この講義では、改正内容に留意しながら、ほとんどすべての者が関わるであろう相続というものの理解を深めることを目指す。

到達目標
【知識】民法学の相続法に関する知識を体系的に身につけている
【技能】民法学の相続法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】民法学の相続法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、ない。
しかし、学習上、有意義な書籍については、開講時に紹介する。初回の説明をよく聞くこと。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

高橋朋子他『有斐閣アルマ　民法７　親族・相続　第６版』、有斐閣、２０２０年３月、本体価２，４００円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス、民法典全体の内容確認と相続法の位置づけ
第２回　相続の根拠、相続人の種類
第３回　内縁の配偶者、代襲相続、相続の順位
第４回　相続分、相続欠格、推定相続人の廃除
第５回　相続財産の範囲
第６回　相続と無権代理、相続と登記
第７回　遺産共有、相続分の取戻し
第８回　遺産分割、特別受益
第９回　単純承認、限定承認、相続の放棄、財産分離
第１０回　相続人の不存在、特別縁故者
第１１回　遺言（１）－－意義、方式
第１２回　遺言（２）－－効力
第１３回　配偶者居住権
第１４回　遺留分
第１５回　まとめ、他分野への展望

成績評価の方法　/Assessment Method

新型コロナウイルス問題の終息が見えてこない現時点では未定であるが、レポートになると思います。開講後の決定時に、Moodleに載せるという方法で、必ず通知するので、それをきちんと見ること。

相続法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書（相続法の本であれば、何でも良い）の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れられた点についての復習を心がけることをお勧めする。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習２０分、復習７０分である。

履修上の注意　/Remarks

民法が大きく改正されているので、必ず、２０２０年版以降の六法を用意して下さい。
SDGsの観点から、俗に言うレジュメ等は、一切、配布しない。
この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

上記

キーワード　/Keywords

相続、相続法、家族法、身分法、民法、民法典、相続法改正

民事法の実務的展開 【昼】

担当者名 /Instructor　尾茂田　真 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事法学の実務に関する横断的・総合的学習を通じ、民事法学の体系的理解に必要な専門的知識を深く修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民事法実務に関する課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事法に関わる諸問題に対して、民事法学の実務的視点から自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事法の実務的展開	LAW361M

授業の概要　/Course Description

「不動産登記」と聞くと手続法であるため、中々イメージもしづらく、興味の湧かない分野だと思う学生が多いかもしれません。ですが、司法書士等の法律専門職に限らず、不動産業、公務員や金融機関等に就職した際には、不動産登記に触れる機会が少なからずあります。

そこで、司法書士の主な業務である不動産登記を実務的な視点を交えて解説します。相続、成年後見や民事裁判など、司法書士業務で実際に取り扱った事例を紹介しながら学ぶことで、不動産登記やその他関連する法律の知識を具体的にイメージしながら身につけることを目標とします。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。
進捗に応じ、適宜講義レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　不動産登記と関連職業のつながり
第２回　なぜ不動産登記が必要？（民法第１７７条について）
第３回　不動産登記記録の見方
第４回　不動産登記制度の仕組み
第５回　不動産登記の必要書類、申請人
第６回　不動産登記の申請（所有権の登記）
第７回　不動産登記の申請（抵当権その他の登記）
第８回　不動産登記の申請（仮登記、変更・更正・抹消登記）
第９回　不動産取引と不動産登記
第１０回　不動産登記と相続・遺言①
第１１回　不動産登記と相続、遺言②
第１２回　不動産登記と成年後見
第１３回　民事裁判手続と不動産登記
第１４回　相続財産管理人、不在者財産管理人と不動産登記
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト・・・ ５０％
レポート・・・ ３０％
日常の授業への取り組み・・・ ２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

理解を深めるため、講義終了後の復習、講義の理解に有益な読書等を行うこと。

民事法の実務的展開 【昼】

履修上の注意　/Remarks

六法を持参して下さい。
また配付資料や講義レジュメは、その後の講義で使用することがあるので、各自ファイリングして保管して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、不動産登記を主に取り扱いますが、民法総則、物権法や相続法等を受講していた場合、本講義の理解がより深いものになります。

キーワード　/Keywords

民法　不動産　登記　実務　民事裁判　成年後見　司法書士　宅地建物取引士　宅建

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor　今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法	LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は，企業法として，個人であれ，法人であれ，およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義では、商事に関する基本法である『商法典』中の「商法総則」と「商行為編」の部分、ならびに、『会社法典』中の「会社法総則」の部分でそれぞれ定められている諸規定の中から、最も重要かつ基本的なルールをいくつか取り上げ、それらの立法趣旨、基本構造、解釈適用上の問題点について、具体的事例に即しながら解説します。

また、必要な限りで『不正競争防止法』など、商事に関する特別法上のルールについても適宜、取り上げていきます。

本講義では、受講を通して、受講者が現代型企業ビジネスが抱えている今日的な法律問題や課題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることを目指します。

（到達目標）
・企業法に関する基礎的な知識を身につけている。
・企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
・企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。
六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。
Moodleにある講義レジュメ等は､各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の関心・理解度等により、進度・順番が変わりうることをご了解願います。

第１回　商法の学習法---新聞を読もう！　民法との関連を見よう！　条文に立ち返ろう！
第２回　商人・商行為とは何か
第３回　商法の特色(1)【営利主義】
第４回　商法の特色(2)【外観主義】
第５回　商法の特色(3)【公示主義】
第６回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（１）　【商号・商標】
第７回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（２）　商法総則・会社法総則による保護
第８回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（３）　不正競争防止法上の保護
第９回　企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（４）　名板貸人の責任
第10回　現代型取引と名板貸制度
第11回　企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（１）　【商業使用人とは何か】
第12回　企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（２）　【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
第13回　企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（３）　【表見支配人】【支配人の義務】
第14回　営業・事業譲渡をめぐる法律問題
第15回　総まとめ

企業活動と法 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

予習（事前学習課題）15%、　復習（事後学習課題）25%、および学期末レポート課題60%で評価します。
なお、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断する場合もあります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Moodle上もしくはそこにアップされた講義レジュメ等には、随時、以下の事項が記載されていきます。
①予習すべき教科書の箇所や予習課題、②授業後に取り組むべき復習課題、③レポート提出用の課題など。
予習、復習を前提とした講義を展開します。
指示された事前学習を行い、授業にのぞむとともに、指示された範囲の復習を心がけ、課題に積極的に取り組むことにより、授業の理解を深めるようにしてください。
詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意　/Remarks

１，本講義が対象とする「商法」は，応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を，ビジネス世界により適合するように，補完・修正したものです。従って，「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか，または，並行して受講する場合は，本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
２、Moodleにある講義レジュメ等は､各自、印刷して、初回からの分もファイルして授業に持ってくるようにしてください。テキスト・レジュメ・裁判例プリントなどを持参しないで受講すると、授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

国際協力論I 【昼】

担当者名 /Instructor　大平　剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論 I	IRL211M

授業の概要 /Course Description

この講義では、国際協力を行う主体のなかでも二国間援助機関に焦点を当て、政府開発援助（ODA）の仕組み、開発援助の歴史、援助の課題について学習します。60年にもおよぶ援助の歴史があるにもかかわらず、なぜ途上国と呼ばれる世界がいまだに存在し、貧困問題が解決されないのかについて国際政治の観点から考察を行います。

【知識】国際政治経済の一領域として国際開発協力を捉え、専門的な知識を身につけている。
【技能】国際開発協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○下村恭民他『開発援助の経済学（第４版）』有斐閣、2009年。
○下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力：その新しい潮流（第3版）』有斐閣、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション（講義の目的）、開発援助の基礎知識【二国間援助機関】、【多国間援助機関】
第2回　WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
第3回　1960年代の開発援助【近代化論】【トリクル・ダウン仮説】
第4回　1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ（BHN）戦略】
第5回　1980年代の開発援助【構造調整政策】【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
第6回　冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
第7回　グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
第8回　グローバル・サウスによる開発協力【バンドン会議】【南南協力】
第9回　中国による開発協力【三位一体型】
第10回　日本のODAの歴史（１）【戦後賠償】【黒字還元】
第11回　日本のODAの歴史（２）【ODA大綱】【開発協力大綱】
第12回　日本のODAの実施体制【JICA】【JOCV】
第13回　開発援助レジームの変容【OECD/DAC】
第14回　グローバル開発ガバナンス【GPEDC】【UNDCF】
第15回　開発協力と国際政治【債務の罠】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト…40%（10%×4回）　学期末試験…60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。定期的に小テストを実施しますので、単元毎に復習をしてください。

国際協力論I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイトを参照すると、授業理解に役立ちます。
この授業では国際政治学の観点から制度としての開発協力を考察します。そのため開発の実務的側面についてはあまり触れません。
資料は事前にMoodleにアップしますので、各自ダウンロードして目を通しておくように。望ましい形としては、資料を印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業内で補足した説明などを書き取るなど、独自のノートづくりをお勧めします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード　/Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor　足立　力也 / Rikiya Adachi / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	●	平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論Ⅱ	IRL212M

授業の概要　/Course Description

この講義では、社会科学としての平和学およびその一分野としての紛争解決学の理論と、実践における適用を学びます。
まず、平和の概念を定義しつつ、平和学の領域と射程を確認します。
次に、平和学の土台となる哲学や、その周辺を取り囲む領域をカバーします。
さらに、実践的学問としての平和学と紛争解決学の、理論の現実への適用を試みます。
この講義を通じて、現在係争中の、もしくは未来に起こるであろう紛争の構図を読み解く論理力と、それを平和的構図に転換する方法論を構築する実践力を養います。

（到達目標）
【知識】平和構築における多面的な活動を体系的かつ総合的に理解している。
【技能】国際社会による平和構築活動に関する情報を収集し、分析や調査ができる

教科書　/Textbooks

足立力也『平和ってなんだろう　「軍隊をすてた国」コスタリカから考える』岩波ジュニア新書、2009年
ヨハン・ガルトゥング『平和的手段による紛争の転換【超越法】』平和文化、2000年
足立力也『丸腰国家　ー軍隊を放棄したコスタリカ　60年の平和戦略ー』扶桑社、2009年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

カント『永遠平和のために』岩波書店、1985年
多賀秀俊『平和学から世界を見る』成文堂、2020年
○ヨハン・ガルトゥング『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年
○ヨハン・ガルトゥング＋藤田明史『ガルトゥング平和学入門』法律文化社、2003年
○ヨハン・ガルトゥング『ガルトゥングの平和理論　グローバル化と平和創造』法律文化社、2006年
○ヨハン・ガルトゥング『ガルトゥング紛争解決学入門』法律文化社、2014年
○ミル『自由論』光文社、2012年
長崎浩『思想としての地球』太田出版、2001年
合田真『20億人の未来銀行』（日経BP社、2018年）
○歴史的記憶の回復プロジェクト編『グアテマラ　虐殺の記憶　真実と和解を求めて』岩波書店、2000年

国際協力論II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　自己に内在する平和【イントロダクション】
第２回　平和とはなにか【平和学の基礎I】
第３回　暴力とはなにか【平和学の基礎II】
第４回　哲学から考える平和【平和学の土台】
第５回　深層文化【平和学の基礎III】
第６回　自由、権利、民主主義【近代平和を構成する概念】
第７回　軍隊とはなにか【軍事論】
第８回　平和と環境【平和研究の隣接領域I】
第９回　平和と経済【平和研究の隣接領域II】
第10回　紛争解決プロセス【紛争解決学I】
第11回　「オレンジ紛争」と「ゴミ捨て場の決戦」【紛争解決学II・紛争の転換と平和構築①】
第12回　グアテマラ内戦終結後の和解プロセス【ケーススタディ①紛争の終結と和解】
第13回　国際紛争とトランセンド法【紛争解決学III・紛争の転換と平和構築②】
第14回　「丸腰国家」コスタリカの平和戦略【ケーススタディ②平和構築、国際法と外交】
第15回　東アジアの平和構築の可能性【まとめ】
※順番が入れ替わったり、国際情勢によって緊急的にホットなイシューを取り上げる可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

提出物…60％
最終レポート…40％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時に、次回の授業で参照する教科書と参考書を指定するので、当該書籍等を読み込んでおくこと。
授業後には、各自で振り返りをお願いします。
その振り返りのフィードバックを、授業中に求めることがあります。
また、復習のための参考図書を授業時に指定することもありますので、各自参照すること。

履修上の注意　/Remarks

授業で発言を求めることがあります。
みなさんの自発的・積極的な発言が、講義における平和構築を保障します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国際機構論I 【昼】

担当者名 /Instructor　政所　大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論Ⅰ	IRL312M

授業の概要　/Course Description

本授業（国際機構論Ⅰ・Ⅱ）では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論Ⅰでは、国際機構を理解するための基礎的な情報と視点を提供する。国際機構の歴史的な展開をまず概観したうえで、国際関係における国際機構の意義や課題を説明するための分析視角を学び、理論的な枠組みや見方について理解する。また、地域的な国際機構や非政府間の国際機構の特徴や役割、これらと普遍的な国際機構との違い、さらには国際機構の有する今日的な課題についても学習する。

（到達目標）
【知識】国際機構（主に国際連合）の諸側面について基礎的知識を修得する。
【技能】国際機構（主に国際連合）に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書　/Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

最上敏樹『国際機構論講義』岩波書店、2016年。
山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年。
○渡部茂己・望月康恵編『国際機構論［総合編］』国際書院、2015年。
横田洋三監『入門 国際機構』法律文化社、2016年。
Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, and Kendall W. Stiles, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, 3rd ed., Lynne Rienner Publishers, 2015.
Ian Hurd, International Organizations: Politics, Law, Practice, 4th ed., Cambridge University Press, 2020.
Jacob Katz Cogan, Ian Hurd, and Ian Johnstone, eds., The Oxford Handbook of International Organizations, Oxford University Press, 2016.
Bob Reinalda, ed., Routledge Handbook of International Organization, Routledge, 2019.

国際機構論I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション【国際機構は重要か？どのような意義があるか？】
第2回　歴史①【19世紀～国際連盟】
第3回　歴史②【国際連合の創設とその後の展開】
第4回　分析視角①【国際機構の存在論：アクター、フォーラム、リソース】
第5回　分析視角②【国際機構の創設：パワー、共通利益、合理性、規範】
第6回　分析視角③【国際機構の存続と消滅：粘着性、正当性、制度的置換】
第7回　普遍的国際機構①【国際連盟と国際連合】
第8回　普遍的国際機構②【GATT/WTO】
第9回　普遍的国際機構③【IMF、世界銀行】
第10回　映像で見る国際機構の実際
第11回　地域的国際機構①【EU】
第12回　地域的国際機構②【ASEAN】
第13回　地域的国際機構③【AU、OAS】
第14回　非政府間国際機構【INGO】
第15回　国際機構の諸課題【機能不全（逸脱行動、縄張り争い）、説明責任】

成績評価の方法　/Assessment Method

①授業中課題（小レポート）　20％
②定期試験　80％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業前には、前回までの授業のレジュメや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジュメや資料、自作のノートの内容を整理すること。
・日頃から新聞の国際面や社会面に目を通すこと。

履修上の注意　/Remarks

・授業で配布するレジュメは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
・授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
・授業ではPPTを使用しますが、スマートフォンや携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけではなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード　/Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor　政所　大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論Ⅱ	IRL313M

授業の概要　/Course Description

本授業（国際機構論Ⅰ・Ⅱ）では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論IIでは、現在の国際社会において最も普遍的な国際機構である国際連合を取り上げ、その仕組みや機能、制度改革の動きなどについて学習する。また、安全保障や開発、環境、人道支援といった主要な政策分野における国際機構の活動について、諸アクター間の関係性や実際の合意形成などにも着目し考察する。ディスカッションなどを適宜盛り込み、学生主体の作業を通じて国際機構の現実に触れる機会を設ける。

（到達目標）
【知識】国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
【技能】国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書　/Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

植木安弘『国際連合–その役割と機能』日本評論社、2018年。
○内田孟男編『国際機構論』ミネルヴァ書房、2013年。
吉村祥子・望月康恵編著『国際機構論［活動編］』国際書院、2020年。
田仁揆『国連を読む–私の政務官ノートから』ジャパンタイムズ、2015年。
○明石康『国際連合–軌跡と展望』岩波書店、2006年。
Thomas G. Weiss and Sam Daws, eds., The Oxford Handbook on the United Nations, 2nd ed., Oxford University Press, 2018.
Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, 8th ed., Routledge, 2020.
Karen A. Mingst, Margaret P. Karns, and Alynna J. Lyon, The United Nations in the 21st Century, 5th ed., Routledge, 2018.
Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, eds., International Organization and Global Governance, 2nd ed., Routledge 2018.
○Jussi M. Hanhimaki, The United Nations: A Very Short Introduction, 2nd ed., Oxford University Press, 2015.

国際機構論II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション【国連はどのように運営されているか？】
第2回　国連の創設・目的・構造・意思決定
第3回　仕組み①【総会】
第4回　仕組み②【安全保障理事会】
第5回　仕組み③【経済社会理事会】
第6回　仕組み④【国際司法裁判所】
第7回　仕組み⑤【事務総長と事務局】
第8回　国連改革、システム一貫性、多様なアクターの参画
第9回　映像で見る国連の活動
第10回　安全保障①【核兵器】
第11回　安全保障②【国連平和活動（平和維持、平和構築）】
第12回　人道【人道的介入、難民・国内避難民】
第13回　人権【国際人権保障制度、人権NGO】
第14回　開発援助【MDGs、UNDP、世銀グループ、OECD/DAC、AIIB】
第15回　環境保護【SDGs、UNEP、IPCC、パリ協定】

成績評価の方法　/Assessment Method

①授業中課題（小レポート）　20％
②定期試験　80％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業前には、前回までの授業のレジュメや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジュメや資料、自作のノートの内容を整理すること。
・日頃から新聞の国際面や社会面に目を通すこと。

履修上の注意　/Remarks

・授業で配布するレジュメは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
・授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
・授業ではPPTを使用しますが、スマートフォンや携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけではなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード　/Keywords

地球環境論 【昼】

担当者名 /Instructor　松本　治彦 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地球環境に関して、専門的な知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	地球環境についての情報の収集・分析や調査をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地球環境論	ENV200M

授業の概要　/Course Description

最近の新聞で話題となっていること、例えば「はやぶさ2が持ち帰ったりゅうぐうの地表面や地中の物質は地球の生命誕生などを探る貴重な手がかり」「光によってnm単位で操作できる素子を開発、病気の患部に正確に薬を届けるナノマシン」「言葉や行動から読めない人間の脳に隠れた意識を人工知能に学ばせる。これまでは目に見やすい情報だけを学んできたAIが、さらなる進化に向けて動き出した」「コロナ禍、メッセンジャー（m）RNAワクチンがこれまでのワクチンと異なるのは、体の中にウイルスのたんぱく質を作らせること」「二酸化炭素を資源と見るカーボンリサイクル」「19年10月にグーグルが発表した量子コンピューターは、最先端のスーパーコンピューターで1万年はかかる問題を3分20秒で解いた」「AIのビックデータ分析の進展で、従来の定性的な情報のみに基づく未来予想とは違った予測手法が注目を集めている」「すばる望遠鏡を使った最新の研究では、少なくとも1400億年は宇宙は安泰？」「ホーキング博士最後の論文では近い将来、別の宇宙の存在を示す証拠が見つかる可能性に言及」「海底下2500mに大量の深部生命体の存在が明らかになた！」「日本版GPS本格運用と2025年に自動車の完全自動運転実現？」「偏西風の蛇行による異常気象の多発」などの記事が載っています。また熟語としては「三密」「鬼滅の刀「GAFA」「５G」「IoT」「ビックデータ」「ソサエティー5.0」「量子コンピューター」「SDGｓ（持続可能な開発目標）」「空飛ぶクルマ」「南海トラフ」など。これらの内容をどのように理解すればよいのか？難しい世の中になりました。「理系の人間だからこれくらいのことは理解しているでしょう」とか、「文系の人間だから知らなくて当然です」と言いたくなるかもしれません。しかし、今の社会では、これら情報の理解度と真偽の判断が、各人のその後の人生に影響を及ぼすことがあります。

そこで、この授業では、受講する皆さんが地球の現在・過去・未来について考える際に、知っておくべき自然科学系の話をします（もちろん、社会科学系の話もします。文系・理系の枠を超えた視点にチャレンジしています）。この授業の最も重要ことは「事実と意見」の区別と「時間と空間のスケール」を常に考えながら話を聞いていただくことです。なるべく、数式や化学式を使わないように話していきますが、これらを利用する際には、基本的な話からはじめて、理解しやすいように工夫をしています。この授業の受講後は、新聞で毎日のように取り上げられている自然科学系（地球の環境も含めて）の記事の内容がある程度、理解できるようになることを期待しています。

（到達目標）
【知識】地球環境に関して専門的な知識を身につけている。

【技能】地球環境についての情報を収集し、分析や調査ができる。

教科書　/Textbooks

テキストは使用しません。資料（ウエブ上より各自ダウンロードしてください）に沿って授業を進めます（パワーポイントを利用します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考書については、第1回目の講義で資料を基に説明します。

地球環境論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回「地球の歴史、何がわかっているの？そして、未来は？」【事実と意見の区別】【科学の特徴】【時間と空間のスケール】【基本単位を知る】【授業概要】【参考図書の紹介】
２回「宇宙の始まり」【ビックバンとインフレーション】【自然の大きさ】【質量と重さ】【素粒子】【4つの力】【電磁波】【重力波】
３回「地球の誕生・生物の誕生」【年代測定】【生物の誕生とウイルスの関係及びウイルスとの共生】【光合成生物】【カンブリア爆発】【スノーボール・アースイベント】【恐竜の絶滅】
４回「人間社会の形成」【ヒトの進化】【人間活動】【自然生態系と人工生態系】
５回「熱収支と四季」【太陽放射と地球放射】【温室効果】【１日の最高気温は何時？】【１年で最も寒い月は？】
６回「水と大気の大循環」【大気の鉛直構造】【温度とは？】【大気の大循環】【海洋の深層大循環】
７回「森林消失と生物種絶滅」【熱帯林の破壊】【乾燥地帯の農業】【再生への対処法】
８回「オゾン層破壊・PM2.5」【紫外線】【オゾンとフロン】【オゾンホール】【PM2.5とは？】
９回「温暖化モデルとIPCC」【カオス】【IPCCの作業原則】【予防原則】【パリ協定】【私の見解】
１０回「周期的変動」【氷期サイクル】【太陽活動の異変】【海洋の周期的変動】【北極振動と偏西風の蛇行】【エルニーニョとMJO】【黒潮の蛇行】
１１回「化石燃料から再生可能エネルギーへ」【石油・石炭・天然ガス】【シェールガス】【メタンハイドレート】【水力】【バイオ燃料】【地熱】【太陽電池】【風力】【波力】【原子力】
１２回「炭素社会から水素社会に」【燃料電池】【水素発電所】【水素ステーション】【人工光合成】
１３回「未来予測」【2050年までの取り組みが大事】【宇宙のこと】【イノベーション加速】【人口予測】【遺伝子工学】【AIと人間との共存】【自動運転】【軌道エレベータ】【ナノマシン】【レプリケーター】【テラフォーミング】
１４回「天気予報・自然災害への備え」【気象観測】【天気予報とコンピュータ】【火山・地震・津波】【警報の見直し】
１５回「まとめ」

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業で配布する質問カードへの記入（感想、質問等を記入する）40%、学期末試験60%で総合評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

シラバスに沿った授業を実施しています。各回の授業内容を一読して、授業に備えてください。また、授業後は理解できなかった内容については次回までに自分自身で調べておいてください（質問カードに記載した分からないことについては、次回の授業の最初に私のほうから説明します）。

履修上の注意　/Remarks

毎回、授業の終わりに質問カードに質問・感想等を記入する時間を取ります。しかし、5～10分程度の短い時間ですので、皆さんは短時間で疑問点や感想を箇条書きできるように、日頃から心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、概要・授業計画をみると分かるように、広範囲な地球の環境について取り上げています。前半は自然科学系の基本的な知識を中心に理解を深めてもらいます。中ほどでは最近、話題となっている地球環境に影響を与えている自然現象や人間活動などについて「その真偽」を中心にお話をします（新型コロナウイルスについて生物の誕生とウイルスの関係、ウイルスが地球全体に与える影響についてもコメントする）。後半は、基礎知識、最近の現象を踏まえて、これから望ましいエネルギー、社会構造、および未来の予測について、私の考えを述べます。なお、受講生の皆さんが高校の時に理系科目をあまり勉強していなくても、この授業を理解できるように工夫（たとえば、質問カードの記入）しています。分からないことは遠慮せずにこのカードに書いてください。次回の授業では、質問に答えることから始めます。

キーワード　/Keywords

「事実と意見の区別」「時間・場所的スケール」「地球温暖化予測モデルの精度」「炭素社会から水素社会へ」

国際関係の争点 【昼】

担当者名 /Instructor　足立　力也 / Rikiya Adachi / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	複雑な現代の国際社会の諸相を捉え、その相互連関性について理解している。
技能	専門分野のスキル	●	国際社会が抱える課題について情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の争点	IRL101M

授業の概要　/Course Description

この講義は二部構成です。
第一部では、国際関係の争点を見る前提となる、この授業における理論的枠組みを提示します。学問としての国際関係学と、実践としての国際関係論、現代の国際関係の争点にまつわる基礎知識などを簡潔に整理します。
第二部では、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、オセアニア、北アメリカ、ラテンアメリカからそれぞれ、実際の現地調査も交えた具体的事例を紹介しつつ、それらが含む要素と関係性について考察します。
最後に、それらを踏まえた上で、日本を取り巻く国際関係の争点を整理し、その出口を理論的に考察します。
この講義を通じて、国際関係の争点に関わる要素を垂直（歴史）的かつ水平（地理）的視点から捉え、科学的に分析し、複雑な現代世界の諸相を捉える視点とその地平を切り開く能力を養います。

（到達目標）
【知識】国際情勢を理解する上で必要となる幅広い知識を身につけている。
【技能】国際関係を理解する上で重要となる情報を収集し、分析することができる。

教科書　/Textbooks

【第１回～】
山下範久・安高啓朗・芝崎厚士編『ウェストファリア史観を脱構築する』ナカニシヤ出版、2016年
【第２回～、第13～14回】
足立力也『平和ってなんだろう　～「軍隊をすてた国」コスタリカから考える』岩波ジュニア新書、2009年
【第２回、第６回、第13回～第15回】
多賀秀俊『平和学から世界を見る』成文堂、2020年

国際関係の争点 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

【第１回】
カント『永遠平和のために』岩波文庫、1985年
○サミュエル・ハンチントン『文明の衝突』集英社、1998年
○高橋哲哉『デリダ　脱構築』講談社、1998年
【第２回】
○ヨハン・ガルトゥング『構造的暴力と平和』中央大学出版部、1991年
ヨハン・ガルトゥング『平和的手段による紛争の転換【超越法】』平和文化、2000年
【第３〜４回】
長崎浩『思想としての地球　地球環境論講義』太田出版、2001年
○ドネラ・メドウズ＋デニス・L・メドウズ＋ヨルゲン・ランダース『成長の限界　人類の選択』ダイヤモンド社、2005年
【第４回】
○セルジュ・ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？　＜脱成長（デクロワサンス）＞と＜ポスト開発＞の経済学』作品社、2010年
【第６回】
○西芳実『災害復興で内戦を乗り越える　スマトラ島沖地震・津波とアチェ紛争』京都大学学術出版会、2014年
【第７回】
小川了編著『セネガルとカーボベルデを知るための60章』明石書店、2010年
【第８回】
合田真『20億人の未来銀行』日経BP社、2018年
舩田クラーセンさやか『モザンビーク解放闘争史　「統一」と「分裂」の起源を求めて』御茶の水書房、2007年
水谷章『モザンビークの誕生』花伝社、2017年
【第11回】
○青柳まちこ編著『ニュージーランドを知るための63章』明石書店、2008年
○日本ニュージーランド学会編『ニュージーランド入門』慶應義塾大学出版会、1998年
○日本ニュージーランド学会・東北公益文化大学ニュージーランド研究所『「小さな大国」ニュージーランドの教えるもの』論創社、2012年
【第12回】
ジェニファー・K・ハーベリ『エヴェラルドを探して』新潮文庫、1998年
○歴史的記憶の回復プロジェクト編『グアテマラ　虐殺の記憶　真実と和解を求めて』岩波書店、2000年
リゴベルタ・メンチュ / 農民統一委員会『大地の叫び　グアテマラ先住民族の闘争』青木書店、1994年
○ジェニファー・ハーバリー『勇気の架け橋』解放出版社、1999年
【第13〜14回】
足立力也『丸腰国家　〜軍隊を放棄したコスタリカ　60年の平和戦略』扶桑社、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【第一部：理論編】
第１回　「国際関係論概論」【ウェストファリア史観の脱構築】
第２回　「平和学概論」【平和学と紛争解決学の基礎】
第３回　「地球環境概論」【現代環境論】
第４回　「ポスト資本主義経済の提案」【脱成長論から脱炭素論へ】
第５回　「エネルギー概論」【脱炭素社会におけるエネルギーの基礎知識】
【第二部：事例研究編】
第６回　「『公開鞭打ち刑と微笑みの国』インドネシア・アチェに見るイスラーム文化理解」【アジア】
第７回　「『パリ・ダカのゴール』セネガルに見る奴隷貿易の軛」【アフリカ】
第８回　「『世界最貧国』モザンビークに見るビジネスセクターによる平和構築」【アフリカ２】
第９回　「『西欧最後の武力紛争地』アイルランドに見る紛争と和解のプロセス」【ヨーロッパ】
第10回　「『モザイク国家』カナダに見る多文化主義」【北アメリカ】
第11回　「『世界の果て』ニュージーランドに見る政治社会的先進性」【オセアニア】
第12回　「『虹の国』グアテマラに潜む国内紛争の国際性と普遍性」【ラテンアメリカ1】
第13回　「『丸腰国家』コスタリカの平和戦略」【ラテンアメリカ２】
第14回　「『持続可能国家』コスタリカの脱炭素化国家計画」【ラテンアメリカ３】
【まとめ】
第15回　「東アジアにおける安全保障体制構築の可能性」【日本が属する国際地域環境】
※順番が入れ替わったり、国際情勢によって緊急的にホットなイシューを取り上げる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

提出物…60％
最終レポート…40％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書は事前に読んでおくこと。
各回で使う教科書・参考書は当該欄に記述してある通りなので、可能な限り、入手できるものは授業前に目を通し、授業後は復習として読み返すこと。
（特に第１回のテキストは開講前に読んでおくこと）
その中から授業中に発言を求め、さらには課題を選び、提出してもらうことにもなります。

履修上の注意 /Remarks

国際関係の争点 【昼】

履修上の注意　/Remarks

授業で発言を求めることがあります。
自発的・積極性な授業参画を期待します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

世界には、私たちの想像もつかないような、たくさんの種類の人たちがいます。
私たちは、私たちが知らないところで、その人たちとどこかでつながっています。
この講義は、端的に言えば、その＜「自分の目には見えていないつながり」を可視化するところから始める国際関係論＞です。
みなさんにとっておそらく縁が薄いであろう国や地域を多数紹介するのはそのためです。（第二部）
また、「目が届かないところを見る手段」としてこそ、科学的理論は役に立ちます。（第一部）
その２つをかけあわせた先に、みなさんの新たな地平がひらけることを期待します。

キーワード　/Keywords

国際関係の理論 【昼】

担当者名 /Instructor　阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係の理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際関係に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際関係の理論	IRL200M

授業の概要　/Course Description

グローバリゼーションの進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、グローバリゼーションの進展は国際関係に大きな変容をもたらしました。それは、国際関係の土台をなす「国家」の位置づけ・意義の変容であり、例えば、国際機関や多国籍企業、国際NGOといった国家以外のアクターの影響力が増大したことや、各国が単独では解決しえない「グローバル・アジェンダ」への対応の必要性に注目が集まるようになったこと、紛争の形態が国家間戦争から内戦、テロといった錯綜した状況へと移行したことなどに表れています。

この授業では、このような国際社会の新たな動向と課題を理解するための方法と基礎知識の獲得をめざします。具体的には、第二次世界大戦後の冷戦期からポスト冷戦期である今日に至るまでの国際関係の流れや国際問題に焦点をあてながら、国際関係の主要な理論について学習します。

（到達目標）
【知識】国際関係の理解に必要な基礎的知識を体系的に修得している。
【技能】国際関係の理解に必要な情報の収集・分析をすることができる。

教科書　/Textbooks

テキストは特に指定せず、毎回レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○山田高敬、大矢根聡 [編]『グローバル社会の国際関係論』 [新版] (有斐閣、2011年)。
○吉川直人、 野口和彦 [編]『国際関係理論』 [第2版] (勁草書房、2015年)。
○原彬久 [編]『国際関係学講義』 [第4版] (有斐閣、2011年)。
滝田賢治、大芝亮、都留康子 [編]『国際関係学』 [第2版] (有信堂、2017年)。
パスカル・ボニファス『現代地政学　国際関係地図』(ディスカバー・トゥエンティワン、2019年)
その他の文献については授業中に紹介します。

国際関係の理論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【】内はキーワード）
1. 国際関係学とは何か【理想主義、現実主義】
2. 近代国家の誕生と特質【主権、国民国家】
3. 国際関係の分析視角【自由主義、現実主義、マルクス主義】
4. リアリズム【アナーキー、パワー・ポリティクス、勢力均衡】
5. ネオリアリズム【覇権安定、二極システム】
6. 安全保障体制（1）：冷戦の始まりと終焉【安全保障のジレンマ、CTBT】
7. リベラリズム【相互依存、機能主義】
8. 前半の総括
9. ネオリベラリズム【国際レジーム、制度】
10. コンストラクティヴィズム【アイディア、間主観性】
11. 国際貿易体制の成立と変容【GATT、WTO、FTA】
12. 国際通貨体制の成立と変容【ブレトンウッズ体制、IMF】
13. 安全保障体制（2）：冷戦の終結と人道的介入【強制措置、人道的介入】
14. 人権の国際問題化と多様なアクター【人権、企業の社会的責任】
15. 講義のまとめ【グローバリゼーションと国際社会】

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト：20%　ミニレポート：20%　期末試験：60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に参考文献を読んでおくこと。
授業後は必ず復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

日頃から国際関係に関する出来事について関心を持ち、日々新聞を読む習慣を身につけておくこと。

キーワード　/Keywords

リアリズム、リベラリズム、認識の共有、国際レジーム、地政学リスク、グローバル・ガバナンス

倫理学 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　満 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学	PHR210M

授業の概要　/Course Description

社会倫理の必要性が叫ばれている現代、古代から現代に至る倫理思想の基礎を学ぶことで、グローバルな視野をもち、公正な倫理観を獲得した人材の育成に資する。社会と個人、国家と個人との関係を倫理学的にとらえることに重点を置き、現代にふさわしい社会倫理を各人が把握できるようにする。

（到達目標）
【知識】倫理学について基礎的知識を修得する。
【技能】倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。

教科書　/Textbooks

各回でレジメ、資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業担当者が毎回、原典と参考文献をレジメで紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　イントロダクションおよび古代ギリシャの倫理（１）　ソクラテスの倫理思想
第２回　古代ギリシャの倫理（２）　プラトンの倫理思想　【美しき国家】
第３回　古代ギリシャの倫理（３）　アリストテレスの倫理思想　【賢慮と公共性】
第４回　キリスト教の倫理（１）　イエスとパウロの倫理思想【普遍化と信仰義認】
第５回　キリスト教の倫理（２）　アウグスティヌスとフランチェスコの倫理思想【愛と高貴な貧しさ】
第６回　キリスト教の倫理（３）　ルターの倫理思想【召命と信仰義認】
第７回　近代の倫理思想（１）　デカルトの倫理思想【旅とコギト】
第９回　近代の倫理思想（２）　ホッブズの倫理思想【リヴァイアタンと市民】
第８回　近代の倫理思想（３）　スピノザの倫理思想【コナトゥスと倫理】
第10回　近代の倫理思想（４）　カントの倫理思想【定言命法と人格主義】
第11回　近代の倫理思想（５）　フィヒテの倫理思想【自覚と相互承認】
第12回　近代の倫理思想（６）　ヘーゲルの倫理思想【承認とコルポラツィオン】
第13回　近代の倫理思想（７）　マルクスの倫理思想【疎外と物象化】
第14回　現代の倫理思想（１）　フランクフルト学とハーバマスの倫理思想【討議とコミュニケーション理性】
第15回　現代の倫理思想（２）　フーコーの倫理思想【統治性と権力】

成績評価の方法　/Assessment Method

平常時の学習状況（リアクション・ペーパーを含む）40パーセント
期末テスト 60パーセント

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義で紹介した原典・参考文献のうち興味をもったものを選び、自分で読むことを勧めます。

倫理学 【昼】

履修上の注意　/Remarks

適宜リアクション・ペーパーを書き、理解度を見るので、しっかり聴講して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業計画を見るとむずかしそうですが、わかりやすい講義を心がけますので、わかりにくい場合にはどんどん質問をして下さい。

キーワード　/Keywords

地域経済I 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	地域経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済Ⅰ	ECN244M

授業の概要 /Course Description

今日地域経済を取り巻く環境は大きく変化している。
経済のグローバル化を基軸として、経済活動の空間的範囲が大幅に見直されていることが原因である。
加えて日本は、人口減少社会に突入している。
大きな変化に直面した時こそ、事象の体系的理解と長期的な視点とが必要となる。
本講義では主に以下の４つの論点を学習する。

１．地域経済を理解する枠組みとして「地域構造論」を学ぶ。
２．地域構造を高度化する諸要因を学ぶ。
３．戦後日本の地域構造の変遷を学ぶ。
４．人口減少社会を迎えた日本のポスト・コロナ期の地域経済について考察する。

〔到達目標〕
【知識】地域経済に関する基礎的な知識を体系的に身 につけている。
【思考・判断・表現力】地域経済が抱える諸問題について論理的に思 考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
【自律的行動力】地域経済が抱える諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報流と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　地域経済とは（講義の概要）
２回　地域構造論概説【地域構造】【経済地理学】【地域政策】
３回　経済発展と地域構造【産業構造】
４回　工業化の進展①【重化学工業化】
５回　工業化の進展②【高加工度化】
６回　第3次産業の拡大①【サービス経済化】
７回　第3次産業の拡大②【情報化】
８回　企業内分業の進展①【大企業の台頭】
９回　企業内分業の進展②【工場立地】【オフィス立地】
１０回　企業内分業の進展③【都市システム】
１１回　工業地帯から大都市へ【太平洋ベルト地帯】【東京一極集中】
１２回　一体型国土構造の盛衰【一体型国土構造】
１３回　人口動態と地域経済【生産年齢人口】【デフレの正体】
１４回　ポスト・コロナ時代の地域経済（「地域経済II」にむけて）【新型コロナ】
１５回　全体のまとめ

地域経済I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

ミニレポート　…　15%　　期末試験　…　85%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意　/Remarks

「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどで「の地域経済に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域経済II」「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地域経済II 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの地域経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域経済Ⅱ	ECN245M

授業の概要 /Course Description

今日われわれの経済システムは大きな変化に見舞われている。
その影響を受け、我々の生活も、またその生活の場である地域経済も大きな変化を強いられている。
本講義は「技術革新と経済システム」の関係づけがベースとなっている。

具体的には
「コンピュータ・ネットワーク（CN）が経済を変え、ひいては私たちの生活の場である地域経済を変える」
ということを学ぶ。
「従来は情報は人が運んでいたが、今日ではCNが運んでおり、人が運ぶのは専らウィルスであった」とった話。

〔到達目標〕
【知識】地域経済に関する専門的かつ応用的な知識を 体系的に身につけている。
【思考・判断・表現力】地域経済が抱える諸問題について総合的に思 考して、解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
【自律的行動力】地域経済が抱える諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、望ましい社会の構築に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

田村大樹『空間的情報劉と地域構造』原書房、2004年。
その他、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　コロナ禍で何が変わっているのか（講義の概要）
２回　資本主義が終わるって言われても【資本主義】
３回　人工知能で仕事がなくなる？【AI】【IoT】
４回　情報社会の捉え方【情報社会論】
５回　ちょっと面倒な情報社会論批判【情報とは何か】
６回　技術革新と経済発展【技術論】
７回　インターネットの衝撃【CN（コンピュータ・ネットワーク）】
８回　空間克服技術としてのCN【空間克服】
９回　市場の世界化①【金融市場】【物財市場】
１０回　市場の世界化②【労働市場】
１１回　CNと都市【産業集積】
１２回　ウィルスもまた人が運ぶ【新型コロナウィルス】
１３回　イノベーションとクリエーション【イノベーション】【クリエーション】
１４回　地域経済の行方【セルフ・プロモーション】
１５回　全体のまとめ

地域経済II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

ミニレポート　…　15%　　期末試験　…　85%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

受講後に講義の流れを再確認しておくこと。
また、事前に公開する資料に目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意　/Remarks

「地域経済I」、「経済地理学I,II」を履修している方が、本講義の理解が深まると思われるので望ましいが、義務ではない。新聞やテレビなどでの地域経済、情報技術、それに人口動態に関する報道に対して興味をもって見てもらいたい。また本講義の履修は「地域政策」の基礎となっている。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地域政策 【昼】

担当者名 /Instructor　松永 裕己 / マネジメント研究科　専門職学位課程

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域政策を検討するのに必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域政策に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域政策	ECN250M

授業の概要　/Course Description

日本の地域経済を考える上で、地域政策は大きな役割を果たしてきました。しかし公共投資の見直しや法律・制度の改変など、中央政府（国）を主体としたこれまでの地域政策は大きく転換しています。なぜそうした変化が生じているのでしょうか？またその結果、地域経済にどのような影響があるのでしょうか。この授業では、前半で全国的な視点からの地域政策の手法や特徴、問題点を学び、後半では地域の視点からの新しい政策の姿を探ります。

DPに基づく到達目標
《豊かな「知識」》
地域政策に関するニュースや文書を読んで理解することができる。
《時代を切り開く「思考・判断・表現力」》
地域課題に対する対策と地域のビジョンを提案することができる
《社会で生きる「自立的行動力」》
地域課題や政策を自分自身の生活と関連づけて説明することができる。

教科書　/Textbooks

使用しません。
配布プリントをもとに授業を行います。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○本間義人『国土計画を考える』中公新書、1999年。
山崎亮『縮充する日本』PHP新書、2016年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　地域経済と地域問題
３回　日本の地域政策体系と政策手段
４回　特定地域総合開発計画
５回　全国総合開発計画（第一次、第二次）について
６回　全国総合開発計画（第三次、第四次）について
７回　国土のグランドデザインと国土形成計画について
８回　人口減少のインパクトと地方創生政策
９回　地域政策の転換と今後の政策に必要なもの
１０回　新産業育成と地域政策
１１回　地域連携と地域政策
１２回　交流人口、関係人口と移住政策
１３回　地域問題解決の新たな手法
１４回　地域政策と地域経営
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テストもしくは小レポート（20%）と期末テスト（80%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断し、評価を行う。

地域政策 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習として、１）講義後に配布プリントを見直し重要なポイントを３つにまとめること、２）事前課題がある場合には準備をして講義に臨むことを心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

この授業の一部には、学生が主体的に参加するワークショップ形式の内容を含みます。積極的に発言してください。
なお、新型コロナの状況によっては、ワークショップ形式は実施できない場合があります。また、遠隔授業になった場合には、シラバス掲載内容を一部変更する場合があります。変更についてはmoodleに掲載します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

地域政策、地域問題、地域間格差、新たな公共、地域経営

国際経済論I 【昼】

担当者名 /Instructor　魏　芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論Ⅰ	ECN240M

授業の概要　/Course Description

経済のグローバリゼーションが進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

＜本講義の概要＞
1、国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
2、輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
3、地域貿易協定締結の経済的影響ついて理解する。

＜本講義の主な到達目標＞
1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第２版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第２版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　リカード・モデル（１）【絶対優位】【比較優位】
３回　リカード・モデル（２）【貿易パターン】【相対価格の決定】
４回　リカード・モデル（３）【貿易の利益】
５回　ヘクシャー＝オリーン・モデル（１）【要素賦存】【要素集約度】
６回　ヘクシャー＝オリーン・モデル（２）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
７回　ヘクシャー＝オリーン・モデル（３）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
８回　部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
９回　貿易政策の分析（１）【輸入関税】
１０回　貿易政策の分析（２）【輸入数量制限】
１１回　貿易政策の分析（３）【輸出補助金】【輸出自主規制】
１２回　貿易政策の分析（４）【有効保護】
１３回　地域貿易協定（１）【自由貿易協定】【関税同盟】
１４回　地域貿易協定（２）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
１５回　まとめ

国際経済論I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常授業への取り組み　30 %　　期末試験　70 %

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード　/Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II 【昼】

担当者名 /Instructor　魏　芳 / FANG WEI / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論Ⅱ	ECN241M

授業の概要　/Course Description

経済のグローバリゼーションが進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

＜本講義の概要＞
１、不完全競争市場の下で、貿易政策の経済効果を学ぶ。
２、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
３、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

＜本講義の主な到達目標＞
１、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
２、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
３、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第２版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第２版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　不完全競争と国際貿易（１）【国内独占】
３回　不完全競争と国際貿易（２）【貿易の利益】
４回　不完全競争と国際貿易（３）【ダンピング】【価格差別化】
５回　不完全競争と国際貿易（４）【産業内貿易】【独占的競争市場】
６回　不完全競争と貿易政策（１）【輸入関税】
７回　不完全競争と貿易政策（２）【輸入数量割当】
８回　不完全競争と貿易政策（３）【外国独占】【国際複占】
９回　不完全競争と貿易政策（４）【戦略的貿易政策】
１０回　生産要素の国際移動（１）【海外直接投資】
１１回　生産要素の国際移動（２）【国際労働移動】
１２回　貿易と環境（１）【貿易政策から環境への影響】
１３回　貿易と環境（２）【排出権取引】
１４回　貿易と環境（３）【環境政策から貿易への影響】
１５回　まとめ

国際経済論II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

日常授業への取り組み　30 %　　期末試験　70 %

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意　/Remarks

ミクロ経済学、国際経済論をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

国際経済論の履修済みが望ましい。

キーワード　/Keywords

不完全競争、貿易政策、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

産業組織論I 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤　隆 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論 I	ECN341M

授業の概要　/Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論では、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当てて、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。到達目標として以下の点を掲げておく。
①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動）、市場パフォーマンスの関係を理解する。
②独占禁止政策を理解する。
③独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。

教科書　/Textbooks

小田切宏之著『競争政策論（第２版）』日本評論社　2017年
小田切宏之著『産業組織論』有斐閣　2019年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

花薗誠著『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣　2018年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　講義全体の概略の説明
2回　競争政策（１）競争政策とは何か？独占禁止法入門
3回　競争政策（２）競争政策はなぜ重要か？独占禁止法の解説（外部講師の招へい）
4回　産業組織論の方法論的基礎　SCPパラダイム：市場構造・市場行動・市場成果
5回　市場の諸類型（１）市場構造と競争形態(完全競争・独占・寡占・独占的競争）
6回　市場の諸類型（２）市場構造と競争形態（ハーフインダール指数）
7回　コンテスタブル・マーケット　航空産業の事例
8回　地域独占産業の事例　日本の電力システムの構造改革
9回　共謀と暗黙の協調　カルテル（談合）と暗黙の協調
10回 M&Aについて(1) Ｍ＆Ａの定義・理論
11回 M&Aについて(2) 事例研究
12回　垂直的取引制限　再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
13回　ネット取引とプラットフォーム　プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
14回　イノベーションと知的財産権　知的財産権 短期効率性と長期的効率性のトレードオフ、特許制度と競争政策
15回　全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

講義時のリアクションペーパー20%、定期試験(論述問題・計算問題など)80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

産業組織論I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor　佐藤　隆 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論Ⅱ	ECN342M

授業の概要　/Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。本講義では、現代を代表するさまざまな産業をとりあげ、その産業の歴史的発展に注意しながら、どのようなメカニズムで産業が進化・発展していくのかを産業組織論の観点から探求する。できるだけ個別に企業・産業をとりあげ、各企業の企業戦略をケース・スタディによって具体的にみながら、企業や産業の構造・戦略的行動および政府による政策的効果が市場の成果にどのような影響を及ぼすかを理解することを目標とする。とりあげる産業としては、ビール産業、自動車産業、情報通信産業などである。到達目標として以下の点を掲げておく。
①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動）、市場パフォーマンスの関係を理解する。
②代表的な産業の歴史的な発展のメカニズムを理解する。
③政府による産業政策や競争政策、規制のあり方が産業のパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを理解する。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

伊丹敬之『日本産業三つの波』NTT出版
小田切・後藤『日本の企業進化』東洋経済新報社
浅羽茂『競争と協調の戦略』日本評論社
伊丹・加護野・小林・榊原・伊藤『競争と革新　自動車産業の企業成長』東洋経済新報社
丸山恵也・小栗崇資・加茂紀子『自動車産業』大月書店
奥野・南部・鈴村『日本の電気通信−競争と規制の経済学』日本経済新聞社
福家秀紀『情報通信産業の構造と規制緩和−日米英比較研究』
日経ビジネス

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　はじめに　講義全体の概略の説明、戦後経済・産業の歩み
2回　個別産業の研究　ビール産業（１）ビール産業の歴史、ビール産業のシェアの変動
3回　個別産業の研究　ビール産業（２）ドライ戦争： ス - パードライの事例研究
4回　個別産業の研究　ビール産業（３）味覚戦争：製品差別化とは(水平的差別化と垂直的差別化）味覚地図
5回　個別産業の研究　ビール産業（４）発泡酒戦争の事例研究
6回　個別産業の研究　ビール産業（５）ビール産業の価格戦略（カルテルとプライスリーダーシップ）
7回　個別産業の研究　補論　　ディズニーランドの価格戦略
8回　個別産業の研究　自動車産業（１）米国の自動車産業の歴史
9回　個別産業の研究　自動車産業（２）日本の自動車産業の歴史、日本の産業政策
10回　個別産業の研究　自動車産業（３）自動車産業の国際戦略・世界的再編
11回　個別産業の研究　自動車産業（４）トヨタ生産システムとその進化
12回　個別産業の研究　自動車産業（５）CASE革命とそれによる産業構造の変化
13回　個別産業の研究　情報通信産業（１）規制改革と民営化の理論
14回　個別産業の研究　情報通信産業（２）電電公社の民営化・規制改革 −第１次情報通信改革 -
15回　個別産業の研究　情報通信産業（３）第２次情報通信改革　ブロードバンド・インターネット時代の規制政策

産業組織論II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

講義時のリアクションペーパー20%、定期試験(論述問題など)80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

財政学I 【昼】

担当者名 /Instructor　前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I	ECN361M

授業の概要　/Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

（到達目標）
【知識】財政に関して専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
【技能】財政問題の基礎的な分析を行う理論的手法を身につけている。
【思考・判断】
財政問題について、論理的に思考して解決策 を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１）『財政学をつかむ』　畑農鋭矢　林正義　吉田浩　著　　有斐閣
２）『公共経済学』　　林正義　小川光　別所俊一郎　著　有斐閣アルマ
３）わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ -　篠原総一　著　有斐閣

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　イントロダクション：財政の役割
２　財政の仕組み
３　租税の概観と財政収支について
４　価格メカニズムと資源配分および所得分配
５　市場と資源配分の効率性①　【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
６　市場と資源配分の効率性②　【純粋交換経済における競争市場】
７　社会厚生と再分配政策
８　公共財①　【公共財とは何か】
９　公共財②　【公共財の自発的供給と非効率性】
１０公共財③　【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
１１景気変動と経済成長について　【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
１２景気安定化機能の役割
１３財政政策の乗数効果
１４演習
１５まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100％

財政学I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意　/Remarks

１）主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
２）配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
３）わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
４）授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学の工ッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード　/Keywords

財政

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor　前林　紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学Ⅱ	ECN362M

授業の概要　/Course Description

この授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学的視点から議論します。この講義の到達目標は①景気安定化政策、②政府債務の問題、③少子高齢化と公的年金制度の問題について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることです。
（到達目標）
【知識】現代の主要な財政問題に関して専門的な知識を体系的に身につけている。
【技能】現代の主要な財政問題の分析を行う理論的手法を身につけている。
【思考・判断】
財政問題について、論理的に思考して解決策 を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で 表現することができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

１）『財政学をつかむ』　畑農鋭矢　林正義　吉田浩　著　　有斐閣
２）マンキュー　マクロ経済学　Ｉ入門編 と　II 応用編　N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
３）マクロ経済学　二神孝一　堀敬一　（著）　有斐閣
４）公共経済学　林正義・小川光・別府俊一郎　（著）　有斐閣アルマ

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１　イントロダクション：マクロ経済政策と財政
２　４５度線モデルと乗数効果
３　乗数効果：公債発行と均衡財政
４　IS - LMモデル　財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
５　財政政策と金融政策（IS-LM分析からのインプリケーション）
６　財政政策の効果とその有効性①（政策ラグや政策当局の政策運営の観点から）
７　長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
８　長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
９　財政政策の効果とその有効性②（リカード＝バローの中立命題について）
１０　財政赤字/累積国債残高の問題点
１１　財政の持続可能性
１２　財政再建の議論
１３　公的年金の財政方式
１４　少子高齢化と年金収益率
１５　まとめ

財政学II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意　/Remarks

１）主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
２）配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
３）わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
４）授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学の工ッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学IとIIはセットで履修することをお勧めします。

キーワード　/Keywords

財政

公共経済学 【昼】

担当者名 /Instructor　牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学	ECN262M

授業の概要 /Course Description

<授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

（到達目標）
【知識】
公共経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【技能】
公共経済学で取り扱う課題に対し必要な高度な分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】
経済学の観点からの論理的な分析をもとに、公共政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済 (有斐閣ストゥディア)』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース　公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール　公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I　ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

公共経済学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：公共経済学について
2回　経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
3回　経済学の復習（2）【取引】、【市場】
4回　需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
5回　市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
6回　市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
7回　費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
8回　独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
9回　規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
10回　政府の失敗【公共選択論】
11回　投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
12回　利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
13回　財政改革の経済分析【財政赤字】、【財政構造改革】
14回　社会保障の経済分析【少子高齢】、【年金】
15回　まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

原則　小テスト（12回）...40%、課題…10%、期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中国経済 【昼】

担当者名 /Instructor　園　康寿 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次　3年次 /Year　単位　2単位 /Credits　学期　1学期 /Semester　授業形態　講義 /Class Format　クラス　3 年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの中国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中国経済	ECN350M

授業の概要　/Course Description

教科書　/Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

成績評価の方法　/Assessment Method

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

アメリカ経済 【昼】

担当者名 /Instructor　山崎　好裕 / Yoshihiro Yamazaki / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	米国経済の動向を理解するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	米国経済の動向に関連する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの米国経済の動向に関連する経済の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アメリカ経済	ECN351M

授業の概要　/Course Description

新型コロナウイルス感染症に大きく揺さぶられた昨年の世界経済でしたが、今後何年間かは平常への回復の道のりになるでしょう。ヨーロッパに比べれば、まだましな面があるとは言え、アメリカ経済に残された傷も大きいものがあります。バイデン新大統領の内政・外交面での手腕が、今年のアメリカ経済に決定的な影響を持つことになるでしょう。

貿易、投資、金融の面で日本との深い結びつきを持つアメリカ経済の動向は、たいへん密接に私たちの仕事や生活に影響を与えます。この講義ではアメリカ経済の全体と、産業、金融、経済成長など各側面を、データを使って確認した上で、日本経済との比較も交えてわかりやすく説明します。

学部を超えて、現代日本を生きていくうえで必須の知識がここにはあります。前提となる経済学の知識も分かりやすく説明してきますので、いずれの学科の人たちでも無理なく受講できます。

【到達目標】
1．アメリカ経済に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
2．アメリカ経済について総合的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
3．アメリカ経済への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書　/Textbooks

山崎好裕『目からウロコの経済学入門』ミネルヴァ書房、2004年11月。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

田端克至『みんなが知りたいアメリカ経済』創成社、2020年6月。
山崎養世『21世紀型大恐慌ー「アメリカ型経済システム」が変わるとき』PHP研究所、2020年11月。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1　アメリカの産業と所得
2　アメリカの所得分配と社会保障
3　アメリカ家計の消費と貯蓄
4　アメリカの社会階層と失業
5　アメリカ企業と収益
6　アメリカ企業と投資
7　アメリカ政府と税制
8　アメリカの政府支出と財政
9　アメリカの通貨制度
10　アメリカの金融システム
11　アメリカ経済と金利
12　アメリカの国際収支
13　アメリカ経済と為替レート
14　アメリカ経済と物価
15　アメリカの経済成長と景気

アメリカ経済 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験…100％

定期試験では、アメリカ経済の制度的特徴についての穴埋め問題が6問、全体的特色についての○×問題が8問、テキストのコラムにある計算問題から2問が出題されます。
試験の出題範囲は時期が来たらポータルサイトを通じて連絡します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習では、テキストの当該章を読んできてください（30分）。
事後学習では、その日の講義内容を記憶し、コラムの計算問題を解いて答え合わせをしておいてください（30分）。

履修上の注意　/Remarks

受講すれば、みんなの頭にアメリカ経済のはっきりしたイメージが浮かび、なおかつ、経済というものを身近に感じられます。経済学を学んだことがある人もない人も、安心して受講してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私は福岡大学教授（経済学部・大学院経済学研究科）なので、普段は北方キャンパスにいません。質問や相談はメール（yamazaki@kitakyu-u.ac.jp）に送ってください。

キーワード　/Keywords

World Largest Economy　消費大国　サービス経済化　Fed　経常収支赤字　所得格差　投資銀行　ファンド　住宅投資　基軸通貨

地方財政論 【昼】

担当者名 /Instructor　難波　利光 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論	ECN365M

授業の概要　/Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

（到達目標）
【知識】地域財政に関する専門的な知識を体系的に身につけている。
【思考・判断・表現力】地方財政について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。
【自律的行動力】地方財政への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房　2008年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.財政とはなにか
2.住民生活と地方財政
3.財政の役割と機能
4.公共財の理論
5.国と地方の財政関係
6.租税原則と地方税
7.地方財政計画
8.財政調整制度
9.中間試験
10.自治体財政分析
11.財政破綻の教訓
12.地方財政と地域経済
13.地方財政と福祉政策
14.財政の自治を考える
15.地方財政のまとめ

地方財政論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

中間試験４０％　　期末試験６０％
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせることのできるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意　/Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論	BUS212M

授業の概要　/Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことができる者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

（到達目標）
【知識】経営組織に関する基礎的な知識を体系的かつ 総合的に身につけている。
【技能】経営組織に必要な情報を収集、分析することが できる。
【思考・判断・表現力】経営組織について、複眼的・論理的に思考して 解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

山下剛『マズローと経営学ー機能性と人間性の統合を求めてー』文眞堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年 (○)
三戸公『随伴的結果』文眞堂、1994年 (○)
三井泉編『フォレット』文眞堂、2013年 (○)
岸田民樹編『組織論から組織学へ–経営組織論の新展開』文眞堂、2009年 (○)
M.P.フォレット『創造的経験』文眞堂、2017年 (○)
中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス　【経営組織論とは？】【現代社会における組織の重要性】
第２回　組織とは何か　【組織の概念】【組織の3要素】
第３回　管理とは何か①　【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
第４回　管理とは何か②　【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
第５回　現代社会における組織の問題　【職業人】【現代における自己実現】【組織人格と個人人格】
第６回　現代組織の諸特徴①　【支配の３類型】【官僚制の概念】
第７回　現代組織の諸特徴②　【法・規則の機能性】
第８回　現代組織の諸特徴③　【科学的管理】
第９回　動機づけ理論①　【人間関係論】
第10回　動機づけ理論②　【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
第11回　組織構造①　【ライン組織の基本原理】
第12回　組織構造②　【コンティンジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
第13回　現代組織における管理①【随伴的結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
第14回　現代組織における管理②【官僚制によって生成する２種の随伴的結果】【責任の組織化】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…60%　　小テスト…40%

経営組織論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題の提出を求めます。
該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

履修上の注意　/Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。
状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

組織の 3 要素　官僚制　科学的管理　環境適応　随伴的結果　自由と責任

経営戦略論 【昼】

担当者名 /Instructor　浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論	BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。
（到達目標）
【知識】
経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】
経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。
【思考・判断・表現力】
経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を〔必携本〕として指定しています。
東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。（○）
大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略〈新版〉 - 論理性・創造性・社会性の追求--』有斐閣、1997年。（○）
浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。（○）
網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。（○）
嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『１からの戦略論（第2版）』碩学舎、2016年。（○）
他、参考となる文献を適宜紹介します。

経営戦略論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第 1回　ガイダンスおよび「経営戦略とは」
第 2回　議論の歴史1　誕生から1970年代　【成熟化とイノベーション】【多角化の戦略】
第 3回　議論の歴史2　1980年代以降　【競争戦略論】【戦略経営論】【プロセス戦略論】【ＲＢＶ】
第 4回　成長の戦略1　ドメインの定義　【事業構造の転換】【ドメインギャップ】
第 5回　成長の戦略2　事業ポートフォリオの選択　【関連・非関連型】【シナジー効果】【コアコンピタンス】
第 6回　成長の戦略3　新規事業創造の戦略　【社内ベンチャー】【M&A】【戦略提携】
第 7回　成長の戦略4　プロダクトポートフォリオマネジメント　【ＰＬＣ】【経験曲線】【マトリックス】
第 8回　競争の戦略1　構造分析　【5フォーセズ】【PEST】【戦略グループ】【VRIO】
第 9回　競争の戦略2　基本戦略ー事例研究　【コストリーダーシップ】【差別化】【集中化】【顧客価値】
第10回 競争の戦略3　市場地位と戦略　【リーダ】【チャレンジャー】【ニッチャー】【フォロアー】
第11回 競争の戦略4　製品ライフサイクルと他企業との協力　【PLC】【ビジネスモデル】
第12回 競争の戦略5　事業システムー事例研究　【顧客価値】【ビジネスモデル】
第13回 戦略と組織１ 戦略と組織の適合と創造　【組織構造】【組織文化】【組織インフラ】
第14回 戦略と組織２ 戦略と組織の変革 - 事例研究　【イノベーション】【組織学習】【知識創造】
第15回 まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験の結果（８０％）と学期中の小レポート等提出物の結果（２０％）によります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意　/Remarks

「経営管理論」（2018年度生以上は「マネジメント論基礎」）で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード　/Keywords

経営環境　経営戦略　成長　競争　イノベーション　組織変革

人的資源管理論 【昼】

担当者名 /Instructor　丸子　敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論	BUS310M

授業の概要　/Course Description

昨今，日本では様々な労働に関する問題が二ュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では，その多々ある切り口の一つとして，人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は，企業内の人々をいかに活き活きと働けるようにするかということを人事管理制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで，企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。
この講義を通して，巷にあふれる労働に関する問題について，さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下，各到達目標について
知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。
技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。
思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し，みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書　/Textbooks

教科書：奥林康司・上林憲雄・平野光俊（2010）編著『入門人的資源管理 第2版』中央経済社。
その他適宜配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献：平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 - 人と企業，ともに活きるために - 』有斐閣ストゥディア。

人的資源管理論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
　授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。
第2回 経営学の中での人的資源管理論（１）
　人的資源管理論とはどういう分野なのか，隣接研究分野との関係等から学びます。
第3回 経営学の中での人的資源管理論（２）
　人的資源管理論の主役はあくまでも人事管理というシステムです。この考え方について学びます。
第4回 人事等級制度
　人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。
第5回 人事考課制度と賃金制度（１）
　人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。
第6回 人事考課制度と賃金制度（２）
　人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，賃金制度について考課制度と関連付けながら学びます。
第7回 能力開発
　企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。
第8回 雇用管理
　日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。
第9回 労働時間（１）
　ここまで学んだ日本企業における人事管理の特徴から，労働者の働き方にどのような特徴が出てくるのか，労働時間に着目しながら考えていきます。
第10回 労働時間（２）
　日本労働者の労働時間について，今どのような問題が出てきているのか，それはどのような文脈からなのか，これらについて考えていきます。
第11回 労使関係と福利厚生制度
　日本的労使関係の特徴および，日本企業における福利厚生の特徴とその変化について学びます。
第12回 非正規労働者
　近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に非正規労働者というカテゴライズに着目して，その問題点等を学びます。
第13回 女性労働者
　近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に女性労働者というカテゴライズに着目して，その問題点等を学びます。
第14回 高齢労働者
　近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に高齢労働者というカテゴライズに着目して，その問題点等を学びます。
第15回 まとめ
　全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験50％，中間レポート50％で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor　吉村　英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論	BUS313M

授業の概要　/Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税収など、わが国経済に直結します。

・企業数の割合　＝99.7%
・従業員数の割合　＝68.8%
・付加価値額の割合＝52.9%

（注：経済センサス(2016)による、個人事業主を含む）

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。
また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

（到達目標）
【知識】
中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。
【思考・判断・表現力】
中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。
【自律的行動力】
中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書　/Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　中小企業とは
第3回　製造業①･･･製造業で働きませんか？
第4回　製造業②･･･現状と展望
第5回　非製造業（流通業、小売業、サービス業など）･･･現状と展望
第6回　外部講師による講和①
第7回　ベンチャー企業
第8回　新事業展開
第9回　人材の育成と確保
第10回　海外展開
第11回　ベトナムにおける中小企業支援事例
第12回　外部講師による講和②
第13回　資金調達と金融機関の役割
第14回　国及び地方自治体による中小企業支援政策
第15回　まとめ
※授業計画・内容に変更があるときは、事前に連絡します。

成績評価の方法　/Assessment Method

適宜、レポートを課します（50%）。期末試験は行いません。
授業の取組み度合についても評価の対象とします（50%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意　/Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府は何を講じようとしていますか。小規模事業者持続化補助金って何ですか。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。中小企業は、身近な存在です。
・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
・ 自ら起業して経営する。
・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード　/Keywords

ビジネス英語研究 【昼】

担当者名 /Instructor　ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究	ENG232M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく 3 つの到達目標
知識：国際貿易とファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。
思考・判断・表現力：国際貿易の観点からの分析をもとに、自分の意見を明確に発現することができる。
自立的行動力：国際貿易への関心とキャリア意識を持ち続け、実践な知識を有している。

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will be applied to discussions about the current global situation and analysis of case studies.

教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
3. The costs and benefits of trade
4. Imports, exports and the balance of trade
5. Restrictions on trade
6. The current global trade situation
7. Group presentations: 1
8. Foreign exchange markets and exchange rates
9. Factors which affect exchange rates 1
10. Factors which affect exchange rates 2
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

(Note: Class schedule could be changed)

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Class participation	20%
Group presentation 1	20%
Group presentation 2 & Group report	40%
Vocabulary test	20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

キーワード　/Keywords

Economics, Finance, Trade.

現代法曹論０ 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 他

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会における多様な法律実務の意義と役割を理論と実践の双方から理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論 O	LAW101M

授業の概要　/Course Description

本講義は、法学部の学生に卒業後の進路を意識しながら法律学を学習するきっかけを与えるとともに、法学部卒業生としての強みを活かしてどのような道を歩むことができるのか、さまざまなモデルを提供しようとするものである。
具体的には、国の行政機関・司法機関、地方公共団体の現場、法科大学院教員・実務法曹等の方々が、学外講師として各１回の講義を担当し、それぞれの職務内容を紹介しながら、職務経験を通して見えてくる「法を学ぶことの意義」「法を学ぶ者の役割」などについて講義を行う。

（到達目標）
【知識】法学部卒業生としての強みを活かしたキャリア形成に必要な情報を収集・分析することができる
【コミュニケーション力】他者と協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
【自律的行動力】法的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書　/Textbooks

特に指定しない。
レジュメその他の資料を配布して講義を進める。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる資料を紹介する。
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法（2021年版・令和3年版）が手もとにあるとよい（種類・出版社を問わない。）。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　憲法を学ぶ社会的意義【法科大学院教員】
３回　労働法を学ぶ社会的意義【法科大学院教員】
４回　法律関連資格とそのキャリアパス【特定行政書士】
５回　税理士の仕事【税理士】
６回　公務員の職種と業務・国家資格の取得
７回　国家公務員の仕事～税務と法律～【税務署】
８回　警察官の仕事【警察官】
９回　矯正施設の仕事【刑務官等】
１０回　実務法曹と法律隣接職、そのキャリアパス【弁護士】
１１回　裁判官の仕事【裁判官】
１２回　裁判所の仕事【裁判所職員】
１３回　地方公務員の仕事と法律（県）【県庁】
１４回　地方公務員の仕事と法律（市）【市役所】
１５回　まとめとレポート課題

成績評価の方法　/Assessment Method

期末レポート…１００％
ただし、5回以上欠席した場合、レポートの提出資格を認めない。

現代法曹論０ 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【予習】指定された範囲の資料等に目を通して講義に臨むこと。
【復習】講義終了後は、講義内容をノートに要約して復習すること。

履修上の注意　/Remarks

この講義を履修後に「現代法曹論I」や「現代法曹論II」、「法律実務論I」や「法律実務論II」を履修することで、この講義をさらに発展させることができる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は、法科大学院をはじめ、政府諸機関や地方公共団体と連携して開講する講座です。現場の第一線で働く実務家を招聘して現実社会と法学とを結びつけることで、受講者のキャリア形成を促進するものとなることを期待しています。

この授業は、SDGｓの16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

法学　法学入門　法律関連職　法律関連資格　国家公務員　地方公務員　特別職公務員　キャリア・デザイン

政策科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor	楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策科学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策科学入門	PLC101M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は，政策科学科の新入生がこれから政策を考察・研究するうえで必要となる基礎的な知識・視点・方法論を提供することにあります。その際，現代における政治・経済・社会的な変容の具体例を取り上げて，それらの変容が引き起こす社会問題はどのように捉えられて，それらの問題に対処する政策案はどのように研究されているかに焦点を当てます。「政策科学」という響きは極めて難解なものに聞こえるかもしれませんが，政策について考察・研究することはとても重要で面白い活動です。そこでは，いろいろな視点や方法が求められ，知的刺激が満載です．本講義を通じて，政策を考察・研究することのイメージを掴み，その面白さを感じ取ってください。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分 の考えや意見を論理的に表現できる。
【コミュニケーション力】様々なアクターと積極的に議論をしながら、協働して政策課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自立的行動力】公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、問題解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

今のところ指定するテキストはありません。詳細は第一回目の講義で説明いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介いたします。

政策科学入門 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　イントロダクション–政策科学とは？
２回～６回　事例から政策を考えてみよう
①中心市街地の空洞化・衰退–アメリカの都市
②日本の地方都市における中心市街地の空洞化
③中心市街地の活性化の成功例–丸亀町商店街等
④コンパクト・シティを考える
⑤再開発とまちづくり–コムシティ
７回　人口減少問題と地方自治体
８回　データから政策を考えてみよう
–地方自治体の政策の比較，少子化問題等 -

９回～１１回　国際政治・国際比較から政策を考えよう
①国際比較による実証政策分析のススメ
②国際化に伴う政策分析の事例I：移民政策・社会統合
③国際化に伴う政策分析の事例II：通商政策・自由貿易

１２回～１４回　現代の社会問題を政策的に考えてみよう
①一億総中流から格差社会へ–日本における貧困を考えてみよう
②格差社会のなかの日本–日本のセーフティネットを考えてみよう
③政策過程と政策研究

１５回　総括

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50％；授業貢献度 …50％。　詳細は第1回目の講義で説明いたします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

◆予習用の読物として論文や記事等を指定いたしますので，授業前に目を通してきてください。
◆授業で配布された資料等を，授業後あらためてじっくり読み込んでください。また、授業内容を十分に復習して次の授業に臨んでください。
＊資料等は、Moodleに掲載する可能性もありますので、教員の説明をよく聞くようにして下さい。

履修上の注意　/Remarks

◆授業で取り上げる順番を入れ替えることがあります。また、学生の理解度等によって、内容を若干変更することがありますが、全体として内容に大きな変更はありませんのでご了承下さい。
◆本年は担当教員の都合で、第９回から第11回までの講義の担当者及び授業内容は、開講以降に連絡いたしますので、ご了承ください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「住み続けられるまちづくりを」「平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

政策分析入門 【昼】

担当者名 /Instructor	横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 三宅　博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科 休講

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	質的・量的な社会科学的な分析手法の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案や改善に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策分析入門	PLC115M

授業の概要　/Course Description

この授業では、社会で起きている様々な現象や問題を分析するための技術の習得を目的とします。
人間同士のコミュニケーションが多種多様であるように、現代社会とのコミュニケーション、すなわち社会的な問題や人間がつくった組織や制度、政策、法律といったものへの「近付き方」も様々です。この社会への「近付き方」を知り、変化する「人間がつくったもの」への改善策や解決策を提示するための基礎を構築する、具体的には社会科学的な分析手法を体系的に学ぶ授業となります。
分析手法を大きく質的な方法と量的な方法に分けて検討していきますが、ひとつの「近付き方」が唯一無二の方法ではないこと、また分析したい対象をいかに明確にするのか、どれだけ客観的に考察するのか、さらに出てきた結果をどう読み解くのか、といったことをそれぞれダイナミックに扱っていきます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、複眼的・論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを適切に表現することができる。
【コミュニケーション力】
多様なアクターと協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自律的行動力】
社会の諸問題への関心とキャリア意識を持ち続け、政策分析に取り組む意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特に指定はしません。必要に応じ、レジュメや資料をMoodleに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○伊藤公一朗（2017）『データ分析の力：因果関係に迫る思考法』光文社新書
○伊藤修一郎（2011）『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
○小池和男（2000）『聞きとりの作法』東洋経済新報社
○近藤克則（2018）『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
○佐藤郁哉（2008）『質的データ分析法：原理・方法・実践』新曜社
○名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
○ヘンリー・ブレイディーほか[泉川泰弘ほか訳]（2014）『社会科学の方法論争：多様な分析道具と共通の基準[原著第2版]』勁草書房
○松田憲忠・竹田憲史（2012）『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
○増山幹高・山田真裕（2004）『計量政治分析入門』東京大学出版会
その他、適宜指示します。

政策分析入門 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス【演繹と帰納】【理論と実証】
２回　分析方法を知る前に【リサーチ・クエスチョン】【仮説】【推論】【変数】
３回　質的な分析（１）フィールドワークにでかけよう
４回　質的な分析（２）観察結果の比較【参与観察】
５回　質的な分析（３）聞きとりの技法　【半構造化インタビュー】
６回　質的な分析（４）分厚い記述・薄い記述
７回　質的研究と量的研究の「交差点」
８回　量的な分析（１）数値データの利用と構築I【データの種類】【概念】【尺度水準】
９回　量的な分析（２）数値データの利用と構築II【社会調査】【ワーディング】【選択回答法】
１０回　量的な分析（３）計量的なデータ分析I【視覚化】【度数分布】【記述統計量】
１１回　量的な分析（４）計量的なデータ分析II【相関関係】【因果関係】
１２回　「政策を知る」ために（１）政策と法
１３回　「政策を知る」ために（２）条文を理解する
１４回　「政策を知る」ために（３）現代社会と政策・現状を分析する
１５回　分析方法の選択・まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み40%、課題（レポート・小テスト等計3つ）60%
（遅刻厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習はこのシラバスをよく読むこと、事後学習は（3つの課題[授業時間中の小テストを含む]を出す予定でもありますので）適宜レジュメ・資料・授業のノートを見直すといった復習や、次の授業とのつながりはどこかといった「振り返りの作業」をすることです。

履修上の注意　/Remarks

「政策科学入門I」で学んだことをふまえつつ、本授業では色々な分析方法を扱っていきます（「政策科学入門I」を履修済みであることが受講条件ということではありません）。
現状を把握したいとき、課題を解決するための方策を探りたいとき、その関心や方向性がひとによって多様であるように、分析方法もまた様々です。2013年度以降、1年次の必修となったこの科目は、毎回の出席が大前提の講義となります。2年次の2学期から始まるゼミでの活動の土台をこの授業で作っていきましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要とされる「読むこと、書くこと、話すこと、発表すること」に関するスキルの基礎を身に着けることを目指します。実際に討論や発表を準備し、授業中に行い、互いに評価しあうことで、着実にスキルを向上させていきます。加えて、授業レポートを書く際に必要な知識やスキルも学びます。なお、授業の内容は、履修者の要望やスキル習得の状況に合わせて変更することがあります。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントなどを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』、松本茂・河野哲也　著、玉川大学出版部、2007年。
『アカデミック・スキルズ–大学生のための知的技法入門　(第2版)』、佐藤望他　著、慶應義塾大学出版会、2012年。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　大学で学ぶこと・研究すること
第2回　自分に必要なスキルはなにかを考える
第3回　討論はなぜ必要か・討論のテーマを考える
第4回　討論のスキル
第5回　討論の実践I
第6回　討論の実践II
第7回　レポートとは何かを考える
第8回　レポートを書く上で必要な知識
第9回　書くために読むI
第10回　書くために読むII
第11回　レポートの書き方と学術倫理
第12回　レポートを相互評価する
第13回　発表の基礎
第14回　発表の実践
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み、討論・発表などの課題…100%

政策入門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に討論・レポート・発表など課題の準備を行うこと。授業後には各回のテーマについて復習すること。
授業では積極的に疑問・要望を知らせてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大学の学習では、ただ一方的に知識を教えられるだけではなく、自ら問いを発し、それを人々と協力しながら追究していくことが重要です。この入門演習では、スキルはもちろんのこと、大学での学びの姿勢はどうあるべきかを皆で考えていきたいと思います。

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	演習	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

本演習は「なぜ？」という問いに答えるための方法（社会科学方法論）の基礎を皆さんに身に着けてもらうことをその目的とします。

高校までのいわゆる「社会科」の学習においては、起こった（とされている）歴史的事実や、現代政治の仕組みに関する知識を学ぶことに重きが置かれていたことと思います。しかし皆さんが大学で学ぶ政治学をはじめとした社会科学においては、「なぜ特定の事象が起こったのか」、「なぜそのような仕組みができているのか」といった"因果（原因と結果）"に関する問いに取り組むことが重要な目的の一つとされています。そのため、入学後の早い段階で基礎的な社会科学の方法について学ぶことは、必ずやその後の大学における学習を豊かにしてくれることでしょう。

より具体的には、前半では社会科学方法論についての著作（後掲の久米 (2013)）を輪読し、担当者を決めてその内容を報告してもらったうえで全員で議論をしていきます。後半には皆さんそれぞれの興味関心に沿った「なぜ？」という問いを扱った論文を読み、同様に報告及び議論をしていきます。このように各人に報告をしていただく中で、報告の仕方やレジュメの切り方など、大学での知的生活における基本的なスキルを同時に身に着けていただきたいと思います。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
【自律的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

久米郁男 2013.『原因を推論する - 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各回で適宜指示します。

政策入門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（参加人数によって変更する場合があります）
第1回　オリエンテーション・自己紹介
第2回　文献講読①　久米 (2013)　第1章、レジュメの切り方、報告の仕方（見本）
第3回　文献講読①　久米 (2013)　第2章　レジュメの切り方　練習①
第4回　文献講読①　久米 (2013)　第3章　レジュメの切り方　練習②
第5回　文献講読①　久米 (2013)　第4章
第6回　文献講読①　久米 (2013)　第5章
第7回　文献講読①　久米 (2013)　第6章
第8回　文献講読①　久米 (2013)　第7章
第9回　文献講読①　久米 (2013)　第8章
第10回　文献講読①　久米 (2013)　第9章
第11回　文献講読①　久米 (2013)　第10章
第12回　レジュメの切り方復習/文献引用とレポートの書き方/文献の選定
第13回　文献講読②
第14回　文献講読②
第15回　文献講読②

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への貢献 50%、担当回における報告・資料の質50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者以外の方も、議論に貢献すべく文献の各回該当部を精読してくることが当然の前提とされます。成績評価の欄の記述に明らかなように、ただ出席してその場にいるというだけでは評価の対象にはなりません。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「なぁんだなんか読んでみんなでお話しするだけかぁ」とあなどるなかれ、先人の築いた学識を正しく吸収し、それについて議論をする力は、学問をする上での最重要な基礎体力といえます。報告者は、文中で引かれた関連する文献にも目を通し、同僚たちの疑問に自分が全て答えてやるというくらいの、報告者以外も、わからなかった点はあらかじめ自分で他の文献で調べてやるくらいの心持ちで臨んでみてください。

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、これから政策科学を研究する学生が１年生の時に学習しておくべき基礎的事項を身につけてもらうことにあります。大学で研究することは高度な内容も当然含んでいますが、基本的には「読み、書き、話す」といったことの延長線上にあります。したがって、本講義では、大学で「読み、書き、話す」にはどうすればよいかということについて、本演習担当者の経験をまじえて演習で学んでいただきます。

また、これをふまえ①社会科学における「仮説」型思考の重要性、②（結果の暗記ではなく）創造するプロセスの重要性、物事を多角的にみることの重要性、などについても基礎的な作業をしたいと考えています。

また、「パブリック・マインド」を涵養することの重要性についても学んでいきたいと考えています。

（到達目標）
【思考・判断力・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

刈谷剛彦『複眼的思考法ー誰でも持っている創造力のスイッチー』（講談社、2002年）
小笠原喜康『最新版　大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）
高根正昭『創造の方法学』（講談社、1979年）
川喜田二郎『発想法–創造性開発のために』（中央公論新社、1967年）
竹内薫『99.9%は仮説–思い込みで判断しないための考え方』（光文社新書、2006年）

政策入門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　導入 - 他者紹介および発声練習？
２回　I have a dream ！　大学に来た目的（キャリア・デザイン）についての討論
３回　図書館ツアー及び図書館の使い方（指示に従って図書館の利用法を学びます）
４回　大学で研究するとは？大学で「読み、書き、話す」
５回　プレゼンテーション（１）–自分の身近なことを時間内に発表する
６回　プレゼンテーション（２）–新聞記事等の話題をまとめて発表する
７回　プレゼンテーション（３）–同上
８回　「読んで」「発表する」（１）–社会科学（政策科学）の文献の輪読をかねて
９回　「読んで」「発表する」（２）–社会科学（政策科学）の文献を輪読をかえて
１０回　「読んで」「発表する」（３）–社会科学（政策科学）の文献を輪読をかねて
１１回　「読んで」「発表する」（４）–社会科学（政策科学）の文献を輪読をかねて
１２回　「読んで」「発表する」（５）–社会科学（政策科学）の文献を輪読をかねて
１３回　レポートを書く（１）–引用注の付け方等レポートについて
１４回　レポートを書く（２）–実際に書いてみる
１５回　まとめ

＊上記のスケジュールは、受講生の理解度等によって変更することもあります。あくまで予定として考えてください。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告・授業貢献度…　80　%　　レポート等　…　20　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業に際しては、割り当てられたところを必ず準備して参加するようにしてください。特に、輪読等の場合は、報告者でなくても必ず全員読んで（事前に準備して）くるようにしてください。また、授業で学んだことは必ずレジュメ等で復習しておくようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

この演習では、政治や行政をめぐる様々な問題を対象として、情報収集・整理、分析、プレゼンテーション、討論など、社会科学の分野のみならず実社会でも求められる基本能力のトレーニングを一緒に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。

①「公立図書館と指定管理者制度」、②「学校選択制」、③「首相公選制」などについて報告と議論を行う予定です。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の進め方、成績評価について
第２回　資料収集方法（図書館等の利用案内含む）、レジュメの作り方、報告の仕方
第３回　報告と議論①　公立図書館と指定管理者制度
第４回　報告と議論①　学校選択制
第５回　報告と議論①　首相公選制
第６回　報告と議論②　公立図書館と指定管理者制度
第７回　報告と議論②　学校選択制
第８回　報告と議論②　首相公選制
第９回　中間まとめ
第１０回　討論の準備
第１１回　討論　公立図書館と指定管理者制度
第１２回　討論　学校選択制
第１３回　討論　首相公選制
第１４回　最終報告
第１５回　まとめ

政策入門演習I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容・討論内容…100％　　欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

＊受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意　/Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

政策・政治分析に必要な，社会科学の方法論的な素養を身に着けるとともに，大学において主体的な学習を行うための作法・技術・ノウハウを指導します。学問の扉を開くにあたっての基礎的な技術や理解の習得と，社会科学の方法論に関する文献の講読を行います。
「政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現できる」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている」ことが単位授与上のディプロマポリシーとなります。

教科書　/Textbooks

初回授業時に指定します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．イントロダクション，自己紹介
2．レジュメの作り方，文献の読み方
3．図書館講習（若干の前後の可能性あり）
4．文献講読と報告 1
5．文献講読と報告 2
6．文献講読と報告 3
7．文献講読と報告 4
8．文献の引用・参照の仕方
9．プレゼンテーション技術
10．期末レポート案の報告 1
11．期末レポート案の報告 2
12．学術的レポート・報告書執筆法伝授
13．個人レポート草稿推敲 1
14．個人レポート草稿推敲 2
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発言・議論・参加：40%，報告担当のパフォーマンス：30%，最終レポートのクオリティ：30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

文献講読の際には，当該箇所を全員事前に読んできている前提で授業を進めます（事前のコメント提出を推奨します）。各回の授業後には，その回に学んだことを復習することで，理解の定着につとめましょう。

政策入門演習I 【昼】

履修上の注意　/Remarks

演習科目は参加し，相互に意見を交わしあう事が授業の本旨です。そのため，出席回数が足りない場合には単位を出すことができません（正当な理由がある場合は除く）。遅刻･欠席の場合の連絡は必ず行うようにしましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

大学生の学習方法は高校の暗記中心の受験勉強とはかなり異なります。大学ではもっと自分を開花させることを念頭においてください。本授業では、まず、大学生として自覚を持つことができる学習を行い、その中では、自らが何に興味があるのかを探り、方法論を勉強し、結果を導き出すという作業を行います。同時に、フィールド・ノーツの作成の仕方、ディベート、グループワークやインタビューを通じての記録作成スキル、コミュニケーション能力やファシリテーション能力をつける必要があります。次に、政策科学科に属している以上、政策科学の学習は非常に重要でそのことを学習します。

大学の４年間の１年目をきちんと学習するかしないかで、それ以降の学年の学習態度や生活態度が決定されるといっても過言ではありません。自分のしっかりとした目標をたて、それの実現に向かって頑張ってください。本授業では、単に知識を頭に入れるだけでなく、現場での実践や体験も重んじます。

{ 思考・判断・表現力 } 社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
{ コミュニケーション力 } 意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
{ 自律的行動力 } 公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える

教科書　/Textbooks

* 中道寿一編『政策研究』福村出版、2011年
* 森時彦『ファシリテーターの道具箱』ダイヤモンド社、2008年
* 新井和広・坂倉杏介『グループ学習入門』慶應技術大学出版会、2013年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

* 森靖男『大学生の学習テクニック』大月書店、1994年
* 高橋くるみ『CAの私がVIPのお客様に教わった話し方のエッセンス』大和書房、2014年、650円
* グループワーク用の教材・資料 (自ら準備の必要なし)
* 安藤明之『初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析』日本評論社、2009年、2500円

政策入門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「政策入門演習I」の目的・内容説明、アイスブレーキング（自分探しと相手への理解）
第２回　大学生としての心得１～勉学、生活やアルバイトやなど
第３回　大学生としての心得２～コミュニケーションやマナーなど　＆　ゼミ合宿に向けての準備
第４回　ディベートとは何かを学習
第５回　ディベート　実施
第６回　ファシリテーション技法の取得２
第７回　コミュニケーション技法の取得１
第８回　藍島でのフィールドワークの準備
第９回　その振り返り　　＆　コミュニケーション技法の取得２
第10回　教科書『政策研究』の実際１の輪読と議論
第11回　教科書『政策研究』の実際２の輪読と議論
第12回　北九州ESD協議会との交流～地域問題を考える
第13回　その振り返り
第14回　韓国・海洋大学との交流に関する準備
第15回　まとめ

課外授業：藍島でのフィールドワーク、４月か５月にゼミ合宿、
新型コロナ禍が終わっていれば、1学期か夏季休暇中に韓国プサンの海洋大学の学生との合同グループワーク調査活動

成績評価の方法　/Assessment Method

参加態度…50％　小試験（指定資料の読了事前確認用）…20％　グループワークへの参加度…30％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は教科書の該当箇所を読み、事後学習はゼミで学習したことを復習すること。

履修上の注意　/Remarks

藍島（小倉北区）でのフィールド・ワーク、4月か5月のゼミ合宿、夏季休暇中の韓国プサンへのスタディ・ツアーを実施する予定です。そのための準備・事後学習をしてもらいます。輪読用指定図書の読了。
屋外での活動については危険に遭遇する機会が屋内に比べて多いので、自ら安全には徹底して留意しておくこと。
韓国での海洋大学との共同セミナーの言語は英語なので、日頃から英語学習も行います。
自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な、主体的な態度で政策入門ゼミにかかわってほしい。夏季休暇は重要なので、完全に大人としての自覚を持てるような生活を送ってほしい。

キーワード　/Keywords

主体性、フィールドワーク、ディベート、グループワーク、大学生としての学習方法

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

本演習は、大学生活・研究活動に必要なスキルと能力を学んでもらうことを目的としています。大学にはどんな施設があるのか、そして勉強するときにどのような情報をどのように調べればよいのかを知っておいたほうがいろいろと便利だろうし、また演習のような授業では"レジュメ"を作ったり、レポートを書いたり、またみんなの前で研究内容を発表したり、それについて議論したりといろいろな知識と技術が必要になってきます。こうした大学生として立派に成長できるようにサポートするのがこの演習の主題です。

（到達目標）
DP５　自律的行動力：公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。
DP４　コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
DP３　思考・判断・表現力；社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。

教科書　/Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　はじめまして【メンバーの特徴を確認する】【大学生の心得】
２回　大学を旅しよう【キャンパスふしぎ発見】
３回　大学を旅しよう【キャンパス不思議発見の報告】
４回　大学生として羽ばたこう①【図書館を知る】
５回　大学生として羽ばたこう②【情報を集める】
６回　大学生として生き延びよう①【レジュメづくり】【レジュメとは】
７回　大学生として生き延びよう①【レジュメを作ってこよう】
８回　大学生として生き延びよう②【プレゼンテーション基礎】
９回　大学生として生き延びよう②【プレゼンの準備】
10回　大学生として生き延びよう②【プレゼン大会】
11回　大学生として生き延びよう③【文献に慣れよう】
12回　大学生として生き延びよう③【文献を読んでみよう】
13回　大学生として成長しよう【政策立案】【チーム編成】
14回　大学生として成長しよう【政策立案の準備】
15回　大学生として成長しよう【政策立案プレゼン大会】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に臨む積極性、報告の仕方・内容などを基準に判断します。何事にもがむしゃらで一生懸命な人は評価されます。
積極参加点+読書課題･･･１００％。

政策入門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

プレゼンテーションの準備、文献の発表準備、政策立案のチーム作業などが事前に必要です。また、事後はみんなが当日質問したことについて、振り返ってもらいます。

履修上の注意　/Remarks

とにかく前向きに取り組んでみよう。毎回休まないように健康に気をつけましょう。
自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

目一杯、大学生を楽しもう（^o-）b☆

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

本演習の目的は、大学における講義・演習・実習において必要な技法を習得することです。具体的には、日常生活や社会現象のなかにある問題の発見、情報・資料・データ等の収集・整理、レジュメの作成、プレゼンテーション、議論を受講生が実際に行うことで、これらの技術を身に付けることを目指します。
実際の演習では、情報収集の仕方（図書館の使い方等を含む）と合わせてレポート・論文の書き方を学び、その後、受講生のみなさん自身の興味関心に基づいて政策や制度、地方自治に関する文献を選んでもらい、レジュメを作成し、報告をする、といったことを行う予定です。報告担当以外の受講生も、事前に論文を読み込み、演習に臨むことが前提となります。また、受講生が作成したレジュメや報告の仕方、議論への貢献について等を互いに講評することで、客観的な評価・考察・批評といったスキルのアップもはかりたいと考えています。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

特に指定はしません。
必要に応じて適宜レジュメ・資料をMoodle and/or Teamsに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社
○苅谷剛彦（2002）『知的複眼思考法：誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社+α文庫
○川崎昌平（2020）『大学1年生の君が、はじめてレポートを書くまで。』ミネルヴァ書房
○酒井聡樹（2017）『これからレポート・卒論を書く若者のために.第2版』共立出版
佐藤雅昭（2016）『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
○名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
○戸田山和久（2012）『論文の教室：レポートから卒論まで．新版』NHKブックス
ほか、議論や発表に必要な文献については適宜指示します。

政策入門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス・課題①についての説明
２回　課題①プレゼンテーション「みんなにすすめたいこの一冊」
３回　図書館ツアー【文献検索・資料収集】【図書館の利用・活用】
４回　レポート・論文の書き方（１）　【なぜ書くのか？どうやって書くのか？】【情報収集の方法】
５回　課題②プレゼンテーション「気になったニュースの紹介」
６回　レポート・論文の書き方（２）　【先行研究】【リサーチクエスチョン】【レポートの「良し悪し」】
７回　レポート・論文の書き方（３）　【参考文献】【引用の仕方】【レジュメの作成】
８回　文献を探そう【興味のある政策分野の学術論文を検索・選択する】
９回　課題③文献報告（１）
１０回　　文献報告（２）
１１回　　文献報告（３）
１２回　　文献報告（４）
１３回　文献報告の講評【ゼミ生からのコメント】、学期末レポート（課題⑤）についての説明
１４回　課題④プレゼンテーション「わたしのまち」or「キャリア・デザイン」
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

課題50%、議論・質疑応答への参加50%
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意　/Remarks

入門演習を受講するにあたっての特別な準備は必要ありません。ただ、世の中で起きている事件・事象に関心を持ち、それに対して自分はどう考えるのか等、常にアンテナを張った生活をすることが、この演習の目指す「大学における講義・演習・実習において必要な技法の習得」に役立つと思います。また演習の醍醐味は議論です。恥ずかしがらず遠慮せず、積極的に自分の意見や疑問を述べることに是非、慣れて下さい。なお上記スケジュールは受講生の人数等により変更することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎年、第一回目の課題として、「みんなにすすめたいこの一冊」を発表してもらっています。小説・ノンフィクション・伝記・絵本・漫画など、ジャンルも多様、またその本との出会い方・思い入れも「子どもの時から何度も何度も読み続けている」「部活の先輩から教わった自分のバイブル」「入試の勉強中に読み、続きが知りたくて塾の帰りに本を探した」「辛いことがあったときに泣くために読む」「高校の時、担任の先生が熱く語ってくれた思い出の一冊」「両親の子どもへの気持ちが初めてわかった本」「将来の夢のために読む」…本当に様々で興味深いことこの上ありません。この発表に際し、いつも思うのは「活字の威力」とそれに触れたみなさんの「想像力の豊かさ」「分析・解釈の多様性」。入門演習でも複数の論文・文献を読み、議論をしますが、「活字の威力」の長所と短所、「想像力」「分析・解釈の多様性」の素晴らしさと限界、受講生とともに私も学んでいきたいと思います。

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、大学レベルでの学習と研究に必要とされる「聞く力」「課題発見力」「情報収集力」「情報整理力」「読む力」「データ分析力」「書く力」「プレゼンテーションカ」という、8つの基礎力を習得することを目指します。

授業では、実際に1人あるいは、2 - 4人からなるグループで討論や発表を行い、互いに評価しあうことで、着実にそれらの力を向上させていきます。同時に、図書館と上手に付き合う方法も学んでいきますので、「図書館の達人」にもなってください。また、フィールドワーク（野外研修）も行い、その体験を議論し、実践力を向上させます。レジュメやレポートの書き方も指導します。

なお、授業の内容は、履修者の要望や基礎力習得の状況に合わせて変更することがあります。

【到達目標】
思考・判断・表現力：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
自律的行動力：公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、必要な資料などのコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田剛史・林創『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年。

政策入門演習I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　自己紹介、オリエンテーション
第2回　「自分の故郷紹介」　プレゼンテーションと評価をしてみよう - 1
第3回　「自分の故郷紹介」　プレゼンテーションと評価をしてみよう - 2
第4回　「自分の故郷紹介」　プレゼンテーションと評価をしてみよう - 3
第5回　図書館と上手に付き合う方法を学ぼう（図書館ツアー）
第6回　参考文献と注の付け方を学ぶ
第7回　プレゼンテーション力を身に付けよう - 書評を書く - 1
第8回　プレゼンテーション力を身に付けよう - 書評を書く - 2
第9回　情報収集、情報整理力を習得しよう - 1
第10回　情報収集、情報整理力を習得しよう - 2
第11回　読んで、調べて、発表しよう - 1
第12回　読んで、調べて、発表しよう - 2
第13回　読んで、調べて、発表しよう - 3
第14回　読んで、調べて、発表しよう - 4
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の授業での報告や議論、発表などの平常点（60%）と、レポート（40%）で評価します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後学習についてはオリエンテーションで指示しますが、輪読する文献や資料は事前にすべて読んでくること、わからない点は調べてくることは当然の義務です。

履修上の注意　/Remarks

無断欠席が2回以上あると単位は出しません。
毎回積極的に授業に参加してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業を通して、自分の研究テーマや課題を見つけてください。

【SDGs】目標の10、16に主に関連しています。

キーワード　/Keywords

政策入門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
1年次	2単位	1学期	演習	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策入門演習 I	SEM111M

授業の概要　/Course Description

大学における学習では、自ら学ぶ主体性とともに論理的に思考し分析する能力や課題解決に向けた提案能力を高める必要があります。
政策入門演習では、文献・資料の集め方、レジュメ・レポートの作成方法、ディスカッションの作法などの基礎的な技法を学んだあと、相互に学びあうグループ討議を行います。「大学における学びの基礎」を習得することを目的とします。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、学際的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

○小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○岩崎美紀子(2008)『「知」の方法論』岩波書店
○伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
・ その他の参考書は、講義の中で紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション
2．問題関心と情報収集 - 文献資料の読み方・まとめ方
3．文献・資料の探索・収集方法 - 図書館の活用
4．地域の活性化とは？ - 地域に関心を持つ
5．レジュメの書き方
6 ～ 9．新聞論評、レジュメ作成演習①～④
10．効果的な話し方、グループディスカッション
11．レポートの書き方
12．メディアリテラシー
13. ディスカッションの作法
14．ロジカルシンキング
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業への取組姿勢、貢献度、発表70%、課題レポート30%

政策入門演習I 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
・無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、食事などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない場合は退室を命じる場合があります。
・授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、ディスカッションに参加する姿勢が求められます。
・授業計画は、進捗状況により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・地域活性化やまちづくりに興味をもち、前向きに取り組む学生を歓迎します。
・演習では、論理的思考とともに、ディスカッションの作法、マナーを重視します。

キーワード　/Keywords

・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要　/Course Description

演習Ⅰでは、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行い、これらの分野に関する深い理解と、高度な問題発見能力・論理展開能力を身に着けることを目指します。テキストは履修者との相談の上で決定し、できる限り履修者の問題関心に沿った研究課題を採用します。また、政治思想史、現代政治理論や社会の政策的諸課題に関する研究課題を各人で決定し、レポートの執筆を行います。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

輪読・研究課題に応じて適宜選択します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　政治理論研究の基礎
第2回　古代政治思想Ⅰ　【ソクラテス】
第3回　古代政治思想II　【プラトン】
第4回　古代政治思想III　【アリストテレス】
第5回　研究進展のためのテーマ・ディスカッション
第6回　中世政治思想Ⅰ　【アウグスティヌス】
第7回　中世政治思想ⅠⅠ　【トマス】
第8回　中世政治思想III　【中世末期】
第9回　研究進展のためのテーマ・ディスカッション
第10回　近代政治思想へⅠ　【ルネサンスⅠ】
第11回　近代政治思想へⅠⅠ　【ルネサンスⅠⅠ】
第12回　近代政治思想へⅠⅠⅠ　【宗教改革Ⅰ】
第13回　近代政治思想へⅠⅤ　【宗教改革ⅠⅠ】
第14回　近代政治思想へⅤ　【まとめ】
第15回　研究進展のためのテーマ・ディスカッション

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究：100％

演習II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に輪読テキストを読むこと。授業後には、授業中の討論をもとに、自らの考えをまとめてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要　/Course Description

大まかには民主政治と政治意識に関わる下記のような各種テーマについて比較政治・国際政治の観点から検討します。様々な政治現象が「どうあるべきか」ではなく，「実際どうなっているのか」資料やデータを通じて実証的に明らかにしていきましょう。欧米・中南米・中東・アフリカ・ロシア・アジア・日本どこも対象地域です。

キーワード
選挙 / 政党 / 政治意識 / 世論調査 / 民族問題 / ナショナリズム / 移民 / 極右・極左 / 民主主義 / 独裁 / 政治体制 / 政治暴力 / 内戦 / 統計 / 計量分析 / 資料調査

「政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現できる」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている」ことが単位授与上のディプロマポリシーとなります。

教科書　/Textbooks

初回イントロダクション時，もしくはそれ以前の段階で，担当教員ウェブページなどを通じて告知。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の進展に応じて指定

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．初回イントロダクション
２．資料の解説・分担決め
３．文献講読【文献１①】
４．文献講読【文献１②】
５．文献講読【文献２①】
６．文献講読【文献２②】
７．文献講読【文献３①】
８．文献講読【文献３②】
９．文献講読【文献４①】
10．文献講読【文献４②】
11．文献講読【文献５①】
12．文献講読【文献５②】
13．リサーチ案報告【1週目】
14．リサーチ案報告【２週目】
15．全体の総括および予備回

演習II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への参加貢献度40%　報告の適切性30%　期末課題の品質30%

無断の欠席･遅刻は減点要素であり，報告担当のドタキャンは落第とします。

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

文献講読時は，授業時間外（前）に読んできていることが前提です。研究発表時には，授業時間外に同じく用意が行われていることが当然のこととして期待されます。

履修上の注意　/Remarks

2021年度は担当者の在外研修予定のためイレギュラーなスケジュールとなっています。科目担当者と密に連絡を取り，適切な履修計画を立ててください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード　/Keywords

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要　/Course Description

事実・社会的事実の違い、価値と事実、主観性・客観性など、社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方について検討する。また、論理的考え方の向上が狙いである。

演習Iのキーワード：社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方。
演習Iの目標：①社会現象や問題を発見し、資料を調べ、レポートを書く。
②人間と社会の関係、政治、政策、経済現象について調べ、プレゼンテーションし、議論する。
③新聞記事を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3 - 4分程度で）。

演習Iの具体的内容：
①自我と他人間の関係・自我と社会との関係・事実とデータの関係、そして科学と考えることの意味について知ってもらう
②仮説・因果関係・論証の進め方、見方について知ってもらう。
③調査方法について勉強し、研究テーマに関するリサーチ・デザインを行う。
④SDGsのエネルギー・食べ物・水問題・気候危機対策など社会・経済・政治・政策に関する新聞記事を読んできて、それについて話してみる（毎週、約3 - 4分程度で）。
⑤以上のことを踏まえ、各自、毎週、1500字位のレポートを書き、それを基に発表する。発表後、互いにチェックして、返す（考える能力・書く能力・話す能力を高め、また、相手の書いたものをチェックすることで、自分の書き方などの問題点を改善していく。）

演習Iの活動：学生自らの活動が多い（コンパ、よそのまちの探検、学生自らの議論、他大学ゼミとの交流など）、バスツアーなどフィールドリサーチを行う。

（到達目標）
【思考・判断】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考 し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し自分の見解の質を 高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

演習II 【昼】

教科書　/Textbooks

『99・9%は仮説–思いこみで判断しないための考え方–』（竹内薫著 光文社新書 2013年 ￥756）
『統計数学を疑う』（門倉貴史著 光文社新書 2006年 ￥777）

その他は、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ◯)　/References（Available in the library: ◯ ）

『自分で調べる技術–市民のための調査入門』（宮内泰介著 岩波書店 2004年 ￥777）
『フィールドワークの技法–問いを育てる、仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ￥ 3,045 ）
『参加型ワークショップ入門』（野田直人著 明石書店 2004年 ￥2,940 ）
『社会学研究法リアリティの捉え方』（今田高俊編 有斐閣アルマ 2000年 ￥ 2,415 ）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　資料の探し方や読み方
３回　社会科学方法と調査方法論I
４回　社会科学方法と調査方法論II
５回　社会科学方法とフィールドリサーチ（課外活動を含む）
６回　論文の書き方とディベートのやり方
７回　ディベートのやり方（司会・ワークショップの進行）
８回　新聞記事の3-4分プレゼンテーションI
９回　新聞記事の3-4分プレゼンテーションII
１０回　社会問題について各自、司会、コメンテーター、ディベーターとして議論を進めていく
１１回　社会問題について各自、司会、コメンテーター、ディベーターとして議論を進めていく
１２回　社会問題について各自、司会、コメンテーター、ディベーターとして議論を進めていく
１３回　仮説・統計学の問題などの本について議論
１４回　仮説・統計学の問題などの本について議論
１５回　まとめと夏休のレポート作成について

成績評価の方法　/Assessment Method

報告と議論（80%）、授業への貢献（20%）

レポートの書き方の例
私は「夫婦別姓は正しくない」と思う。なぜならば夫婦別姓は家族間の一体感を低下させる恐れがあると考えられるからである。
船橋洋一（朝日新聞コラムニスト）は、夫婦別姓が未婚女性の結婚率を高める方法であると論じている。船橋洋一はここ数年の20-30代女性の結婚忌避現象に関して、結婚による改姓をその主要因としている。具体的には、、、、
　これに対して私は反対する。夫婦別姓は、社会的な安定感を崩壊させるとともに、家族間の同一感を低下させる。これは、、、、、、、、、、からである。
また、夫婦とは、、、家族とは、、社会の中で一番重要な単位であり、基礎でもある。
これに関して、、、、福岡太郎は、、、、と論じていいる。太郎の指摘のとおり、家族の、、、社会的、文化的な機能や意味から、私は、、、に同感する。反面、船橋洋一は、、、面を軽視していると考えられる。従って、私は「夫婦別姓が正しくない」、と思う。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題・事後学習内容については、
1 ゼミホームページ　　http://shinzemi.wiki.fc2.com/
2 申　ホームページ　　http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm
3 学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「本を読め、人に会え、旅をしろ」という言葉があります。
大学時代はまさにこれでした。数え切れないほどの試行錯誤がありました。
いま振り返れば、一番の黄金時代でした。

「大学」という「時」を過ごしている君達に言えることは、
まさに、これ、「チャレンジ」です。

キーワード　/Keywords

・考える力　・論理力
・調査　・仮説　・ウソと情報　・事実と真実

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要 /Course Description

「政策研究を通じて地域(社会)貢献をする」ことをゼミの理念として、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらに現状分析に基づき政策提言を行う能力を習得することをゼミの目的としています。ゼミでは「個人研究」と「グループ・プロジェクト」の両方を行います。また、学生主体で企画した政策調査も行う予定です。

受講者には、現代日本の公共政策のなかで何が自分にとって問題なのか、そのために自分はどのような研究をするのかという明確な問題意識をもって参加する（あるいは本演習を通じてそれを養う）ことを望みます。特に、本演習では抽象的な政策の議論ではなく、具体的な事例に即して調査・研究し、政策提言する能力を養うことに力点を置きたいと考えています。

また、パブリック・マインドの涵養はゼミの中心的なテーマでもあり、パブリック・マインドを涵養するための学生の自主的な活動をゼミでも行いたいと思います。

演習Iでは、おおよそ以下のようなことを中心にゼミを進めます。
①政策研究では「問題とは何か」を認識すること、そして「問題」を自らの「問題（課題）」として切り取ってくることが重要になります。そこで、現代日本における重要な政策課題に関する文献を読み、ディスカッションするなかから「問題とは何か」について考えることにします。
②以上のトレーニングと並行して、「政策リサーチ」と「政策提言」について、すなわち、現状分析から政策提言にいたるまでについての基礎固めをします。特に、伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法–』を輪読して政策研究の基礎固めをします。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法–』（東京大学出版会、2011年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献などの必要な文献も、その都度指示します。

演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

演習Iでは、基礎的な文献を輪読しながらこれから政策研究をするための基礎固めを行います。

第１回　導入
第２回　各自の研究テーマについて
第３回　リサーチ・クエスチョンとは何か①
第４回　リサーチ・クエスチョンとは何か②
第５回　仮説とは何か
第６回　仮説のたて方
第７回　現状確認型リサーチ、原因探究型リサーチ
第８回　政策提言型リサーチ
第９回　文献講読①
第１０回　文献講読②
第１１回　文献講読③
第１２回　文献リサーチの方法
第１３回　文献講読④
第１４回　文献講読⑤
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度　・・・・80　%、レポート等・・・・20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

普段のゼミに際しては割り当てられた箇所のプレゼンの準備をしてゼミにのぞんでください。また、輪読を行っている場合には、授業で読んだ箇所の復習も必ず行って、次回以降の授業にのぞんでください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要　/Course Description

３年生以降における専門的な研究に備えて、情報収集・整理、分析、プレゼンテーションなど基本能力のトレーニングを進めていきます。資料収集、レジュメ作成、報告、討論などを中心に進めていきます。受講生の関心に合わせて題材はできるだけ広く設定したいと思っています。
①「公立保育所民営化」、②「ニート」、③「夫婦別姓」について、報告と議論を行う予定です。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いたいと思っています。必要部分をコピーし配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の進め方、成績評価について
第２回　レポートの書き方
第３回　報告と議論①　公立保育所民営化
第４回　報告と議論①　ニート
第５回　報告と議論①　夫婦別姓
第６回　報告と議論②　公立保育所民営化
第７回　報告と議論②　ニート
第８回　報告と議論②　夫婦別姓
第９回　中間まとめ
第１０回　討論の準備
第１１回　討論　公立保育所民営化
第１２回　討論　ニート
第１３回　討論　夫婦別姓
第１４回　最終報告
第１５回　まとめ

演習II 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容・討論内容…100％　　欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

＊受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意　/Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要　/Course Description

本演習では、現代民主政治の理論的・実証的分析に関する文献を講読することで、民主主義諸国における政治に対する知識、見方を養うとともに、政治学の論文を社会科学的な観点から批判的に読む方法を身に着けることを目的とします。演習の最終目標（最終課題）は、各自の関心に則って論文を一本選んでもらい、その内容の要約と評価、すなわち「書評」を書いてもらうことです。ゆくゆく卒業研究等に向かうにあたってこうした先行研究の批判的検討は不可欠になるため、早めにそのトレーニングをしていきましょう。

民主主義諸国の政治に関心のある方なら幅広く歓迎しますが、教員の専門上、民主主義体制における政治エリート（議員、執政長官、官僚など）とその集団（政党など）の分析が中心的なテーマとなります（よくわからなければ、後掲の建林・曽我・待鳥 (2008)でカバーされているようなテーマに関心がおありなら良いマッチングといえるでしょう）。

具体的には、前半では教員が選んだ日本語及び場合によっては英語の文献について担当を決めて報告をしてもらい、全員で議論をしていきます。後半部は各人が選んだ文献について報告・議論をし、この報告を叩き台に最終課題を執筆してもらいます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

各回で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史 2008.『比較政治制度論』有斐閣アルマ

演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（参加人数によって変更する場合があります）
第1回　オリエンテーション・自己紹介・担当決め
第2回　文献講読①
第3回　文献講読①
第4回　文献講読①
第5回　文献講読①
第6回　文献講読①
第7回　文献講読①
第8回　興味関心、講読する文献についての発表
第9回　文献講読②
第10回　文献講読②
第11回　文献講読②
第12回　文献講読②
第13回　文献講読②
第14回　文献講読②
第15回　予備日

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への貢献40%、報告及び資料の質30%、最終課題の質30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者以外の方も、議論に貢献すべく文献の各回該当部を精読してくることが当然の前提とされます。成績評価の欄の記述に明らかなように、ただ出席してその場にいるというだけでは評価の対象にはなりません。

履修上の注意　/Remarks

・無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。
・履修“前”に参考書を熟読しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要　/Course Description

本演習では、日常生活で感じる身近な事柄から政策を考え、グループワークにより、問題の背景などの現状を把握する技術を学ぶことを目的とします。また現状を理解し、仮説の検証を行い、政策提言できるまでの分析手法を習得し、さらに調査結果の発表を通じ、他者に伝えるスキルを身に付けるということもゼミの目的となります。
また個人の研究活動としては、評価研究（地方自治体・中央省庁での行政活動に対する評価や、行政と関連する制度・組織の評価など）の観点から探究したいテーマを検討し、それに応じたリサーチクエスチョンを設定するなど、分析を進めるために必要な土台の構築を目指します。受講生の個人研究のテーマが定まるまでの間は、行政・地方自治に関する文献を輪読し、議論を行います。また研究テーマの決定までに、受講生は全員、自身のテーマやそれについて調べたことなど、その経過についての報告をし、これについての討論も行います（報告・討論とも内容・表現が悪い場合にはやり直してもらうことがあります）。演習Iの最後に「研究計画書」を作成し、演習IIIII（3年次）につなげていきます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える 姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社
○伊藤修一郎（2011）『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
○近藤克則（2018）『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
　佐藤雅昭（2016）『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
○酒井聡樹（2007）『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
○戸田山和久（2012）『新版論文の教室：レポートから卒論まで』NHKブックス
○名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
その他、適宜指示します。

演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス
２回	調査企画と論文作成のために：テーマの設定、情報収集、計画
３回	文献輪読（１）　【社会科学的な分析方法とは？】
４回	文献輪読（２）　【先行研究の検討はなぜ必要か】
５回	文献輪読（３）　【リサーチクエスチョン】【仮説】
６回	文献輪読（４）　【量的分析】
７回	実証分析とは（１）　【社会調査】【聞き取り】
８回	実証分析とは（２）　【統計的な処理】【事例研究】
９回	調査テーマの検討と議論
１０回	調査テーマの決定
１１回	研究テーマについての報告と質疑・議論（１）
１２回	研究テーマについての報告と質疑・議論（２）
１３回	研究テーマの再検討：質疑を受けたうえでのテーマの妥当性の検証
１２回	調査テーマに関するレビューの報告・整理（１）
１３回	調査テーマに関するレビューの報告・整理（２）
１４回	研究テーマの決定【研究計画書】
１５回	演習IIに向けての調査計画の確認ほか、まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告40%、議論への参加・貢献40%、学期末の課題（研究計画書の作成・提出）20%
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミ全体の活動（調査設計）と個人の活動（ゼミ論文のための研究）の両方が同時進行する慌ただしいゼミですが、両活動に共通する文献を輪読していく予定です。また「現場」にいくことと「机上」でじっくり考えること、どちらも大切だということを是非、実感して欲しいと思っています。

キーワード　/Keywords

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要 /Course Description

「多文化共生社会を創るには？」というテーマの下で：
① LGBT（レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーと称される性的マイノリティ）の人権や権利
② 男女格差やジェンダーの主流化

このような問題を、宗教や慣習による制約などを考慮に入れつつ、他のアジア諸国や欧米の事例を比較検討しながら、日本の状況を分析・考察します。また、テーマに関係する映画を見たり、ゲストの招請もします。

②については、JICA（国際協力機構）主催「行政官のためのジェンダー主流化研修」のために毎年来日する世界の行政官との交流会を視野に入れて行います。この交流会を積極的に企画することを受講生に求めます。

さらにこの演習は、「政策実践プロジェクトI」とともに実施し、テーマに沿ったフィールドワーク(野外研修）も行います。

【到達目標】
思考・判断・表現力：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
自律的行動力：公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの
関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

○砂川秀樹『カミングアウト』朝日新聞出版社、2017年。
○平良愛香『あなたが気づかないだけで神様もゲイもいつもあなたのそばにいる』Gakken、2017年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○吉田昌史・南和行『僕たちのカラフルな毎日：弁護士夫夫の波乱万丈奮闘記』産業編集センター、2016年
○上川あや『変えてゆく勇気：「性同一性障害」の私から』岩波新書、2007年。
○南和行『同性婚：私たち弁護士夫夫 (ふうふ) です』 祥伝社、2015年。
その他、授業の中で紹介します。

演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション
２．研究の進め方（１）（研究計画、研究テーマの設定、リサーチクエスチョン）
３．研究の進め方（２）（研究の方法）
４．各自の研究テーマの紹介①
５．各自の研究テーマの紹介②
６．文献精読①、政策事例研究①
７．文献精読②、政策事例研究②
８．文献精読③、政策事例研究③
９．研究方法論文献精読①、政策事例研究④
10．研究方法論文献精読②、政策事例研究⑤
11．研究方法論文献精読③、政策事例研究⑥
12～14．政策研究報告（各自の研究テーマの調査状況報告）
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッションへの参加姿勢と授業への貢献（60％）、レポート（40％）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿った自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・無断欠席を2回以上すると、単位は出しません。
・理由のない遅刻は減点します。
・授業計画は、政策実践プロジェクトの進捗状況などにより変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます。

【SDGs】目標の１、５、10に主に関連しています。

キーワード　/Keywords

LGBT、カミングアウト、アウティング、性同一障害

演習II 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅱ	SEM212M

授業の概要　/Course Description

演習I、政策実践プロジェクトIは併せて実施するほか、３年生と合同演習を行う予定です。
本演習は、「地域資源の活用による地域創造と地域（都市）の魅力形成」など都市・地域政策に関するテーマを扱います。
演習Iでは、研究の進め方の説明、まちづくりや都市政策に関するテキストの輪読、学生が自ら関心のある政策テーマに関する政策研究報告及びディスカッションなどにより構成され、政策を体系的に学びます。
学生には、テキストの要約にとどまらず、自分の見解や関連情報を付加するなどの主体的な取り組みを求めます。
さらに、これから研究調査を本格的に行うために必要な「考える力」「探究する力」のレベルアップを重点的に行い、知的方法論の取得を目的とします。
なお、演習Iは後期から開始されるので、前期は自主研究を行い、７月頃に研究成果を報告する機会を設ける予定です。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

演習II、演習IIIと共用
○岩崎美紀子(2008)『「知」の方法論』岩波書店
○伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ　地域再生の見取り図』有斐閣
（絶版のためコピーを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○戸田山和久(2012)『新版 論文の教室–レポートから卒論まで』NHK出版
○石井一成(2011)『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社
○小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
・その他講義の中で適宜紹介します。

演習II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション
2．新聞論評①、輪読①（まちづくり・地域政策）
3．新聞論評②、輪読②（まちづくり・地域政策）
4．新聞論評③、輪読③（まちづくり・地域政策）
5．新聞論評④、輪読④（まちづくり・地域政策）
6．研究の進め方①、地域創造事例研究①
7．論文・図書紹介①、輪読①（知の方法論）
8．論文・図書紹介②、輪読②（知の方法論）
9．論文・図書紹介③、輪読③（知の方法論）
10．研究の進め方②、地域創造事例研究②
11．政策研究報告①（各自の研究テーマの検討状況報告）、輪読①（研究方法論）
12．政策研究報告②（各自の研究テーマの検討状況報告）、輪読②（研究方法論）
13．政策研究報告③（各自の研究テーマの検討状況報告）、輪読③（研究方法論）
14．政策研究報告④（各自の研究テーマの検討状況報告）、輪読④（研究方法論）
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ディスカッションへの参加姿勢、授業への貢献、課題への取り組み　100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備をしてください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
・無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない場合は退室を命じる場合があります。
・授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます。
・政策実践プロジェクトは併せて履修してください。また、3年生との合同ゼミを予定していますので、履修時間に注意をしてください。
・授業計画は、政策実践プロジェクトの進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

演習Ⅰに引き続き、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行います。またレポートを作成します。必要や要望に応じて合宿を行うこともあります。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

履修者と相談の上、決定します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　研究進展のためのテーマ・ディスカッション
第2回　近代政治思想Ⅰ　【ホッブス】
第3回　近代政治思想II　【ロック】
第4回　近代政治思想III　【ルソーⅠ】
第5回　近代政治思想IV　【ルソーⅠⅠ】
第6回　研究進展のためのテーマ・ディスカッション
第7回　近代政治思想Ⅴ　【まとめ】
第8回　日本の政治思想Ⅰ　【幕末Ⅰ】
第9回　日本の政治思想ⅠⅠ　【幕末ⅠⅠ】
第10回　日本の政治思想ⅠⅠⅠ　【明治Ⅰ】
第11回　日本の政治思想ⅠⅤ　【明治ⅠⅠ】
第12回　研究進展のためのテーマ・ディスカッション
第13回　日本の政治思想Ⅴ　【大正から戦後までⅠ】
第14回　日本の政治史思想ⅤⅠ　【大正から戦後までⅠⅠ】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究：100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に輪読テキストを読むこと。授業後には、授業中の討論をもとに、自らの考えをまとめてください。

演習III 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

大まかには民主政治と政治意識に関わる下記のような各種テーマについて比較政治・国際政治の観点から検討します。様々な政治現象が「どうあるべきか」ではなく，「実際どうなっているのか」資料やデータを通じて実証的に明らかにしていきましょう。欧米・中南米・中東・アフリカ・ロシア・アジア・日本どこも対象地域です。

キーワード
選挙 / 政党 / 政治意識 / 世論調査 / 民族問題 / ナショナリズム / 移民 / 極右・極左 / 民主主義 / 独裁 / 政治体制 / 政治暴力 / 内戦 / 統計 / 計量分析 / 資料調査

「政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現できる」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている」ことが単位授与上のディプロマポリシーとなります。

教科書　/Textbooks

初回イントロダクション時，もしくはそれ以前の段階で，担当教員ウェブページなどを通じて告知。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の進展に応じて指定

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．初回イントロダクション
2．資料の解説・分担決め
3．文献講読【文献１①】
4．文献講読【文献１②】
5．文献講読【文献２①】
6．文献講読【文献２②】
7．文献講読【文献３①】
8．文献講読【文献３②】
9．文献講読【文献４①】
10．文献講読【文献４②】
11．文献講読【文献５①】
12．文献講読【文献５②】
13．リサーチ案報告【1週目】
14．リサーチ案報告【２週目】
15．全体の総括および予備回

演習III 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への参加貢献度40%　報告の適切性30%　期末課題の品質30%

無断の欠席･遅刻は減点要素であり，報告担当のドタキャンは落第とします。

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

文献講読時は，授業時間外（前）に読んできていることが前提です。研究発表時には，授業時間外に同じく用意が行われていることが当然のこととして期待されます。

履修上の注意　/Remarks

2021年度は担当者の在外研修予定のためイレギュラーなスケジュールとなっています。科目担当者と密に連絡を取り，適切な履修計画を立ててください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

事実・社会的事実の違い、価値と事実、主観性・客観性など、社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方について検討する。また、論理的考え方の向上が狙いである。

演習IIのキーワード：社会科学の概念、社会科学の方法論と調査方法論、研究対象の捉え方。
演習IIの目標：①社会現象や問題を発見し、資料を調べ、レポートを書く。
②人間と社会の関係、政治、政策、経済現象について調べ、プレゼンテーションし、議論する。
③SDGsのエネルギー・食べ物・水問題・気候危機の対策などに関する新聞社説と論壇を読んできて、
それについて話してみる（毎週、約3 - 4分程度で）。

演習IIの具体的内容：
①自我と他人間の関係・自我と社会との関係・事実とデータの関係、
そして科学と考えることの意味について知ってもらう。
②仮説・因果関係・論証の進め方、見方について知ってもらう。
③調査方法について勉強し、研究テーマに関するリサーチ・デザインを行う。
④新聞社説と論壇を読んできて、それについて話してみる（約3 - 4分程度）。
⑤以上のことを踏まえ、各自、毎週、1500字位のレポートを書き、それを基に発表する。
発表後、互いにチェックして、返す（考える能力・書く能力・話す能力を高め、
また、相手の書いたものをチェックすることで、自分の書き方などの問題点を改善していく。）

演習IIの活動：学生自らの活動が多い（コンパ、よそのまちの探検、学生自らの議論、他大学ゼミ
との交流など）、バスツアーなどフィールドリサーチを行う。

(到達目標）
【思考・判断】　社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考 し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し自分の見解の質を 高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】 公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの 関心から自らのキャリアについても主体的に考
える 姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

『99・9%は仮説–思いこみで判断しないための考え方–』（竹内薫著 光文社新書 2013年 ￥756）
『統計数学を疑う』（門倉貴史著 光文社新書 2006年 ￥777）

その他は、適宜レジュメを配布する。

演習III 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『自分で調べる技術–市民のための調査入門』(宮内泰介著 岩波書店 2004年 ￥777)
『考えることの科学』(市川伸一著　中公新書 1997年 ￥693)
『フィールドワークの技法–問いを育てる、仮説をきたえる』(佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ￥ 3,045)
『参加型ワークショップ入門』(野田直人著 明石書店 2004年 ￥2,940)
『社会学研究法リアリティの捉え方』(今田高俊編 有斐閣アルマ 2000年 ￥ 2,415)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　　夏休みのレポート提出・活動報告
２回　　夏休のレポートの発表と議論
３回　　夏休のレポートの発表と議論
４回　　夏休のレポートの発表と議論
５回　　仮説・統計学の問題などの本について議論
６回　　仮説・統計学の問題などの本について議論
７回　　仮説・統計学の問題などの本について議論
８回　　社会問題のワークショップ
９回　　社会問題のワークショップ
１０回　社会問題のフィールドリサーチ
１１回　社会問題のフィールドリサーチ
１２回　パワーポイントによるプレゼンテーション
１３回　パワーポイントによるプレゼンテーション
１４回　パワーポイントによるプレゼンテーション
１５回　まとめと一年間の研究レポート提出

成績評価の方法　/Assessment Method

報告と議論 (40%)、授業への貢献 (20%)、発表とレポート (40%)

レポートの書き方の例
私は「夫婦別姓は正しくない」と思う。なぜならば夫婦別姓は家族間の一体感を低下させる恐れがあると考えられるからである。
船橋洋一 (朝日新聞コラムニスト) は、夫婦別姓が未婚女性の結婚率を高める方法であると論じている。船橋洋一はここ数年の20-30代女性の結婚忌避現象に関して、結婚による改姓をその主要因としている。具体的には、、、、
　これに対して私は反対する。夫婦別姓は、社会的な安定感を崩壊させるとともに、家族間の同一感を低下させる。これは、、、、、、、、、、からである。
また、夫婦とは、、、家族とは、、社会の中で一番重要な単位であり、基礎でもある。
これに関して、、、、福岡太郎は、、、、と論じていいる。太郎の指摘のとおり、家族の、、、社会的、文化的な機能や意味から、私は、、、に同感する。反面、船橋洋一は、、、面を軽視していると考えられる。従って、私は「夫婦別姓が正しくない」、と思う。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題・事後学習内容については、
1 申　ホームページ　　http://www.kitakyu-u.ac.jp/law/faculty/personal/shin/DongAeRink.htm
2 学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「本を読め、人に会え、旅をしろ」という言葉があります。
大学時代はまさにこれでした。数え切れないほどの試行錯誤がありました。
いま振り返れば、一番の黄金時代でした。

「大学」という「時」を過ごしている君達に言えることは、
まさに、これ、「チャレンジ」です。

キーワード　/Keywords

・考える力　・論理力
・調査　・仮説　・ウソと情報　・事実と真実

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要 /Course Description

「政策研究を通じて地域(社会)貢献をする」ことをゼミの理念として、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらに現状分析に基づき政策提言を行う能力を習得することをゼミの目的としています。

演習Iを踏まえ、演習IIでは、①政策分析(提言)の仕方について、②政策研究で必要となる基礎的な統計の知識習得に力点を置いて演習をすすめます。

①に関しては、ユージン・バーダック『政策立案の技法–問題解決を「成果」に結び付ける８つのステップ–』を輪読し、具体的に自らが政策提案をするとしたらどのようにしたらよいかについて、政策分析の基礎的内容も含めて学びます。

②に関しては、大谷信介他『新・社会調査へのアプローチ』を中心にして、「アンケート調査」（特に、質問票の作成方法）および「インタビュー」の仕方について基礎的な統計等の分析方法を含めて学びます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法–問題解決を「成果」に結び付ける８つのステップ–』（東洋経済新報社、2012年）。
大谷信介ほか『新・社会調査へのアプローチ–論理と方法–』（ミネルヴァ書房、2013年）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献等の必要な文献は、その都度指示します。

演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

演習IIで学ぶ内容はおおよそ以下の通りです。

第１回　演習Iの復習と演習IIで学ぶ内容について
第２回　政策提言型リサーチ
第３回　（政策分析[提言]に関する）文献講読①
第４回　（政策分析[提言]に関する）文献講読②
第５回　（政策分析[提言]に関する）文献講読③
第６回　（政策分析[提言]に関する）文献講読④
第７回　量的調査について①
第８回　量的調査について②
第９回　量的調査について③
第１０回　質的調査について - インタビューの仕方 -
第１１回　（政策調査に関する）文献講読①
第１２回　（政策調査に関する）文献講読②
第１３回　（政策調査に関する）文献講読③
第１４回　（政策調査に関する）文献講読④
第１５回　卒論のテーマについて

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミへの参加・貢献度　…　８０　％　　レポート等…　２０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

普段のゼミに際しては割り当てられた箇所のプレゼンの準備（予習）をしてゼミにのぞんでください。また、輪読を行っている場合には、授業で読んだ箇所の復習も必ず行って次回以降の授業にのぞんでください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

年金、医療、保育、障害者福祉といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。また、図書館への指定管理者制度導入など、公共サービスの民営化・民間委託に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習Iでは「福祉ＮＰＯ」「社会起業家」をテーマにして、障害者福祉のしくみのあり方を議論します。社会福祉サービスにおける政府と市場の役割を理解するのが目標です。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の進め方・班分け。課題の提示
第２回　障害の定義①
第３回　障害学のモデル①
第４回　障害者と雇用①
第５回　障害者福祉サービス①
第６回　福祉ＮＰＯ①
第７回　福祉行政①
第８回　障害の定義②
第９回　障害学のモデル②
第１０回　障害者と雇用②
第１１回　障害者福祉サービス②
第１２回　福祉ＮＰＯ②
第１３回　福祉行政②
第１４回　福祉事業所見学報告
第１５回　まとめ

演習III 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容・討論内容…100％　　欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

＊受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意　/Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習は、近年の社会科学における中心的な理論分析の方法の一つである数理分析の基礎を身につけることをその目的とします。
具体的には、政治学における数理分析の非技術的導入の書である浅古 (2018)の講読を行います。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

浅古泰史 2018.『ゲーム理論で考える政治学–フォーマルモデル入門』有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

渡辺隆裕 2008.『ゼミナール　ゲーム理論入門』日本経済新聞出版社

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（参加人数によって変更する場合があります）
第1回　オリエンテーション
第2回　文献講読　浅古 (2018)　第1章
第3回　文献講読　浅古 (2018)　第2章
第4回　文献講読 浅古 (2018)　第3章
第5回　文献講読　浅古 (2018)　第4章
第6回　文献講読　浅古 (2018)　第5章
第7回　文献講読　浅古 (2018)　第6章
第8回　予備日
第9回　文献講読　浅古 (2018)　第7章
第10回　文献講読　浅古 (2018)　第8章
第11回　文献講読　浅古 (2018)　第9章
第12回　文献講読　浅古 (2018)　第10章
第13回　文献講読　浅古 (2018)　第11章
第14回　文献講読　浅古 (2018)　第12章
第15回　予備日

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への貢献50%、報告及び資料の質50%

演習III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

　教科書の内容を事前に読むだけでなく、実際に手を動かして計算してみることが必要不可欠となります。わからなかったところは演習内で解決して復習をしましょう。

履修上の注意　/Remarks

・無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。
・簡単な代数及び確率の知識は前提としますが、高度な数学の知識はもちろん必要ありません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本授業は政策入門演習Iと抱き合わせの科目です。
　政策入門演習Iで習った大学生の学習方法を次は実践する番です。グループワークで自らの関心に基づき、テーマを決め、最終的には報告書（もしくは論文）の完成にまで皆さん方の能力を高めていってもらいます。私が積極的に指導できる教育内容は、政策科学、ESD（持続可能な開発のための教育）、環境教育や国際協力の分野などです。そこで、自分の課題の性格・内容に応じて、必要であれば、グループワーク、インタビューやファシリテーション能力の獲得を行ってもらいます。目標をたて、それの実現に向かって頑張ってください。本授業では現場での実践や体験も重んじます。

｛思考・判断・表現力｝：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
｛コミュニケーション力｝：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
｛自律的行動力｝：公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

＊グループワーク用の教材・資料（自ら準備の必要なし）
＊日本環境教育学会編『知る　わかる　伝えるSDGsI』学文社、2019年、2000円+税

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

＊小笠原喜康『新版　大学生のためのレポート・論文術』現代講談社新書、2009年

演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「演習II」の目的・内容説明、自らの学習テーマの設定
第２回　　１学期に学んだ政策研究の基本、実施済みの三宅ゼミプロジェクトについての復習
第３回　ESDやSDGsの歴史を理解する
第４回　政策実践プロジェクトでの今年度のプロジェクトに関する話し合い
第５回　ESDやSDGsについての学習１　～　教科書から貧困とSDGsをまなぶ
第６回　ESDやSDGsについての学習２　～　食品ロス削減学生プロジェクトを通して
第７回　ESDやSDGsについての学習３　～　教科書から健康とSDGsをまなぶ
第８回　ESDやSDGsについての学習４　～　教科書から平和とSDGsをまなぶ
第９回　レポート・論文の書き方の学習～ねらい・章構成の作りかた
第10回　レポート・論文の書き方の学習～注のつけ方・参考文献の書きかた
第11回　調査の仕方の学習　1
第12回　調査の分析の学習　2
第13回　各ゼミ生のテーマ学習の成果発表１
第14回　各ゼミ生のテーマ学習の成果発表２
第15回　まとめ

10月には海外、もしくは国内でのスタディツアーの実施、まなびとESDステーションでのプロジェクトの手伝い

成績評価の方法　/Assessment Method

参加態度…50%　小試験（指定資料の読了事前確認用）…10%　グループワークを通しての報告書つくりとその成果発表…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は教科書の当該箇所を熟読し、授業での議論に参加しやすく準備してください。事後学習は授業の復習をしてください。

履修上の注意　/Remarks

輪読用指定図書の読了、藍島（小倉北区）でのフィールド・ワーク、水俣または若松区環境モデル地区研修旅行への参加、合宿参加
できるだけ現場を楽しむ心構えを持つこと。
日頃から自主練習を行い、授業の内容を反復しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会人になる手前として大学にて教育を受けるが、実践活動と同時に生きるための知恵がつくような幅広い教養を身に着けてください。2年時には、副専攻環境ESDや政策実践演習（ファシリテーションカ育成目的）を受講してください。

キーワード　/Keywords

政策研究、ESD（持続可能な開発のための教育）＝SDGs教育、環境教育、フィールドワーク、スタディツアー

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Iから演習IIIを通じた1年半の調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマにそって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習IIでは、演習Iで決定した調査研究のテーマにそって、文献研究のまとめ、そしてフィールドワーク等の調査を開始する。また、合宿による研究会も実施する。

（到達目標）
DP５　自律的行動力；公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。
DP４　コミュニケーション力；意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
DP３　思考・判断・表現力；社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

教科書　/Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　調査プロジェクト開始にあたっての議論
２回　調査プロジェクトの概要決定【調査対象、方法論の決定】
３回　調査プロジェクトの概要決定【調査内容の決定】
４回　調査対象の文献収集・報告【インターネット情報】【図書館等の情報】
５回　調査対象の文献収集・報告【統計データ収集】
６回　調査準備【調査票の作成準備】
７回　調査準備【調査票の作成】
８回　調査結果の報告①【原データの報告】
９回　調査結果の報告②【修正リクエスト後の報告】
10回　報告書の大枠決定
11回　報告書の執筆内容決定
12回　報告書の執筆状況報告①【原稿の突き合わせ】
13回　報告書の執筆状況報告②【修正リクエスト後の原稿つきあわせ】
14回　報告書の執筆状況報告③【全体のまとめ】
15回　研究のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業や調査、調査報告書作成への参加積極性…１００％

演習III 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。文献研究では膨大な文献を講読するので、事前の予習が不可欠となるし、フィールドワーク等の調査結果を報告する場合は講義で発表する前にそれをまとめてくる作業が重要である。
演習Iをまじめに取り組んだ方は、演習IIの作業を素早く深く理解できます。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

本演習は、演習Iで決定した各自のテーマに関するリサーチを行い、受講生の研究をさらに磨いていくことが目的です。研究報告を通じ、受講生の報告・質疑応答によってプレゼンテーション能力の向上にも寄与したいと考えています。なお、報告の内容・表現・質疑応答が悪い場合にはやり直してもらうことがあります。また、演習Iから引き続き、ゼミ全体での共通のテーマに関する調査・分析も行う予定です。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える 姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社
○伊藤修一郎（2011）『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
○小池和男（2000）『聞きとりの作法』東洋経済新報社
○近藤克則（2018）『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
○佐藤郁哉（2002）『フィールドワークの技法』新曜社
佐藤雅昭（2016）『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
○酒井聡樹（2007）『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
○戸田山和久（2012）『新版論文の教室：レポートから卒論まで』NHKブックス
○名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
その他、受講生の関心や研究テーマに従って、参考となる文献を適宜紹介します。

演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス、演習II共通テーマの検討
２回	論文作成のために：仮説の設定、分析方法の検討、根拠の収集
３回	共通テーマの調査・分析について
４回	共通テーマの調査・文献報告
５回	共通テーマの調査・文献報告
６回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
７回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
８回	共通テーマの調査・文献報告
９回	共通テーマの調査・文献報告
１０回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
１１回	研究テーマに基づく報告（各自の研究テーマに関する文献報告・調査報告等）
１２回	研究テーマの再検討：質疑を受けたうえでのテーマの妥当性の検証
１３回	研究計画の見直し・修正
１４回	研究テーマ・方向性の再確認
１５回	まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

報告40%、議論への参加・貢献40%、
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習については、事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意　/Remarks

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。様々な事象について、ひとの考えを鵜呑みにするのではなく、自分で理解しようと努めること、またそれを自分の言葉で表現することを意識して議論に参加するよう心がけて下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要　/Course Description

演習II、III、政策実践プロジェクトII、IIIは、併せて実施するほか、２年生と合同演習を行う予定です。
本演習は、「地域資源の活用による地域創造と地域（都市）の魅力形成」など都市・地域政策に関するテーマを扱います。
１学期（演習II）は、あらかじめ設定された研究テーマや研究計画に基づき、研究調査活動の質と量を高め、論文作成に向けた足場固めを行います。
地域政策に関するテキストや論文の輪読、政策事例研究、研究仮説の設定と研究方法、先行研究レビュー、個人研究テーマの進捗状況の報告とディスカッションなどから構成されます。また、適宜、個別研究指導を行います。
受講生には、いずれのステップにおいても主体的な取り組みを求めます。さらに、「考える力」「探究する力」のレベルアップ、知的方法論に基づいき獲得された知識の体系化と統合化を目的とします。
演習II、IIIの成果物として、演習IIIの終了後にゼミ中間論文の策定と報告、演習IVの終了前に４年次の卒業論文の骨格となるゼミ論文の提出を求めます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

・ゼミ輪読用図書（別途指定します）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○岩崎美紀子(2008)『「知」の方法論』岩波書店
○戸田山和久(2012)『新版 論文の教室–レポートから卒論まで』NHK出版
○石井一成(2011)『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社
○小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
・その他講義の中で適宜紹介します。

演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション
２．新聞論評①、各自の研究テーマ・研究計画の発表①
３．新聞論評②、各自の研究テーマ・研究計画の発表②
４．新聞論評③、各自の研究テーマ・研究計画の発表③
５．新聞論評④、各自の研究テーマ・研究計画の発表④
６．論文紹介①、研究方法論（１）（研究計画の設計、リサーチクエスチョン）
７．論文紹介②、研究方法論（２）：ヒアリング調査、アンケート調査
８．論文紹介③、研究方法論（３）：公的統計データによる地域分析①
９．論文紹介④、研究方法論（４）：公的統計データによる地域分析②
10．都市政策文献精読①、公的統計データによる地域分析演習①
11．都市政策文献精読②、公的統計データによる地域分析演習②
12．都市政策文献精読③、公的統計データによる地域分析演習③
13．都市政策文献精読④、公的統計データによる地域分析演習④（発表）
14．政策事例研究（政策実践プロジェクト関連）
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ディスカッションへの参加姿勢、授業への貢献、課題 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
・無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない場合は退室を命じる場合があります。
・授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます。
・政策実践プロジェクトは併せて履修してください。また、後期は２年生との合同ゼミを予定していますので、履修に注意をしてください。
・授業計画は、政策実践プロジェクト等の進捗状況により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード　/Keywords

演習III 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅲ	SEM311M

授業の概要 /Course Description

演習IIと政策実践プロジェクトIIは、併せて実施します。
本演習のテーマは演習Iに引き続き「多文化共生社会を創るには？」で、ジェンダーをテーマとします。

この演習IIでも、文献研究とともにテーマに沿ったフィールドワークも行います。フィールドワークと文献研究を通して、異なる言語、文化、習慣、さらには多様な性的指向を有する人々との多文化共生社会の創造に関する様々なテーマを取り上げて、国際比較もしながら深く議論します。

さらに、最後には、３年次に向けての研究テーマと研究計画の構想発表・質疑を行います。

【到達目標】
思考・判断・表現力：社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
自律的行動力：公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

国際女性の地位協会編『男女平等はどこまで進んだか』岩波ジュニア新書、2018年
女子差別撤廃条約研究会編『わかる！使える！女子差別撤廃条約ガイドブック』北九州市立女性センター“ムーブ”、1999年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介します。

演習III 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション
2．文献輪読と議論①
3．文献輪読と議論②
4．「多文化主義」先進事例研究①
5．｛多文化主義」先進事例研究②
6．研究方法論文献精読①
7．研究方法論文献精読②
8．研究方法論文献精読③
9．フィールドワークの計画と準備、議論
10．フィールドワークの反省、感想、議論
11．研究テーマと研究計画の構想発表・質疑①
12．研究テーマと研究計画の構想発表・質疑②
13．研究テーマと研究計画の構想発表・質疑③
14．研究テーマと研究計画の構想発表・質疑④
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッションへの参加姿勢と授業への貢献（60％）、課題レポート（ 40％）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・無断欠席、理由のない遅刻は減点します
・授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます
・授業計画は、政策実践プロジェクトなどの進捗状況により変更する場合があります

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【SDGs】目標の１、５、10に主に関連しています。

キーワード　/Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

演習ＩＩに引き続き、政治思想史・現代政治理論に関する文献の輪読・報告と討論を行います。またレポートを作成します。必要や要望に応じてゼミ合宿を行うこともあります。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

履修者と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

研究課題に応じて適宜選択します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ロールズ正義論の諸課題I　【安定性】
第2回　ロールズ正義論の諸課題II　【公共的理性】
第3回　ロールズ正義論の諸課題III　【財産所有制民主主義】
第4回　ロールズ正義論の諸課題IV　【社会連合】
第5回　ロールズ正義論の諸課題V　【グローバルな正義】
第6回　研究課題に関する意見交換I
第7回　ロールズ正義論の批判者たち
第8回　リバタリアニズムの諸課題I　【自己所有権論】
第9回　リバタリアニズムの諸課題II　【左派リバタリアニズム】
第10回　リバタリアニズムの諸課題III　【ベーシックインカム】
第11回　コミュニタリアニズムの諸課題I【アメリカの政治と共同体】
第12回　コミュニタリアニズムの諸課題II　【キリスト教とアメリカ政治】
第13回　コミュニタリアニズムの諸課題III　【同性愛と生命倫理】
第14回　研究課題に関する意見交換II
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への取り組み、討論への参加、報告、個人研究：100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に輪読テキストを読むこと。授業後には、授業中の討論をもとに、自らの考えをまとめてください。

演習IV 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

大まかには民主政治と政治意識に関わる下記のような各種テーマについて比較政治・国際政治の観点から検討します。様々な政治現象が「どうあるべきか」ではなく，「実際どうなっているのか」資料やデータを通じて実証的に明らかにしていきましょう。欧米・中南米・中東・アフリカ・ロシア・アジア・日本どこも対象地域です。

キーワード
選挙 / 政党 / 政治意識 / 世論調査 / 民族問題 / ナショナリズム / 移民 / 極右・極左 / 民主主義 / 独裁 / 政治体制 / 政治暴力 / 内戦 / 統計 / 計量分析 / 資料調査

「政策科学について学際的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現できる」「意見の異なる者と積極的に議論し、協働して結論を導き出す能力を身につけている」「公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている」ことが単位授与上のディプロマポリシーとなります。

教科書　/Textbooks

初回イントロダクション時，もしくはそれ以前の段階で，担当教員ウェブページなどを通じて告知。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の進展に応じて指定

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．初回イントロダクション
２．資料の解説・分担決め
３．文献講読【文献１①】
４．文献講読【文献１②】
５．文献講読【文献２①】
６．文献講読【文献２②】
７．文献講読【文献３①】
８．文献講読【文献３②】
９．文献講読【文献４①】
10．文献講読【文献４②】
11．文献講読【文献５①】
12．文献講読【文献５②】
13．リサーチ案報告【1週目】
14．リサーチ案報告【２週目】
15．全体の総括および予備回

演習IV 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への参加貢献度40%　報告の適切性30%　期末課題の品質30%

無断の欠席･遅刻は減点要素であり，報告担当のドタキャンは落第とします。

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

文献講読時は，授業時間外（前）に読んできていることが前提です。研究発表時には，授業時間外に同じく用意が行われていることが当然のこととして期待されます。

履修上の注意　/Remarks

2021年度は担当者の在外研修予定のためイレギュラーなスケジュールとなっています。科目担当者と密に連絡を取り，適切な履修計画を立ててください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード　/Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

人間と社会、そして環境の関係を理解、分析する。また、環境問題の原因やその構造を発見し、その問題を解決する能力（政策形成能力）を高める。

講義全体のキーワードは、環境、地域、アジアの環境問題（日本、韓国、中国）、アメリカ、ドイツとEUの環境問題、住民参加、そしてSDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策などである。

環境ゼミのテーマは、以下、授業計画・内容通りであるが、これ以外のテーマを決めてもよい。

（到達目標）
【思考・判断】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『環境学の技法』（石 弘之著　東京大学出版会　￥3,360）
○『環境問題の社会史』（飯島 伸子著　有斐閣　￥2,310）
○『環境社会学』　（舩橋/晴俊著　弘文堂　￥2,835）

演習IV 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

テーマ；政策形成・政策実施・政策過程の分析・環境
①中央省庁、自治体における環境関連の財政、組織、法律、環境への取り組み。
②環境を通じた地域再生、公共事業と地域再生。
③環境会計；これは資格証がもらえ、就職しやすい。
④エコファンド；投資者が環境に優しい企業のファンドを買い（投資）、企業の環境活動、取り組みを誘導する方法の研究（欧米では進んでいる）。
⑤環境コンサルタント；環境紛争、対立、技術に関するコンサルタントとして起業可能な分野で、そのための方法、研究。
⑥アジアの環境政策1（比較研究、日本、韓国、中国；特に中国環境問題・市場はかなり可能性がある）。
⑦SDGsとエネルギー政策（福島事故、原子力と再生エネルギー政策）。
⑧車リサイクル政策、容器包装リサイクル、家電リサイクル、ｐｃリサイクル。
⑨エコタウン；全国のエコタウンの実態からエコタウンの可能性と課題の研究。
⑩地球温暖化問題・CO2問題、京都議定書、これらの問題に関する国際的取り組み、動向。
⑪エコマネーとエコビジネスとリサイクル市場の国際的取引
⑫環境リスク管理（環境リスク管理資格証がもらえる分野）
　日本では始まったばかりの制度。おススメ；大阪大学環境リスク管理プログラムとの連携も可能である。
⑬環境社会アセスメント；環境会計、環境報告書
⑭自治体の環境政策と評価（環境自治体）
⑮環境メディア；環境に関するメディアの報道、実態、問題点、あり方など。
⑯政策過程の分析。

ゼミ活動
パワーポイント発表会を行う。
特別講演会を行う。
バスツアーなどフィールドリサーチを行う。
国内大学（西南大学、九大）との共同発表会、外国大学（ソウル市所在のSang Myung大学、中国大連大学）との
交流を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

報告と議論（80％）、授業への貢献（20％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

ゼミ生の活動・授業内容・事前課題・事後学習内容については、
学習支援フォルダに挙げるので、参照し、準備すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

18世紀のイギリス産業革命以降、アメリカの急成長と繁栄として象徴された20世紀、しかし、今後、21世紀は、優秀な人材、知識と技術そして文化・多様性・共存といった考え方に基づくアジアの時代とも言われている。この切り口が、まさに、環境である。環境は、大量生産と消費を作り出したアメリカ型の石油文明から、経済活動と人間、社会と文化が共存できるパラダイムである。各社会や経済主体ごとの違いはあれ、今後、人間社会を取り巻くあらゆるシステムが、環境をキーワードにし、再編されることになる。
「環境」について知ることを通じ、自分のライフそして仕事を探る旅に出てみませんか！

キーワード　/Keywords

人間生活と環境、環境と経済（構造）、制度（政策）・知識（技術）・人口（排出者・汚染者・消費者）・資源、産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、グローバルとローカル。

演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習IV	SEM312M

授業の概要　/Course Description

「政策研究を通じて地域(社会)貢献をする」ことをゼミの理念として、公共政策を研究する上で必要となる基本的な分析方法を身につけ、さらに現状分析に基づき政策提言を行う能力を習得することをゼミの目的としています。
演習IIIでは、演習I・IIで学んだことを踏まえ、「グループ・プロジェクト」によって、政策調査を企画し、実際に学生中心で調査を行い政策提言を行います。また、論文の書き方やプレゼンテーションの仕方を学びます。どのようなグループ・プロジェクトを行うかはそれぞれの学年の学生で話し合って決めます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献等の必要な文献はその都度指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

演習IIIで学ぶ内容はおおよそ以下の通りです。基本的に政策提言をするための調査の企画、実施等が中心になります。

第１回　演習I・IIで学んだこと確認
第２回　質的調査と量的調査
第３回　質的調査（１）- フィールドワークとは何か
第４回　質的調査（２）- フィールドワークの手法
第５回　質的調査（３）- インタビューの方法
第６回　質的調査（４）- 参与観察法
第７回　質的調査（５）- 質的調査のまとめ
第８回　調査票の作成方法I
第９回　調査票の作成方法II
第１０回　量的調査について
第１１回　サンプリングの方法
第１２回　クロス表について
第１３回　クロス表の作成
第１４回　統計的検定について
第１５回　まとめ

演習Ⅳ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

ゼミへの参加･貢献度　…　100　%

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

普段のゼミに際しては割り当てられた箇所について十分準備をしてゼミにのぞんでください。輪読などの場合には、報告者のみでなく参加者全員が読んでくるようにしてください。授業終了後は、必ず学んだ内容については復習するようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

年金、医療、保育、障害者福祉といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。また、図書館への指定管理者制度導入など、公共サービスの民営化・民間委託に関心を持っている人を歓迎します。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習では受講生が自分で「調べて、考えて、そして発表する」ことを目標とします。演習IIでは、①年金（一元化・税方式）、②医療（混合診療）、③少子化（男女共同参画）、についてグループに分かれてより良い政策を討論してもらいます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション能力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自立的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。図書・雑誌論文・新聞などを組み合わせて用いますが、必要部分をコピーして配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　授業の進め方・グループ分け。課題の提示
第２回　報告　年金①
第３回　報告　年金②
第４回　報告　医療①
第５回　報告　医療②
第６回　報告　少子化①
第７回　報告　少子化②
第８回　中間まとめ
第９回　討論　年金①
第１０回　討論　年金②
第１１回　討論　医療①
第１２回　討論　医療②
第１３回　討論　少子化①
第１４回　討論　少子化②
第１５回　まとめ

演習IV 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告内容・討論内容…100％　　欠席・遅刻1回につき、最大10点程度減点

＊受講態度が極めて悪い場合、出席を認めない場合があります。また報告内容が一定の水準に達しない場合、再報告や追加課題を求める場合があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告を担当しない人も、授業前に配付資料をしっかりと読んでください。また、授業終了後に、報告や討論の内容を再検討し、自分の考えを整理してみてください。

履修上の注意　/Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習では、現代民主政治の理論的・実証的分析に関する文献を講読することで、民主主義諸国における政治に対する知識、見方を養うとともに、自身の関心のある領域の先行研究を収集・整理・批判的に検討し、当該分野に残る問題点・課題を的確に指摘する能力を身に着けることを目的とします。演習の最終目標（最終課題）は、各自の関心に則って選んだテーマに関する先行研究レビュー (Literature Review)を書いてもらうことです。

民主主義諸国の政治に関心のある方なら幅広く歓迎しますが、教員の専門上、民主主義体制における政治エリート（議員、執政長官、官僚など）とその集団（政党など）の分析が中心的なテーマとなります（よくわからなければ、後掲の建林・曽我・待鳥 (2008)でカバーされているようなテーマに関心がおありなら良いマッチングといえるでしょう）。

具体的には、前半ではまず先行研究の読み方に関する文章（曽我 (2014)）を読んだうえで、各人の関心に基づいて教員が選んだ日本語及び英語の文献について担当を決めて報告をしてもらい、全員で議論をしていきます。後半では各人が選んだテーマに関する先行研究を整理し、その分野の現況を皆さんに紹介する報告を行ってもらい、この報告を叩き台に最終課題を執筆してもらいます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

曽我謙悟 2014.「先行研究を読むとはいかなる営みなのか（上）（中）（下）」『書斎の窓』635, 636, 637号
その他は各回で適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史 2008.『比較政治制度論』有斐閣アルマ

演習IV 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（参加人数によって変更する場合があります）
第1回　オリエンテーション・各人の関心の発表
第2回　文献講読①　曽我 (2014)、担当決め
第3回　文献講読②
第4回　文献講読②
第5回　文献講読②
第6回　文献講読②
第7回　文献講読②
第8回　報告前相談会
第9回　文献レビュー報告
第10回　文献レビュー報告
第11回　文献レビュー報告
第12回　文献レビュー報告
第13回　文献レビュー報告
第14回　文献レビュー報告
第15回　予備日

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への貢献40%、報告及び資料の質30%、最終課題の質30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者以外の方も、議論に貢献すべく文献の各回該当部を精読してくることが当然の前提とされます。成績評価の欄の記述に明らかなように、ただ出席してその場にいるというだけでは評価の対象にはなりません。

履修上の注意　/Remarks

・無断欠席・遅刻は厳禁です。必ず事前に連絡をしてください。特に、報告担当回に無断欠席した場合、即時落第とします。
・履修“前”に参考書を熟読し、自分がどのようなテーマに関心があるかあらかじめ考えておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

国連ESD（持続可能な開発のための教育）の10年は2015年で終わりましたが、現在は、ESD for 2030が実施されています。それをどのように発展させるかが問われています。現在、ESD for 2030に代表されるように、国連SDGsの促進キャンペーンが世界規模で取り組まれ、北九州市も積極的に取り組んでいます。本ゼミは、ESD＝SDGs教育を正面から取り上げ、理論学習と実践学習の両面からアプローチします。具体的には、３つのプロジェクト（＊藍島プロジェクト、＊食品ロス削減プロジェクト、＊まるごと韓国プロジェクト）を実施しています（藍島プロジェクトと食ロス削減プロジェクトはゼミ生以外にも開放しています）。特に３年生はプロジェクト実施の中心となり、全体を引っ張っていかなければなりません。2年次や3年次1学期で培ったファシリテーション能力、企画力などを実践で試す必要がありますが、その前提となるESDやSDGs投資についての理論学習を行います。

思考・判断・表現力：社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
自律的行動力：公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

＊渋澤健『SDGs投資　資産運用しながら社会貢献』朝日選書、2020年、891円
＊フードバンク北九州ライフアゲイン発行の副読本（非売品）
＊日本環境教育学会編『環境学習のラーニング・デザイン』キーステージ21、2019年、2000円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

＊鈴木恒夫『環境保全活動・環境教育推進法を使いこなす本』中央法規、2005年、非売品
＊佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992年
＊伊豫谷登士翁他編『コミュニティを再考する』平凡社新書、2013年、760円

演習IV 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「演習I」と「演習II」のレビュー　～　ESDの復習
第２回　各プロジェクトで年間事業計画をたて、発表
第３回　環境省作成報告書（ESD環境教育モデルプログラムガイドブック１）の輪読と討論
第４回　フードバンク北九州ライフアゲイン作成の副読本の発表
第５回　上記文献から参考となるアクティビティの開発の話し合い
第６回　教科書『SDGs投資』～社会貢献とは何かの発表と議論
第７回　教科書『SDEs投資』～利益投資との両立の可能性に関する発表と議論
第８回　SDGs投資の対象になる企業や事業を考える　第1次産業と第2次産業
第９回　SDGs投資の対象となる企業や事業を考える　第3次産業
第10回　教科書『環境学習のラーニング・デザイン』～人類の生存と生態的・社会的な持続可能性
第11回　教科書『環境学習のラーニング・デザイン』～２つのアクティティの実践
第12回　教科書『環境学習のラーニング・デザイン』～日本の中山間地域の活性化：ワールドカフェ方式
第13回　教科書『環境学習のラーニング・デザイン』～市民参加による協議・役割体験による状況理解：R/P
第14回　演習IIIのまとめ１～教科書とプロジェクト実践を通して
第15回　演習IIIのまとめ２～教科書とプロジェクト実践を通して

成績評価の方法　/Assessment Method

輪読に対する態度…30%　プロジェクト評価のまとめ方…50%、発表態度…20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は、指定された箇所を最低限1回は読んでいること。その際には質問や意見も考えておく。プロジェクト内メンバーが話し合い、きちんとまとめておく。事後学習は、授業で様々な意見が出たことをまとめ、報告書の一部にできるように資料を作成してください。

履修上の注意　/Remarks

相手にいかにすればうまく伝わるかを考えた上でのパワーポイントづくりやレジュメ作りを行ってくる。
他者の発表の際にも積極的に議論に加わること。そういった他者の論文への批評力が自分自身の論文の作成力の向上につながることを肝に銘じておいてほしい。
水俣や他の九州地区、韓国やときには途上国に出かけることもあるので、準備をしておくこと。
日頃から他の文献も読み、自主練習を行い、授業の内容を反復しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会人になる手前にいるので、きちんとしたまとめ方・発表の仕方を体得してください。それには主体性や積極さが必要となります。良書はどんどん読もう。。読んで損をすることはない。

キーワード　/Keywords

SDGs投資、プレゼンテーション、卒業論文、レジュメ作り、調査方法、ESD

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習は、地方自治にかかわるテーマに興味を持った学生の皆さんを対象としている。基本的には演習Ⅰから演習Ⅲを通じた２年間の調査研究プロジェクトの形式をとり、調査研究のテーマにそって、文献研究をしたり、フィールドワークを実践したり、そして最終的には報告書を執筆する。とくに演習Ⅲでは、演習Ⅰ･Ⅱで行ったフィールドワーク等の調査をもとに、最終報告書の作成に取り掛かる。状況によって判断するが、合宿に行く予定もある。

（到達目標）
DP５　自律的行動力；公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。
DP４　コミュニケーション力；意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
DP３　思考･判断･表現力；社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。

教科書　/Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

１回　演習IIの報告書の復習
２回　演習IIの報告書の不足分を洗い出す
３回　補充調査の議論
４回　補充調査票の準備
５回　補充調査票の作成
６回　補充調査報告【原データ報告】
７回　補充調査報告【修正リクエスト後の報告】
８回　最終報告書の大枠議論
９回　最終報告書の大枠と担当者決定
10回　最終報告書の内容報告【原稿つきあわせ】
11回　最終報告書の内容報告【修正リクエスト後の原稿報告】
12回　最終報告書の内容報告【最終原稿のつきあわせ】
13回　最終報告書の内容チェック
14回　最終報告書の誤字脱字等チェック
15回　研究全体のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業や調査、調査報告書作成への参加積極性…１００％

演習IV 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

実習や活動に関連する情報収集を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。データをまとめる際には、事前の作業が不可欠となるし、フィールドワーク等の調査結果を報告する場合は講義で発表する前にそれをまとめてくる作業が重要である。
演習I、演習IIでまじめに頑張った人は、演習IIIの作業を素早く深く理解できます。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

本演習では、日常生活で感じる身近な事柄から政策を考え、グループワークにより、問題の背景などの現状を把握する技術を学ぶことを目的とします。また現状を理解し、仮説の検証を行い、政策提言できるまでの分析手法を習得し、さらに調査結果の発表を通じ、他者に伝えるスキルを身に付けるということもゼミの目的となります。
また個人の研究活動としては、演習Ⅰで作成した研究計画に従い、受講生各自がそれぞれのテーマに沿って課題の分析・執筆をすすめることを目的とします。学期中、少なくとも2回は研究についての報告を行ってもらいます。また、ゼミ生と相談のうえ、受講生全員のテーマや興味関心と共通する文献の輪読・議論も行う予定です。研究報告を重ね、受講生と議論をするなかで、研究の結論を導き、本演習が終わるまでに、各自のゼミ論文が完成することを目指します。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、自らの専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える 姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社
○伊藤修一郎（2011）『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
○近藤克則（2018）『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
○酒井聡樹（2007）『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
佐藤雅昭（2016）『なぜあなたの研究は進まないのか』メディカルレビュー社
○戸田山和久（2012）『論文の教室：レポートから卒論まで．新版』NHKブックス
○名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房

その他、受講生の関心や研究テーマに従って、参考となる文献を適宜紹介します。

演習Ⅳ 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス
２回	調査の計画（１）テーマ、リサーチクエスチョン、仮説の設定
３回	調査の計画（２）調査対象の選定、質問の検討
４回	調査の実習
５回	研究報告（１）研究テーマに関する分析結果について①
６回	研究報告（２）研究テーマに関する分析結果について②
７回	研究報告（３）研究テーマに関する分析結果について③
８回	調査実施
９回	結果の分析（１）聞き取り調査で得られた情報の把握
１０回	結果の分析（２）仮説の検討
１１回	結果の分析（３）解釈と結論
１２回	結論の検討と議論
１３回	研究報告（４）仮説検証の結果、結論の提示①
１４回	研究報告（５）仮説検証の結果、結論の提示②
１５回	まとめ・ゼミ論の提出

成績評価の方法　/Assessment Method

報告40%、議論への参加・貢献40%、学期末の課題（ゼミ論文の提出）20%
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習について、事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理等を想定しています。

履修上の注意　/Remarks

本演習では、随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけておいて欲しいと思います。様々な事象について、ひとの考えを鵜呑みにするのではなく、自分で理解しようと努めること、またそれを自分の言葉で表現することを意識して議論に参加するよう心がけて下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ゼミ全体の活動（調査実施）と個人の活動（ゼミ論文のための研究）の両方が同時進行する慌ただしいゼミですが、両活動に共通する文献を輪読していく予定です。また「現場」にいくことと「机上」でじっくり考えること、どちらも大切だということを是非、実感して欲しいと思っています。
この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード　/Keywords

演習IV 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習IV	SEM312M

授業の概要　/Course Description

演習II、III、政策実践プロジェクトII、IIIは、併せて実施するほか、２年生と合同演習を行う予定です。
本演習は、「地域資源の活用による地域創造と地域（都市）の魅力形成」など都市・地域政策に関するテーマを扱います。
２学期（演習III）は、引き続き、個人テーマに沿った研究調査活動を継続していくなかで、地域政策に関する理解や深度を深めていきます。また、個別研究指導も継続するほか、研究報告を実施します。
演習II、IIIの成果物として、演習IIIの終了後にゼミ中間論文の策定と報告、演習IVの終了前に４年次の卒業論文の骨格となるゼミ論文の提出を求めます。
受講生には、いずれのステップにおいても主体的な取り組みを求めます。さらに、研究調査の質を高めるため、「考える力」「探究する力」のレベルアップ、知的方法論にもとづき獲得された知識の体系化と統合化を目的とします。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、専門的な視点から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
【コミュニケーション力】
意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
【自律的行動力】
公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

演習Iと共用分
○岩崎美紀子(2008)『「知」の方法論』岩波書店
○伊藤修一郎(2011)『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○戸田山和久(2012)『新版 論文の教室–レポートから卒論まで』NHK出版
○石井一成(2011)『大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社
○小笠原喜康(2018)『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書
・その他講義の中で適宜紹介します。

演習Ⅳ 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション
２．新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）①
３．新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）②
４．新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）③
５．新聞論評、研究報告（ゼミ中間論文の発表、今後の研究計画）④
６．まちづくり政策文献精読①
７．まちづくり政策文献精読②
８．まちづくり政策文献精読③
９．研究方法論精読①、政策研究報告（２年生）
10．研究方法論精読②、政策研究報告（２年生）
11．研究方法論精読③、政策研究報告（２年生）
12．知の方法論精読①、政策事例研究①（政策実践プロジェクト関連）
13．知の方法論精読②、政策事例研究②（政策実践プロジェクト関連）
14．知の方法論精読③、政策事例研究③（政策実践プロジェクト関連）
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

ディスカッションへの参加姿勢、授業への貢献、課題 100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
・無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない場合は退室を命じる場合があります。
・授業を受けるという受け身の姿勢ではなく、積極的に学び、他者と協調しながら議論に貢献する姿勢が求められます。
・政策実践プロジェクトは併せて履修してください。また、２年生との合同ゼミを予定していますので、履修時間に注意をしてください。
・授業計画は、政策実践プロジェクトなどの進捗状況により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード　/Keywords

演習Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

演習Ⅳ	SEM312M

授業の概要　/Course Description

演習IIに引き続き「多文化共生社会」がテーマです。日本に定住する外国人や、第一学期に続きジェンダー格差ついての文献の輪読、報告や討論を行います。と同時に、卒業論文の作成に向けた準備もします。各人の進捗状況に応じて、合宿などを行うこともあります。

この演習は「政策実践プロジェクトIII」とともに実施し、テーマに沿ったフィールドワーク(野外研修) も行います。

【到達目標】
思考・ 判断・ 表現力：社会の諸問題について、自らの専門から論理的に思考し、わかりやすく表現できる。
コミュニケーション力：意見の異なる者と積極的に議論し、自分の見解の質を高めようとする姿勢が身についている。
自律的行動力：公共的問題について関心を持ち続け、さらにこれらの関心から自らのキャリアについても主体的に考える姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

田中宏『在日外国人ー法の壁、心の溝　新版』岩波新書、1995年。
西日本新聞社編『新移民時代–外国人労働者と共に生きる社会へ』明石書店、2017年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第1回　授業オリエンテーション、自己紹介
第2回　『在日外国人』輪読と議論 1
第3回　『在日外国人』輪読と議論2
第4回　『在日外国人』輪読と議論3
第5回　『在日外国人』輪読と議論4
第6回　ゲスト招請あるいはフィールドワーク準備と議論
第7回　『新移民時代』輪読と議論1
第8回　『新移民時代』輪読と議論2
第9回　『新移民時代』輪読と議論3
第10回　『男女平等はどこまで進んだか』輪読と議論1
第11回　『男女平等はどこまで進んだか』輪読と議論2
第13回　『男女平等はどこまで進んだか』輪読と議論3
第14回　レポート評価と返却
第15回　まとめ

演習IV 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

報告や議論の姿勢（60%）、レポート（40%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に文献を精読し、議論や報告の準備をしてください。事後にはレポートなどの課題を出します。

履修上の注意　/Remarks

無断での遅刻、欠席は認めません。
無断欠席を2回以上すると単位はありません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【SDGs】目標の１、５、10に主に関連しています。

キーワード　/Keywords

外国人労働者、外国人居住者、共生、イスラム教、ジェンダー

政策実践プロジェクトI 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅠ	SEM280M

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワーク等の知識や調査方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会に貢献することにあります。

そのため、本年度は、第１に、北九州市における超高齢コミュニティ及び町内会・自治会等の調査あるいは商店街の来街者調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などを身につけてもらいます。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかり学んでもらいます。

第２に、政策コンペなどを通して、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学んでいただきます。そして、具体的な政策提言の手法を習得してもらいます。

（到達目標）
【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
【コミュニケーション力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自立的行動】公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ–論理と方法』(ミネルヴァ書房、2013年)。
辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法–実践ノウハウとパソコン支援』(朝倉書店、1987年)。
伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　入門
第２回　なぜ、調査する必要があるのか考える
第３回　調査設計（１）–調査対象を決める
第４回　調査設計（２）–調査方法【質的調査】
第５回　調査設計（３）–調査方法【量的調査】
第６回　調査設計（４）–調査票を作成する
第７回　調査設計（５）–サンプリング等
第８回　社会調査に関する文献の輪読（１）
第９回　社会調査に関する文献の輪読（２）
第１０回　現地調査
第１１回　現地調査–補充調査
第１２回　調査結果の集計
第１３回　調査結果の分析・検討
第１４回　調査結果をまとめる
第１５回　調査報告書の作成

政策実践プロジェクトI 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

調査等への参加・貢献度…　100　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず準備（予習）をしてから調査等には参加して下さい。また調査等の終了後には、必ず調査内容等を整理し、報告書作成ができるようにしておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

政策実践プロジェクトI 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅠ	SEM280M

授業の概要　/Course Description

本演習は、演習Iと併せて実施します。政策実践プロジェクトには、学生の自主的なテーマ設定に基づく調査活動と、教員による指定プロジェクトがありますが、いずれもフィールド調査を基本に考えています。

プロジェクトの推進は、グループワークにより行いますが、３年生と合同実施する場合があります。

対象地が遠距離の場合、宿泊を伴う場合がありますので留意してください。また、飲食費などフィールドワークにかかる経費の一部は負担いただきます。

教員指定プロジェクトを実施する際は、連携する地方自治体に対して政策提案を伴う成果報告会を行うことがあります。

フィールドワーク前は、資料収集に基づく仮説設定を行い、フィールドワーク後は、振り返りと獲得された知見の整理を行うことで政策研究の拡がりと深度を深めます。成果報告会の前などは時間外にグループワークを伴う場合があります。

新型コロナウイルスの影響等によりフィールド活動が実施できない場合は、政策事例研究や政策分析などの机上検討を行います。

実践的なプロジェクト活動を行うことで、地域政策の現状と課題を知り、洞察力と実践的な政策提案能力を涵養することを目的とします。

（到達目標）
【技能】
実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
【コミュニケーション力】
ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自律的行動力】
公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で、適宜紹介します。

政策実践プロジェクトI 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

2年生単独で実施する場合の標準的な推進プロセスを示します。
1．オリエンテーション
2．プロジェクトの企画設計① - 目的と方法
3．プロジェクトの企画設計② - 政策テーマ、対象地域に関する検討
4．プロジェクトの企画設計③ - プロジェクト企画の決定、グループ分け
5 - 6．事前学習 - 地域研究、調査仮設の設定等
7 - 8．フィールド調査の準備、役割分担
9 - 10．フィールド調査の実施
11 - 12．フィールド調査の振り返り（記録作成、ディスカッション）
13 - 14．政策提案の検討
15．政策提案の発表、振り返りレポートの作成

成績評価の方法　/Assessment Method

調査活動、ディスカッションへの主体的参画、役割分担、成果達成への貢献　100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
・無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない行動や受講態度が良くない場合は、参加を認めません。
・地域活性化やまちづくりに興味をもち、前向きに取り組む学生を歓迎します。
・フィールド調査前後や成果発表会を伴う場合は、準備分担に相応の時間と負担がかかることをご承知ください。
・なお、授業計画はプロジェクトの内容や進捗により柔軟に対応します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード　/Keywords

政策実践プロジェクトI 【昼】

担当者名 /Instructor　田村　慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅠ	SEM280M

授業の概要　/Course Description

この授業は、演習Iと併せて実施します。フィールドワークの対象として、福岡マスジド（イスラム寺院）や仏教寺院などを訪問して宗教に関する知識を深め、また、性的マイノリティの人権擁護運動を行っているNGO、北九州市の「多文化共生プログラム」のヒアリングや調査、多文化共生に取り組む市民団体への訪問などを予定しています。なお、参加人数によっては、他のゼミとの合同実施や、受講生の希望によっては宿泊を伴うフィールドワークに変更することもあります。

実践的なフィールドワークによって、自治体あるいはＮＧＯ、在日外国人による多文化共生の取り組みや現状、課題を知り、具体的な政策提案能力を養うことを目的とします。

【到達目標】
技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
コミュニケーション力：ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
自律的行動力：公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書　/Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業のなかで紹介します。

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　フィールドワークの説明と候補場所
第３回　フィールドワークの予備調査①
第４回　フィールドワークの予備調査②
第５回　フィールドワークの実施①
第６回　フィールドワークの実施②
第７回　フィールドワークについての議論①
第8回　フィールドワークについての議論②
第9回　調査レポートの作成
第10回　各人からの報告①
第11回　各人からの報告②
第12回　各人からの報告③
第13回　全体報告
第14回　まとめ①
第15回　まとめ②

成績評価の方法　/Assessment Method

フィールドワークへの参加（30％）、議論や報告の内容（40％）、調査への貢献（30％）を判断して評価します。

政策実践プロジェクトI 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

フィールドワークに関する事前調査や議論、事後の報告と短いレポートを書いてもらいます。

履修上の注意　/Remarks

理由のない遅刻や欠席は認めません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【SDGs】目標の１、５、10に主に関連しています。

キーワード　/Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　1単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　実習
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅡ	SEM380M

授業の概要 /Course Description

本ゼミにおける政策実践プロジェクトの目的は、①地方公共政策を研究する学生が必要とする基本的なフィールドワーク等の知識や調査方法を身につけること、さらに②実際に調査した内容に基づき政策提言をし、地域社会に貢献することにあります。

そのため、本年度は、第１に、北九州市における超高齢コミュニティ及び町内会・自治会等の調査あるいは商店街の来街者調査を行い、アンケート調査の設計からインタビューの仕方などを身につけてもらいます。特にアンケート調査で重要となるワーディングについては学生相互の話し合いを行いしっかり学んでもらいます。

第２に、政策コンペなどを通して、地域社会の問題を解決するための調査から政策提言へといたる一連の作業を学んでいただきます。そして、具体的な政策提言の手法を習得してもらいます。

（到達目標）
【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
【コミュニケーション力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自立的行動】公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大谷信介ほか編著『新・社会調査へのアプローチ–論理と方法』(ミネルヴァ書房、2013年)。
辻新六・有馬昌宏『アンケート調査の方法–実践ノウハウとパソコン支援』(朝倉書店、1987年)。
伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法』（東京大学出版会、2011年）。

政策実践プロジェクトII 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　入門
第２回　なぜ、調査する必要があるのか考える
第３回　調査設計（１）–調査対象を決める
第４回　調査設計（２）–調査方法【質的調査】
第５回　調査設計（３）–調査方法【量的調査】
第６回　調査設計（４）–調査票を作成する
第７回　調査設計（５）–サンプリング等
第８回　社会調査に関する文献の輪読（１）
第９回　社会調査に関する文献の輪読（２）
第１０回　現地調査
第１１回　現地調査–補充調査
第１２回　調査結果の集計
第１３回　調査結果の分析・検討
第１４回　調査結果をもとめる
第１５回　調査報告書の作成

成績評価の方法　/Assessment Method

調査・報告書作成等への貢献度…　100　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

必ず準備（予習）をしてから調査等には参加して下さい。また調査等の終了後には、必ず調査内容等を整理し、報告書作成ができるようにしておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅡ	SEM380M

授業の概要　/Course Description

年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）といった社会保障関連の政治・行政・政策に関心を持っている人を歓迎します。「福祉経営」「福祉ビジネス」をテーマにして、実践的な活動を行います。政策実践プロジェクトIでは、市内の福祉ＮＰＯ団体（障害者福祉事業所）の活動支援に参加してもらいます。福祉NPOの経営の現状を調査し、商品販売や知名度向上のための企画を行ってください。

事前に担当教員としっかり相談し、承諾を得たうえで、受講してください。

（到達目標）
【技能】実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
【コミュニケーション能力】ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自立的行動力】公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　障害者福祉事業所の文献研究
第２回　福祉ＮＰＯの文献研究
第３回　調査の計画
第４回　訪問調査①
第５回　訪問調査②
第６回　訪問調査③
第７回　訪問調査④
第８回　訪問調査⑤
第９回　訪問調査⑥
第１０回　企画の検討①
第１１回　企画の検討②
第１２回　関係団体との調整
第１３回　事業の実施①
第１４回　事業の実施②
第１５回　まとめ

政策実践プロジェクトII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

調査･活動における貢献度･･･ 80%　調査･活動に関する報告･･･ 20%

教員が指定する調査･活動 (もしくは受講生自身が企画した調査･活動) への一定時間以上の参加が単位認定の要件となる。一定時間以上参加しない受講生については、レポート提出等による救済措置を行わない。調査･活動に参加する意思がない人は受講しないように。

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

グループでの調査･活動にあたっては、日程の調整が必要になる。日頃からスケジュールの管理を適切に行っておいてください。

履修上の注意　/Remarks

資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅡ	SEM380M

授業の概要　/Course Description

演習と抱き合わせの形でこの授業を行います。２年終了時までに培ってきた政策諸分野（自然・環境、地域社会、国際社会など）の知識吸収や理解を前提にして、演習では自らが卒論・ゼミ論のテーマを決め、卒論・ゼミ論作成企画書を作り、それに基づき、文献調査、観察、聴き取り調査などの実習、そして報告書の作成、発表を行っています。それらを通じて、企画力、自己管理力、コミュニケーションカなどの能力を養います。本科目は、それら一連の過程の中で、特に、三宅ゼミの特長である現場での参加型・実践型調査に対応するものです。プロジェクトには、藍島プロジェクト、食品ロス削減学生プロジェクト、まるごと韓国プロジェクト、石垣島・沖縄ESDスタディツアーor途上国ESDツアーといった４つがあり、各自の関心に基づき、計画、実践します。新型コロナの感染状況によりますが、希望者だけに、石垣島・沖縄本島、韓国やインドネシアなどの途上国へのスタディツアーの可能性を探ります。

{技能} 実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
{コミュニケーションカ} ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
{自律的行動力} 公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書　/Textbooks

* 中野民夫『ファシリテーション革命』岩波アクティブ新書、2003年
* フードバンク北九州ライフアゲイン作成の副読本、2021年、非売品
* 関係図書館や現地で入手可能な資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

* 佐藤郁哉『フィールドワーク - 書をもって街に出かけよう』新曜社、1992

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　政策実践プロジェクトIIの概要説明～ファシリテーション、参加型実践調査
2回　卒論・ゼミ論で用いる調査方法の決定と吟味
3回　全プロジェクトの準備の話し合い{事前学習を含む}
4回　藍島プロジェクトの準備　1
5回　藍島プロジェクトの準備　2
6回　食品ロス削減プロジェクトの準備　1
7回　食品ロス削減プロジェクトの準備　2
8回　国内ESDスタディツアー準備　1
9回　国内ESDスタディツアー準備　2
10回　藍島プロジェクトの実施
11回　食品ロス削減プロジェクトの実施
12回　国内ESDスタディツアの実施
13回　各プロジェクトの調査結果の発表　1
14回　調査結果の発表　2
15回　まとめ（各自の卒論にむずびつけて）

政策実践プロジェクトII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業の参加態度　…　50%、指定資料の読了・卒論・ゼミ論作成作業　…　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は、きちんと教科書や参考文献を読んでおいてください。事後学習は、現場での観察やインタビューなどで得られた情報を整理し、きちんと卒論に反映させるようにしてください。授業で指摘されたことも反映してください。

履修上の注意　/Remarks

指定資料の読了、調査項目の設定などの事前準備作業、日常的にコミュニケーション能力を高める努力はしておくこと。
卒論・ゼミ論文では自らがテーマを選び、研究手法を選びます。それに基づき、現場での調査活動を行うため、体力が必要となることもあります。普段からの体力作りにも励むようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現場からの学びを重視した卒論・ゼミ論文の完成を目指してください。それには、面倒くさがらずに、現場にドシドシ入り、現場の面白さ（時にはシンドさ）を知ってください。

キーワード　/Keywords

参加型実践型調査、現場（フィールド）

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅡ	SEM380M

授業の概要　/Course Description

フィールドワークというのは、簡単にできるように見えて意外に難しく、一定の技法が必要です。また、技法だけでなく、マナーというのもフィールドワークにとって欠かせない要素です。本調査実習では、フィールドワークの技法と基礎知識を身につけることをねらいとします。きちんとした調査技法やマナーを踏まえなければ、「調査公害」だけを生む結果となります。そうならないためにも、調査を始めるときに必要な技法、調査をしているときに気をつけないといけないこと、調査が終わってからの作業などを、ここでは学びます。

（到達目標）
DP５　自律的行動力：公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。
DP２　技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
DP４　コミュニケーション力；ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書　/Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス【調査について】
2回　調査研究方法【量的調査】
3回　調査研究方法【質的調査】
4回　調査研究の方法【フィールドワーク】
5回　調査研究の方法【アンケート法】
6回　フィールドワークの実践【半構造化調査とは】
7回　フィールドワークの実践【半構造化調査票の作成】
8回　フィールドワークの実践【半構造化調査の実施】
9回　フィールドワークの報告【前半】
10回　フィールドワークの報告【後半】
11回　アンケート調査票【大原則】
12回　アンケート調査票【細かなルール】【キャリーオーバー】
13回　アンケート調査票【細かなルール】【ダブルバーレル】
14回　アンケート調査票【細かなルール】【その他】
15回　反省会

成績評価の方法　/Assessment Method

授業や調査への参加積極性と報告書提出…１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

実習や活動に関連する情報収集を行うこと。

政策実践プロジェクトII 【昼】

履修上の注意　/Remarks

まじめに頑張ろうという姿勢がまず求められる。調査に出かけるときは、講義時間外の準備が必要である。たとえば、事前調査や調査先で問う質問をまとめる必要がある。また調査結果のまとめについては毎回の授業で内容のチェックをするため、授業までにある程度の文章をまとめてくることが不可欠である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅡ	SEM380M

授業の概要　/Course Description

本実習は、横山担当の演習IIとペアで行います。動物行政・動物政策の分野から研究したいテーマを設定し、リサーチクエスチョンに従って聞きとり、アンケートなどの実践的な調査を行い、分析し、結果・結論を報告することを目的とします。受講生の希望・関心によって、公的な機関の視察や現地調査といった活動も視野に入れ、適宜、必要となる調査方法・分析方法の講義を盛り込んでいく予定です。調査実習そのものの重要性もさることながら、得られた生のデータを分析し、自分たちで設定した疑問に答えを出し、それを報告する、という一連の作業過程を通じて、リサーチに関するスキルのアップをはかりたいと考えています。

（到達目標）
【技能】
実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
【コミュニケーション力】
ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自律的行動力】
公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書　/Textbooks

テーマに従って適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodle and/or Teamsに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

テーマに従って、適宜、紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス
2回　グループでの調査テーマの検討・設定
3回　グループでの調査テーマの検討・設定
4回　調査計画の作成・調査にむけての準備（事前調査・先行研究の検討など）
5回　調査計画の作成・調査にむけての準備（事前調査・先行研究の検討など）
6回　調査の実施
7回　調査結果の報告と議論
8回　追加・補足調査
9回　追加・補足調査
10回　調査結果の分析
11回　結論と課題の検討
13回　調査結果のまとめ
14回　調査結果の報告
15回　まとめ

政策実践プロジェクトII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

調査・議論への参加度合い70%、調査結果の報告30%
（無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習としては分析方法の確認（社会調査・統計分析・聞き取りの作法など）や報告資料の作成等、事後学習としては分析結果の報告に対するコメント整理等を想定しています。

履修上の注意　/Remarks

受講生の人数にもよりますが、忙しい日程で調査を行うことが予想されます。時間外での下調べや準備等を厭わないという覚悟を持った参加者を歓迎します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード　/Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅡ	SEM380M

授業の概要　/Course Description

本演習は、演習IIと併せて実施します。政策実践プロジェクトには、学生の自主的なテーマ設定に基づく調査活動と、教員による指定プロジェクトがありますが、いずれもフィールド調査を基本に考えています。

プロジェクトの推進は、グループワークにより行いますが、２年生と合同実施する場合があります。

対象地が遠距離の場合、宿泊を伴う場合がありますので留意してください。また、飲食費などフィールドワークにかかる経費の一部は負担いただきます。

教員指定プロジェクトを実施する際は、連携する地方自治体に対して政策提案を伴う成果報告会を行うことがあります。

フィールドワーク前は、資料収集に基づく仮説設定を行い、フィールドワーク後は、振り返りと獲得された知見の整理を行うことで政策研究の拡がりと深度を深めます。成果報告会の前などは時間外にグループワークを伴う場合があります。

新型コロナウイルスの影響等によりフィールド活動が実施できない場合は、政策事例研究や政策分析などの机上検討を行います。

実践的なプロジェクト活動を行うことで、地域政策の現状と課題を知り、洞察力と実践的な政策提案能力を涵養することを目的とします。

（到達目標）
【技能】
実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
【コミュニケーション力】
ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【自律的行動力】
公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

標準的な推進プロセスを示します。
1．オリエンテーション
2．プロジェクトの企画設計① - 目的と方法
3．事前検討–政策研究テーマ
4．事前検討–対象地域の選定
5．プロジェクトの企画設計② - プロジェクトのテーマと対象地の決定
6．プロジェクトの企画設計③ - グループ分け
7 - 9．実証研究の事前学習 - 調査対象の政策研究と調査仮説の設定
10 - 12．フィールド調査の準備–役割分担、工程設計
13 - 15．フィールド調査の実施（夏休み期間を想定）

政策実践プロジェクトII 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

調査活動、ディスカッションへの主体的参画、役割分担、成果達成への貢献　100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備してください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替えます。
・無断欠席、理由のない遅刻、ゼミ中の私語、無関心などの逸脱行動は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。教員の指導に従わない行動や受講態度が良くない場合は、参加を認めません。
・地域活性化やまちづくりに興味をもち、前向きに取り組む学生を歓迎します。
・なお、授業計画はプロジェクトの内容や進捗により柔軟に対応します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード　/Keywords

政策実践プロジェクトII 【昼】

担当者名 /Instructor　田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　実習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が政策課題であるかを見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践プロジェクトⅡ	SEM380M

授業の概要 /Course Description

政策実践プロジェクトIIは、演習IIと併せて実施します。フィールドワークの対象として、「多文化共生プロジェクト」を実施しているＮＧＯや公的機関、性的マイノリティの権利擁護を進めている団体などを考えています。なお、他のゼミとの合同で実施することもあります。

実践的なフィールドワークによって、自治体あるいはＮＧＯ、在日外国人による多文化共生の取り組みや現状、課題を知り、具体的な政策提案能力を養うことが目的です。

【到達目標】
技能：実践的な政策研究活動・調査活動をするために必要な情報を収集、分析することができる。
コミュニケーション力：ゼミにおいて積極的に議論をしながら、協働して社会の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
自律的行動力：公共的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、社会問題の解決へ向けて取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション
第２回　フィールドワークの説明と候補場所
第３回　フィールドワークの予備調査①
第４回　フィールドワークの予備調査②
第５回　フィールドワークの実施①
第６回　フィールドワークの実施②
第７回　フィールドワークについての議論①
第8回　フィールドワークについての議論②
第9回　調査レポートの作成
第10回　各人からの報告①
第11回　各人からの報告②
第12回　各人からの報告③
第13回　全体報告
第14回　まとめ①
第15回　まとめ②

成績評価の方法 /Assessment Method

調査や議論への参加（40％）、報告（40％）、調査への貢献（20％）。

政策実践プロジェクトII 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

フィールドワークの対象に関する事前学習、事後の報告のための報告や議論の準備は必ず行ってください。

履修上の注意　/Remarks

理由のない遅刻や欠席は認めません。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【SDGs】目標の１、５、10に主に関連しています。

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

この授業では、教員の指導の下、卒業論文を執筆・完成させます。扱うテーマは政治理論（政治思想史を含む）もしくは政策に関わるものとしますが、出来る限り幅広いテーマを扱えるよう努力します。授業は、それぞれが進めてきた研究を教員に報告し、それに対してフィードバックを与える形式をとります。また、中間成果発表の場では、学生が互いに研究と論文の執筆状況を報告しあい、他人の研究を批判的に考察する目を養います。要望や必要によっては合宿を行うこともあります。

教科書　/Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

【1学期】
第1/2回　研究の進め方・論文の書き方
第3/4回　テーマ発表
第5/6回　研究報告I
第7/8回　研究報告II
第9/10回　研究報告III
第11/12回　中間成果発表I
第13/14回　中間成果発表II
第15回　中間成果発表III

【2学期】
第16/17回　研究報告IV
第18/19回　研究報告V
第20/21回　研究報告VI
第22/23回　論文の引用形式の復習
第24/25回　論文の仕上げI
第26/27回　論文の仕上げII
第28/29回　論文の仕上げIII
第30回　最終確認

成績評価の方法　/Assessment Method

卒業論文：100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にその回に報告すべき研究の進捗状況をまとめてくること。また授業で指摘されたことに基づき、適宜研究と論文執筆を進めてください。

卒業論文 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

現代民主政治を分析する卒業論文の指導を行う。テーマに関しては現代民主政治に関する因果的な問いを扱うものであれば幅広く受け入れるが、以下のうち少なくとも一つに当てはまることが望ましい。

①先進民主主義国における政治制度を対象とするものであること
②先進民主主義国における政治エリート（議員、執政長官、官僚など）及びその集団（政党）を対象とするものであること
③日本政治を対象とするものであること
④数理分析の手法を用いた理論的検討 and/or 計量分析の手法を用いた実証を行うものであること

（到達目標）
【思考・判断・表現力】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、自らの見解を表現することができる。
【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。
【自律的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

各人が必要な文献・資料を収集すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

戸田山和久 (2012)『新版　論文の教室-レポートから卒論まで』NHKブックス
小笠原喜康 (2018)『最新版　大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

卒業論文 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

以下のスケジュールに則って運営するので、〆切等を厳密に守ることが求められる。
まず5月の連休前までに研究計画書を提出すること。その後については、夏休みに主たる分析が行えるように前期の日程を設定する。すなわち、①数理分析を用いた理論的分析のみを行う場合は、テーマの設定、先行研究レビューとモデルの設定まで、②実証まで行う場合は、テーマの設定、先行研究レビュー、理論的検討、および実証のリサーチデザインまでを前期のうちに報告してもらう。
前期の指導を受けて，夏休み中に第1稿を執筆し、休み明けまでに提出すること。後期は第1稿の内容をもとに報告をしてもらい、そこでの議論を反映させ年内に第2稿を提出してもらう。第2稿は、分析の内容は確定しており体裁を整えるだけで提出できるようなものであることが望ましい。最後に引用や注などの形式の確認を行い、最終稿を用意し卒論として提出する。

＜1学期＞

第1回　オリエンテーション、担当決め
第2-3回　構想報告
第4-5回　研究計画書執筆
第6-10回　先行研究レビュー（＋理論的検討）報告
第11-15回　モデルの設定 or リサーチデザイン報告

＜2学期＞
第16-17回　第1稿報告
第18-25回　修正と議論
第26-27回　第2項報告
第28-29回　修正と議論
第30回　形式の確認

成績評価の方法　/Assessment Method

議論への貢献 (30%)、卒業論文の質 (70%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告準備のみならず、分析や論文執筆も授業時間外がメインになる。上記のスケジュールを参考に計画的に進めること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　通年　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

政策が地域社会や個々人、そして特定集団に及ぼす影響を理解· 分析し、解決案を見出す能力（政策形成能力）を高める。また、環境、住民とのかかわりなど、幅広い視点から、政策とそのあり方に関して議論· 事例の調査を行う。そのための研究調査の方法などを詳しく勉強し、卒業論文として仕上げる。

卒論テーマの例：SDGsのエネルギー· 食べ物· 水問題· 気候危機政策
都市再生過程と市民参加、環境モデル都市関連の聞き取り調査
自治体の環境政策, 再生エネルギー促進政策とその政策過程
環境ガバナンスの比較研究、
SNS普及と若者の政治意識、
メディアと環境、環境心理、
スポーツを活用した地域活性化、
文化と観光政策、自然災害の防災対策の分析、母子家庭における女性の貧困

（到達目標）
【思考· 判断】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することが できる。
【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理 的に伝えることができる。
【自律的行動力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文 過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

、

教科書　/Textbooks

『新版 大学生のためのレポート· 論文術』（小笠原喜康著 講談社 2009年 ￥756）
『社会調査法入門』（盛山和夫著 有斐閣 2004年 ￥2,415 ）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『フィールドワークの技法–問いを育てる　仮説をきたえる』（佐藤郁哉著 新曜社 2002年 ￥3,045）
○『考えることの科学』（市川伸一著 中公新書 1997年 ￥693）
○『公共事業の正しい考え方』（井堀利宏著 中公新書 2001年 ￥735）
その他

卒業論文 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　オリエンテーション
2回　テーマの検討と理解
3回　卒論のテーマについて報告I
4回　卒論のテーマについて報告II
5回　調査計画の発表I
6回　調査計画の発表II
7回　卒論のテーマと問題意識の検討I
8回　卒論のテーマと問題意識の検討II
9回～17回　関連論文の考察
18回　卒論のテーマの調査方法I
19回　卒論のテーマの調査方法II
20回　卒論のテーマの調査方法III
21回　卒論のテーマの調査方法IV
22回～27回　卒論の作成指導
28回 パワーポイントによるプレゼンテーションI
29回 パワーポイントによるプレゼンテーションII
30回 まとめ・評価

成績評価の方法　/Assessment Method

報告準備と議論（40％）、卒業論文（60％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、毎回参照し準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

調査方法、科学、個人・社会・国家の関係、構造、変数、説明

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要 /Course Description

この授業では、卒業論文を完成させることを最大の目的にして、主に学生の研究報告と教員によるコメント、添削指導を中心にして進めていきます。ゼミでは、基本的に学生による研究報告と報告に対する質疑応答という形式をとります。

卒論のテーマは地方自治体の公共政策を中心にして以下のようなテーマを考えています。①まちづくり、特に超高齢社会のまちづくり・中心市街地の空洞化・コミュイティの再生をはじめとするまちづくり政策、②人口減少問題、縮小都市[幸福に老いて縮む都市]の問題、空き家問題、③（子どもの）貧困問題、④高齢者介護政策、⑤買い物弱者問題、⑥市民社会（NPO）論、コミュニティ・ビジネス、⑦格差社会論、などです。

（到達目標）
【思考・判断・表現】公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。
【コミュニケーション力】積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。
【自律的思考力】公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

学生の研究テーマに応じて、適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

学生の研究テーマに応じて、適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

学生の理解の進捗状況によって変わりますが、年間の授業計画はおおよそ以下のとおりです。

第１～２回　卒論（研究）の進め方、テーマの絞り方などについて
第３～４回　論文の書き方（引用の仕方等の確認）
第５～６回　テーマの設定
第７～１２回　研究報告
第１３～１４回　テーマの再検討および今後の研究についての検討
第１５回　まとめ

第１６回　２学期の進め方について（オリエンテーション）
第１７～２５回　研究報告
第２６～２７回　論文の書き方の確認
第２８～２９回　卒論の添削とコメント・書き直し
第３０回　最終的なまとめ

卒業論文 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

基本的には、卒業論文（80％）によりますが、それ以外にも研究発表等(20％）も成績評価に加えていきます。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

報告者は必ず事前に準備して指定されたフォーマットで報告書を作成して報告してください。また、報告者の報告を聞く側も報告者の発表について必ずコメントをするように心がけてください。論文の書き方などについての授業を行った場合には、必ず復習して、卒業論文の執筆に活かすようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

社会保障制度、公共サービスの民営化・民間委託に関する卒業論文作成を行います。年金、医療、介護、保育、障害者福祉（就労支援・作業所）、指定管理者制度やPFIなどのテーマに関心を持っている人を歓迎します。
受講生は、所定の時間（開講期間における金曜日５限を予定）に計４回の報告を行い、研究成果を卒業論文として提出しなければなりません。

教科書　/Textbooks

自らの研究に必要な文献・資料を、受講生が自分自身で考え、収集する必要があります。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　　授業の進め方、成績評価などについての注意事項説明。必ず出席すること。
第２回～第８回　　受講生報告１回目
第９回～第１５回　受講生報告２回目

第１６回　卒業論文提出にあたっての注意事項説明。必ず出席すること。
第１７回～第２３回　　受講生報告３回目
第２４回～第３０回　　受講生報告４回目

成績評価の方法　/Assessment Method

卒業論文の内容評価・・・４０％　　報告内容の評価・・・６０％
原則として、欠席１回につき、最大２点程度減点

＊所定の時間（開講期間における金曜日５限を予定）に報告が困難な場合は、報告日時の変更を事前に申し出ること。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自らの報告の際には、十分な時間を確保し、準備すること。他の受講生の研究分野にも関心を持ち、事前に新聞やインターネットで基本的な知識を得ておくことが望ましい。報告終了後は、他の受講生と積極的に意見交換し、次回の報告に反映させてほしい。

履修上の注意　/Remarks

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。
資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

特になし。

キーワード　/Keywords

特になし。

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

以下のようなテーマを中心に（ただしこれに限らない）
国際比較政治分析を行う論文の指導を行う。
・ 民族問題やエスノポリティクス
・ 政党政治の比較分析
・ 現代ヨーロッパ政治
・ 民主政と独裁政（の変動）…etc.

テーマに関する漠然とした記述ではなく，
・ ある政治現象が発生する原因や背景，あるいは，
・ ある政治現象がもたらす影響や結果について
実証的に検証する形式の論文を執筆する。

教科書　/Textbooks

各人の論文テーマに応じ，教員から推薦するのみならず，自ら見出す必要がある。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

各人の論文テーマに応じ，教員から推薦するのみならず，自ら見出す必要がある。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

前期の指導の応答を反映させて，夏休み中に第１草稿を執筆し，休み明け前に提出する。後期は当該草稿をもとに指導を行い，年明け前に第２草稿を提出する。第2草稿は，ほぼ卒論としての体裁を備えていることを理想とする。第2草稿に対するコメント・指導を踏まえて，最終稿を用意し卒論として提出する。なお，後期（第16週以降）は，担当者（中井）の在外研修が予定されており，オンラインでの指導が主になる蓋然性が高い。変更があった場合は随時アナウンスする。

１．イントロダクション，担当決め
２ - ３．卒論第１構想の報告と議論
４ - ５．研究計画の立案
６ - 10．必要資料のリサーチ・報告・議論
11 - 15．第１草稿に向けての追加リサーチ・報告・議論
16 - 17．第１草稿の報告と議論
18 - 21．議論を受けての修正と報告
22 - 25．第２草稿に向けてのリサーチ・報告・議論
26 - 27．第２草稿報告
28 - 29．最終原稿への修正と報告
30．提出締切

卒業論文 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

演習参加（30%）と論文のクオリティ（70%）に基づいて評価する。
（ただし海外インターンなどの場合，「参加」は個別応答などを含み広く定義する）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎週，何かしらの短い報告を行い，それに対して指導・課題を与えるため，翌週にそれを踏まえた報告を行う。この繰り返しが原則ではあるが，履修者のバランスや事情等を考慮して，臨機応変に対応する。

履修上の注意　/Remarks

2021年度は担当者の在外研修が予定されています。履修スケジュール等について担当者と密に連絡を取ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

参加者の関心にも依存しますがSDGs1, 2, 5, 8, 10, 16, 17あたりのテーマが扱われることが多いです。

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

大学入学時から政策科学科の学生として学んできたことの集大成が卒業論文です。１年から3年の終わりまで、政策入門、調査、評価などの様々な政策の分野を学習してきました（きちんとやっておくこと！！）。また、三宅ゼミでプロジェクト実践も行いました。卒業論文を書くにあたって留意してほしいのは、テーマを決定し、論理展開を考え、必要な文章で表現していくことです。

しかし、テーマ決定一つとってみても簡単ではありません。というのも、決定するのに時間がかかり過ぎたり、絞り切られていないものもあるからです。次の段階に移って、章構成を的確に行うのであれば、論理的思考が必要となってきます。１～３年までに培ってきた能力を武器にして頑張りましょう。日ごろから問題意識を持って、様々な観察・インタビューをしていてください。テーマ決定や文献資料作成は3年の2学期に行っていることだけを付け加えておきます。

思考力・判断・表現力：公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。

教科書　/Textbooks

その都度必要に応じて配布予定。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

＊石井一成『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』ナツメ社、2011年、1188円
＊田中幸夫『卒論執筆のためのWord活用術』講談社、2012年、880円
＊北九州市立大学三宅ゼミ論集編集委員会『2019（令和元）年度北九州市立大学法学部政策科学科三宅ゼミ活動報告書』北九州市立大学、2020年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の概要説明
2回　卒業論文とは何かを考える
3回　受講生によるテーマの設定の吟味
4回　対象・方法論の確定
5回　各受講生の論文構想発表　1　と議論
6回　各受講生の論文構想発表　2　と議論
7回　各受講生の論文構想発表　3　と議論
8回　調査方法を考える
9回　各受講生の調査方法と内容の発表　1　と議論
10回　各受講生の調査方法と内容の発表　2　と議論
11回　各受講生の調査方法と内容の発表　3　と議論
12回　各受講生の調査方法と内容の発表　4　と議論
13回　事例学習：インドの環境問題と環境教育の実態
14回　事例学習：バングラデシュ・ダカ市の廃棄物管理
15回　事例学習：北九州市藍島プロジェクト
16回　各自の調査結果報告　1　と議論
17回　各自の調査結果報告　2　と議論
18回　各受講生の調査結果報告　3と議論
19回　各自の調査結果報告　4　と議論
20回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介　1　と議論
21回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介　2と議論
22回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介　3　と議論
23回　各受講生の論文に必要な文献資料紹介　4と議論
24回　中間講評
25回　各受講生の草稿発表　1　と議論
26回　各受講生の草稿発表　2　と議論
27回　各受講生の草稿発表　3　と議論
28回　各受講生の草稿発表　4　と議論
29回　最後の講評
30回　まとめ

卒業論文 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

20%…参加態度　　卒業論文の内容　…　80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は、卒論に関係する文献・資料を読んでおくこと、また、調査に関わる手引書・文献を熟読してください。事後学習は、授業で指摘された点を卒論に反映させることができるように整理をしてください。

履修上の注意　/Remarks

様々なものが調査材料になります。自らのスタイルに合わせ、予習復習を怠らずにやってください。実践活動からも何らかのヒントがあると思います。そこをよく見抜きましょう。最終的には一人一人の指導になるので、早くから準備しておいてください。12月末には第一次草稿を提出できるように。。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

集大成として卒業論文を完成させるにあたってかなりの苦労があると思います。大学時代の良い思い出になるでしょう。頑張ってください。図書館も新しくなり、勉強するには最適です。足を運びましょう。そして、良書はどんどん読みましょう。履修上の注意にも書きましたが、できるだけ早く準備していてください。

キーワード　/Keywords

大学生活の集大成、こだわり探し、テーマ設定、論理展開、調査

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

卒業論文の作成を行う。演習形式で実施する。少し気が緩み始めそうになる時期か締め切り前か、受講生の需要などに応じて、卒業論文作成強化合宿を実施する。

教科書　/Textbooks

授業中に適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

卒業論文 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンス【ガイダンス】
第２回　卒業論文の書き方①【論文とは】【論文の心構え】
第３回　卒業論文の書き方②【論文の構造】【リサーチクエスチョン】
第４回　卒業論文の書き方③【過去の卒論を見る】
第５回　簡単な構想発表【前半組】
第６回　簡単な構想発表【後半組】
第７回　構想発表の講評【リサーチクエスチョン】【方法論】
第８回　個別構想発表【前半】
第９回　個別構想発表【後半】
第１０回　個別構想発表【前半】
第１１回　個別構想発表【前半講評】
第１２回　個別構想発表【後半】
第１３回　個別構想発表【後半講評】
第１４回　中間報告会【前半組】
第１５回　中間報告会【後半組】
第１６回　卒論作成強化合宿の説明
第１７回　合宿後の個別構想発表【分析枠組】
第１８回　合宿後の個別構想発表【リサーチクエスチョン】
第１９回　合宿後の個別構想発表【仮説】
第２０回　合宿後の個別構想発表【分析方法】
第２１回　合宿後の個別構想発表【章構成】
第２２回　合宿後の個別構想発表【全体の流れ】
第２３回　卒論の最終段階発表の説明
第２４回　合宿後の最終段階発表【分析枠組】
第２５回　合宿後の最終段階発表【リサーチクエスチョン】
第２６回　合宿後の最終段階発表【仮説】
第２７回　合宿後の最終段階発表【分析方法】
第２８回　合宿後の最終段階発表【章構成】
第２９回　合宿後の最終段階発表【全体の流れ】
第３０回　半年間のふりかえり

成績評価の方法　/Assessment Method

卒業論文のできばえ・・・５０％、卒業論文の作成への態度・・・５０％。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

１年間のロングランに耐えるためには、体力と気力が重要です。
この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

私が指導する「卒業論文」で扱うテーマの共通項は、「実証的な分析を通じて考察する行政・地方自治（特に地方自治体における行政活動・制度・政策・組織等）」で、この範囲内であれば、後は原則自由にリサーチクエスチョンを設定できます。ここでの実証的な分析とは、定量的（データ分析など）・定性的（聞き取りなど）な手法のいずれか、あるいは両方を含む方法論を使い、一次情報を使って論究をすすめることを指します。2・3年次の演習での個人研究（ゼミ論）を発展させることを念頭においていますが、新たな研究課題を設定することも可とします。授業（演習）は、各自の卒業論文のテーマや分析手法に関連した文献の紹介や輪読を含む、ゼミ生の研究報告と質疑応答が中心となります。また12月20日頃までに草稿を完成させ、1月中にブラッシュアップすることを目標に、ゼミ生それぞれに対して、個別の論文の執筆指導・添削も行っていきます。

教科書　/Textbooks

○石黒圭（2012）『論文・レポートの基本』日本実業出版社
○伊藤修一郎（2011）『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会
○酒井聡樹（2007）『これから卒論・レポートを書く若者のために』共立出版
○戸田山和久（2012）『新版論文の教室：レポートから卒論まで』NHKブックス

その他、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○菊池誠ほか（2011）『もうダマされないための「科学」講義』光文社新書
○久米郁男（2013）『原因を推論する：政治分析方法論のすゝめ』有斐閣
○近藤克則（2018）『研究の育て方: ゴールとプロセスの「見える化」』医学書院
○酒井聡樹（2015）『これから論文を書く若者のために：究極の大改訂版』共立出版
○名古屋大学教育学部附属中学校・戸田山和久（2014）『はじめよう、ロジカル・ライティング』ひつじ書房
その他、適宜指示します。

卒業論文 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス：今後のスケジュール、論文作成にあたって（１）
２回　論文作成にあたって（２）論文構成、各自のテーマの確認
３回　研究報告（１）進捗状況と研究方法を中心に①
４回　研究報告（２）進捗状況と研究方法を中心に②
５回　研究報告（３）進捗状況と研究方法を中心に③
６回　研究手法について（１）実証分析の方法
７回　研究手法について（２）想定する方法論の確認
８回　文献報告（１）各自の研究に直結・関連する文献の紹介①
９回　文献報告（２）各自の研究に直結・関連する文献の紹介②
１０回　文献報告（３）各自の研究に直結・関連する文献の紹介③
１１回　研究のふり返り（１）現状の課題を抽出する
１２回　研究のふり返り（２）アイディアを出し合う・スケジュールを確認する
１３回　研究報告（４）仮説と実証分析の結果を中心に①
１４回　研究報告（５）仮説と実証分析の結果を中心に②
１５回　研究報告（６）仮説と実証分析の結果を中心に③

１６回　研究のふり返り（３）足りない情報（文献・データ等）を確認する
１７回　研究のふり返り（４）批判し合う・執筆のスケジュールを確認する
１８回　論文作成にあたって（３）論文構成、先行研究・参考文献の確認
１９回　論文作成にあたって（４）仮説の設定と検証、Q＆Aの一致（序論と結論）
２０回　論文作成にあたって（５）結論と含意、課題の示し方
２１回　研究報告（７）結論の提示①
２２回　研究報告（８）結論の提示②
２３回　研究報告（９）結論の提示③
２４回　草稿の修正にあたって
２５回　論文を要約する
２６回　研究報告会（１）
２７回　研究報告会（２）
２８回　研究報告会（３）
２９回　卒業論文の講評
３０回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

研究報告20%、議論への参加（質疑応答）20%、成果物としての卒業論文60%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業外学習については、事前学習としては主に文献の読み込み・資料の作成、事後学習としては報告で得られたコメントの整理、社会調査やフィールドワーク、卒業論文の執筆等を想定しています。

履修上の注意　/Remarks

行政学・地方自治、特に自分が研究したいテーマおよび用いたい分析方法に関連する科目を履修済みであることが望ましいです。また、研究報告を中心とするゼミ生同士の議論への積極的な参加はもとより、卒業論文執筆と完成への強い意志、意欲、および情報を収集し、文献を読み込み、結論に至る根拠は何であるのかを深く考察する姿勢を強く求めます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

私自身の経験でもあるのですが、卒業論文で扱うテーマが、図らずも仕事になったり、思いがけず一生をかけて向き合う課題になったりすることもあり得ます。趣味的でもよし、憤りでもよし、自分にとって「いま一番興味がある」「気になって仕方ない」など、取り組むにあたって、苦しみながらも楽しめるテーマや分析方法を選択してもらいたいと思っています。
リサーチクエスチョンに対する一定の解を出せたとしても、自分を心底納得させるのは大変難しいことです。しかしこの「卒業論文」執筆という研究過程を経ることで、（限定的であろうとも）すっきり気持ちよく大学を飛び立ちませんか。そのサポートをするのが指導教員の役割のひとつと考えています。
またSDGｓ（特に7・12・15など）の観点から、レジュメ・資料等はすべてMoodle and/or Teams　にアップするものとします。

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1・2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　演習　クラス /Class　4年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要　/Course Description

３年次の演習II、IIIで作成したゼミ論文をもとに、卒業論文の作成を行う。
卒業論文の共通テーマは、地方創生や文化観光政策など地域の魅力創出に向けた政策研究である。
前期は、卒論の基本構想を再検討した後、論文の目的、研究仮説と論証方法、先行研究レビュー、獲得された調査研究内容、結論の妥当性を適宜精査し、追加的調査の実施と論文執筆活動を推進する。
指導方法は、個人指導と卒論ゼミの併用が基本であるが、公務員試験や就職活動など受講者の状況に配慮した指導を行っている。個人指導は、受講生が行う論文作成の具体的指導及び参照すべき図書、文献等の提示を行う。
卒論ゼミは、卒業論文の進捗、研究指導をゼミで共有しながら進めるものである。いずれも担当教員との綿密な連携のもと、指導内容に基づく論文の加筆修正を行うことが求められる。
後期は、中間報告を経て11月末に完全原稿第１稿の提出を行う。
卒論ゼミでの討議、担当教員の修正指示等に基づき、1月末に卒業論文の完成を目指す。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】
公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。
【コミュニケーション力】
積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。
【自律的行動力】
公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しない。なお、論文作成に参考となる論文・文献等は別途指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

４月初旬　　卒業論文構想の発表
～７月上旬　卒論アウトラインの完成後、卒論題目の提出
９月末　　卒業論文ドラフト完
１１月末　　卒業論文完全原稿（第１稿）の提出
１２月～　　担当教員の指導等に基づき随時、卒業論文の推敲、修正
１月上旬　　卒業論文第２稿の提出
１月中～下旬　卒業論文の完成、担当教員の確認後、提出を許可

成績評価の方法　/Assessment Method

論文作成 100%

卒業論文 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

卒業論文の完成に向けて、指導教員の指導に従って論文の執筆・修正を行う必要がある。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンラインに切り替える。

＜履修条件＞
・２年次に演習I、３年次に演習II、IIIをいずれも履修していること。
・ゼミ論文の執筆など卒業論文に向けた個人研究を相当程度進めており、４月初旬に卒業論文構想を提示できること。
・田代が担当する「都市経済論」「都市政策論」「都市マネジメント論」を履修済み、あるいは履修中であること。
・完成度の高い卒業論文（先行研究レビュー、研究仮説の設定、論理性、オリジナリティ等）を執筆する意欲と基礎的能力が求められる。
・履修にあたっては、事前に面接を受けたうえで承諾を得ていること。
・指導教員と連絡を取らない、指導に従わないなど受講態度が不誠実であったり、許可なく卒業論文を提出した場合は単位を授与しない。
・無断欠席や理由のない遅刻は厳禁とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

卒業論文 【昼】

担当者名 /Instructor	田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	4単位	学期 /Semester	1・2学期（ペア）	授業形態 /Class Format	演習
クラス /Class	4年						

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	卒業論文の研究テーマと関連する専門分野・政策領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

卒業論文	STH410M

授業の概要 /Course Description

卒論指導では、アジア諸国の政治や外交、社会、民族に関するテーマ、あるいは多文化共生に関するテーマを主に扱いますが、他のテーマであっても指導は可能なので、遠慮なく相談してください。

スケジュールは受講生と相談の上で決めますが、第一学期は卒論の構想に沿った文献の輪読と議論、短いレポートの執筆や報告会が中心、第二学期は、具体的な章立を進めながら卒論を完成させます。

必要や要望があれば、合宿や集中授業を行います。

【到達目標】
思考・判断・表現力：公共政策課題や学術的課題について、自らの専門から論理的に思考し、論文作成を通じて自らの議論を展開することができる。
コミュニケーション力：積極的に議論し、自分の見解の質を高め、それを論理的に伝えることができる。
自律的行動力：公共性のある研究課題に関心を持ち続け、卒業論文過程で獲得した知識をその後の社会生活に活かす姿勢が身についている。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上で決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生と相談の上で決定します。

卒業論文 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

【1学期】
第1/2回　研究の進め方・論文の書き方
第3/4回　テーマ発表
第5/6回　研究報告I
第7/8回　研究報告II
第9/10回　研究報告III
第11/12回　中間成果発表I
第13/14回　中間成果発表II
第15回　中間成果発表III

【2学期】
第16/17回　研究報告IV
第18/19回　研究報告V
第20/21回　研究報告VI
第22/23回　論文の引用形式の復習
第24/25回　論文の仕上げI
第26/27回　論文の仕上げII
第28/29回　論文の仕上げIII
第30回　最終確認

成績評価の方法　/Assessment Method

卒業論文１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自分の進捗状況に応じて、事前に必要文献を精読してください。
個別指導の後には、自ら短いレポートなどを書いて、論文を仕上げていく努力をしてください。

履修上の注意　/Remarks

【履修条件】
積極的に文献を読んで、議論や報告が出来る人。
論文の書き方を習熟していない場合は、注や参考文献の書き方を含めて指導を行います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

【SDGs】目標の３、５、10に主に関連しています。

キーワード　/Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学	PLS100M

授業の概要　/Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたうえで、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治"学"の知識を蓄えるにとどまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けることを目指していきます。

（到達目標）
【知識】政治制度についての基礎的な知識を身につけている。
【技能】各国の政治制度の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】制度設計の観点から社会的諸問題を論理的に検討し、その解決策について自らの意見を表現することができる。

教科書　/Textbooks

建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史 (2008)『比較政治制度論』有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

レイプハルト, アーレント（粕谷裕子、菊池啓一訳）2014.『民主主義対民主主義（原著第2版）』勁草書房
久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝 (2011)『政治学（補訂版）』有斐閣
砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015)『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：政治とはなんだろうか
　　【権力】【政治と経済】【公共財】
第2回　政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
　　【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
第3回　選挙制度：政治家はどう選ばれるか
　　【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
第4回　執政制度①：トップリーダーに何ができるか
　　【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
第5回　政党システム：政治の勢力図
　　【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジェの法則】【ダウンズモデル】
第6回　政党組織：政治のチーム・マネージメント
　　【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
第7回　執政制度②：執政制度のヴァリエーション
　　【議院内閣制の多様性】【大統領制の多様性】【半大統領制の多様性】
第8回　議会制度：政策を審議する
　　【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
第9回　中央地方関係：自治と画一性
　　【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
第10回　行政官僚制：民意と専門性
　　【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
第11回　政治制度から日本を眺める①：55年体制
　　【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
第11回　政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
　　【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
第12回　政治制度から世界を眺める
　　【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
第13回　国際制度：政府のない世界の政治制度
　　【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
第14回　政治学方法論：数理分析を中心に
　　【数理分析】【ゲーム理論】【ナッシュ均衡】【公共財ゲーム】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：100%
（オンラインの場合　期末レポート：100%）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

　教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたうえで講義に参加（オンラインの場合は講義動画の視聴を）してください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意　/Remarks

・教科書は専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して講義（オンラインの場合講義動画）ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。復習時に、教科書の内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
・教科書の該当部分、スライド内で引用した文献の出典は教員のホームページにて示します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

　この講義は政治学の学習の入り口に位置づけられるものですが、その後に履修するであろう“発展的な”科目に比して平易というわけではありません。むしろ、政治の基本的な仕組み/ルールである「政治制度」という切り口から、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供する高度な内容であるといえます。大学での知的生活における早い段階で触れつつも、それを咀嚼・理解して自分のものとするために何度も戻ってくる、そういう価値のある内容を提供できればと思います。

キーワード　/Keywords

民主政治　政治制度　本人-代理人関係　合理的選択制度論

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治過程論	PLS210M

授業の概要　/Course Description

政治過程論とは、市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う、といったように政治が機能する過程を理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身に着け、民主政治における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということを考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

（到達目標）
【知識】政治過程に関する専門的な知識を身につけている。
【技能】政治的意思決定の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】政治過程論の観点から、政治現象について論理的に検討し、自らの見解を表現することができる。

教科書　/Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018.『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真渕勝 2000.『政治過程論』有斐閣アルマ
建林正彦・曽我謙悟・待鳥聡史 2008.『比較政治制度論』有斐閣アルマ
山田真裕 2016.『政治参加と民主政治』東京大学出版会
谷口将紀 2015.『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
　　【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
第2回　権力
　　【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
第3回　政治学方法論入門
　　【因果関係】【理論と実証】【数理分析】【計量分析】

第I部　入力過程

第4回　政治参加
　　【投票参加】【投票外政治参加】
第5回　投票行動
　　【政策投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
第6回　選挙制度
　　【多数代表制】【比例代表制】【混合制】
第7回　利益団体
　　【利益団体と圧力団体】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
第8回　マスメディア
　　【メディア効果論】【プライミング】【フレーミング】

第II部　出力過程

第9回　政党
　　【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
第10回　執政制度とリーダーシップ
　　【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
第11回　議会制度と立法過程
　　【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
第12回　政策決定過程
　　【(完全)合理性と限定合理性】【ゴミ缶モデル】【アリソンの3モデル】
第13回　官僚制と政策ネットワーク
　　【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
第14回　政策実施と政策評価
　　【実施のギャップ】【第一線公務員論】【政策評価と行政評価】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたうえで講義に臨んでください。
事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意　/Remarks

・本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に追加・補足をします。講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
・スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに堕してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工夫な知的態度を共に身に着けていきましょう。

キーワード　/Keywords

政治過程　入力過程と出力過程

西洋政治史 【昼】

担当者名 /Instructor　西　貴倫 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史	PLS111M

授業の概要　/Course Description

この講義では、近現代の西洋諸国、イギリス・アメリカ・フランス・ドイツの政治的経験を概観する。
具体的には、市民が政治の主体となる自由民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら検討していく。

この講義の到達目標は次の通りである。
【知識】西洋政治史に関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】西洋政治史の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】西洋政治史について総合的に思考し、自らの考えや意見を表現することができる。

教科書　/Textbooks

杉本稔編『西洋政治史』弘文堂、2014年02月刊（2,000円＋税）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○篠原一『ヨーロッパの政治--歴史政治学試論』東京大学出版会、1986年9月刊（3,200円＋税）。
○R・A・ダール著、高畠通敏・前田脩訳『ポリアーキー』岩波文庫、2014年10月刊（1,080円＋税）。
岡義武『国際政治史』岩波現代文庫、2009年9月刊（1,480円＋税）。
その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　はじめに--政治学と政治史
第2回　分析視角--政治変動の指標と社会的亀裂
第3回　議会制の成立①--イギリスの場合
第4回　議会制の成立②--アメリカの場合
第5回　議会制の成立③--フランスの場合
第6回　議会制の成立④--ドイツの場合
第7回　政治参加の拡大①--イギリスの場合
第8回　政治参加の拡大②--アメリカの場合
第9回　政治参加の拡大③--フランスの場合
第10回　政治参加の拡大④--ドイツの場合
第11回　福祉国家の盛衰①--イギリスの場合
第12回　福祉国家の盛衰②--アメリカの場合
第13回　福祉国家の盛衰③--フランスの場合
第14回　福祉国家の盛衰④--ドイツの場合
第15回　おわりに--現代西洋政治の歴史的展望

成績評価の方法　/Assessment Method

期末筆記試験（100％）でおこなう。
期末筆記試験は自筆のノートやメモの持ち込みを許可する。

西洋政治史 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の受講にあたっては教科書の該当部分を一読しておくこと。
受講後は、各回ごとに、その回の内容をまとめたメモを作成すること。

履修上の注意　/Remarks

初回に講義の進め方や成績評価方法などについて詳しく説明するので、履修予定者は特に留意されたい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

政党政治論 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政党政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政党政治論	PLS211M

授業の概要　/Course Description

本講義では政党政治の諸相について，①政党間の競争②政党内の個々の議員の行動，の双方を基軸にして，国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は政党を中心として展開しており，政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です。それは，企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません。政党システム論と政党組織論の双方に依拠し，適宜事例を踏まえつつ（必ずしも日本とは限りません），現代民主主義に関する理論や分析視座の習得を目指します。
受講者はこの授業を通じて，１．政党システム論の基礎を習得し，国や地方自治体によって違う政党システム・議会状況の違いが，その国や地方自治体の政治・行政の展開にどのような影響を与えるのか，自ら批判的に検討できるようになる；２．一市民あるいは一専門家として，議会状況の特徴や差異を自分自身で指標として算出でき，選挙制度によって異なる議席配分や定数配分を計算できるようになる；３．政党組織論の基礎を習得し，国や地方自治体によって違う選挙制度との相互関係の中で，議員のインセンティブ構造と行動に変化が現れることを理解する（ひいては将来，一市民や一専門家として彼ら代理人とともに仕事をできる）ことが求められます。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「政党・議会・選挙に関する専門的知識を身に着けている」「国や地域の政党政治の特徴を算出・数値化でき」「政治過程を通じた社会問題の解決を思考し探求できる」となっており，そのためにも上記の３要件を満たすことが期待され，またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解されたい。

教科書　/Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子（2011）『現代の政党と選挙（新版）』有斐閣
○待鳥聡史（2018）『民主主義にとって政党とは何か』ミネルヴァ書房
○待鳥聡史（2015）『政党システムと政党組織』東京大学出版会
○砂原庸介（2015）『民主主義の条件』東洋経済新報社

政党政治論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．イントロダクションと政党の定義について。本講義全体の位置づけやゴールを説明し，本講義の主題であるところの政党の定義や多義的な側面について理解する。

２．政党と民主主義の関係について。そもそも政党の存在は民主政治との関係においていかなる機能を果たしているのか，歴史的な否定論に言及しつつも，プロフェッショナルな観点からはポジティブな効果や機能がいくつかあることを理解する。マディソンの【多元主義】的民主主義観や，政党の機能論，民主的統制との関連が重視される。

３．政党システムの基礎的理解。議会で競争する存在としての政党ならびに，その全体的な競争状況を表すものとしての【政党システム（政党制）】概念について理解する。古典的かつ質的なサルトーリの分類論を理解したのち，より近代的かつ量的な指標としての【有効政党数】を紹介し，その計算方法を習得する。

４．政党システムの規定要因の基礎的理解。なぜ国や地域や時代によって政党システムは異なり変化するのか，古典的な【凍結仮説】と，選挙制度の効果とくに【M+1】ルールについて理解する。さらに具体的に日本や地方自治体の選挙結果をもとに，制度の効果についての実証的知見を身につける。

５．政党システムに対する制度要因の追求。様々な政治制度がその国の政党間競争に与える影響について理解する。選挙制度だけではなく，その国の執政制度も影響を与える事をしり，さらに同じ比例代表でも算出方法【ドント式】【サン=ラゲ式】【ヘア方式】によって異なる議席数となることを，実際の算出方法の習得と併せて実感する。

６．政党システムから政権形成について理解する。議会の政党間競争が重要なのは，それが最終的に多数派形成の基盤となり実現する/しない政策が決まるからである。議会多数派形成にかんする【連立形成理論】とくに【最少勝利連合】の概念について理解し，仮想的な状況で形成されうる多数派を自ら予想できるようになる（このことは現実とのギャップを見出した時に，「何が理論と違う状況をもたらしたのか」という個別の現実政治の個性を理解することにもつながる）。

７．政党政策位置の理解。政党間競争や連立形成は議席・得票数のみならず各政党の政策位置やそれに規定される政党間距離にも影響を受ける。政党政策位置をはかる複数の方法とプロジェクト（代表例としての【比較マニフェストプロジェクト（CMP）】）を知り，民主政治への含意を理解する。

８．二大政党制と複数政党制の政党政治。政党システムの差異を一つの基軸として，リベラルデモクラシー下での民主政の多様性を論じた，A. Lijphartの【多数決型民主主義】【コンセンサス型民主主義】の議論と分析を理解する。具体的にどのような要素が接続されているか，どのようなガバナンス指標に影響を与えているのか，現実の統計分析結果をもとに読み取れるようになる。

９．講義内容理解の定着：政党システム論を中心とした第2-7回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は，この回（に相当する回）を用いて調整する。

１０．政党組織の基礎問題。政党を一枚岩の組織としてみる前提を解体し，政党の中で存在する個々の議員の意見の多様性がいかなる形態をとるか理解する。すなわち【政党の一体性party cohesion】や【政党規律party discipline】の問題である。特に党首選出を題材に，ルールの違いが政党組織の違いに与える影響を理解する。

１１．制度と議員行動の相互関係。個々の議員が政党に従属したり反旗を翻したりするのは何故か，個々の議員の資質ではなく，制度（特に選挙制度）との連関で理論的に分析できるようになる。日本の場合は小選挙区制と比例代表制の差異だけではなく【中選挙区制】の効果理解が必要であり，また同じ比例代表制でも【拘束名簿】と【非拘束名簿】で，議員のいだくインセンティブは真逆といってよいほどに変わることを理解する。

１２．政党の支持基盤と集票。政党は単に政策提示のみによって選挙を勝ち抜くのではなく，組織として固定的支持基盤を形成したり，過去の業績に基づいて支持を集める【業績投票】。このうち【利益団体】とは何で，政党に対してどのように働きかけるのか，また政党が利益団体の意向を重視したり軽視したりするのはどのようなメカニズムによるのか理解する（【逆説明責任】）

１３．党内政治と議会政治。政党が組織として議場行動をとるとき，各議員によって異なる異論や議論はどのように処理されるのか理解する。この際，大統領制と議院内閣制で政党内部の議論の可視化には差異があり，またそれは【委員会制】と【本会議制】によっても大きく異なってくる。関連して，党の中の【政務調査会】や【総務会】がどのような機能を果たしているかも理解する。

１４．独裁体制の政党政治。本講義の前提である民主主義国家での政党政治の理解を超えて，いわゆる独裁国家における政党政治について理解を深める。現在の独裁制は多くが外形的に選挙や政党政治を展開しているが（いわゆる【選挙権威主義体制】），これが単なる表面的な儀式ではなく，選挙・政党が独裁維持に資している事を理解する。また，事例をもちいて独裁国家の党内政治がどのようになされているか見識を広げる。

１５．講義内容理解の定着：政党組織論を中心とした第10-14回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は，この回（に相当する回）を用いて調整する。

成績評価の方法　/Assessment Method

・期末試験：100%（テークホームイグザムになる可能性あり）

この他，自主レポートの提出者に対してや，時節の政治的状況を用いた授業積極参加措置に対し，プラスの加点措置を取る可能性があります。詳細は第1回授業でアナウンスします。

政党政治論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の授業最後に次回内容を予告しますので適宜予習してきてください。講義レジュメは講義前にアップロードいたします。また，事前事後学習とは座学だけではなく，本講義の知見を念頭におきつつ，様々な書籍や新聞を読解したり，マスメディアやネット等での政治報道に触れて自身の見解を形成することも含みます。政党や議員の行動を報ずるTV番組などを見て考えを深めることも広義の事前事後学習時間に含まれます。

履修上の注意　/Remarks

・図表をスライドに投影しつつ，レジュメを基礎として授業を進行します。講義レジュメは講義前にアップロードいたします [スライドは授業後の場合もあります]
・政治学 / 政治過程論を履修し単位習得済である学生の知識レベルを念頭に授業を実施します。一部，科目担当者がうけもつ「民主主義とは何か」と内容の重複がありますが，そちらよりはより専門的な内容となっています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・政党政治論は，政治学のなかでも科学的・計量的な分析が早くから蓄積されてきた分野の一つですが，高度な数学的知識は必要ありませんので，驚かずじっくり腰を据えて学んでください。「現代政治を明確に分析できる」強力さや面白さを楽しんでください。
SDGs16に関連します

キーワード　/Keywords

政党・選挙・比較政治学・実証政治学

現代政治思想 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代政治思想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代政治思想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治思想についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代政治思想	PLS212M

授業の概要 /Course Description

私たちが政治や政策について語るとき、それは常に、政治と社会はいかにあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。
この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

（到達目標）
【知識】現代政治思想に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
【技能】現代政治思想の理解に必要な情報を収集、分析できる。
【思考・判断・表現力】現代政治思想の観点から、社会的諸問題について論理的に考え、自らの意見を発信することができる。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代政治理論 〔新版〕』 （川崎修・杉田敦 編、有斐閣）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　政治とは何か
第2回　権力とは何か（１）　【権力の種類】
第3回　権力とは何か（２）　【意図と権力】　【構造と権力】
第4回　リベラリズムの基礎（１）　【自然権】【功利主義】【人格発展】
第5回　リベラリズムの基礎（２）　【適者生存】【ニュー・リベラリズム】
第6回　リベラリズムの発展と批判　【福祉国家】
第7回　自由とは何か（１）　【二つの自由】【自律】
第8回　自由とは何か（２）　【共同体】【共和主義】
第9回　自由とは何か（３）　【権力と自由】
第10回　平等と正義（１）　【ロールズの正義論】
第11回　平等と正義（２）　【リバタリアニズム】
第12回　平等と正義（３）　【コミュニタリアニズム】
第13回　平等と正義（４）　【資源の平等】
第14回　平等と正義（５）　【潜在能力】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。（質問は授業後などに受け付けています。）

現代政治思想 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現代日本政治の基礎にある価値観とは「どのようなものであるか」、また、「どのようなものであるべきなのか」、本授業においてともに考えていくことができれば幸いです。

＊この授業はSDGｓの以下の目標に関連しています：
「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも　経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公平をすべての人に」

キーワード　/Keywords

政策理論特講 【昼】

担当者名 /Instructor　松田　憲忠 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な理論の体系的な理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策理論特講	PLS213M

授業の概要　/Course Description

政策は，社会問題に対する解決策として定義されます．政策に関する知識，政策についての研究の進め方，政策をめぐる議論のあり方を理解し習得することは，社会が直面する問題を発見し，その問題に対する解決策を考案･ 評価するために欠かすことができません．そこで，本講義は，政策が必要とされる要因，政策を取り巻く環境や政策の捉え方の変化等を概説することから始めます．そのうえで，政策について研究するとは如何なる活動なのかに焦点を当てます．最後に，現代社会において議論が有する重要性を描出し，政策に関する議論のあり方に論及します．本講義の到達目標は，政策に関する基礎的な概念等を理解することと，社会問題を発見し，その問題に対する解決策を考案･ 評価するために欠かせない社会科学的視点を習得することです．

【到達目標】
（１）「知識」：政策理論に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている．
（２）「技能」：政策理論についての分析に必要な情報を収集，分析することができる．
（３）「思考･ 判断･ 表現力」：政策理論について，複眼的論理的に思考して解決策を探求し，自分の考えや意見を論理的に表現することか゛て゛きる．

教科書　/Textbooks

特に指定しません．

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

第一回授業で紹介･ 説明します．

授業計画･ 内容　/Class schedules and Contents

01. 授業ガイダンス
02. 政策研究と社会（問題）との関わり
03. 政策研究の科学性と臨床性
04. 政策研究のプロセス
05. 政策研究における計量分析（１）：再現性の追究
06. 政策研究における計量分析（２）：主観性の不可避性
07. 政策研究における事例研究
08. 政策研究における演繹的･ 数理的考察（１）：仮説構築
09. 政策研究における演繹的･ 数理的考察（２）：政策提言
10. 政策研究における規範的･ 哲学的考察（１）：社会的価値の多義性
11. 政策研究における規範的･ 哲学的考察（２）：社会的価値のトレードオフ
12. 政策研究と知識活用
13. 政策議論と社会選択
14. 政策議論と論理性
15. 総括：政策過程におけるサイエンスとアート

※　受講生の人数や理解度等に応じて，上記スケジュールは変更される可能性があります．

政策理論特講 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

(A) 授業内小テスト（4回程度予定）……40%
(B) 授業内ディスカッションへの積極的参加……60%

※　「授業内小テスト」では，本講義で提供された知識や社会科学的思考を活用して，具体的な社会問題について考察したり，政策研究のあり方について論究することが求められます．授業内小テストが15回の授業のなかでいつ実施されるかについては公表いたしませんので，毎回出席することを強く推奨いたします．もしやむを得ない事情で小テスト実施の授業を欠席してしまった場合は，公的証明書（に準ずる書類）を提出してください．
※　「ディスカッションへの積極的参加」では，単に授業に出席するだけでなく，授業内に行われるディスカッションに対して積極的に貢献（発言等）をすることが求められます．
※　詳細については授業中に説明します．

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

(1) 集中講義開始前
これまで受講してきた法学部の講義のなかで，特に研究のあり方や研究の目的に関わる内容を復習しておいてください．

(2) 集中講義期間中
各回の授業で解説された内容をきちんと振り返ったうえで，次の授業に臨んでください．なお，授業内小テストは，毎回の授業内容を理解していることを前提として実施されます．

(3) 集中講義期間終了後
集中講義15回の授業で解説された内容について，復習してください．その内容を今後の大学生活や社会人生活のなかで活用していただけると嬉しいです．

履修上の注意　/Remarks

現代社会が直面する問題やその問題への解決策をめぐる議論に，常に目を向けることを心掛けていてください．

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

「せっかくの夏休みなのに授業に出るなんてあり得ない！」って感じるかもしれません．しかし，せっかくの夏休みだからこそ，ちょっと頭脳を理論的思考に触れさせて，悶々と考え悩むアクティビティを楽しんでみませんか？
社会のあり方や研究の進め方等について受講生と教員の皆で考え込んだり，その考え込んだ頭で一人で小テスト解答に苦悶したりする経験は，今後の法学部生としての生活でも卒業後の社会生活でも有用となる指針を皆さんに提供してくれると確信しています．

キーワード　/Keywords

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治文化の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治文化にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治文化についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治文化論	PLS215M

授業の概要 /Course Description

近年、世界各国で民主主義の機能不全が言われていますが、そもそも民主主義的な政治はどのような経緯で生まれてきたのでしょうか。この授業では、民主主義を作り出してきた欧米諸国の人々の「政治や社会に関するものの見方・考え方（政治思想）」に着目し、民主主義を可能にした西洋の政治思想とはどのようなものかを歴史を通じて学んでいきます。また、日本において西洋の民主主義的な政治思想を導入しようとした幕末以来の試みを学び、西洋と日本の状況の違いを考えます。これらを通じて、今後の世界、特に日本社会において、よりよい民主主義的政治に必要なことは何かを、受講者が自ら考えられるようになることを目指します。

（到達目標）
【知識】政治思想史に関する専門的な知識を体系的に身につけている。
【技能】政治思想史の理解に必要な情報を収集、分析できる。
【思考・判断力・表現力】政治思想史の観点から、社会的諸事象について論理的に考え、自らの見解を発信することができる

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　政治思想とは何か
第2回　ヨーロッパ中世の世界観・社会観（１）【グレゴリウス改革】
第3回　ヨーロッパ中世の世界観・社会観（２）【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
第4回　「特殊」の発展
第5回　ルネサンス・国家理性・主権
第6回　宗教改革の時代
第7回　ホッブズの社会契約論
第8回　ロックの社会契約論
第9回　文化芸術の発展とルソー
第10回　ルソーの社会契約論
第11回　フランス革命後の展開と保守主義
第12回　江戸幕府の崩壊と福沢諭吉の政治・社会観
第13回　丸山真男の超国家主義論
第14回　丸山真男の古層論
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

該当回のパワーポイントを事前に通読し、予習しておくこと。また授業内容をノートにまとめ、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習してください。（質問は授業後などに受け付けています。）

政治文化論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

民主主義社会が真っ当に成立する歴史的条件を考え、今後の社会のあり方を構想できる力を身に着けてほしいと思います。

＊この授業はSDGｓの以下の目標に関連しています：
「平和と公平をすべての人に」

キーワード　/Keywords

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学	PAD100M

授業の概要　/Course Description

行政とはなにか、なぜ行政がわたしたちの生活に不可欠な存在なのか、行政はどのように形づくられているのか、そしてその問題点とは何か。行政の歴史的展開、現代の行政の仕事、そして改革される行政、今後の行政の姿など総合的に行政について考えていきたい。

（到達目標）
DP 1　知識：行政学に関する幅広い知識を総合的に身につけている。
DP 2　技能：行政についての分析に必要な情報を収集、分析することができる。
DP 3　思考・判断・表現力：行政学について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書　/Textbooks

講義の時に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の時に指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　授業の進め方・授業の目的などのガイダンス
2回　行政の歴史①【市民革命】【自由主義】
3回　行政の歴史②【行政国家化】
4回　行政の歴史③【行政改革】【新自由主義】
5回　行政学史①【官僚制の理論】
6回　行政学史②【アメリカ行政学】【科学的管理法】【機械的行政学】
7回　行政学史③【機能的行政学】【人間関係論】
8回　行政学史④【現代組織論】【バーナード】【サイモン】
9回　行政統制①【行政の責任】【FF論争】
10回　行政統制②【議院内閣制】【大統領制】
11回　行政統制③【鉄の三角形】【影響力】
12回　行政統制④【政治的任命職】
13回　行政統制⑤【公務員制度】【公務員改革】
14回　「官から民へ」の意味①【住民と行政の関係変化】
15回　「官から民へ」の意味②【市民がつくるパブリック】【ガバナンス】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…100%（試験といっても，講義で習得した知識のみならず，日頃からの政治行政に対する観察力，そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

行政学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

行政組織論 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政組織論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	行政学の視座から政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政組織論	PAD210M

授業の概要　/Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体など、私たちの周りには多種多様な組織が存在しています。私たち自身が所属する組織、私たちが享受できるサービス供給を行う組織、日々の暮らしを支えるインフラを整備する組織、現代社会において、「組織」というものからの影響を受けずに生活することは不可能と言ってよいでしょう。また1990年代以降の日本の中央省庁や地方自治体といった行政活動の著しい変化は、民間の経営手法の影響を大きく受けた結果である、という指摘があります。これらのことから、公的な部門を中心とした組織論を学ぶことは、行政組織のみならず、複雑な社会の在り様を理解する一助になると考えられます。特に政策の形成・決定・実施・評価という各過程における主要な行為者となる場合が多い行政組織に着目することは、過去から現在までの公共政策や地方自治の変化を知り、実態への洞察を深めることにもつながります。講義全体のキーフレーズは、「組織論を通じてみるひとと社会」、組織を形成する個人の意識・行動にも言及していきます。

（到達目標）
【知識】
組織に関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】
社会の問題発見・解決に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】
組織について、学際的・論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書　/Textbooks

特に指定はしません。必要に応じ、レジュメ・資料等をMoodleに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論：補訂版』有斐閣アルマ
○曽我謙悟（2016）『現代日本の官僚制』東京大学出版会
○田尾雅夫（2012）『現代組織論』勁草書房
○田尾雅夫（2015）『公共マネジメント：組織論で読み解く地方公務員』有斐閣ブックス
○スティーブン・P・ロビンス[高木晴夫訳]（2009）『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社
石原俊彦・山之内稔（2011）『地方自治体組織論』関西学院大学出版会
その他、適宜紹介します。

行政組織論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス
２回	組織の定義と概念
３回	組織と環境・組織構造
４回	官僚制（１）誕生と変容
５回	官僚制（２）原則と逆機能
６回	日本の行政組織（１）官吏と公務員、国家公務員法・地方公務員法
７回	日本の行政組織（２）任用と身分、行政改革
８回	中間テスト
９回	中間テストの解説と復習、日本の行政組織（３）地方公務員制度の変遷
１０回	ストリート・レベルの官僚制、組織文化
１１回	組織におけるリーダーシップ
１２回	ひとのモチベーション
１３回	組織における学習
１４回	行政サービスを担う組織
１５回	まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
（遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業時間外の学習として、事前にこのシラバスをよく読んで全体の流れと個々の回のつながりを意識できるようにしておくこと、事後は（中間テストを実施する予定であるため）授業で配布したレジュメを見返すなど、適宜振り返りの作業を行うことをおすすめします

履修上の注意　/Remarks

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「行政学」「地方行政改革論」「公共経営論」「公共政策論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。
なお講義の進行状況により、上記スケジュールを変更することがあります（特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード　/Keywords

政策構想論 【昼】

担当者名 /Instructor　大澤　津 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策構想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策構想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政策構想についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策構想論	PLC110M

授業の概要　/Course Description

政策の作成と実施によって、社会の諸問題に適切に対処する際には、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」が構想されます。このような価値観の理論を、政策規範理論と呼びます。そもそも政策にできること・できないことを了解した上で、政策を支える価値観の理論を理解することが、最終的な授業の目的です。
授業では、まず、政策に期待できることの可能性と限界を学びます。その上で、現代の政策の規範理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムの基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策の提案が可能かを考えていきます。
なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・コミュニタリアニズムなどの価値観の理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

（到達目標）
【知識】政策規範に関する専門的な知識を総合的に身につけている。
【技能】政策規範の理解に必要な情報を収集、分析できる。
【思考・判断力・表現力】政策規範の観点から、社会的問題について適切な解決策を論理的に考え、自らの意見を発信することができる。

教科書　/Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　政策規範論へのイントロダクション
第2回　政策の構造と価値
第3回　社会設計と政策
第4回　デモクラシーと政策
第5回　功利主義と政策
第6回　功利主義への批判
第7回　リベラルな平等の基礎理論I　【不平等の意味】
第8回　リベラルな平等の基礎理論II　【正義の二原理】
第9回　リベラルな平等の展開　【財産所有のデモクラシー】
第10回　リバタリアニズムの基礎理論I　【最小国家論】
第11回　リバタリアニズムの基礎理論II　【自己所有権】
第12回　コミュニタリアニズムの基礎理論　【負荷なき自己と共同体】
第13回　日本の格差：正規・非正規雇用
第14回　格差問題への政策構想
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験：100%

政策構想論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。（質問は授業後などに受け付けています。）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

＊この授業はSDGｓの以下の目標に関連しています：
「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも　経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公平をすべての人に」

キーワード　/Keywords

公共政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論	PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することにします。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。 受講生には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はどのような研究をするのかということを意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通してそうした問題意識をもつことを望んでいます。

（到達目標）
【知識】公共政策を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけている。
【技能】公共政策を考察する上で必要な情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】公共政策について、複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。
秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）
伊藤修一郎『政策リサーチ入門–仮説検証による問題解決の技法 - 』（東京大学出版会、2011年）
ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳『政策立案の技法–問題解決を「成果」に結び付ける 8 つのステップ– 』（東洋経済新報社、2012年）。
阿部彩『子どもの貧困–日本の不平等を考える』（岩波書店、2008年）
阿部彩『子どもの貧困II–解決策を考える』（岩波書店、2014年）

公共政策論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
２回　公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
３回　小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
４回　子どもの貧困（１）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
５回　子どもの貧困（２）・・・日本における子どもの貧困を考える
６回　子どもの貧困（３）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？奨学金は？
７回　子どもの貧困（４）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
８回　子どもの貧困（５）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
９回　子どもの貧困（６）・・・社会実験（ペリー幼稚園プログラム）とまとめ
１０回　介護保険（１）・・・導入
１１回　介護保険（２）・・・現状分析
１２回　介護保険（３）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
１３回　介護保険（４）・・・介護保険の改革
１４回　ヤングケアラーの問題
１５回　まとめ～シルバー・デモクラシーと若者政策～

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート　…　50　％、授業貢献度など…50％。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意　/Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。
この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論	PLC212M

授業の概要　/Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
②政策の分類 (Lowiによる分類)・政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得 :

①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 : Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。

②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構) とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相の Leadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskannenの官僚利益追求論・ 政府間関係]) について理解してもらう。

(到達目標)
【知識】政策問題をめぐる政治・ 政策過程の知識を修得してい る。
【技能】政策分析に関するスキルを身につけている。
【思考・ 判断】政策過程に関する知識を深め、政策事例を分析し、説明す る力を身につけている。

教科書　/Textbooks

『政策過程論』 (早川純貴他著 学陽書房 2004年 ￥ 2,730)
『公共政策学の基礎　新版』 (秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ￥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『現代日本の政策過程』 (中野実著 東京大学出版会 1992年 ￥2,940)
○『政治過程論』 (伊藤光利・ 真渕勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ￥2,625)
○『日本政治の政策過程』 (中村昭雄著 芦書房 2011年 ￥3,568)
『政策過程分析入門 第2版』 (草野厚著 東京大学出版会 2012年 ￥2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業や本の紹介など
２回　政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・Free Rider)、費用と利益、政策の類型など
３回　政策参加者、政策資源（事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD）
４回　政策過程の理論１　（政策過程論・Elite論・多元主義論とIssue Network・
　　制度論と合理的決定 Path dependence・Idea・Game theory etc.）
５回　政策過程と事例分析１　（新聞、インターネットで検索した事例分析）
６回　政策過程の理論２　　（アジェンダ形成・ゴミ箱決定Garbage Can Model・政策の窓）
７回　政策過程の理論３　　（無意思決定論、相互浸透理論など）
８回　政策過程と事例分析２　（新聞、インターネットで検索した事例分析）
９回　政策事例のポスター発表
１０回　政策実施、政策調整（実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・
　　Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach）
１１回　政府間関係と自治体の政策（政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・事例：名古屋市）
１２回　本のレポート発表
１３回　政策終了・政策評価と市民参加
１４回　SDGsのエネルギー・食べ物・水問題・気候危機政策など政策事例を選び、政策過程の分析
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

本のレポート 30%、　ポスター 30%、　期末試験 40%
（本のレポート発表・ポスター発表をしない学生は期末試験を受けることができない）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

公共政策、政策問題、政策の決定､実施、政策調整、終了、
利益・価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、
ネットワーク。

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策評価の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策評価のために必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、政策を体系に評価するための基礎的で総合的な評価方法を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策評価論	PLC310M

授業の概要　/Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにあります。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにして下さい。

講義では、第一に、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討します。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにします。（前半7回、楢原担当）

第二に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価とその問題点を検討し、今後の日本における行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにします。（後半8回、横山担当）

（到達目標）
【知識】政策評価に関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】政策評価に必要な情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】政策評価について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切に表現することができる。

教科書　/Textbooks

教科書は用いません。ほぼ、毎回プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

石原俊彦編著『自治体行政評価ケーススタディ』（東洋経済新報社、2005年）
○龍慶昭・佐々木亮『「政策評価」の理論と技法』（多賀出版、2004年）
○安田節之・渡辺直登『プログラム評価研究の方法』（新曜社、2008年）
○古川俊一・北大路信郷『新版・公共部門評価の理論と実践 - 政府から非営利組織まで -』（日本加除出版株式会社、2004年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回 導入–「評価」とは何か？
第２回　「実験としての改革」–アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！
第３回　政策過程の中の評価–評価はいつ行うのか–
第４回　セオリー評価（ロジック・モデル）
第５回　より複雑なロジック・モデルについて
第６回　プロセス評価
第７回　前半のまとめ–ロジック・モデル再考（ＮＰＯとの関連も含めて）
第８回　「行政評価」とは何か?
第９回　先進事例の検討–三重県を中心に
第１０回　事務事業評価の考察–公開されている評価結果の比較・検討
第１１回　「評価結果」の評価
第１２回　評価者に必要なものとは何か？
第１３回　評価システムを支える外部評価制度？（１）–地方自治体での外部評価の実際
第１４回　評価システムを支える外部評価制度？（２）–第三者による評価がもたらすもの
第１５回　小テスト・後半のまとめ–行政評価総括

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート35%、小テスト35%、　授業貢献度…30%。　授業に出席しない学生には単位は与えない（単位修得は不可能です）のでそのつもりで履修して下さい。

政策評価論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

配布するプリント教材の復習を必ず行って下さい。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加するようにして下さい。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意して下さい。

履修上の注意　/Remarks

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究などの講義を受講しておくことがのぞましい。授業の進め方をはじめ履修にあたって重要となることを述べるので、第1回目の講義には必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトプット、アウトカム、行政評価、業績測定（パフォーマンス・メジャーメント）

都市環境論 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市環境に関しての政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論	PLC111M

授業の概要 /Course Description

「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間としての自覚を最終的には持つことができるようになってください。ここでは、まず、エコライフチェックを行い、自らの立ち位置を分析、目標を立て授業に臨みます。すなわち、私たちの日常生活を取り巻く都市生活環境についての知識を吸収し、きちんと理解し、「環境未来都市」北九州市に居住する市民としてそれにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養います。これを起点として、私たちが持続可能な都市生活を続けるためにも本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

これらを知るために、グループ・ディスカッションを行うこともあります。また、私のゼミ生から取り組んでいるアクティビティを通した環境の話を発表してもらいます（藍島、食品ロス削減学生プロジェクト）。

{知識} 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に着ける。
{技能} 持続可能な都市を作るうえでの技能を獲得する。
{思考・判断・表現力} 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、その都度資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

* 日本環境学会編『環境学習のラーニング・デザイン』キーステージ21、2019年
* 多田満『レイチェル・カーソンに学ぶ環境問題』東京大学出版会、2011年
* 北九州市環境局『北九州市の環境　平成30年度版』（北九州市役所HP掲載）
* 原田正純『水俣学講義』日本評論社、2004年
* 政野淳子『四大公害病』中公新書、2013年
* 朝岡幸彦編『新しい環境教育の実践』高文堂出版社、2005年

都市環境論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「都市環境論」の授業内容とねらいの説明～途上国の都市との環境比較【環境意識】
第２回　環境目標の設定、環境教育とESD（持続可能な開発のための教育）、SDGs教育
：：簡単な環境意識度チェック　【ESD】
第３回　三宅ゼミの水俣研修旅行の記録報告・藍島プロジェクト・食ロス削減プロジェクト　【環境学習旅行】
第４回　水俣病とは？　水俣学とは？　多角的検証　【水俣病】
第５回　日本の環境政策の歴史と課題～SDGsの環境に関する目標との関連　【環境政策】
第６回　廃棄物管理　その原理と現状～一般廃棄物、産業廃棄物、３Ｒ　【廃棄物管理】
第７回　フードバンク　～フードバンク北九州ライフアゲインの事例から　【フードバンク】
第８回　食と農～健康の源＝自らの食を見直そう　【食農】
第９回　上水道　：：（アクティビティ＝きき水比べ）　【おいしい水】
第10回　下水処理をめぐって～下水処理の原理　【水質汚濁】
第11回　大気汚染～汚染の原理と現状、PM2.5の正体とは？　【大気汚染】
第12回　北九州市の環境の現状　【北九州市】
第13回　途上国の都市環境問題　【途上国】
第14回　環境保全・環境教育に取り組む人々＝　エコツーリズムに関わろう！　【エコツーリズム】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢…20%　小課題の提出　…　20%　期末試験　…　60　%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は、自らの身の回りの生活状況の各項目の把握と教科書の該当箇所の熟読、事後学習は、授業で学習したことの実生活への適用とその実践活動を記録化。

履修上の注意　/Remarks

時々の小課題の実施、同時に授業の事前に新聞から関係ある記事を読んでおく。
授業２回目に、エコライフ・チェックの調査結果に基づいて各自の環境目標を立ててもらうので、できるだけ２回目の授業の欠席は避けてください。また、北九州市の環境に興味のある受講生は、教養科目の「環境首都としての北九州」の同時受講も勧めておきます。
同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復しておいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

コロナ禍の中でも、予防策を講じ、屋外で環境保全を楽しむことは重要です。そのような方法も学びますので、他の機会にでも実践してください。

キーワード　/Keywords

ＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）、各自の環境学習目標、環境教育アクティビティ、エコライフ・チェック、SDGs教育

都市計画概論 【昼】

担当者名 /Instructor　内田　晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市計画の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市計画概論	PLC218M

授業の概要　/Course Description

本講義では、都市計画に関する重要事項を広範囲に取り上げ、その基本的事項について具体的な事例を交えながら概説し、都市計画の目的である良好な市街地形成を実現するための体系・手法を学びます。建築・土木分野の馴染みのない専門用語も多数出てきますが、国内外の先進的な取り組み等を紹介しながら分かりやすく解説します。

（到達目標）
【知識】都市計画に関する幅広い知識を総合的に理解している
【技能】都市調査に必要な情報を収集、分析することができる
【思考・判断】都市計画について総合的に思考し、自分の考えや意見を明確に表現することができる

教科書　/Textbooks

なし（適宜、レジュメや参考資料を配付）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○萩島哲編『新建築学シリーズ10 都市計画』朝倉書店、1999年
○都市計画教育研究会編『都市計画教科書第3版』彰国社、2001年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス / 都市計画の概念と社会的役割【都市問題】、【利害関係】
２回　歴史上の都市計画・都市デザイン【中世都市】、【近代都市計画】
３回　都市計画の法体系と都市の基本計画【総合計画】、【都市計画マスタープラン】
４回　土地利用の概念【土地利用計画】、【人口配分】
５回　用途地域制度と土地利用計画の実現【都市計画区域】、【市街化区域】、【用途地域】
６回　コンパクトシティの実現【集約型都市構造】、【コンパクトシティ】
７回　都市の再開発手法と事例【土地区画整理事業】、【市街地再開発事業】
８回　住環境整備の手法と事例【建築協定】、【地区計画】、【土地利用規制】
９回　都市の交通計画【パーソントリップ】、【交通需要予測】、【交通需要管理】
１０回　都市の歩行者空間と公共交通【街路】、【トランジットモール】
１１回　都市計画の支援ツールと都市調査【データベース】、【ＧＩＳ】、【数量化理論】
１２回　ドイツにおける持続可能なまちづくり【サステナブル】【カーシェアリング】【ユニバーサルデザイン】
１３回　都市景観と景観まちづくり【視点場】、【景観法】、【景観計画区域】
１４回　住民参加のまちづくり【ワークショップ】、【市民参加】、【地域運営】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…２０％　　レポート等…２０％　　期末試験…６０％

都市計画概論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60 分）
授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

新聞、TVなどの報道で都市計画・まちづくりに関する情報はあふれています。常にこのような情報に接して、情報収集に努めてください。また学習した事項を意識しながら、日常的に生活している市街地について自分なりにどのようなまちづくりをしていくべきかを考えてください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論	PLC112M

授業の概要　/Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の２つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

（到達目標）
【知識】社会保障制度を総合的に理解している。
【技能】社会保障制度を利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】社会保障制度について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）
原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてＢ４判で配布します。Moodleなどでの配信はおこないません。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

福祉国家論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回「福祉国家とは」　　個人の責任、国家の責任
第２回「自由と平等の規範」　自由主義、社会主義
第３回「社会保障の行財政」　社会保障の行政組織、社会保障給付費
第４回「年金保険」　被保険者、保険料、保険給付
第５回「年金保険」　財政悪化
第６回「年金保険」　空洞化（無年金・低年金）
第７回「年金保険」　世代間格差
第８回「年金保険」　世代内格差
第９回「年金保険」　改革の論点
第１０回「医療保険」　年金と共通する問題
第１１回「医療保険」　診療報酬をめぐる問題
第１２回「福祉国家の類型」　３つの福祉国家
第１３回「生活保護」　原理・原則
第１４回「生活保護」　扶助の種類
第１５回「生活保護」　健康で文化的な最低限度の生活

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・ 100%
新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
１３回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート試験に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意　/Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を、他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特になし。

政策情報処理 【昼】

担当者名 /Instructor　横山　麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	統計分析の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	政策の立案に向けて必要な情報を収集・調査・分析するための、統計処理の基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、統計的な分析・解釈と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策情報処理	PLC223M

授業の概要　/Course Description

この授業の目的は、政策科学の研究のために必要なスキルのひとつである、統計処理・データ解析の方法を習得し、受講生が統計的な手法を用いた分析を行えるようになることです。「数値で表現できるのは量的なものだけ？」「数字が意味するものとは？」「データを構築するってどういうこと？どうやって？？」を出発点に、統計の基本的な概念や様々な分析手法、およびその特性などを学びながら、実際のデータを用いて統計的な解析を行うという、講義・実習の両形式から成る実践的な授業となります。なお、具体的には暮らしに関わる様々な数値や実際の社会調査の結果等、実データを主として用いる予定です。
また統計分析の手法を身に付けるという目的のほかに、「調査・統計処理の結果」として世の中にあふれる数字をどのように見るべきなのか、その一助となる授業にしたいと考えています。
実習ではSPSSという統計パッケージを使用することを想定しており、ソフトの数量に限りがあるため、受講者数を制限する場合があります。受講希望者は掲示に注意を払い、必ず初回のガイダンスに出席してください。

（到達目標）
【知識】
政策分析に関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】
社会の問題発見・解決に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】
社会の諸問題について、学際的・論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えを適切な方法で表現す ることができる。

教科書　/Textbooks

適宜指示、また必要に応じてレジュメ・資料等をMoodleに掲載します。
（SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○石村光資郎・石村貞夫（2021）『SPSSによる統計処理の手順第9版』東京図書
○今井耕介（2018）『社会科学のためのデータ分析入門（上）・（下）』岩波書店
○佐伯胖・松原望編（2000）『実践としての統計学』東京大学出版会
○ジューディア・パール（2009）『統計的因果推論：モデル・推論・推測』（黒木学 訳）共立出版
○中室牧子・津川友介（2017）『原因と結果の経済学：データから真実を見抜く思考法』ダイヤモンド社
○増山幹高・山田真裕（2004）『計量政治分析入門』東京大学出版会
○松田憲忠・竹田憲史（2012）『社会科学のための計量分析入門：データから政策を考える』ミネルヴァ書房
○村瀬洋一ほか（2007）『SPSSによる多変量解析』オーム社
その他、適宜指示します。

政策情報処理 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　ガイダンス【情報リテラシー】【統計的因果推論】【因果効果】
２回　統計の基礎（１）【データの種類】【変数】【尺度水準】【母集団と標本】
３回　統計の基礎（２）【データの視覚化】【度数分布表】【記述統計量】
４回　推定と検定【信頼区間】【統計的有意性】【帰無仮説】【有意水準】
５回　クロス分析【複数の変数の関係性】
６回　相関分析【複数の変数の関係性】【相関関係】
７回　中間テスト
８回　回帰分析（１）【因果関係の想定】【単回帰分析】【係数】
９回　回帰分析（２）【重回帰分析】【多重共線性】
１０回　回帰分析（３）【ロジスティック回帰分析】【確率】
１１回　主成分分析【指標】
１２回　クラスター分析【分類】
１３回　統計分析の結果を用いた論文の書き方
１４回　授業で扱った手法の復習とその他の手法の紹介
１５回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%
（遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間外の学習について、事前にまずこのシラバスをよく読み理解すること、また事後は（中間テストのほか課題を出す予定ですので）授業後にレジュメを見直すなどして、分析の仕方や結果の解釈に関する復習を行うことをおすすめします。

履修上の注意 /Remarks

本授業では統計の基礎から講義・実習を行いますので、履修しておくべき科目等は特にありませんが、「政策科学入門II」（2019年度以前入学生にとっては「政策分析入門」）等、量的な分析の基礎・統計分析を扱う科目を履修済みであれば理解はより深まります。情報処理教室での授業となるので、受講生は各自、学内のパソコンを使用できるように（ログインできるように）しておいて下さい。
受講希望者が多数の場合には、受講者数調整を行う場合があります。これについては初回のガイダンスにて説明しますので、履修したい学生は4月上旬の受講申告期間に履修登録をしたうえ、必ず第1回目の授業にご出席ください（どうしても初回ガイダンスに出席できないという場合には事前にメールにて横山まで連絡をすること）。また受講者数調整について、およびその結果については随時掲示板にも貼り出します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義半分、実習半分の授業となります。
実習を行うため、受講生の人数等によって多少スケジュールを変更する場合があります（特に中間テストについては講義中に実施日の決定等についてアナウンスしますので注意してください）。
統計ソフトを使って実際に分析を行うという、専門科目のなかでも少々特異な授業となりますが、その分、みなさんに分析の面白さ、統計の便利さと怖さを少しでも多く体感してもらえるのではと思っています。
この科目は、特にSDGsの目標11（住み続けられるまちづくりを）と関連しています。

キーワード /Keywords

外国文献研究Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　チョウ　ピンピン / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策研究の理解に必要な専門的な知識を英語の文献から収集する力を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ａ	SEM391M

授業の概要　/Course Description

「チベット高原にいる人々」が授業のテーマである。受講生は英語のテキストを読んで、内容を理解し、議論、自身の意見を述べることが求められる。
(１)チベット高原の概要について理解を深める。
(２)チベット高原における人々の生活について知る。
(３)この本の著者の目から見るチベットの人々の生活について理解を深める。
(４)本をよんでから、私達はチベット高原の人々の生活に関して、どのように思うか考え、自分の意見を言う。
(５)本に書かれていない内容について講義中に説明する

(到達目標)
【知識】国際問題についての幅広い知識を総合的に身に付けている。
【思考・判断・表現力】国際問題について総合的に思考し、解決策を探求し、英語で発信することができる。
【コミュニケーション力】国際問題や外交問題を友人と議論・協働し、解決に向けて取り組む姿勢を身に付けている。

教科書　/Textbooks

Goldstein, C. M. & B. M. Cynthia 1990.『Nomads of Western Tibet-The survival of a way of life.』 The University of California Press

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○　河口慧海『チベット旅行記』講談社　2015年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　「Our arrival in nomad counrty」
第3回　「The ChangTang and nomadic pastoralism」
第4回　「Nomads, lords, and estates in the traditional society」
第5回　「The nomadic economy and the cycle of annual migration」
第6回　「Pasture allocation and reallocation」
第7回　「horses and the hay cutting trip」
第8回　「Livestock in the pastoral community」
第9回　「Herders and daily herding」
第10回　「Diet」
第11回　「The salt trek」
第12回　「Hunting」
第13回　「The nomads become part of China:The 1959 uprising」
第14回　「全体議論」
第15回　「まとめ」

外国文献研究Ａ 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

毎回の輪読、授業中の議論などの平常点（100％）によって評価する。
欠席が多い場合はマイナス評価となるので注意してほしい。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

輪読する内容を事前に予習し、わからない単語や専門用語を調べてくること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

チベット

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor　上條　諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本政治上の政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の政治が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本政治論	PLS110M

授業の概要　/Course Description

現代の民主主義諸国の多くに共通する低投票率などの現象を以て、現代には「政治不信」が蔓延している、などといわれることがあります。我々はもはや民主政治という統治の手法に対して信頼がおけなくなっているのでしょうか。日常的な「文化」という言葉の語感とはやや異なるかもしれませんが、このような我々市民が政治というものに対して持つ見方や考え方のことを「政治文化 (political culture)」と呼びます。本講義では、こうした意味での政治文化について考えていきます。

より具体的には、まず前半では、政治文化に対する古典的な理解を紹介したのち、より広い観点から、有権者が政治に対してどのように態度を形成するのか、また、特定の政治的態度や知識をもつ有権者がどのように行動するのか、といったことを検討する政治行動論と呼ばれる分野の概説を行います。後半では、有権者の政治への見方に関連するさまざまなトピックを扱っていきます。有権者がもはや政治に信頼を置けなくなったとするならば、それはなぜなのでしょうか。政治という営みに根本的に困難があるのか、選挙というものがうまく機能していないのか、あるいは我々有権者と政治エリートの間の分断がもはや甚だしくなりすぎたのか。様々な角度から、我々有権者からみた政治、というものに接近していきます。

（到達目標）
【知識】政治文化に関する幅広い知識を身につけている。
【技能】有権者の行動/態度形成の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】政治的諸問題の解決において有権者がどの程度役割を果たしうるかについて論理的に検討し、自らの意見を表現することができる。

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメなどの資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

前半については
飯田健・松林哲也・大村華子 2015.『政治行動論–有権者は政治を変えられるのか』有斐閣ストゥディア

後半については多岐にわたるため各回で適宜指示します。

日本政治論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション
　　【政治文化】【比較政治文化研究】【政治文化論アプローチへの批判】

第I部　政治行動論

第2回　民意と政治的知識
　　【民意】【政治知識量】【ヒューリスティックス】
第3回　党派性とイデオロギー
　　【政党帰属意識】【右派と左派】【無党派】
第4回　政治的社会化と政治的価値観
　　【政治的社会化】【脱物質主義的価値観】
第5回　投票参加と集合行為
　　【calculus of voting】【投票しないパラドックス】【集合行為】
第6回　投票行動と有権者の合理性①
　　【政策投票】【有権者の合理性】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】
第7回　投票行動と有権者の合理性②
　　【業績投票】【経済投票】

第II部　各論的トピック

第8回　集合的意思決定
　　【中位投票者定理】【カオス定理】【structure-induced equilibria】
第9回　アカウンタビリティ
　　【選挙の規律効果】【選挙の選択効果】【迎合 (pandering)】
第10回　政治腐敗
　　【政治腐敗（汚職）の要因論】【汚職対策機関】
第11回　民主主義の質と政府の質
　　【フリーダムハウスとV-dem】【QoGプロジェクト】
第12回　ポピュリズム
　　【ポピュリズム】【ポピュリズムと党派性】【ポピュリズムの合理的説明】
第13回　ソーシャル・キャピタル
　　【ソーシャル・キャピタル論】【橋渡し型】【結束型】
第14回　代議制民主主義のオルタナティブ
　　【直接民主主義】【熟議民主主義】
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

　前半については参考文献の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。講義の復習に加えて、参考文献のうち関心を持ったものを読んでみて下さい。

履修上の注意 /Remarks

スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

　受講者の方の中には「政治なんてどうでもいいよ！」という方もおられると思います。（ではなぜこんな学部に来てこんな講義をとっているのだという疑問も成り立たないではありませんが、私自身がさしたる理由も関心もなく法学部、そして政治学に流れ着いた学生でした）。もちろん、（いろんな考え方がありますが）民主政治というのは全ての人が全身全霊を込めて政治に対して愛を以て取り組まなければ機能しないというものでもありませんから、それはそれで一つの見識というものです。しかしせっかくご縁があったのですから、さて、ではなんで政治なんてどうでもいい、というような考えに行きついたのか、一緒に少し考えてみませんか。

キーワード /Keywords

政治文化　政治行動論　政治不信

地方自治論 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論	PAD211M

授業の概要　/Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

（到達目標）
DP３　思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
DP２　技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。
DP１　知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

教科書　/Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業のガイダンス
２回　地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
３回　自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
４回　自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
５回　自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
６回　自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
７回　自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
８回　自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
９回　自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
10回　地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
11回　地方分権改革②【地方議会と首長】
12回　市町村合併①【平成の大合併】
13回　市町村合併②　【合併の効果】
14回　現代の地方自治の動き①　【地方分権一括法の動向】
15回　現代の地方自治の動き②　【地方創生など】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…100%（試験といっても，講義で習得した知識のみならず，日頃からの政治行政に対する観察力，そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方自治論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

地方行政改革論 【昼】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論	PAD310M

授業の概要　/Course Description

この授業では、地方行財政をめぐる、現代的な課題をテーマごとに学ぶ。地域活性化のために必要な行財政のあり方の最前線についてその事例を紹介しつつ、改革を推し進めている背景となっている理論や思想についても触れたい。

（到達目標）
DP３　思考・判断・表現力：地方行政改革について、複眼的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや判断を論理的に表現することができる。
DP１　知識：地方行政の改革に関する専門的応用的な知識を体系的に身につけている。
DP２　技能：地方行政改革の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書　/Textbooks

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に適宜紹介したい。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業のガイダンス
２回　地方財政の仕組み【収入源】
３回　地方財政の改革①【法定外税】
４回　地方財政の改革②【ふるさと納税】
５回　地方財政の改革③【住民参加型地方債】
６回　地方財政の改革④【原発】
７回　市民参加の改革①【自治基本条例】
８回　市民参加の改革②【町内会自治会の活性化】
９回　市民参加の改革③【地域自治組織】
10回　市民参加の改革④【パブリックコメントなど】
11回　地域の戦い①【定住人口対策】
12回　地域の戦い②【交流人口対策】
13回　地域の戦い③【災害対策】
14回　地域の戦い④【公務員のやる気】【PSM】
15回　地域の戦い⑤【公務員のやる気】【境界連結者としての公務員】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期レポート試験…89%　冬休みの特定課題…11%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方行政改革論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。
この授業を受講する場合は、地方自治論をすでに履修済みであることが望ましい。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので心して受講すること。特に3年生になってから受講されたほうが内容の理解が深まると思います（もちろん、2年生でも受講は可能です）。また、公務員受験を本気で考えている方は是非受講してください。この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

地方自治体、公務員、行政改革

地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor　中井　遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論	PLS214M

授業の概要　/Course Description

近年の欧州政治の状況が示すように，ある地域統合の枠組みを巡って重要になるのは，統合を目指す利害と統合に反発する利害のせめぎあいである。本講義では，地域的対象としては欧州を中心として，その政治経済上のダイナミズムや政治的アクターの利害対立を学ぶことを通じ，地域統合が抱える成果や問題点を考察する。その際，ナショナリズムに関する諸理論の媒介・補助をうけて現実を見通す。国家より大きな地域（＝欧州）への統合のなかで反発する既存国家枠組や，国家より小さな地域の独自運動と既存国家の角逐など，政策決定のアリーナが多層化・多次元化する現代にあって，ナショナリズムの問題は過去のトピックではなくますますその重要性を増している。

本講義の受講者は，１）国内政治と国際政治の相互関係，とくにナショナリズム・自由貿易理論・2レベルゲームに関する基礎的理解を理解・説明できるようになり，２）国境より小さな単位の地域主義と国内統合の問題に関する，諸事例の知識やその制度的介入についての基礎を持ち，３）国境より大きな単位への地域統合と国内政治の具体例である欧州統合およびその拡大について，種々の国々の基礎的な歴史・事例・具体例について基礎的な知識をもち説明できるようになる，ことが求められる。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「国際政治・地域政治の基礎的知識を身につけている」「多様な地域現象の情報を外国語で収集・処理できる」「国内政治と国際政治の相互関係を複眼的に思考できる」となっており，そのためにも上記の３要件を満たすことが期待され，またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解されたい。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○網谷龍介 他 編『ヨーロッパのデモクラシー』ナカニシヤ出版，2014
○中村民雄『EUとは何か』信山社，2016
○久保慶一他『比較政治学の考え方』ミネルヴァ書房，2016
○森井裕一『ヨーロッパの政治・経済入門』有斐閣，2014

地域統合論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．イントロダクションとして科目の位置づけや授業予定について解説する。欧州を事例として地域の中にある価値感や文化の多様性に関する理解を深め，それらを政治的・公的意思決定プロセスにおいて統合することが必然的に含む課題について問題意識を共有する

２．ナショナリズムの一般理論について解説する。文化的単位と政治的単位の一致を目指す原則としてのナショナリズムについて，ゲルナーやアンダーソンによる基礎的な理論とその背景を学び，政治的単位より小さな地域に多様性を有す場合であっても，政治的単位より大きな地域との政策的統合を目指す場合であっても，常にナショナリズムが政治的ダイナミズムの一片をなすことを理解する。

３．国内政治と国際政治の相互関係に関わる理論を解説する。特に，２レベルゲームの基礎的考え方を理解することと，とくに争点になる経済統合の問題として，自由貿易に関する基礎理論とそれが国内政治との間に抱える緊張関係について理解する。

４．国内地域主義と国家統合の相互関係について理解を深める。基礎的な国家成立要件を手掛かりに，国内において主権や統合が確立されているというのはいかなる状況なのか理解する。対外的主権と対内的主権の境界にズレが生じているケースともいえる未承認国家の問題や事例を通じて，先述の問題をより深く理解する。

５．国内の地域的多様性統合の失敗ともいえる内戦を論ずる。政治的境界内部での，多様性や地域主義の統合が失敗した究極のケースが内戦である。内戦とは何かを理解し，その原因に関する基礎的からややアドバンスドな先行研究までを理解する。単に文化やアイデンティティの際によって統合が失敗するのではなく，具体的な利害こそが内戦（地域統合の失敗）のステークであることを理解する。

６．国内の地域主義等を制度的に統合する連邦制の理解を深める。国内の地域的多様性を平和裏に解決する手法としてしばしば連邦制があげられることがある。連邦制とは何か，地域分権とは違うのか，基礎的なところからスタートし，連邦制の諸バリエーションを理解する。そのうえで，連邦制がもつ一定の課題を理解し，万能の制度的介入ではないことを理解する。

７．ここまでの内容理解を振り返り知識の定着を図る。第1回から第6回までの内容について振り返り，知識の習熟を図る。授業進行のイレギュラー，休講/補講による補填の調整，他クラスとの合同授業企画などの場合，この時間（に相当する枠）を充てることで，授業進行を調整する。

８．欧州統合発足を例に国家を超える地域統合のメカニズムを理解する。政治的境界より大きな地域への統合の事例として，欧州統合を取り扱う。特に最初の欧州統合（ECSC・EEC）の発足について説明し，単にアイデンティティや欧州という共通文化が統合の推進材料だったのではなく，具体的な利害の考慮があったことを理解する。

９．英国を例に，地域統合拡大メカニズムと国内地域主義暴発の事例を知る。イギリスや周辺北欧諸国の欧州統合参加過程について理解する。参加有無の判断が分かれた背景の一つに，国内産業の差異・多様性・統合との利益均衡の問題があったことを理解する。あわせて多文化国家イギリスの国内地域主義運動（特に北アイルランド問題）を学習し，それにどのような対応がとられたかを知る。

10．欧州統合の南欧・中欧への拡大を事例に経済格差と統合の軋轢を理解する。経済的後進に統合を広げることは，既存加盟国の一部世論との間に軋轢を生む。それがどのような構造の問題であるか，構造基金・結束基金という介入はどのような意味を持つのか理解する。スイス・オーストリアの欧州統合参加の判断の別れの原因を，国内背景の差異から理解する。スイス国内の地域主義問題を知る。

11．欧州統合の東欧への拡大を事例にきわめて異質な社会を統合する困難を理解する。2004-7年のEU拡大が新興民主国・旧共産圏への地域統合拡大という意味で質量ともに重大な拡大であった事を学ぶ。加盟国・被加盟国の政治経済的な利害構造を学び，対応措置を知り，今日の欧州政治にたいしても持つ含意を理解する。旧共産圏ではないものの，このタイミングで参加したキプロスの内戦・地域主義・分断状況を事例に，国内地域主義の問題を理解する。

12．地域統合とナショナリズムの変質について理解する①。欧州地域統合は各国のナショナリズムを時代遅れにしたのではなく，それをむしろ変質・多様化させただけだった。そのことを過去に予言したCsergo&Goldgeier 2004を元に，欧州における伝統的ナショナリズムと地域主義型ナショナリズムについて理解する。

13．欧州統合とナショナリズムの変質について理解する②。前回に引き続き，地域統合の文脈で多様化し変質した欧州のナショナリズムのうち，主権横断型ナショナリズムと保護主義型ナショナリズムを理解し，それぞれのナショナリズムのタイプ間の相互関係を理解する。

14．21世紀の欧州におけるナショナリズムの源泉を理解する。前回までに論じた展開として，保護主義型ナショナリズムの高揚ともいえる欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。人が他者を排斥しようとするのは，失業や貧困といった単純な経済的動機ではなく，よりソシオトロピックな懸念によるものが大きいことを示す。

15．ここまでの内容理解を振り返り知識の定着を図る。第8回から第14回までの内容について振り返り，知識の習熟を図る。授業進行のイレギュラー，休講/補講による補填の調整，他クラスとの合同授業企画などの場合，この時間（に相当する枠）を充てることで，授業進行を調整する。

成績評価の方法 /Assessment Method

・期末筆記試験100%（テークホークイグザムになる可能性あり）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回，次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので，それらを参照して予習する事。授業スライドはmoodleにアップする。本科目の特質上，固有の政治的事実や固有名詞が頻繁に登場し，また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから，特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

履修上の注意 /Remarks

地域統合論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

SDGs10, 16, 17に関連します

キーワード　/Keywords

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor	三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論	PLC222M

授業の概要　/Course Description

今日、アジア諸国の経済成長や社会発展は目覚ましく、今世紀の世界をリードしていくのは確実視されています。グローバリゼーションの中でそのような経済成長が続いていますが、経済同様、アジア諸国の社会の動きも活発化しています。元来、担当教員は、バングラデシュ地域に研究の焦点を絞っていましたが、2007年以降バングラデシュ人にとって海外出稼ぎ労働の対象国として人気のある韓国に数多く足を運んでは調査研究を繰り返すようになりました。また、韓国は日本と社会構造がよく似ており、お互いが協力して問題を解決する必要があります。ゆえに、本授業では、最初にアジア地域全体の社会を概観・分類し、次に、担当教員の研究に非常に関係のあるアジア2カ国、韓国とバングラデシュを対象に、同国の文化・生活・社会の断面を紹介していきます。担当教員の体験や関心から出発しているので、若干、マニアックになるのはお許しください。コロナ禍にて、海外渡航は難しい状態ですが、アジア大好き人間になり、学生時代には一度は同国に出かけてください。アジアに少しでも興味ある学生なら誰でも歓迎です。北九州市、福岡市や福岡県が自らをアジアのゲートウェイと位置づけ、積極的に経済面社会面でアジアとの交流・協力を進めている現在、なおさらのこと、本授業を通して羽ばたいてください。

{ 知識 } アジア諸国の社会構造の基礎的知識を有している。
{ 技能 } アジア諸国に出かけ、人々と交流できる技能を身につけている。
{ 思考・判断・表現力 } 今後のアジア諸国の在り方を総合的に理解し、発信することができる。

教科書　/Textbooks

その都度配布
○三宅博之『開発途上国の都市環境 - バングラデシュ・ダカ　持続可能な社会の希求』明石書店、2008年

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

* 大橋正明・村山真弓編『バングラデシュを知るための60章【第3版】』明石書店、2017年
* パク・ジョンヒュン『韓国人を愛せますか？』講談社＋α新書、2008年、840円
* 棚瀬孝雄『市民社会と法～変容する日本と韓国の社会』ミネルヴァ人文・社会科学叢書、2007年、5775円
* クォン・ヨンスク『「韓流」と「日流」～文化から読み解く日韓新時代』NHK出版、2010年、1100円
* 安宿緑『韓国の若者』中公新書クラレ、2020年、820円+税
* 岩瀬秀樹『韓国のグローバル人材協力』講談社現代新書、2013年、780円

アジア地域社会論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　「アジア地域社会論」に関する授業方針と内容の説明～アジア社会一般的特徴の解説を含む
第2回　アジア地域の社会の概観～統計数値、料理写真を通しての社会の特徴の分類～グループ討論　【統計数値】
第3回　韓国とバングラデシュへのスタディ・ツアーの写真から韓国社会とバングラデシュ社会を読み解く　【スタディツアー】
第4回　韓国の1960~70年代の政治・社会と現在～映画の一コマ「クラシック」を通して（１）　【映画部分鑑賞】
第5回　韓国の1960~70年代の政治・社会と現在～映画の一コマ「クラシック」を通して（２）　【映画部分鑑賞】
第6回　韓国におけるバングラデシュ人労働者～彼らの本音を探る　【バングラデシュ人労働者】
第7回　韓国における多文化家族に見る社会～途上国からの花嫁　【多文化家族】
第8回　韓国の現代史、韓国社会の若者と国際化（留学事情、学歴社会）　【現代史】
第9回　韓国の宗教と文化　【価値教育】
第10回　イスラームとは？　【イスラーム】
第11回　バングラデシュの都市社会（中産階層と清掃人・ウェイストピッカー・有価廃棄物回収児童）　【雑業層】
第12回　バングラデシュの農村社会～農業の特徴　【農業】
第13回　バングラデシュのコミュニティ～日本のコミュニティ問題と比較して～グループ討論　【コミュニティ】
第14回　それでも、バングラデシュ！　小ネタ集～教員の仰天体験を通して？　【参与観察】
第15回　まとめ　～　途上国に行く気になったか　～　グループ討論

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への日常的な取り組みの姿勢…30%　小課題の提出　…　20%　試験　…　50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は教科書や参考文献で授業箇所を読んでおくことと日ごろから途上国の話題を探すこと、事後学習は授業で習ったことの復習と小課題への適用です。

履修上の注意　/Remarks

時々の小課題の実施
上記アジア2国はかなり異なっている。面白く、興味深い授業を心掛けたいので、笑う時は笑い、泣く時は泣き（映画鑑賞では泣きます）、考えるべき時は考え、なにごとにも真剣に取り組んでいただきたい。
1学期の途上国開発論との抱き合わせで履修すれば本講義の理解により役立ちます。同時に、自主練習を行い、授業の内容を反復していてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

現在のコロナ禍の中ではアジアに出かけるのは至難の業です。よって、今は映画・ドラマを見たり、本などを読んでおきましょう。コロナ禍が過ぎれば、北九州から韓国は本当に近いので、もっともっと韓国のことを知り、複数回の韓国訪問を果たしてほしいです。片やバングラデシュへの道は厳しいですが、チャレンジしてください。

キーワード　/Keywords

アジア、バングラデシュ、韓国、スタディツアー、国際理解、社会問題の解決

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor　湯川　勇人 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　集中
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用政策特講	PAD214M

授業の概要　/Course Description

近現代の日本外交について、基礎的な知識を得るとともに、外交文書や外交官の個人文書を読み、その政策決定過程について学びます。また、現在の日本外交についても皆さんで議論し、その課題を把握し、自身の意見を持てるようになることを目標に授業を進めます。

・到達目標
【知識】政策実践に関する応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
【技能】政策実践の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】具体的な政策を通じて、複眼的論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

佐藤史郎他編『日本外交の論点』、2018年
五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008年
入江昭『日本の外交』中央公論社、1966年

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：日本の外交①
第2回：日本の外交②
第3回：資料読解　日露戦争に至る日本外交
第4回：日本の外交③
第5回：日本の外交④
第6回：資料読解　太平洋戦争へ至る日本外交
第7回：日本の外交⑤
第8回：日本の外交⑥
第9回：日本の外交⑦
第10回：現在の日本外交の論点について確認する
第11回：在日米軍基地問題とは
第12回：在日米軍基地問題について議論する
第13回：日韓外交問題とは
第14回：日韓外交問題について議論する
第15回：講義の総括

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験・・・50%
日常の授業への取り組み・・・50%

応用政策特講 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

新聞やテレビのニュースで現在の日本の外交問題、対外関係に関する話題を知る。
授業内容の復習。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

日本外交　日本政治　政策決定　外交文書

対外政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　李 鍾成 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	対外政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対外政策論	PLC213M

授業の概要　/Course Description

国際秩序は世界中の諸国家の対外政策の融合体であり、対外政策の分析は国際政治学ではミクロな考察に該当する。国際社会において国家が自国の利益を最大化するために行う対外政策を考察することは、国際関係と世界政治を有機的に理解するための基礎になる。また、国際社会の一員として日本や主要国の対外政策を理解することは、現代を生きる我々にとって重要な作業である。この授業では、国家の対外政策はどのような要因で行われるのか、また国家の対外政策の決定過程はどのような視角で把握し説明することができるのかを学ぶことを目標としている。具体的には、外交政策の基本概念、分析の視角、そして事例分析の三点を意識しつつ、外交政策に対する基本的な枠組みについて学習していく。授業の方法は講師による講義を基本とするが、授業中に小テスト（クイズや質疑応答）を行うことがある。また、各回の講義について、履修学生の意見・感想・質問等をミニッツペーパーに記述してもらい、次週にそれに対するコメントや意見交換などを行う。

（到達目標）
【知識】対外政策に関する基礎的な知識を身に着けている。
【技能】対外政策の研究に必要な情報を収集、分析できる。
【思考・判断・表現力】対外政策について学際的に思考して解決策を探求し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書　/Textbooks

指定教科書はないが、毎回の授業中にプリントを配布し、場合によっては1次資料などを紹介する。また、参考文献は講義中に随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○坂野正高『現代外交の分析–情報・政策決定・外交交渉』（東京大学出版会、2013）
○グレアム・アリソン、フィリップ・ゼリコウ著 / 漆嶋稔訳『決定の本質：キューバ・ミサイル危機の分析』（日経BP社、2016年）
○ケント・E. カルダー著 / 渡辺将人訳『日米同盟の静かなる危機』（ウェッジ、2008）
○ジャレド・ダイアモンド著 / 倉骨彰訳『銃・病原菌・鉄』（草思社、2012）
○李鍾成「米国の新保守主義と現実主義的国際主義」『法政研究』第3-4合併号、2019年
○K. Waltz, Man, The State and War, Columbia University Press, 1959
・ R. Jervis, "Do Leaders Matter and How Would We Know?" Security Studies, Vol. 22, No.2, 2013
・ J. Goldstein and R. Keohane eds., Ideas and Foreign Policy: Beliefs, Institutions, and Political Change, Cornell University Press, 1993
・ Robert Putnam, "Diplomacy and Domestic Politics : The Logic of Two-Level Game," International Organization, Vol.42 No.3, Summer, 1988
・ Peter B. Evans, et. al., eds., Double-Edged Diplomacy: International Bargainingand Domestic Politics, University of California Press,1993
・ J. Goldstein and R. Keohane eds., Ideas and Foreign Policy: Beliefs, Institutions, and Political Change, Cornell University Press, 1993

対外政策論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.ガイダンス：国際政治学と対外政策の関係について
2.対外政策の基本概念1：地政学と対外政策論
3.対外政策の基本概念2：対外政策の決定要因
4.対外政策の基本概念3：対外政策の分野
5.対外政策の分析視角1：International systems and the foreign policy
6.対外政策の分析視角2：Rosenau's pre-theory, Allison's three models of government action
7.対外政策の分析視角3：Game Theories1
8.対外政策の分析視角4：Game Theories2
9.事例研究1：アメリカの対外政策
10.事例研究2：日本の対外政策
11.事例研究3：日米関係をめぐる政策決定（の）過程
12.事例研究4：シーレーンをめぐる日中の政策比較
13.事例研究5：国際通商秩序の構築に向けた主要国の対外政策
14.ガバナンスおよびネットワーク国際政治の発展と対外政策
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験60％
授業貢献度（ミニッツペーパー+小テスト）：40％
・ 定期試験では到達目標を中心に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テレビ、新聞などで国際政治と国際事情に関する情報に常に接する。（30分）
授業中に指定される文献を読んで予習をしておく。（60分）
毎回、配布される授業レジュメに目を通し、用語や略語の意味を中心に授業を整理しておく。（60分）

履修上の注意　/Remarks

毎回の授業が終わってから、必ず復習を行うこと。
授業マナーを必ず守ること（私語など、講義の進行や他の学生の受講を妨げる行為を慎む）。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

学問というのは、最初は難しく感じるものですが、それを理解できたときの喜びをぜひ味わっていただきたいと思います。宜しくお願いします。

キーワード　/Keywords

対外政策、対外政策の決定過程、対外政策の決定要因、

自治体政策研究 【昼】

担当者名 /Instructor　楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究	PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④家族構成の変容（単身世帯の急増）、といった問題は避けて通れない重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④小さな自治体（地方）は消滅するのか？！、⑤移住政策・関係人口等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含めて考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

（到達目標）
【知識】地方自治体の公共政策に関する、基礎的な知識を身につけている。
【技能】地方自治体の公共政策について、必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】地方自治体の諸問題について総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
○大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
○大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
○芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
山下祐介『限界集落の真実–過疎の村は消えるのか？–』（ちくま書房、2012年）。
藤山浩『田園回帰１％戦略–地元に人と仕事をとり戻す–』（農山漁村文化協会、2015年）。

自治体政策研究 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　問題提起と本講義の目的–超高齢人口減少社会の到来
２回　人口減少期のまちづくり–コンパクトシティ構想の検討
３回　富山市のコンパクトシティ構想–串とお団子のコンパクトシティ構想
４回　紫川マイタウンマイリバー整備事業
５回　限界集落（１）–限界集落とは何か
６回　限界集落（２）–限界集落の事例の検討
７回　限界集落（３）–綾部市の「水源の里」条例
８回　限界集落（４）–限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
９回　都市の「限界コミュニティ」–限界コミュニティとは何か？
１０回　北九州市の局地的高齢化
１１回　限界コミュニティとその再生
１２回　団地の超高齢化、買い物難民（買い物弱者）を考える
１３回　ふるさと納税
１４回　小さな自治体は消滅するのか？ー島根県海士町から考えるー
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

レポート…50%　　授業貢献度…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。
受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第１回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。
この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」「陸の豊かさも守ろう」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民（買い物弱者）、超高齢社会の担い手

都市経済論 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論	PLC113M

授業の概要　/Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。
本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。
講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことか、域内産業の特性との関連で見ていきます。
さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。
本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

（到達目標）
【知識】
都市経済に関する基礎的な専門知識を身につけている。
【技能】
都市経済に関する情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】
都市経済に関係する現象を説明するとともに、理論的、学術的な知見を踏まえた解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
○川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
○佐藤泰裕(2014)『都市・地域経済学への招待状』有斐閣
○山崎朗他(2016)『地域政策』中央経済社
○小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
その他、適宜講義の中で紹介します。

都市経済論 【昼】

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2．競争の激化と地域格差の拡大
3．都市の経済的課題
4．都市の社会的課題
5．都市はなぜできるのか？ - 都市の発展
6．都市空間の形成 - 都市システム
7．都市の成長と衰退① - 土地利用、都市の内部構造
8．都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9．地域経済活性化と産業構造① - 域外マネーの獲得と域内経済循環
10．地域経済活性化と産業構造② - 基盤産業と非基盤産業
11．立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12．立地戦略と都市経済② - 立地創造
13．都市経済の実際① - 商店街活性化
14．都市経済の実際② - 観光振興とまちづくり
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 受講レポート50%、期末試験50%
・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末試験を受験しない者は、いずれも単位認定の対象外です。
（※新型コロナの状況により期末レポートに切り替える場合がありますが（配点50%は同じ）、その場合は事前にアナウンスします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
　授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室してもらいます。
・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。
「地方創生」に関する理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。
・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 /Instructor	田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論	PAD213M

授業の概要　/Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が深刻化する中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、ＮＰＭ、ガバナンスとパートナーシップ、地域課題へのビジネス手法の活用、地域資源の活用による地域創造など、今後の都市マネジメントの方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

（到達目標）
【知識】
都市マネジメントに関する専門的な知識を幅広く身につけている。
【技能】
都市マネジメントに関する情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】
都市マネジメントの状況を説明するとともに、ガバナンスやパートナーシップを駆使した政策展開や地域創造の意義を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書　/Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○吉田民雄(2003)『都市政府のマネジメント』中央経済社
○宮脇淳(2012)『図解　財政のしくみ　ver.2』東洋経済新報社
・ 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎　新版』有斐閣
・ 秋吉貴雄(2017)『入門　公共政策学』中央公論新社
・ 講義の中で適宜紹介します。

都市経営論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1．オリエンテーション - 都市のマネジメント
2．都市の現状と課題
3．都市の成長と都市マネジメント
4．地方自治制度
5．地方財政制度
6．地方自治体の諸制度
7．地方公務員の人材マネジメント
8．地方行財政改革
9．公共部門の民営化
10．公共施設・空間のマネジメント
11．ガバナンスとパートナーシップ
12．ビジネス手法の活用による地域課題の解決
13．企業と社会の関わりと市民事業への支援
14．地域資源の活用による地域創造
15．まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・受講レポート50%、期末試験50%
・一回も受講レポートを提出しない者、期末試験を提出しない者はいずれも単位認定の対象外です。
（※新型コロナの状況により期末レポートに切り替える場合がありますが（配点50%は同じ）、その場合は事前にアナウンスします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
・遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室してもらいます。
・教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
・受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
・授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。
前期科目の都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。
・当科目は、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

都市政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　田代　洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論	PLC219M

授業の概要　/Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題、都市政策の手法等を概観した後、地域産業政策、地域コミュニティ政策、安全安心まちづくり、空き家対策、環境政策、文化観光政策などの様々な政策分野の状況と政策展開の実際を学んでいく。

都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史的変遷や都市のダイナミズム、多重性・多層性を有する都市政策の構造的理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。

また、脅威となっている大規模地震災害や新型コロナウイルスに対する政策についても言及する予定である。

（到達目標）
【知識】
都市政策に関する専門的な知識を幅広く身につけている。
【技能】
都市政策に関する情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】
都市政策の現状を説明し、都市政策課題の解決に向けた学際的なアプローチを探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書　/Textbooks

・特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
○秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎　新版』有斐閣
・秋吉貴雄(2017)『入門　公共政策学』中央公論新社
・講義の中で適宜紹介します。

都市政策論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１．オリエンテーション - 都市政策とはなにか
２．人口減少と都市政策課題
３．都市政策の変遷と都市ビジョン
４．都市政策と政策手法（１）- 政策の構造化
５．都市政策と政策手法（２）- 政策手法とプロセス
６．地域産業政策
７．社会保障制度と少子化対策
８．地域コミュニティと市民活動
９．安全安心のまちづくり
10．社会資本の老朽化と空き家対策
11．環境創造と持続可能性
12．インバウンドと観光まちづくり
13．都市文化政策と文化創造
14．町並み景観の保存と活用
15．まとめ
※新型コロナウイルスの状況が落ち着けば、「政策展開の実際」ということでゲスト講師を招聘することも考えています。

成績評価の方法　/Assessment Method

・受講レポート50%、期末試験50%
・一回も受講レポートを提出しない者、期末試験を受験しない者はいずれも単位認定の対象外です。
（※新型コロナの状況により期末レポートに切り替える場合がありますが（配点50%は同じ）、その場合は事前にアナウンスします）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

・大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
・遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室してもらいます。
・教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
・受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
・授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。
後期科目である都市マネジメント論と併せて受講されることをお勧めします。
・当科目は、SDGsの「8 働きがいも　経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任　つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード　/Keywords

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　申　東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論	PLC216M

授業の概要　/Course Description

人間と社会経済、人間と環境・自然との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

①日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
③地球温暖化、コロナ感染病と気候変動、国家間移動、放射能の大気汚染について理解し原因を分析する。
④ 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
⑤ 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
⑥SDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策と生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
⑦ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

（到達目標）
【知識】環境問題に関する理解を深め、その対策に必要な専 門的な知識を修得している。
【技能】環境関連の試験や資格に必要な情報やスキルを身 につけている。
【思考・判断】 環境問題における多様な観点や利害関係を理解し、問題解 決力を身につけている。

教科書　/Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・ 孫 穎・ 竹歳 一紀・ 在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ￥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ￥3,990）
○『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ￥2,310）
○『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ￥735 ）
○『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ￥7,748）
○『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発伝所著 集英社 ￥735 ）
『欧州のエネルギーシフト』 （脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ￥840）

環境政策論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 授業や本の紹介など（自分の環境概念について、書いてもらう）
２回 公害、環境（問題）とその構造（被害者、加害者等）
　環境問題の特性とその構造（環境、社会構造と制度、技術、自然＝資源、人口）
３回 日本の環境問題と歴史
　環境権、環境政策の特徴１（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
４回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
５回 環境権、環境政策の特徴２（日本、アメリカ、ドイツとEU, 韓国、中国）
６回 環境政策の手段（間の比較分析）1: 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
７回 環境政策の手段（間の比較分析）2: 有料化、road pricing等
８回 ポスター発表会
９回 自治体の環境政策（環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等）、環境自治体
１０回 廃棄物はどこにいくのか（アジアへ、私の食卓へ、そして体へ）
１１回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
１２回 地球温暖化と工ネルギー政策
１３回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
１４回 水・川･ダムによる水資源、干潟、地域再生
１５回 まとめ（試験などの質問）

成績評価の方法　/Assessment Method

ポスター発表 30%、レポート 20%、期末試験 50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故と工ネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない（原発なくても）と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～！！
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当！！
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域工ネルギーで就職もできるの？？

キーワード　/Keywords

環境、環境問題、環境政策（政策手段）、環境影響、国際環境問題、
産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、
地域工ネルギーと原子力。

途上国開発論 【昼】

担当者名 /Instructor　三宅 博之 / HIROYUKI　MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	途上国において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論	PLC215M

授業の概要　/Course Description

新型コロナは世界中の人々を襲撃しました。誰も経験したことのない事態が起こっています。途上国でも感染者数や死者数も急増しています。2021年1月現在、国際間の人の流れは完全に抑えられました。その代わりに、IT技術のおかけで、遠隔装置を使い、人々はつながっています。今後も、めまぐるしく状況は変化するでしょう。新型コロナ禍がいつ収まるかはわかりませんが、今世紀は、開発途上国がその中心舞台に躍り出ることに間違いないでしょう。そのテーマといえば、貧困問題、環境問題、人口問題、民族紛争、人権問題など枚挙にいとまがないほどです。本講義では、途上国の開発と環境に焦点を絞り（事例としてはインド・バングラデシュ）、数々のテーマと切り口で臨みます。日本の若者が海外に出ていくことを躊躇していると言われていますが（隣国の韓国とは大違い）、同じ地球に生きる人間として途上国の問題にも真正面からぶつかり、世間で言われる途上国の違った側面を捉えることに挑戦してください。最後に、本授業は、日本の過去・現在・将来において重要な関係を持つ途上国の諸問題の知識の吸収や理解に重点を置き、（新型コロナ禍の収束状況いかんですが）、卒業以前に途上国そのものを自らの眼で見極めるといった実践力、卒業後も、途上国に関心を持ち学習するといった能力を培うことを主な目標としています。

{ 知識 } 途上国の政治経済の現状を理解している。
{ 技能 } 途上国の政治経済上の情報を入手し、分析できる。
{ 思考・判断・表現力 } 途上国の持続可能な開発に理解を示し、積極的に支援する。

教科書　/Textbooks

特に教科書は指定せずに各回に配布する資料

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ジェニファー・エリオット著、古賀正則訳『持続可能な開発』古今書院、2003年
* 三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ　持続可能な社会の希求』明石書店、2008年、3800円
* 菊地京子編『開発学を学ぶ人のために』世界思想社、2001年、1900円
* Robert B.Potter et al., Geographies of Development 3rd ed. Pearson Education, Harlow, 2008
* 太田和宏『貧困の社会構造分析～なぜフィリピンは貧困を克服できないのか』法律文化社、2018年、5500円
* 村山真弓・山形辰史編『知られざる工業国　バングラデシュ』アジア経済研究所　IDE-JETRO、2013年、5400円

途上国開発論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　「途上国開発論（途上国の開発政策）」のねらい、特に新型コロナ禍の状況を踏まえて【新型コロナ禍】
第2回　開発概念の検討～歴史的推移（SDGsまで）　【持続可能な開発（SD）】
第3回　成長概念と貧困概念～貧困線とアマルティア・セン考え方　【貧困概念】【アマルティア・セン】
第4回　急速の経済発展～インドのIT産業を事例として　【IT産業】
第5回　人口問題～中国の1人っ子政策の転換と先進国の少子化対策　【一人っ子政策】【少子化】
第6回　都市産業問題～インフォーマルセクターの存在　【インフォーマルセクター】
第7回　居住問題～スラム・スクォッタ居住区　【スクォッタ居住区】
第8回　資源分配をめぐって（エネルギー技術のあり方）　【資源配分】
第9回　環境問題～森林破壊、海洋汚染など　【森林破壊】
第10回　環境問題～都市問題、特に廃棄物管理問題を中心に　【廃棄物管理問題】
第11回　保健・医療問題　～感染症、下痢を中心に　【感染症】
第12回　途上国での農漁村での農業・漁業の在り方　【農業・漁業】
第13回　途上国の諸問題の解決への取り組みと結果～国連とＯＤＡ　【ODA】
第14回　台頭するNGO～インド・バングラデシュの事例より　【NGO】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業の内容にかかわる日常的姿勢…20％　小課題の提出　…　30％　試験もしくはレポート　…　50　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習は、日ごろから途上国に関心を持ち、新聞などから記事を抽出、また、関係文献を読んでおくこと、事後学習は、授業で習ったことをノートに再度まとめ、コメントを加えておくことなどの復習をすること。

履修上の注意　/Remarks

時々小課題の提出を求めます。努めて途上国に関する様々な新聞記事を読み、テレビ番組を視聴していてください。
英語の文章も少しは読むので、日頃から英語の勉強も怠りなりのないようにしていてください。
同時に、授業の反復練習をしつつ、それを参考に自主的に関係文献を読み、まとめる作業を行ってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

途上国の現実を知り、興味深い事象を探し、もっと足を踏み入れてほしい。もっと本を読もう。時には、お金を貯めて、世界に飛び立とう。自らの世界観の狭さやちっぽけさに気付こう。今は、新型コロナ禍が収束するまでの準備期間と考え、準備に励もう。（担当教員もそのような準備をしています）

キーワード　/Keywords

新型コロナ禍、開発途上国（インド・バングラデシュなど）、アマルティア・セン、環境問題、持続可能な開発目標（SDGs）

福祉政策論 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論	PLC217M

授業の概要　/Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本的特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

（到達目標）
【知識】社会福祉サービスについて基礎的な知識を身につけている。
【技能】社会福祉サービスを利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】社会福祉サービスの課題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）
原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてＢ４判で配布します。Moodleなどでの配信はおこないません。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「社会福祉の意味」
第２回　「社会福祉の行財政」　社会福祉の専門機関
第３回　「社会福祉の行財政」　社会福祉の民間組織
第４回　「高齢者福祉と介護保険」　介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
第５回　「高齢者福祉と介護保険」　介護サービスと民間企業
第６回　「高齢者福祉と介護保険」　介護は社会化されたか？
第７回　「児童福祉」　児童福祉のサービス
第８回　「児童福祉」　保育所改革（公立保育所民営化など）
第９回　「児童福祉」　保育所改革（幼保一体化）
第１０回　「児童福祉」　児童虐待
第１１回　「児童福祉」　少子化対策。男女共同参画をめぐる議論
第１２回　「障害者福祉」　障害の定義
第１３回　「障害者福祉」　障害者福祉のサービス
第１４回　「障害者福祉」　障害者の雇用
第１５回　まとめ

福祉政策論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・ 100%
新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
１３回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート試験に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意　/Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特になし。

公共経営論 【昼】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論	PAD212M

授業の概要　/Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業的経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

（到達目標）
【知識】公共サービスの民営化・民間委託について基礎的な知識を身につけている。
【技能】公共サービスの課題を理解するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】公共サービスの課題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）
原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてＢ４判で配布します。Moodleなどでの配信はおこないません。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

公共経営論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「新公共経営の理論」　ＮＰＭ (New Public Management)
第２回　「新公共経営の理論」　能率と責任、政策手法
第３回　「教育編①図書館」　図書館のしくみ
第４回　「教育編②図書館」　指定管理者制度
第５回　「教育編③図書館」　ＰＦＩ
第６回　「教育編④図書館」　ＰＦＩの問題点
第７回　「教育編⑤学校」　学校のしくみ
第８回　「教育編⑥学校」　学校選択制
第９回　「公共事業編①」　道路のしくみ
第１０回　「公共事業編②」　道路公団民営化
第１１回　「公共事業編③」　道路の必要性
第１２回　「公共事業編④」　入札改革
第１３回　「公共サービス従事者編①」特殊法人、天下りをめぐる議論
第１４回　「公共サービス従事者編②」非正規職員
第１５回　「まとめ」

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・ 100%
新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
１３回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート試験に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

＊図書館や学校、道路に関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意　/Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を、他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特になし。

政策実務特講 【昼】

担当者名 /Instructor　雪松　直子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	NPOやソーシャル・ビジネス等に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	NPOやソーシャルビジネス等が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実務特講	PLC220M

授業の概要　/Course Description

本授業では、職員を雇用するなど、有給で継続的に事業を行なっているNPOなどの非営利組織について、その背景と特徴、経営上の工夫について、実際のケース（事例）を中心に取り扱いながら進めていきます。

一般的な企業等が行う営利事業では、利益をあげることが求められ、収益や資本が増大することを基準に評価されますが、NPO等の非営利組織は、利益は事業継続のための手段であり、事業が社会にどれだけの影響を与え、変化を起こすことができたか、どれだけの市民が関心を寄せ、参画したかに価値を見出します。

そのため、非営利事業の経営の現場には、さまざまな指標があり、自分と社会との接点を考えること、対話や合意形成の技術、社会における自分の役割を整理することなど、これからの社会人としても必要な要素を多く含んでいます。

それらを、講師が経営するNPO法人アカツキ・またアカツキのコンサルティング支援先であった実際のケースを参考にし、時にゲスト講師の力も借りながら、皆さんと一緒に学びます。

本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、知識の量や回答の優秀性よりも、「社会と自分のつながりを想像する力」「自分の意見を持ち言語化する力」の2点を重視します。

到達目標
【知識】非営利組織・ソーシャルビジネスに関する専門的な知識を体系的に身ににつけている。
【技能】非営利組織・ソーシャルビジネスについて必要な情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】非営利組織・ソーシャルビジネスについて総合的に思考し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

岡田斗司夫　『「世界征服」は可能か？』　筑摩書房　2007年　¥780（税別）
他、適宜プリント等を使用します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回：オリエンテーション / NPO法人の基礎振り返り
2回：市民運動からソーシャルビジネスへの歴史とこれから
3回：全国の社会的事業モデル紹介
4回：非営利とファンドレイジングの意義
5回：「悪の秘密結社」に見るビジョンとミッション
6回：「世界征服」というイノベーション
7回：非営利事業者ゲストによるケース紹介（１）【営利からの転向】
8回：非営利事業者ゲストによるケース紹介（２）【行政との協働】
9回：非営利事業者ゲストによるケース紹介（３）【日常の事務体制】
10回：コミュニケーション・情報共有とは
11回：非営利事業に対する経営支援の現状と課題
12回：非営利事業の経営ケース・スタディ（１）【人材と会議】
13回：非営利事業の経営ケース・スタディ（２）【分析と戦略】
14回：非営利事業の経営ケース・スタディ（３）【広報と営業】
15回：全体の振り返りと共有

政策実務特講 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…60%　日常の授業への取り組み…40%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・事前学習については、次回講義で取り上げるケースの団体を紹介しますので、基礎的な事業内容をインターネットなどで調べておいてください。
・事後学習については、その日学んだ内容について、一人ではなく友人や家族と共有し、意見交換することで、自分の考えを深めてください。

履修上の注意　/Remarks

・この授業は「NPO論」で学べる知識をベースに進めます。
・授業の中では、たびたびグループワークの時間を設けます。社会に「必ず正しい答え」というものはありません。常識に縛られずに、自由に自分の意見を考えてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

皆さんの中には、今まで非営利組織との関わりはなかったと感じる人もいるかもしれません。しかし、皆さんの日常にある、家族という小さな単位のものから、地域の自治会、部活やサークルなどにも、授業で紹介する取り組みや、非営利組織の経営を活かすことができます。
この授業を通して皆さんのこれからの生活や仕事を考えた時、NPOなどの非営利組織の役割も視野に入れ、一市民としての考えを持てることを期待しています。

キーワード　/Keywords

非営利組織　経営　ソーシャルビジネス　NPO　寄付　ファンドレイジング　評価

政策実践特講 【昼】

担当者名 /Instructor　青木　将幸 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　集中　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	ファシリテーション等のスキルを修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	政策課題の探求に際し、他者との建設的・効果的なコミュニケーションを通じ、協働することの意義を再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策実践特講	PLC221M

授業の概要　/Course Description

政策の形成過程をはじめ、教育、芸術、国際交流などの場面で注目を集めている「ファシリテーション」について、体験を通じて学ぶ。

(到達目標)
【知識】政策実践に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
【技能】政策実践において必要な技法(ファシリテーション等)を身につけている。
【思考・ 判断・ 表現力】政策実践に関する論理的な分析をもとに、政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書　/Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

青木将幸　著『アイスブレイク・ベスト50　リラックスと集中を一瞬でつくる』　ほんの森出版　2013年
青木将幸　著『ファシリテーションを学校に』ほんの森出版　2018年

授業計画・ 内容　/Class schedules and Contents

第１回　ファシリテーションとは？
第２回　よい授業とは？　を考える
第３回　ファシリテーションの実際　場づくり
第４回　ファシリテーションの実際　場をひらく
第５回　ファシリテーションの実際　場を読む
第６回　ファシリテーションの実際　場を閉じる
第７回　ファシリテーションと政策との関連
第８回　ファシリテーションを体験する（１）　田の字法
第９回　ファシリテーションを体験する（２）　グラデーション挙手
第10回　ファシリテーションを体験する（３）　グループサイズ
第11回　ファシリテーションを体験する（４）　３ｃｍ投票
第12回　ファシリテーションを体験する（５）　MM法、その他
第13回　ファシリテーションをやってみよう（１）　イメージする
第14回　ファシリテーションをやってみよう（２）　すすめる
第15回　ファシリテーションをやってみよう（３）　ふりかえる

成績評価の方法　/Assessment Method

日頃の授業態度・ 出席　50点　ファシリテーションをやってみよう（実習）　50点にて評価します。

事前・ 事後学習の内容　/Preparation and Review

私たちが住むこの社会において、これからどのような政策が必要とされるかについて考察を深めておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

遅刻はしないで下さい。

政策実践特講 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

3日間の集中講義です。聞いてばかりの一方的な講義ではなく、参加型で、実践的に、みなさんの将来役立つ手法を体験を通して学びます。

キーワード　/Keywords

ファシリテーション　ワークショップ　参加型社会　市民参加

外国文献研究Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　朝倉 拓郎 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治や政策に関する情報を外国語で理解し、知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	外国の政治現象や政策に関する議論を習得し、地域社会の政策能力につなげる。
	コミュニケーション力	●	政策現象や知識の多様性について理解し、他者とのコミュニケーション能力を高める。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究Ｂ	SEM392M

授業の概要　/Course Description

本講義の目的は、英語圏の読者向けに書かれた日本政治の入門書を講読することを通じて、日本政治の基本的な事柄についてあらためて学び直すことである。また、文献講読によって得られた知見に基づいて現在の日本の政治状況について参加者どうしで議論を行い、理解を深めていく。

（到達目標）
【知識】政策理論に関する知識や分析力を修得している。
【思考・判断・表現力】政策について多様な観点から考え、論理的に説明できる力を身につけている。
【コミュニケーション力】政策事例に関する議論を通じ、コミュニケーション能力を身につけている。

教科書　/Textbooks

Ian Neary, The State and Politics in Japan, Second Edition, Polity Press, 2019.
講義で使用する部分は、コピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス
　　参加者の確認、第2回以降の授業の進め方についての説明を行う。
　　時間の制約上、テキストをすべて読むことはできないので、参加者の関心等を考慮して読む範囲を決定する。
　　したがって、以下の授業計画はあくまで参考である。
第2回～第3回　戦後政治史
第4回～第6回　日本政治の構造
第7回～第9回　外交・安全保障政策
第10回～第12回　経済・産業政策
第13回～第15回　社会・福祉政策

成績評価の方法　/Assessment Method

事前学習の達成度（50%）、講義での報告・議論への参加度（50%）によって総合的に評価する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：あらかじめ決められた範囲を読み訳文を作成する。報告者は、訳文をプリントして参加者に配布する。
事後学習：事前学習で作成した訳文を見直し、講義で得られた理解を定着させる。

外国文献研究Ｂ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

・ 事前学習では、分からない箇所やイメージがつかみにくいところは、何が分からないのかを言語化しておくこと。
・ 無断欠席は厳禁である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

受講を考えている学生は、必ず初回のガイダンスに参加すること。

キーワード　/Keywords

日本政治、55年体制、自民党、日米安保体制、政治改革

アジアのエスニシティ政策 【昼】

担当者名 /Instructor　徳安 祐子 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
						○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の民族やエスニシティ、国民統合政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの国家と社会に主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジア諸国が抱える政策課題に対する関心を深め、グローバル社会に生きる１人の市民としての自覚を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジアのエスニシティ政策	PLC224M

授業の概要　/Course Description

20世紀は「国民国家の時代」といわれる。「国民国家」とは、領域と主権を備えた国家の中に住んでいる人々が国民的一体性の意識（ナショナル・アイデンティティー）を共有している国家のことであり、この国民国家を創る営みを、歴史上ほとんどの国家が行ってきた。しかし、それは同時に、国内の少数民族（あるいは少数エスニック・グループ）の排除、もしくは多数派への統合や強制的な同化を意味していた。

この授業では、東南アジアの国々が、国民国家を創る営みの中でどのように少数民族を処遇してきたのか、あるいは多数派はその過程でどのように変容したのか（しなかったのか）、そして少数民族はそのなかでどのように生きてきたのかを考察する。さらに、21世紀の現在、「国民国家」が抱える問題点や課題も考える。

事例として、ラオスを中心に、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイを取り上げる予定である。

到達目標
【知識】 アジアの民族問題や国家建設についての幅広い知識を総合的に身に付けている。
【技能】アジアの民族問題の理解に必要な情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】アジアの民族問題について学際的・複眼的に分析し、解決策を探求し、論理的に発信することができる。

教科書　/Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志（編著）『東南アジア現代政治入門』改訂版、ミネルヴァ書房、2018年。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○ベネディクト・アンダーソン（白石隆・白石さや訳）『想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山、2007年。
その他、授業時に適宜知らせる。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　授業概要の説明、用語の定義と説明
第2回　東南アジアの国民統合（１）【国民国家建設】
第3回　東南アジアの国民統合（２）【民族と宗教】
第4回　インドネシアの国民統合政策
第5回　マレーシアの国民統合政策（１）【国民国家建設】
第6回　マレーシアの国民統合政策（２）【少数民族政策】
第7回　ベトナムの国民統合政策（１）【国民国家建設】
第8回　ベトナムの国民統合政策（２）【少数民族政策】
第9回　タイの国民統合政策（１）【国民国家建設】
第10回　タイの国民統合政策（２）【少数民族政策】
第11回　ラオスの国民統合政策（１）【国民国家建設】
第12回　ラオスの国民統合政策（２）【少数民族政策】
第13回　ラオス山地少数民族の生活と宗教
第14回　ラオス山地少数民族と民族間関係
第15回　少数民族と国家

アジアのエスニシティ政策 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験 80%
日常の授業への取り組み　20%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前・事後には、教科書の該当ページ（あるいは章）を精読し、参考文献を図書館から借りるなどして読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

国民国家、民族、エスニシティ、国家建設

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor　林田　幸広 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論	LAW100M

授業の概要　/Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからもわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを貫く背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

（到達目標）
【知識】法学の初歩的な知識を身につけている
【技能】法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書　/Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年．
○稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年．
　中山竜一、『ヒューマニティーズ　法学』、岩波書店、2009年．
○三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年．

法学総論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　ガイダンス＆イント口：実年齢の変更は裁判で認められる（べき）か･･･【法化社会】
2回　法の目的①：もしも法がなかったら？･･･【法の支配】と【法治主義】
3回　法の目的②：法が法である条件は？･･･【法と道徳】、【法と強制】
4回　法の目的③：法は正義の味方ではない･･･【法における正義】
5回　立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由･･･【社会契約論】
6回　立憲主義②：もしボディガードが殴ってきたら？･･･【国家＝権力】の両義性、【違憲審査】
7回　立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの･･･【民主主義】、【公／私の区別】
8回　法の体系①：さまざまな分類･･･【法の位階】、【公法／私法】、【実体法／手続法】
9回　法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」･･･【私的自治】、【国家刑罰権】
10回　法の体系③：賛成ですか／反対ですか、それはなぜですか？･・・【死刑制度】
11回　法の体系④：近代法から現代法へ･・・【法の機能】から法体系を俯瞰する
12回　裁判と法①：裁判の種類と関連性･･･【裁判制度】、【裁判手続】
13回　裁判と法②：法解釈と思考法･･･【要件-効果】
14回　裁判と法③：選ばれたらどうします？･・・【国民の司法参加】
15回　授業のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験･･･１００％
・授業の進捗状況により、コメントカードの提出を求めることがあります。その場合、優れたコメントは成績評価に加味します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけではなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意　/Remarks

法（学）には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かな考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる（べき）秩序を構想します。よってこの授業はSDGｓのなかでもとりわけ「10．人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード　/Keywords

法の目的、法の機能

法社会学 【昼】

担当者名 /Instructor　林田　幸広 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法社会学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法社会学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法社会学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法社会学	LAW211M

授業の概要　/Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、法 / 規範現象を観察・分析し、言語化する学問です。
みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするなら、ひとまず法社会学は、法システムをその「外部」から観察していく学知であるといえ、法や社会規範が、社会の中で、いかなる意味や機能を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。
「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる――こういった経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上にして多分に「偶発的に」成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」（＝別様でもありえた / ありえる視点）を実感していただければと思います。
でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）の存在を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難して自己満足するためでのものでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシヴに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたことになります。
もし私たちの社会が単純明快に見えるとすれば（ちなみに「実は裏で○×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。
目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え / 追い込み考えてみる。そんな知的 / 時間的余裕をもてることこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授 / 暗記をすればよしとする向きにはまったく！期待に沿えないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか――ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。
受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。
さしあたり、「役に立つ / 立たない」、「よい / わるい」、「自明（フツー）/ ヘン」といった脊髄反射的に立ち現れる枠組みを横に置いて、社会の規範現象を分析できるようになることをねらいとします。以下に到達目標も示しておきます。

（到達目標）
【知識】法社会学に関する基礎的な知見を身につけている
【技能】法社会学的な分析に求められる基本的な情報を収 集・整理することができる
【思考・判断・表現力】法社会学の基礎的知見を通じて課題を発見し、解決 策や代替案を表現できる

教科書　/Textbooks

使用しません。テーマごとにレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

林田幸広 / 土屋明広 / 小佐井良太 / 宇都義和編、『作動する法 / 社会』、ナカニシヤ出版、2021年 .
そのほかは講義中に指示します。

法社会学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション（講義の進め方等についての説明）
２回　法社会学的観察とは何か（１）【法システムの「内部」と「外部」】という視点
３回　法社会学的観察とは何か（２）【法社会学的アプローチの多元性】
４回　法社会学的観察とは何か（３）【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
５回　社会秩序の根拠は何か（１）法学における【秩序問題】
６回　社会秩序の根拠は何か（２）社会学における【秩序問題】
７回　現代社会における法の機能（１）【法機能】の多元化
８回　現代社会における法の機能（２）【現代法化論】の両義性
９回　フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（１）【フリーライダー問題】の「かたち」
１０回　フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（２）【「正解」の出ない社会問題】への対処例と悩みどころ
１１回　フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽（３）【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
１２回　現代法化社会を考える（１）法と【権力】
１３回　現代法化社会を考える（２）法と【リスク】
１４回　現代法化社会を考える（３）法と【主体】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

全編論述式の定期試験（70％）と毎講義ごとのレスポンスペーパー（30％）により評価します（より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
事後後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる（ハズの）問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意　/Remarks

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いっけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ / いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。
初回の講義において、講義の運営方法や評価方法、そして法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、必ず出席の上お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください（この場合の自己決定には自己責任が伴います）。なお、補助資料（プリント）を配布することがありますが、再配布（増刷）はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。逆に、（授業）理解と（情報）暗記を同一視される向きには全くそぐいません（蛇足ながら、この点前もって強くお伝えしておきます）。（唯一の）正解にたどり着かないと不安な方は、不安になるばかりだと思います。そんな授業です。

キーワード　/Keywords

法思想史 【昼】

担当者名 /Instructor　重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法思想史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法思想史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、様々な法思想の歴史を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法思想史	LAW210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探求する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたうえでそれを相対化することもまた、可能となるであろう。

（到達目標）
【知識】法思想史に関する知識を体系的に身につけている。
【技能】法思想史の理解に必要となる情報を収集・分析・整理することができる。
【思考・判断・表現力】法思想史の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で適宜言及したいと考えている。入手可能であれば、参考書として理解に役立つと思われる。

酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）
○深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想　第２版』（ミネルヴァ書房、2015年）
○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史［第２版］』（有斐閣、1997年）
○三島淑臣『法思想史［新版］』（青林書院、1993年）
長谷部恭男『法とは何か　法思想史入門』（河出ブックス、2015年）
瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）
○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）
○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）
○F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

法思想史 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　法思想史とは
第２回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史①　～　Ｊ・ロックの自然権論
第３回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史②　～　近代的自然法論
第４回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史③　～　古典的自然法論（トマス・アクィナスなど）
第５回　法思想史とは（中間考察）　～　「法典論争」（サヴィニーなど）
第６回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史④　～　ケルゼンの純粋法学
第７回　「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史⑤　～　ハートの法の概念：Ｊ・オースティンとハート
第８回　「法と正義」をめぐる法思想史①　～　Ｊ・ロールズの功利主義批判：ベンサムやミルとの関連から
第９回　「法と正義」をめぐる法思想史②　～　Ｊ・ロールズの正義論
第10回　「法と正義」をめぐる法思想史③　～　Ｒ・ノージックのリバタリアニズム：Ｊ・ロールズとの関連から
第11回　「法と正義」をめぐる法思想史④　～　Ｒ・ノージックのリバタリアニズム：Ｊ・ロックとの関連から
第12回　「法と正義」をめぐる法思想史⑤　～　Ｒ・ドゥオーキンの権利論
第13回　「法と正義」をめぐる法思想史⑥　～　Ｒ・ドゥオーキン（裁判と法解釈）
第14回　「法と正義」をめぐる法思想史⑦　～　共同体主義：アリストテレスとの関連から
第15回　法思想史のまとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…80％　　講義中に課す感想文…20％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意　/Remarks

「現代正義論」を１年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGｓの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

自然法論　法実証主義　正義論　権利論

日本国憲法原論 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論	LAW120M

授業の概要　/Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
また、本講義は、憲法のみならず行政法など公法科目の導入科目という位置づけである。
本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各専門科目へ進んでいってもらいたい。

（到達目標）
【知識】憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身につけている
【技能】憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

斎藤一久·堀口悟郎編『図録　日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○芦部信喜·高橋和之補訂『憲法　第7版』（岩波書店、2019年）
○長谷部恭男『憲法　第7版』（新世社、2018年）
○駒村圭吾編『プレステップ憲法　第2版』（弘文堂、2018年）
安藤高行編『新·エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

授業計画·内容　/Class schedules and Contents

第1回　憲法とは何か①–国家と憲法
第2回　憲法とは何か②–近代国家の成立と憲法
第3回　憲法とは何か③–日本国憲法の基本原理と立憲主義
第4回　日本国憲法制定史①–大日本帝国憲法から新憲法制定へ
第5回　日本国憲法制定史②–マッカーサー草案から新憲法公布まで
第6回　平和主義①–その歴史性
第7回　平和主義②–日本国憲法の平和主義
第8回　平和主義③–日本の安全保障と平和主義
第9回　人権総論①–人権の歴史
第10回　人権総論②–人権の分類と制約
第11回　人権総論③–違憲審査の方法と私人間効力
第12回　統治機構総論①–国会
第13回　統治機構総論②–内閣
第14回　統治機構総論③–裁判所
第15回　地方自治制度

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題（30%）+期末試験（70%）。

日本国憲法原論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
また、各回内容の復習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

授業の概要にも書いたように、憲法関連科目（および公法関係科目）の基礎となる講義なので、まずは本講義を受講してから他の憲法科目を受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGｓの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

憲法史　平和主義　基本的人権　統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 /Instructor　棟形　康平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論	LAW220M

授業の概要　/Course Description

日本国憲法が保障する基本的人権について概説する。
各人権の意義や保障内容について把握し、理解することを目指す。
また、現実社会の諸問題にも触れつつ、各人権領域における裁判例などを学習することで、実際の人権保障のありようについて理解することを目指す。

【到達目標】
「知識」：憲法学の人権論に関する知識を体系的に身につけている
「技能」：憲法学の人権論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
「思考・判断・表現力」：憲法学の人権論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録　日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
○長谷部恭男『憲法〔第7版〕』（新世社、2018年）
○安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　総論①--イントロダクション
第2回　総論②--憲法上の権利の享有主体
第3回　総論③--憲法上の権利の限界
第4回　幸福追求権
第5回　法の下の平等
第6回　思想・良心の自由
第7回　信教の自由①--信教の自由の保障
第8回　信教の自由②--政教分離
第9回　表現の自由①--総論
第10回　表現の自由②--各論
第11回　学問の自由
第12回　職業選択の自由
第13回　財産権
第14回　生存権
第15回　労働基本権

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（100%）

憲法人権論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書・参考書等の該当箇所を読み、予習をする。
講義後は教科書・参考書等の該当箇所や関連文献などを読み、ノートを作成するなどして復習を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

基本的人権、憲法上の権利

憲法機構論 【昼】

担当者名 /Instructor　棟形　康平 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における統治機構分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治における諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法機構論	LAW221M

授業の概要　/Course Description

日本国憲法が定める統治の仕組みについて概説する。
現実の政治・社会の諸問題にも触れつつ、国会、内閣、裁判所などの統治機構の仕組みを把握し、理解を深めることを目指す。

【到達目標】
「知識」：憲法学の統治機構論に関する知識を体系的に身につけている
「技能」：憲法学の統治機構論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
「思考・判断・表現力」：憲法学の統治機構論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録　日本国憲法』（弘文堂、2018年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
○野中俊彦ほか『憲法I〔第5版〕』（有斐閣、2012年）
○安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　総論--イントロダクション
第2回　統治の基本原理--権力分立・国民主権
第3回　国会①--国会の地位
第4回　国会②--国会の活動
第5回　国会③--国会の構成・運営
第6回　国会④--議院の権能
第7回　内閣①--議院内閣制
第8回　内閣②--行政権
第9回　内閣③--内閣の組織と権能
第10回　裁判所①--裁判所の組織と司法権の独立
第11回　裁判所②--司法権
第12回　裁判所③--違憲審査制
第13回　財政
第14回　地方自治
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験（100%）

憲法機構論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書・参考書等の該当箇所を読み、予習をする。
講義後は教科書・参考書等の該当箇所や関連文献などを読み、ノートを作成するなどして復習を行う。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 /Instructor　中村　英樹 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法訴訟の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法訴訟に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法訴訟論	LAW320M

授業の概要　/Course Description

憲法上の争点が含まれる訴訟（憲法訴訟）について、実際の憲法判例を素材としながら学ぶ。
憲法訴訟とは何か、違憲審査制の概要といった基礎を踏まえた上で、憲法判断に入る前のさまざまな"前さばき"、憲法判断の方法などを順次学んでいく。これらを通じて、憲法問題を訴訟により解決する道筋やその限界などを考えてもらいたい。

（到達目標）
【知識】憲法訴訟または憲法判例に関する実践的知識を身につけている
【技能】憲法訴訟または憲法判例において法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】憲法訴訟または憲法判例における課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！　第2版』（有斐閣、2020年）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○『別冊ジュリスト憲法判例百選I　第7版』・『同II　第7版』（有斐閣、2019年）
○戸松秀典・初宿正典編著『憲法判例　第8版』（有斐閣、2018年）
○野坂泰司『憲法基本判例を読み直す　第2版』（有斐閣、2019年）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　導入–憲法訴訟とは
第2回　裁判所と違憲審査制
第3回　自由権に関する検討①–三段階審査とは
第4回　自由権に関する検討②–保障範囲の確定
第5回　自由権に関する検討③–制約の確認（１）事前制約と事後制約、内容規制と内容中立規制
第6回　自由権に関する検討④–制約の確認（２）間接的・付随的制約
第7回　自由権に関する検討⑤–正当化（１）形式的正当化
第8回　自由権に関する検討⑥–正当化（２）実質的正当化
第9回　自由権に関する検討⑦–具体例の検討
第10回　社会権に関する検討
第11回　平等権に関する検討①–合理的区別
第12回　平等権に関する検討②–投票価値の不平等
第13回　特殊な事案①–政教分離原則
第14回　特殊な事案②–司法権の限界
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の課題（30％）＋期末試験（70％）。

憲法訴訟論 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

教科書の該当判例を予め読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

「憲法人権論」を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGｓの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

憲法訴訟　違憲審査制　司法審査基準　二重の基準論

行政法総論 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論	LAW121M

授業の概要　/Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

（到達目標）
【知識】行政法学の作用法および組織法に関する知識を体系的に身につけている。
【技能】行政法学の作用法および組織法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
【思考・判断・表現力】行政法学の作用法および組織法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

行政法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、行政法とは
第2回　行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
第3回　行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
第4回　行政組織(1)【行政組織の概念】
第5回　行政組織(2)【国、地方の行政組織】
第6回　行政立法(1)【法規命令】
第7回　行政立法(2)【行政規則】
第8回　行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
第9回　行政行為(2)【行政行為の効力】
第10回　行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
第11回　行政行為(4)【職権取消しと撤回】
第12回　行政行為(5)【行政行為の附款】
第13回　行政裁量(1)【行政裁量の概念】
第14回　行政裁量(2)【裁量の存否】
第15回　行政裁量(3)【裁量審査】
第16回　行政契約
第17回　行政指導
第18回　行政計画
第19回　行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
第20回　行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
第21回　行政調査
第22回　行政手続(1)【行政手続の意義】
第23回　行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
第24回　行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
第25回　行政情報(1)【情報公開制度】
第26回　行政情報(2)【情報公開争訟】
第27回　行政情報(3)【個人情報保護制度】
第28回　公法と私法
第29回　進度調整
第30回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験80%、中間テスト20%
※授業形式（対面 / 遠隔）によって、変更することがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGｓの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor　堀澤　明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法	LAW222M

授業の概要　/Course Description

行政法総論において勉強した「法律による行政の原理」などの、国民の権利を守るための原理は、行政救済法と呼ばれる領域によってその実効性を確保されます。
行政争訟法では、違法行為の是正を行政自身に求める行政上の不服申立てと、裁判所に求める行政訴訟につき概説し、多くの裁判例を通じて、どのようにして私人が違法な行政活動から救済されるかについて理解してもらいます。
（到達目標）
【1　知識】
行政法学の救済法のうち行政争訟に関する知識を 体系的に身につけている。
【2　技能】
行政法学の救済法のうち行政争訟に関する法令を 解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
【3　思考・判断・表現力】
行政法学の救済法のうち行政争訟に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書　/Textbooks

宇賀克也＝交告尚史＝山本隆司編『行政判例百選II[第七版]』(有斐閣，2017)

判例集だけでなく、各自で自身に合う基本書を購入すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

※いずれも授業開始までに新版が出ていればそちらを用いること。

予習復習用に
中原茂樹『基本行政法[第三版]』（日本評論社，2018)
板垣勝彦『公務員を目指す人に贈る行政法教科書』（法律文化社、2019)
稲葉馨ほか『リーガルクエスト　行政法［第4版］』（有斐閣、2018）

より深い理解のために
神橋一彦『行政救済法［第二版］』（信山社、2016）

行政争訟法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　ガイダンスーー行政法総論と行政争訟
第２回　行政上の不服申立て
第３回　処分性(1)――処分性の概念
第４回　処分性(2)――近時の判例における処分性
第５回　原告適格(1)――原告適格の判断基準
第６回　原告適格(2)――近時の判例
第７回　訴えの利益
第８回　その他の訴訟要件、取消訴訟の審理
第９回　取消訴訟の判決　　小テスト（予定）
第１０回　執行停止制度
第１１回　無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
第１２回　義務付け訴訟
第１３回　差止訴訟
第１４回　当事者訴訟
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト20%、期末試験80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回において行政訴訟の判例を学ぶが、当該事件において問題となった条文を事前に読み込むことなく授業を理解するのは不可能に近い。事前にレジュメのアップロードを行うので、ぜひ条文を参照したうえで各判例を検討しておいてほしい。

履修上の注意　/Remarks

行政法総論を履修していることを前提とする。
また民事訴訟法の科目を履修していることは、本科目の理解において助けになる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

判例をかなりの数扱うことになるため、予習を必ず行うこと。

※この授業はSDGs目標10,11に関連しています。

キーワード　/Keywords

処分性、原告適格、訴えの利益　当事者訴訟、実効的権利救済

国家補償法 【昼】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　3年次
単位 /Credits　2単位
学期 /Semester　1学期
授業形態 /Class Format　講義
クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国家補償法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国家補償法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国家補償法	LAW321M

授業の概要　/Course Description

国家補償とは、行政活動によって私人に損害（損失）が生じた場合に、国または地方公共団体がこれを補填する制度です。本講義では、違法な行政活動によって生じた損害を賠償する国家賠償と適法な行政活動によって生じた損失を補償する損失補償について概説します。そのうえで受講者が、国家補償の基本的知識を修得することを目的とします。

（到達目標）
【知識】行政法学の救済法のうち国家補償に関する知識を体系的に身につけている。
【技能】行政法学の救済法のうち国家補償に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
【思考・判断・表現力】行政法学の救済法のうち国家補償に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、国家補償法とは
第2回　不法行為法と国家賠償、国家賠償制度の沿革
第3回　公権力責任(1)【要件①：公権力の行使、職務関連性】
第4回　公権力責任(2)【要件②：故意・過失、違法性】
第5回　公権力責任(3)【立法・司法活動の違法性】
第6回　公権力責任(4)【不作為の違法】
第7回　営造物責任(1)【要件：公の営造物、設置・管理の瑕疵】
第8回　営造物責任(2)【営造物責任の限界、供用関連瑕疵】
第9回　営造物責任(3)【水害訴訟】、公務員の個人責任
第10回　国家賠償法のその他の諸問題
第11回　損失補償(1)【損失補償の概念、根拠】
第12回　損失補償(2)【損失補償の要否】
第13回　損失補償(3)【損失補償の内容】
第14回　国家補償の谷間
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験100%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意　/Remarks

「行政法総論」「行政争訟法」を履修していることが望ましいです。

国家補償法 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDG s の目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード　/Keywords

刑法犯罪論 【昼】

担当者名 /Instructor　大杉　一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論	LAW130M

授業の概要 /Course Description

「刑法総論の体系的展開」（Criminal Law, General Theory）
この講義が対象とする「刑法総論」は、すべての犯罪に共通する法理論と犯罪の一般的な成立要件の体系（犯罪論体系）を考察する領域です。この意味で、刑事法（犯罪と刑罰に関する法）の起点となる科目です。これに対して、「刑法各論」（刑法各論Ⅰ・Ⅱ）は、殺人罪や窃盗罪といった個別の具体的な犯罪の成立要件を考察する領域です。
刑法の基本原理や基本概念、犯罪の成否に関する一般的な法理論を体系的に考察するとともに、具体的な事例をもとに講義を展開して論理的思考力を習得することを目的としています。刑法における基本的な思考方法を理解して、刑法の基本的な事項や問題点についての考え方を学んでください。
この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。
（到達目標）
【知識】刑法総論に関する基本的な知識を体系的に習得している。
【技能】刑法総論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
【思考・判断・表現力】刑法総論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いたPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。
初回の講義において、テキストや参考書について説明します。
①六法（2021年版・令和3年版）
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。
②刑法総論のテキスト（基本書）……推奨
講義の予習・復習、および自習のため、テキスト（基本書）を必携してください。
只木誠『コンパクト刑法総論』（新世社・2018.06）ISBN: 9784883842766、2,420円（税込）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○井田良『基礎から学ぶ刑事法（有斐閣アルマ）』6版（有斐閣・2017.03）ISBN: 9784641220997、1,980円（税込）。
○大塚裕史 / 十河太朗 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法Ⅰ総論』3版（日本評論社・2019.03）ISBN: 9784535523838、4,180円（税込）。
○井田良『講義刑法学・総論』2版（有斐閣・2018.10）ISBN: 9784641139329、4,730円（税込）。
○佐伯仁志『刑法総論の考え方・楽しみ方』（有斐閣・2013.04）ISBN: 9784641042896、3,520円（税込）。
○十河太朗 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『刑法総論判例50！（START UP）』（有斐閣・2016.12）ISBN: 9784641139213、1,980円（税込）。
○佐伯仁志 / 橋爪隆〔編〕『刑法判例百選Ⅰ総論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115507、2,530円（税込）。

刑法犯罪論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（１）解説講義とケース・スタディを組み合わせて講義を進めます。
（２）ケース・スタディでは、解説講義の範囲から重要な論点を取り上げて、この論点を争点とする事例問題に検討を加えます。事例を検討していくなかで、前回の講義で学んだ知識を事案の解決にどのように活用していくのかを学んで、理解を実践的に発展・深化させていきましょう。
※諸事情により進捗状況が前後することがあります。
　１回　ガイダンス・犯罪論の基本構造
　２回　刑法の基本原理（１）（違法論の基礎）
　３回　刑法の基本原理（２）（犯罪の本質・刑罰の本質）
　４回　罪刑法定主義
　５回　犯罪論の体系と構成要件該当性
　６回　実行行為と実行の着手（未遂罪と予備罪、不能犯）
　７回　中止犯
　８回　ケース・スタディ（１）【設例01 / 02】……答案の書き方を中心に
　９回　因果関係（１）（条件関係）
１０回　因果関係（２）（法的因果関係）
１１回　故意論
１２回　錯誤論（構成要件的錯誤）
１３回　ケース・スタディ（２）【設例03 / 04】
１４回　過失論
１５回　不作為犯論
１６回　正当化事由の基礎・正当行為・被害者の同意
１７回　正当防衛（１）正当防衛の基礎
１８回　正当防衛（２）過剰防衛・誤想防衛
１９回　緊急避難
２０回　ケース・スタディ（３）【設例05 / 06】
２１回　責任論の基礎・原因において自由な行為
２２回　違法性の意識と違法性の錯誤
２３回　共犯論の基礎（正犯と共犯の区別）・間接正犯
２４回　共同正犯の基礎（実行共同正犯と共謀共同正犯）
２５回　共同正犯の諸問題（１）（異なる犯罪の共同正犯・承継的共同正犯・片面的共同正犯）
２６回　ケース・スタディ（４）【設例07 / 08】
２７回　共同正犯の諸問題（３）（共犯と錯誤・共犯と過剰）
２８回　共犯の従属性と処罰根拠、教唆犯と幇助犯
２９回　ケース・スタディ（５）【設例09 / 10】
３０回　罪数論・科刑論（犯罪の個数と犯罪の競合）

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験…１００％
この他に課題レポートや随時実施する小テストの成績を成績評価において考慮する場合もあります。
※詳細については、初回の講義で説明します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

テキスト（基本書）の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していってください。
講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう。
ケース・スタディでは、提示された事例問題について1,000字から1,500字程度の解答をあらかじめ作成して講義に参加することを勧めます。講義では、自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。講義後に、解説を元にもう一度解答を作成しなおすと一層効果的です。　※「論理」：思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意　/Remarks

この科目を受講した後に、「刑法各論I」および「刑法各論II」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
また、「法学検定試験」の受験を勧めます（毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月。）。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード　/Keywords

刑事法、刑法、刑法総論、刑法各論、犯罪論、刑罰論

社会法総論 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論	LAW140M

授業の概要　/Course Description

私たちが生きていくためには、「社会」との関係は切り離すことはできない。「社会」という概念は広範にわたるものであるため、「社会法」というと、法と呼ばれるもの全部が社会法ということもできるかもしれない。しかし、法学分野で「社会法」と捉えられているものは、主として労働法及び社会保障法である。本講義では、２年次生から専門的に学ぶことになるこれら2領域の基本的な問題について理解を深める。

この講義では、雇用労働に就いた労働者の職業活動をめぐる様々な問題（労働法領域）や、我々が生活を送っていく上で遭遇する諸問題（社会保障法領域）に対し、法がどのように関わっていくのかについて、できる限り具体的な例を提示しながら理解を深める。

（到達目標）
【知識】社会法の意義を理解し、労働法及び゛社会保障法に関する基礎的知識を身につけている
【技能】社会法(特に労働法及び゛社会保障法)を学ぶ゛ための基礎的技能を身につけている
【思考・判断・表現力】社会法学(特に労働法及び゛社会保障法)に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基つ゛いた判断を行うことか゛て゛

教科書　/Textbooks

使用しない。適宜レジュメを配布し、これに従って進行する。レジュメはMoodle上で事前配布する。
ただし、法律科目であるので、講義中（試験も含め）関係する法律の条文を引くことになるため、関係諸法律が掲載されている六法を用意してもらうことになる。詳細は、初回講義時に説明するので、受講者は必ず受講すること。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

社会法総論 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

労働法、社会保障法領域における基礎的な知識の修得を目的とする。具体的には、雇用労働の場において労働者と使用者との間を規律するルールにはどのようなものがあるのか、それはどのような考え方に基づくものであるのか、労働と緊密な関係にある各種社会保険制度（特に労働保険領域）では、労働者の生活を守るためにどのような仕組みが作られているのか、そこではどのような個別具体的な問題が生じているのか、などについて講義する。
おおよその予定は以下の通りであるが、受講生の反応・希望により変更する可能性もある。

第1回　イントロダクション～「社会法」とは？
第2回　労働法の世界①～労働法の主要アクターと労働条件の決定
第3回　労働法の世界②～採用プロセスの規制と平等原則【採用内定】【試用】
第4回　労働法の世界③～賃金・労働時間の規制
第5回　労働法の世界④～休憩・休日等の規制【時間外労働】【三六協定】
第6回　労働法の世界⑤～休業等の規制【年次有給休暇】
第7回　労働法の世界⑥～解雇に関する規制【解雇権濫用法理】
第8回　社会保障法の世界①～労災保険って？
第9回　社会保障法の世界②～業務災害【業務起因性】、通勤災害
第10回　社会保障法の世界③～労災を起こした使用者の責任【労災民訴】
第11回　社会保障法の世界④～雇用保険って？
第12回　社会保障法の世界⑤～基本手当①【受給要件】
第13回　社会保障法の世界⑥～基本手当②【給付内容】
第14回　労働法・社会保障法領域における近年の動向
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

対面授業の場合：期末試験…100％
遠隔授業（オンデマンド方式）の場合：コメントシート・ミニテスト等の提出・内容…50％、レポート又は試験…50％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意　/Remarks

この講義を受講した後、「雇用関係法」「労使関係法」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講すると、社会法領域の知識をまんべんなく修得できる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1（貧困をなくそう）、8（働きがいも経済成長も）、10（人や国の不平等をなくそう）及び16（平和と公平をすべての人に）の目標と関連しています。

キーワード　/Keywords

社会サービス法 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法	LAW242M

授業の概要　/Course Description

「社会サービス法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」の一部をなすものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、個々の制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、次世代育成戦略に伴う子ども子育て支援関連法や障害者総合支援法の制定、障害者分野と介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめぐっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

（到達目標）
【知識】　社会サービス法領域に関する知識を体系的に身につけている
【技能】　社会サービス法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている
【思考・判断・表現力】　社会サービス法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。レジュメは、Moodleで事前配布する。
ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を使用する（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じて講義中に適宜指示する。

社会サービス法 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。
第１回　イントロダクション～「社会サービス法」とは？
第２回　医療保険の保険関係（保険者・被保険者）
第３回　保険医療の仕組み①～保険医療機関と保険医
第４回　保険医療の仕組み②～保険医療関係における問題
第５回　医療保険の保険給付
第６回　医療保険の財政
第７回　高齢者の医療保障
第８回　医療供給体制に関する法制
第９回　社会福祉の法体系とその展開
第10回　社会福祉の給付方式
第11回　サービス利用の法律関係
第12回　福祉サービスの提供体制
第13回　権利擁護システム
第14回　不服申立制度
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する（期末試験…100％）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意　/Remarks

・「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
・応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた３年次以降に履修するとより理解しやすくなる。
・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1（貧困をなくそう）、3（すべての人に健康と福祉を）、10（人や国の不平等をなくそう）及び16（平和と公平をすべての人に）の目標と関連しています。

キーワード　/Keywords

所得保障法 【昼】

担当者名 /Instructor　津田　小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法	LAW243M

授業の概要　/Course Description

「所得保障法」に関する諸制度は、法分野としては「社会保障法」に属するものであるが、日本には、「社会保障法」という名称の単独立法は存在しない。そのため、これら各制度をどのように分類するかについての統一的な分類方法・基準はないのが現状である。
本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。
近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。
本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

（到達目標）
【知識】所得保障法領域に関する知識を体系的に身につけている
【技能】所得保障法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている
【思考・判断・表現力】所得保障法領域における課題に対し、法的思考に基つ゛いた判断を行うことか゛て゛きる

教科書　/Textbooks

テキストは使用せず配布レジュメで進行予定。
レジュメはMoodleを利用して事前配布する予定。
ただし、社会保障関連法が掲載されている六法を用意すること（初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じ講義中に適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。
第１回　イントロダクション～「所得保障法」とは？
第２回　公的年金保険の構造
第３回　公的年金保険の保険関係
第４回　公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）
第５回　公的年金保険の保険給付②（遺族給付）
第６回　公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）
第７回　公的年金保険の財政及び不服申立
第８回　公的年金制度と私的年金制度
第９回　我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原理①（生保1・2条）
第10回　生活保護制度の基本原理②（生保4条）
第11回　生活保護実施に関する４つの原則
第12回　保護の種類と方法
第13回　保護の実施機関とプロセス
第14回　不服申立制度
第15回　まとめ

所得保障法 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験…100％）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

（事前学習）　配布されたレジュメに目を通し、疑問点を抽出する。
（事後学習）　学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意　/Remarks

・「社会保障法」としての一体的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
・応用科目としての性格が非常に強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた3年次以降に履修するとより内容を理解することができると思われる。
・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1（貧困をなくそう）、10（人や国の不平等をなくそう）及び16（平和と公平をすべての人に）の目標と関連しています。

キーワード　/Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 /Instructor　岡本　舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法	LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、個々の労働者と使用者の関係を規律する法分野である個別的労働関係法を中心的に学びます。

本講義の目的は、個別的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。講義では、労働契約の成立、展開、終了という労働契約の展開過程に沿って重要論点を検討します。

（到達目標）
【知識】雇用関係法領域に関する知識を体系的に身につけている
【技能】雇用関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている
【思考・判断・表現力】雇用関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。
第1回　イントロダクション（労働法の役割）
第2回　労働法上の当事者
第3回　労働契約の成立
第4回　労働契約上の権利・義務
第5回　就業規則と労働契約
第6回　賃金
第7回　労働時間、休憩・休日と年次有給休暇
第8回　人事異動・配転・出向
第9回　労働契約の変更
第10回　休業・休職
第11回　安全衛生と労災補償
第12回　懲戒
第13回　労働契約の終了（解雇、退職とその他の法律関係）
第14回　雇用平等、労働者の自由と人権
第15回　非典型雇用（パート有期労働、派遣労働）

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・ 100％

雇用関係法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。
事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意　/Remarks

「社会法総論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1．貧困をなくそう」「3．すべての人に健康と福祉を」「5．ジェンダー平等を実現しよう」「8．働きがいも経済成長も」「10．人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 /Instructor　岡本　舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法	LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集団的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、労働組合と使用者の関係を規律する法分野である集団的労働関係法を中心的に学びます。

本講義の目的は、集団的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。

（到達目標）
【知識】労使関係法領域に関する知識を体系的に身につけている
【技能】労使関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている
【思考・判断・表現力】労使関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第6版）』（有斐閣・2019年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。
第1回　イントロダクション
第2回　労働基本権の保障
第3回　労働組合法上の主体
第4回　労働組合の組織と運営
第5回　団体交渉
第6回　労働協約①【労働協約の成立、労働協約と労働契約】
第7回　労働協約②【労働協約の更新と終了】
第8回　組合活動
第9回　争議行為①【争議行為の意義、正当性】
第10回　争議行為②【争議行為と賃金、正当性のない争議行為の責任、ロックアウト、争議行為と第三者】
第11回　不当労働行為①【不当労働行為制度の意義・目的、不利益取扱い】
第12回　不当労働行為②【正当な理由のない団交拒否、支配介入、複数組合並存下の問題】
第13回　不当労働行為③【救済】
第14回　紛争解決制度
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・ 100％

労使関係法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。
事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意　/Remarks

前期開講の「雇用関係法」を事前に履修しておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「8．働きがいも経済成長も」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

国際法I 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅰ	LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。
到達目標は、
【知識】国際法に関する知識を体系的に身につけている
【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
となります。
具体的には、
□国際法とは何を指すのか，慣習国際法の問題も含め，説明できる、
□国際法がどのように作られるのか，その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
□締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか，また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか，説明できる、
□国際法における任意規範と強行規範の議論を，条約の無効の問題も含め，説明できる、
□国際法への違反があった場合，どのような責任が発生するのか，紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか，力による解決は認められるのか，それらの課題も含め，説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年） 1500円＋税
Moodleにある講義レジュメ等は､各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」
第２回　条約の締結
第３回　条約への留保
第４回　条約の国内的効力と国内適用
第５回　ケーススタディ

第II部「特別法と一般法」
第６回　条約と第三国
第７回　慣習国際法の成立
第８回　慣習国際法の法典化
第９回　条約の無効

第III部「国際社会における秩序の維持」
第10回　国際責任の成立
第11回　国際責任の追及と解除
第12回　紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
第13回　自衛権
第14回　国際司法裁判所(ICJ)

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

予習（事前学習課題）、復習（事後学習課題）および学期末試験で評価します。
　　予習（事前学習）課題…16.5%　復習（事後学習）課題…21.5%　学期末試験…62.0%
なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。
アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。
詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意　/Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

４つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード　/Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】、【SDGs_Goal 16】

国際法II 【昼】

担当者名 /Instructor　二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ	LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。
国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利･義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。
到達目標は、
【知識】国際法に関する知識を体系的に身につけている
【技能】国際法を解釈･適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考･判断･表現力】国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
となります。
具体的には、
□国家システム(state system）の現状と課題を把握し，説明できる、
□国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し，説明できる、
□国益，共通利益，国際社会の公益について，自らの問題として，積極的に考えることができる、
□国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し，説明できる、
□個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか，その主体性について説明できる、
□領域に対する国家の権限を正しく理解し，説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣･ 2010）　2800円+税
位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂，2015年）　1500円＋税
学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は､各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」
第２回　国家と国家承認
第３回　政府承認
第４回　国家の基本的権利
第５回　国家の基本的義務

第II部「国際法主体としての個人」
第６回　人権の国際的保障：枠組み・基準設定
第７回　人権の国際的保障：監視・技術支援
第８回　国際犯罪
第９回　国際刑事裁判所(ICC)

第III部「陸・海・空と国際法」
第10回　陸と国際法：領土取得の権原
第11回　陸と国際法：領域主権
第12回　海と国際法：海上交通
第13回　海と国際法：海洋資源
第14回　空と国際法

第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

予習（事前学習）課題、復習（事後学習）課題、学期末試験で評価します。
予習（事前学習）課題…16.5%　復習（事後学習）課題…21.5%　学期末試験…62.0%
なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。
アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。
詳細は北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意　/Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

５つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system）の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能･役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード　/Keywords

【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】【SDGs_Goal16】

民法総則 【昼】

担当者名 /Instructor　丸山　愛博 / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　2学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則	LAW160M

授業の概要　/Course Description

民法は、日常生活の法といわれることがあります。つまり、日常生活に関わる法律であると。もっとも、日常生活と一口に言っても、そこでは様々なことが行われています。ですから、民法は、具体的にどの部分に関わるのかが疑問に感じられるでしょう。この点について、民法は①家族関係、②財産、③契約に関係するとされています。なんだか漠然とした答えですが、民法は広く日常生活に関係しているというイメージを持って頂ければそれで十分です。

このように広い対象を規律する法律が民法ですから、その条文の数はかなり多く（1050条！）、それゆえに5つの大きなまとまり（「編」という）に分けられています。その第一編が「総則」であり、「総則」には、続く第二編「物権」と第三編「債権」とに共通するルールが定めてあります。この「総則」（1条～169条）がこの講義で扱う範囲となります。
この講義では、民法典の全体像をしっかりと把握した上で、民法総則が扱っているルールを正確に理解し、基本的な法解釈ができるようになることを目的とします。願わくは、解釈の面白さに目覚めて欲しいと思います。

（到達目標）
【知識】民法学の民法総則に関する知識を体系的に身につけている
【技能】民法学の民法総則に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現】民法学の民法総則に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

佐久間毅ほか『民法I総則（第2版補訂版）』（有斐閣リーガルクエスト、2020年）2600円＋税
適宜レジュメも配布します

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

佐久間毅『民法の基礎1総則（第5版）』（有斐閣、2020年）3100円＋税
○潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権（第8版）』（有斐閣、2018年）2200円＋税
○大村敦志＝道垣内弘人編『解説民法（債権法）改正のポイント』（有斐閣、2017年）3200円＋税
○山野目章夫『民法概論1民法総則』（有斐閣、2017年）3200円＋税
○山本敬三『民法講義I総則（第3版）』（有斐閣、2011年）4500円＋税

民法総則 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス、民法の意義
第2回民法の基本原則、民法総則とは
第3回人①（権利能力、意思能力）
第4回人②（行為能力、未成年者）
第5回人③（成年後見制度、任意後見）
第6回人④（住所、不在者、失踪宣告）
第7回法人①（法人総論）
第8回法人②（法人の対外関係、権利能力なき社団）
第9回物
第10回法律行為①（定義、意義）
第11回法律行為②（成立、解釈）
第12回法律行為③（法律行為の有効性判断）
第13回意思表示①（意思表示の構造、心裡留保）
第14回意思表示②（通謀虚偽表示）
第15回意思表示③（錯誤）
第16回意思表示④（詐欺・強迫による意思表示、消費者契約法）
第17回代理①（代理総論、成立要件）
第18回代理②（無権代理）
第19回代理③（無権代理人の責任、無権代理と相続）
第20回代理④（代理権授与表示による表見代理）
第21回代理⑤（権限外行為の表見代理）
第22回代理⑥（代理権消滅後の表見代理）
第23回無効・取消し
第24回条件・期限、期間
第25回時効①（時効総論、正当化根拠）
第26回時効②（取得時効）
第27回時効③（消滅時効）
第28回時効④（時効の完成猶予・更新）
第29回時効⑤（時効の援用、時効利益の放棄）
第30回民法改正について（債権法改正、成人年齢引下げ）

成績評価の方法　/Assessment Method

定期試験100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前に教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
事後には、論点を中心に、とりわけ、判例の理論構成に注意して講義ノートを作成してください。

履修上の注意　/Remarks

講義には、六法と教科書を毎回持参してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

上で述べたように、総則には、物権編と債権編に共通するルールが定められていることから抽象度が高いために、初学者には難しく感じられるかもしれません。具体例を多く取り上げるなどの工夫をして講義を進めますので、辛抱強くコツコツと学習に取り組んでください。

キーワード　/Keywords

民法総則、権利の主体、法律行為、意思表示、代理、時効

物権法 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法	LAW260M

授業の概要　/Course Description

この授業では，民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち，「担保物権法」の授業で取り扱う内容を除いた部分について講義を行う。全15回の講義を通して，物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが，この授業の目的である。

（到達目標）
【知識】民法学の物権法に関する知識を体系的に身につけている
【技能】民法学の物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】民法学の物権法に関する課題を発見し，法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

淡路剛久ほか『民法II –物権〔第4版補訂〕』（有斐閣S シリーズ，令和元年）　本体1,900円 + 税
このほか，Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I　総則・物権〔第8版〕』（有斐閣，平成30年）　本体2,200円 + 税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
第2回　序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
第3回　物権的請求権，物権の変動
第4回　不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
第5回　不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
第6回　不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
第7回　動産物権変動における公示
第8回　動産物権変動における公示（続き），立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
第9回　占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
第10回　占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
第11回　所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
第12回　所有権(2)【共有，建物の区分所有】
第13回　地上権，永小作権
第14回　地役権
第15回　入会権，まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…10%，期末レポート…90%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

物権法 【昼】

履修上の注意　/Remarks

民法入門・民法総則を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず，メール等を利用して積極的に質問して欲しい。
また，新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに，SDGsの「つくる責任　つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして，この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード　/Keywords

民法　物権

担保物権法 【昼】

担当者名 /Instructor　清水　裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	担保物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	担保物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、担保物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

担保物権法	LAW261M

授業の概要　/Course Description

この授業では，民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）に規定されている担保物権（典型担保）及び民法典に規定がない担保物権（非典型担保）について講義を行う。全15回の講義を通して，担保物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが，この授業の目的である。

（到達目標）
【知識】民法学の担保物権法に関する知識を体系的に身につけている
【技能】民法学の担保物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】民法学の担保物権法に関する課題を発見し，法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

淡路剛久ほか『民法II –物権〔第4版補訂〕』（有斐閣S シリーズ，令和元年）　本体1,900円＋税
このほか，Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

近江幸治『民法講義III　担保物権〔第2版補訂〕』（成文堂，平成19年）　本体3,300円＋税　○
道垣内弘人『担保物権法　第4版』（有斐閣，平成29年）　本体3,200円＋税　○
潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I　総則・物権〔第8版〕』（有斐閣，平成30年）　本体2,200円＋税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス，担保物権とは何か？
第2回　留置権
第3回　先取特権
第4回　質権
第5回　抵当権(1)【抵当権の意義，設定，被担保債権・目的物の範囲】
第6回　抵当権(2)【物上代位】
第7回　抵当権(3)【抵当権の実行】
第8回　抵当権(4)【第三取得者の保護，抵当権の侵害】
第9回　抵当権(5)【抵当権の処分，消滅，共同抵当】
第10回　抵当権(6)【法定地上権】
第11回　抵当権(7)【根抵当権】
第12回　非典型担保とは何か？，譲渡担保(1)【譲渡担保の意義】
第13回　譲渡担保(2)【譲渡担保権の設定，効力】
第14回　譲渡担保(3)【譲渡担保権の実行，消滅】，所有権留保
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み…10%，期末レポート…90%

担保物権法 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

履修上の注意　/Remarks

物権法を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように，受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず，メール等を利用して積極的に質問して欲しい。
また，新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに，SDGsの「つくる責任　つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして，この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード　/Keywords

民法　担保物権

債権総論 【昼】

担当者名 /Instructor　矢澤　久純 / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	債権総論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	債権総論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権総論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権総論	LAW263M

授業の概要　/Course Description

私たちの生活においては、常に何らかの債権が発生している（例えば、スーパーで買い物をした場合など）。この講義では、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分について講じる。債権総論分野の諸問題・諸課題について学習することで、法的な分析や論理的思考に基づいて解決方法を提示することができるようにならねばならない。また、債権総論分野の諸問題を学習することで、民法と（現代）社会とのつながりも再確認できるはずである。
２１世紀に入って、債権法の改正が民法学専門家の間で話題となっていたところ、２０１７（平成２９）年５月に、ついに改正法が成立し、２０２０年４月１日より施行されている。これは、１２０年に一度と言われるほどの大改正である。従って、この新民法（債権法）を学ばないわけにはいかないのであるが、他方で、大改正後の現行民法を知るためには、大改正前の民法及び判例について一定の知識が必要であることも事実である。そこで、大改正前民法にもきちんと触れながら、現行民法について考えてゆきたい。

到達目標
【知識】民法学の債権総論に関する知識を体系的に身につけている
【技能】民法学の債権総論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
【思考・判断・表現力】民法学の債権総論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、ない。
しかし、学習上、有意義な書籍については、開講時に紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『有斐閣Ｓシリーズ　民法III　債権総論　第４版』、有斐閣、２０１８年５月、本体価１，９００円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回 (週)　１，ガイダンス、民法典債権編の概観、２，債権とは何か（物権との違い）
２回 (週)　３，債権に基づく妨害排除請求の可否、４，債務と責任
３回 (週)　５，種類債権、６，利息債権
４回 (週)　７，履行の強制、８，債務不履行（履行遅滞）
５回 (週)　９，債務不履行（履行不能）、１０，債務不履行（不完全履行）、安全配慮義務等
６回 (週)　１１，債務不履行の現代的問題（履行拒絶、説明義務違反等）、１２，損害賠償の範囲
７回 (週)　１３，損害賠償の調整、１４，受領遅滞
８回 (週)　１５，債権者代位権、１６，債権者代位権の転用
９回 (週)　１７，詐害行為取消権の法的性質・要件、１８，その効果
１０回 (週)　１９，債権の消滅一般、弁済、２０，債権の準占有者に対する弁済
１１回 (週)　２１，相殺の要件、２２，差押えと相殺
１２回 (週)　２３，債権の譲渡性、２４，債権譲渡の対抗要件
１３回 (週)　２５，異議を留めない承諾、２６，多数当事者の債権関係
１４回 (週)　２７，連帯債務、２８，保証債務
１５回 (週)　２９，債権法改正のその他の議論、３０，まとめ

債権総論 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

持ち込み一切不可の定期試験（６０分）.....１００％　の予定であるが、新型コロナウイルス問題の終息が見えてこない状況にあるため、現時点で確定的なことは何も言えない。確定次第、Moodle上で、必ず通知するので、それをきちんと見ること。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書（債権総論の本であれば、何でも良い）の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れられた点についての復習を心がけることをお勧めする。重点的に復習すべき箇所は、毎回の講義で示す。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習２０分、復習７０分である。

履修上の注意　/Remarks

SDGsの観点から、俗に言うレジュメ等は、一切、配布しない。板書もしないので、とにかく自分で、ノートや教科書に担当者が話したことを書くべきである。「民法総則」及び「物権法」が履修済である方が、理解しやすい。また、「債権各論1及び２」、「担保物権法」、家族法（親族・相続）も併せて学習することを勧める。
受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。
この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

上記

キーワード　/Keywords

債権、債権法改正、民法改正

人間環境地理学 【昼】

担当者名 /Instructor　野井　英明 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人間と自然との関係の基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と自然との関係に内在する諸問題を的確に捉え、学際的、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人間と自然との関係に問題意識を持ち主体的に学習できる。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人間環境地理学	ENV240M

授業の概要　/Course Description

環境問題の原因は、人間の自然への誤った関わり方にあると考えられています。そのため、環境問題の正しい理解には、まず、人間と自然の関わりについて考えることが必要です。人間と自然の関わりには様々なものがありますが、この授業では、「自然の猛威」を通じて人間と自然の関わりについて考えます。同時に、自然の猛威がもたらす災害と防災・減災についても考えます。ここ数年、地球温暖化によって様々な自然の猛威の脅威が特に高まっています。私たち人間が、自然そのものを改変していっていることを考える必要があります。

私たちは、豊かで穏やかな自然を安息と感じ、荒れ狂う自然を猛威と感じますが、穏やかな自然も荒れ狂う自然も共に自然の営みです。私たちはそのような自然の営みの中で、生活していることも、想像してみましょう。

この授業の目標は、以下の通りです。
人間と自然の関係の基礎的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身につける。
人間と自然の関係に問題意識を持ち、主体的に学習できる。

（到達目標）
【知識】自然と人間の関わりに関する専門的な知識を体系的かつ総合的に理解している。

教科書　/Textbooks

ありません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○志岐常正著「災害と防災」本の泉社
○高橋和雄編著「災害伝承：命を守る地域の知恵」古今書院

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　自然の中の私たち　【自然の猛威が私たちの住む場所を作っている】
２回　自然の猛威とはなにか　【人間の環境としての自然の猛威】
３回　自然の猛威の分類　【自然の猛威にはどのようなものがあるか】
４回　地球上の自然の猛威の概要１　【プレートテクトニクス】
５回　地球上の自然の猛威の概要２　【地震と火山噴火】
６回　地球上の自然の猛威の概要３　【気象災害】
７回　生物災害と疫病　【疫病は歴史的に激しい恐怖と社会の混乱をもたらした。それは現代も変わらない。】
８回　干ばつと砂漠化　【地球上で最も被害が大きい災害の一つは干ばつである】
９回　日本は災害の国　【日本列島では様々な自然の猛威が繰り返しやってくる】
10回　島原大変　【噴火・地震・崩壊・津波が複合した日本列島の宿命のような歴史災害】
11回　火山の巨大噴火　【巨大噴火は非常に大きな被害をもたらす破局的な噴火である】
12回　火山の噴火と気候変動　【火山噴火は気候変動に関わっている】
13回　火山噴火の文明への影響　【火山噴火は人間に歴史上大きな影響を与えた】
14回　巨大地震と津波　【東日本大震災のような巨大地震は繰り返し発生する】
15回　まとめ【自然を正しく理解し、うまく付き合っていく必要がある】

人間環境地理学 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

試験…　90%　　小レポートまたは小テスト…　10%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

自然の猛威に関するテレビ番組、ウエブ情報、新聞記事、書籍などが、ここ数年特に多く発信されています。事前にそれらの情報を見たり読んだりしておきましょう。授業後はノートを整理し、配付されたプリントを再度よく読んで、将来的に使える形で整理しておきましょう。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

自然の猛威　地震　プレートテクトニクス　火山噴火　疫病　災害　防災　減災　自然との共生

生態人類学 【昼】

担当者名 /Instructor　竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	さまざまな事例をもとに人間の本質についての理解を深める。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間の普遍的な特性から諸社会問題を考察する。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身体と自然という内と外の環境の相互行為を理解し、人間の社会や文化を考える。
	コミュニケーション力		

※人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

生態人類学	ANT210M

授業の概要 /Course Description

人間の多様性について幅広く考えることで、他者の価値観を理解しよう。キーワードは差異と共感。

人間の文化の多様性はどこから生まれてくるのだろうか。この授業では人類学と生態学の知識を援用しながら､多様な環境における人類の適応と社会システムについて考察を進める。

たとえばテーマの一つとして取り上げるのは人間の「食」である。人は食べ物を手に入れるためにどんな行動をおこなってきたのか、視覚や味覚に関する認知能力の進化、そして多様な食文化の基本にあるもの。味覚を攪乱させる現代社会の添加物や化学物質。食に興味がある人おいしいものが好きな人はどうぞ。

フィールドワークの感覚を身につけるために、ドキュメンタリー映像をみて、そこから問題提起をします。
次にその問題について資料を集めてきてもらいます。これらの資料をもとにディスカッションを行います。

この授業の主な到達目標は、人間関係に関する専門的知識の習得のみならず、自分から課題を発見し実践の中でそれを考えることができるようになることです。ほかの人と考えを交換する討論も楽しみましょう。
（到達目標）
【知識】
人間と自然の関わりを理解し、文化や社会と環境との関係を総合的に理解できる。
【思考・判断・表現力】
講義の中でおこなわれる議論に参加し適切に発言することができる。

教科書 /Textbooks

講義中にみるドキュメンタリー映像
「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 ＮＨＫスペシャルほか。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

以下はほんの一部である
○「生態人類学を学ぶ人のために」秋道 智彌、市川 光雄、大塚 柳太郎 (編) 世界思想社
○「イブの７人の娘たち」ブライアン・ サイクス (ヴィレッジブックス)
○「ヒューマン なぜヒトは人間になれたのか」 ＮＨＫスペシャル取材班
○「人間らしさとはなにか？　人間のユニ - クさを明かす科学の最前線」マイケル・ S. ガザニガ : インターシフト
○「共感の時代へ　動物行動学が教えてくれること」フランス・ ドゥ・ ヴァール : 紀伊國屋書店

生態人類学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

人類学に関係のふかい人間の営みに関する研究について、受講者の興味に応じて「食」「性」「死」「遊び」「宗教」のような感じで、おおよそ３回くらいひとつの単元にして討論をおこなう。討論の深度によって、日程は柔軟に変更する。
第１講　課題のテーマと講義の概要。受講者の分担決め
第２講　課題１の問題提起
第３講　課題１のプレゼンテーション
第４講　課題１のディスカッション
第５講　課題２の問題提起
第６講　課題２のプレゼンテーション
第７講　課題２のディスカッション
第８講　課題３の問題提起
第９講　課題３のプレゼンテーション
第10講　課題３のディスカッション
第11講　課題４の問題提起
第12講　課題４のプレゼンテーション
第13講　課題４のディスカッション
第14講　総論
第15講　最終討論

成績評価の方法　/Assessment Method

発表とディスカッションをもとにしたピア評価　１００％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

提示されたテーマに関して資料をあたりまとめてきてください。毎回講義の前後にイメージトレーニングし、自分なりに議論の進め方を改善してみましょう。

履修上の注意　/Remarks

ほかの人の意見をきき、理解し、自分の意見を発言できること。それは思考をすすめるとてもよい経験になります。難しい事はありません新しい考えが生まれてくる現場を楽みながら参加して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

いろいろな意見を交わすことは楽しい。その過程を通して人間とは何かを考え、多様な他者の価値観を理解することも人間関係学科でこの講義をおこなう重要な理由です。

キーワード　/Keywords

フィールドワーク
人類学
環境
他者理解

日本の歴史と社会 【昼】

担当者名 /Instructor　八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	教科書の限界を踏まえて新しい視点から江戸時代という時代を見ることができる。
技能	専門分野のスキル	●	研究史の論点を理解する技能を育て、史料の主観性を批判する「規範」と「実態」という複眼的視野から歴史的事実を認識できる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	与えられた文章の表面的な理解にとどまらず「行間」を読むことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	身の回りの事象を常に歴史的背景と因果関係という歴史の視点から考察することができる。
	コミュニケーション力		

※比較文化学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本の歴史と社会	HIS210M

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。
江戸時代は２６０年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。１８世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半では一つの時代とはいえないほど大きく社会と経済が変化をしています。
また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違っています。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。
ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

（到達目標）
【知識】近世史の論点に関する専門的な知識を体系的かつ 総合的に身につけている。
【技能】歴史の実証に必要な情報を収集、分析することがで きる。
【思考・ 判断・ 表現力】近世史の論点について、論理的に思考して解決策を 探求し、専門的見地から自分の考えやを論理的に 表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○脇田晴子編『日本女性史３　近世』（吉川弘文館１９８２年）
○近世女性史研究会編『論集近世女性史』（吉川弘文館１９８６年）
○脇田晴子編『ジェンダーの日本史　下』（東京大学出版会１９９５年）
○高木侃『三下り半–江戸時代の離婚と女性たち—』（平凡社１９８７年）
○高木侃『三下り半と縁切寺』（講談社現代新書１９９２年）
○網野善彦『無縁・公界・楽』（平凡社１９７８年）
山本英二『慶安の触書は出されたか』（山川出版社日本史リブレット）他

日本の歴史と社会 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

（【　】内はキーワード）
1回　ガイダンス
2回　【近世】という時代
3回　【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
4回　【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
5回　【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
6回　『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
7回　『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
8回　【好色物】と女性の社会進出
9回　【縁切寺】の歴史
10回　【慶安御触書】を読み直す①荘園制と太閤検地
11回　【慶安御触書】を読み直す②幕藩領主財政と幕政・藩政の改革
12回　【慶安御触書】を読み直す③榎本宗次説
13回　【慶安御触書】を読み直す④「百姓身持書」と丸山雍成説
14回　【慶安御触書】を読み直す⑤神崎直美・木崎弘美論争
15回　【慶安御触書】を読み直す⑥山本英二説

成績評価の方法　/Assessment Method

授業レポート…50%　筆記試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意　/Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

Advanced English I 【昼】

担当者名 /Instructor　デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English I	ENG353M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into topic-focused stages and a final group discussion. The first stage of each topic is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second stage, or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-stage classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書　/Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)
Supplementary materials to be provided by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction
2.Philosophy/political theory: Assignment of topics
3.Philosophy/political theory: Textual/source study
4.Philosophy/political theory: Preparing points for discussion
5.Philosophy/political theory: Argumentation and Debate
6.International relations: Assignment of topics
7.International relations: Textual/source study
8.International relations: Preparing points for discussion
9.International relations: Argumentation and Debate
10.Social, moral, and religious issues: Assignment of topics
11.Social, moral, and religious issues: Textual/source study
12.Social, moral, and religious issues: Preparing points for discussion
13.Social, moral, and religious issues: Argumentation and Debate
14.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations A
15.Closing Discussion: Student-Selected Topic Presentations B

Advanced English I 【昼】

成績評価の方法　/Assessment Method

Two 500-word written assignments (40%) Presentation and Participation (60%)

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

For class preparation students should read all assigned materials before meetings. For review students should apply the results of class discussions to their individual topics.

履修上の注意　/Remarks

All instruction and student work will be in English.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

Regular attendance is mandatory and active participation is expected.

キーワード　/Keywords

Advanced English II 【昼】

担当者名 /Instructor　デニス・ジョーンズ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　4年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　4 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
	英語力	●	英語圏の人達と正確にコミュニケーションを行うことができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報や知識を駆使し、諸問題の解決策を探求することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	英語を駆使して、異文化に積極的に関わっていく態度を身につける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	英語や異文化を生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

Advanced English Ⅱ	ENG354M

授業の概要　/Course Description

The central aim of this course is to provide students with a structured forum in which to use the English language efficiently and with clear direction, whilst broadening each individual's active vocabulary bank and honing argumentation skills. The course is divided into seven topic focused two-class stages and a final group discussion. The first section of each of the two-part stages is spent in building vocabulary, forming ideas, comprehending concepts and developing arguments. Following a week of language preparation and idea forming, the second section,or argumentation and debate section, takes place. During these argumentation and debate classes (second-section classes) students will be required to introduce relevant concepts, present logical and informed opinions, present data/evidence to support their opinions and react with logic-driven support or opposition to the arguments of their peers.

教科書　/Textbooks

Debbie Newman and Ben Woolgar, eds., Pros and Cons: A Debater's Handbook, 19th edition (Routledge, 2014)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

Students will be expected to find and use appropriate library resources when preparing for argumentation and debate classes.

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1.Introduction + The Banning of Boxing (Textual/Source Study)
2.The Banning of Boxing (Argumentation and Debate)
3.The Censorship of Music Lyrics (Textual/Source Study)
4.The Censorship of Music Lyrics (Argumentation and Debate)
5.The Banning of Size Zero Models (Textual/Source Study)
6.The Banning of Size Zero Models (Argumentation and Debate)
7.The Abolition of Zoos (Textual/Source Study)
8.The Abolition of Zoos (Argumentation and Debate)
9.Capital Punishment (Textual/Source Study)
10.Capital Punishment (Argumentation and Debate)
11.The Banning of Cosmetic Surgery (Textual/Source Study)
12.The Banning of Cosmetic Surgery (Argumentation and Debate)
13.The Arming of the Police (Textual/Source Study)
14.The Arming of the Police (Argumentation and Debate)
15.Closing Discussion:

成績評価の方法　/Assessment Method

2 X 500-word written assignments: 40%; Debate preparation and debate performance: 60%

Advanced English II 【昼】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Students will be expected to prepare vocabulary and ideas for debate/discussion on a regular basis.

履修上の注意　/Remarks

Short sections of the textbook, and supplementary material, will be assigned on a weekly basis as pre-class preparatory reading.

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教職論 【昼】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、４年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

到達目標　　教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
３．教員に求められる資質　その１　共感的理解と対話力
４．今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師　森恵美先生)
５．教員に求められる資質その２　生徒指導と学級経営(学級づくり)　-　実践報告を手がかりに
６．教員に求められる資質その３　教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
７．チーム学校と専門職との連携　その１「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
８．チーム学校と専門職との連携　その２　被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
９．教員に求められる資質その４　特別活動と学級づくり (本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題　その１　セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12．現代社会における学校教育の課題　その２　部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題　その３　「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み (本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業内で実施するミニレポート等)　５０点、レポート試験５０点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

教職論 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【昼】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標
教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に 身につけている。
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

1回 イントロダクション：教育とは何か
2回 教育の関係 ：教育のモデル・ 家族・ 学校
3回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
4回 発達課題と教育支援：思春期・ 青年期
5回 教育思想① ：諸外国の教育思想
6回 教育思想②：日本の教育思想
7回 教育史①：西洋の教育史
8回 教育史②：日本の教育史
9回 学ぶ意欲と教育指導
10回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
12回 メディアと教育：メディアと子ども・ 教材・ 方法
13回 国際化と教育：言語・ 文化
14回 仕事と教育：進路形成
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題 (試験) 70%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・ 関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ·資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor	税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	1学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

（到達目標）
【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2750

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

文部科学省（2011）「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
第２回　胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
第３回　乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
第４回　赤ちゃんのもつ能力と生後１年間の変化について
第５回　乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
第６回　愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
第７回　愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
第８回　まとめ　と　レポート課題1
第９回　乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
第10回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
第11回　児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
第12回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第13回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第14回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第15回　まとめ　と　レポート課題2

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　20%　　レポート課題　…　80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	2学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標
教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合 的に身につけている。
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　教育課程の基本原理（1）カリキュラムとは
第 2回　教育課程の基本原理（2）カリキュラムの類型
第 3回　教育課程の変遷と学習指導要領
第 4回　学力と教育課程（1）教育課程設計の前提となる「力」
第 5回　学力と教育課程（2）学習状況調査の影響
第 6回　諸外国の教育課程
第 7回　教育課程の編成（1）教科教育
第 8回　教育課程の編成（2）教科外教育
第 9回　学習環境のデザイン
第10回　教育課程の評価
第11回　教育課程の開発
第12回　カリキュラム・マネジメントと学校改善
第13回　今日的課題と教育課程（1）異文化理解
第14回　今日的課題と教育課程（2）ESD
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本授業では、社会科を担当する教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説する。

到達目標
・学習指導要領に基づき、社会科の教員に必要な基本的知識や資質について理解している。
・社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得している。
・教師としての使命感について理解している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科の理論と実践』学文社
・他に、授業で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　教育の目的と社会科の役割
第２回：社会科の目標と内容・社会科教師としての資質・能力について
第３回：学習指導要領の変遷　新しい学習指導要領について
第４回：地理的分野の目標と内容
第５回：歴史的分野の目標と内容
第６回：公民的分野の目標と内容
第７回：社会科の授業づくり　教材研究
第８回：社会科の授業づくり　地図帳・地理の学習について
第９回：社会科の授業づくり　教科書の変遷や内容の取り扱いについて
第10回：社会科の授業づくり 実生活との関連や法と政治について
第11回：社会科の授業づくり　授業研究・授業記録・実践紹介
第12回：社会科の授業づくり　評価論とPDCAサイクル　指導案の作成
第13回：学習指導案の作成と実践　指導観・教材観・生徒観　模擬授業（１）
第14回：学習指導案の作成と実践　授業計画　模擬授業（２）
第15回：まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループ発表や質疑などへの参加）・・・３０％
最終試験・課題レポート・・・４０％
学習指導案作成・・・３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
　　グループワーク・発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）

事後学習：学習指導要領に関する理解の確認、講義後に指示を行う

社会科教育法Ａ 【昼】

履修上の注意　/Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所・資料を読んでおくこと。

授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は、3分の2以上している事が定期試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　吉村　義則 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本講義は、社会科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
（１）学習指導要領に基づき、現在の社会科教育の位置づけを理解する。
（２）教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
（３）地理的分野、歴史的分野、公民的分野の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。（４）コミュニケーション能力の育成に重点をおき、模擬授業を行う。
上記の点から、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、最終的には「自発的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、毎時、解説を行う。

◎到達目標
・学習指導要領に基づき、社会科の教員に必要な知識や資質について十分に理解している。
・社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科の授業を行っていく上で求められる知見を修得している。
・中等教育における社会科、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に考えていくことができる。
・教師としての使命感を自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　イントロダクション
第　２回　学習指導要領における社会科の位置付け
第　３回　教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
第　４回　指導案作成上の留意点
第　５回　指導案作成と教材研究・教材開発
第　６回　資料活用法、オリジナル教材の作成
第　７回　社会科におけるアクティブラーニング
第　８回　模擬授業（地理的分野①）
第　９回　模擬授業（地理的分野②）
第１０回　模擬授業（歴史的分野①）
第１１回　模擬授業（歴史的分野②）
第１２回　模擬授業（公民的分野①）
第１３回　模擬授業（公民的分野②）
第１４回　模擬授業（授業研究と評価）
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

◎授業への参加・貢献度（意見発表・質疑等）　70%
◎模擬授業の際に提出する指導案　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意　/Remarks

◎授業後に感想用紙を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

社会科教育法Ｂ 【昼】

キーワード　/Keywords

公民科教育法Ａ 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

〈到達目標〉
・公民科教育の位置づけや他社会科科目との関連に関する理論と実践に関する基礎的な知識を有している。
・現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげることの意義と課題について理解している。
・公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割について理解している。
・学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる当該教科の実践指導のあり方を習得している。
・教授活動に必要とされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていくことができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

・「高等学校学習指導要領解説　公民編」文部科学省（平成30年告示）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司　編　『中等社会科の理論と実践』　学文社　2007
・東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会　編　『新科目「公共」「公共の扉」をひらく授業事例集』清水書院　2018
・他に授業で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　教育の目的と公民科の扱い
第２回：学習指導要領と改訂のポイント
第３回：公民科授業の構成　年間計画と単元計画
第４回：公民科科目の取り扱いと内容　公共（現代社会）
第５回：公民科科目の取り扱いと内容　倫理
第６回：公民科科目の取り扱いと内容　政治経済
第７回：公民科科目における持続可能な開発のための教育
第８回：公民科の授業づくり　教材研究・教材活用・グループワークについて
第９回：公民科の授業づくり　学習評価と授業評価・生徒観について
第１０回：公民科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む（１）実践と省察
第１１回：公民科の授業づくり　授業研究・授業記録を読む（２）主体的・対話的で深い学びについて
第１２回：単元計画と学習指導案１　指導案の作成と留意点
第１３回：単元計画と学習指導案２　年間計画と指導案作成
第１４回：授業指導案作成
第１５回：授業指導案作成・社会科教師に求められる資質・能力
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・３０％
最終試験・・・３０％
学習指導案作成　・・・４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習　学習指導要領解説を読み込んでおく

事後学習　講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意　/Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
出席は10回以上している事が単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

公民科教育法Ａ 【昼】

キーワード　/Keywords

公民科教育法Ｂ 【昼】

担当者名 /Instructor　吉村　義則 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。
（１）学習指導要領に基づき、現在の公民科教育の位置づけを理解する。
（２）教育方法、教材研究、資料活用、学習指導案作成など、授業実践に必要な技能を習得する。
（３）政治経済・倫理の教科指導において、現場の事例を取り上げつつ、実践課題を検討する。
（４）能動的・主体的な学びの育成に重点を置き、模擬授業を行う。
　上記の点から、実践的な技能及び授業改善の視点を習得し、最終的には「能動的・主体的な学びの意識」を開発する教員を目指す。また、教育を取り巻く環境の変化や教育全般の動向を踏まえ、解説を行う。

◎到達目標
・公民科教育の位置づけや他社会科科目との関連に関する理論と実践に関する発展的な能力を有している。
・現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材を開発することができる。
・公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割を踏まえて学習指導案を作成することができる。
・学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる公民科教育の実践指導のあり方を習得している。
・教授活動に必要とされる具体的な技能や方法を十分に踏まえた授業を展開できる。

　なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

授業の際に配布するレジュメ・資料等
「高等学校学習指導要領解説 公民編」（文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第　１回　イントロダクション
第　２回　新学習指導要領における公民科の位置づけ
第　３回　社会科学的手法について
第　４回　シティズンシップと公民科教育
第　５回　授業実践及びICT活用による教科指導について
第　６回　学習指導案作成上の留意点
第　７回　学習指導案の作成
第　８回　模擬授業（参加型授業の展開）
第　９回　模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
第１０回　模擬授業（現代社会の諸問題）
第１１回　模擬授業（政治・経済・法）
第１２回　模擬授業（現代の諸課題と倫理）
第１３回　模擬授業（社会参加の授業理論）
第１４回　模擬授業（主権者教育）
第１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

◎授業への参加・貢献度（出席・意見発表・質疑等）　70%
◎模擬授業の際に提出する指導案　30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

◎授業の前に指示されたテキストの該当箇所を読んでおくこと。
◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意　/Remarks

◎授業後に感想用紙を提出してもらうため、積極的な授業参加が望まれる。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

公民科教育法Ｂ 【昼】

キーワード　/Keywords

道徳教育指導論 【昼】

担当者名 /Instructor　舩原　将太 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとしたい。
本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション、道徳とは何か
第２回：社会における「正しさの基準」について
第３回：道徳教育の変遷①ー戦前
第４回：道徳教育の変遷②ー戦後
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
第８回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
第９回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
第10回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
第12回：道徳教育の教材研究①
第13回：道徳教育の教材研究②
第14回：指導案作成
第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案：50％
コメントシート：20％
小テスト：30％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育方法学 【昼】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標
【知識】これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

教科書　/Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019　有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領（平成29年3月告示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（平成30年告示　文部科学省）
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション
第２回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
第３回：日本における教育改革と教育方法の歴史
第４回：現代教育方法学の論点と課題
第５回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
第６回：「学力」について考える・学力とは何か
第７回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
第８回：教育の道具・素材・環境を考える
第９回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
第１０回：教科外活動を構想する
第１１回：授業研究・授業をいかに捉えるか
第１２回：総合的な学習の意義と課題
第１３回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
第１４回：教師の専門性・専門職性
第１５回：まとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）（３０％）
発表・レジュメ作成（２０％）
定期試験・課題レポート（５０％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意　/Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。
能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

教育方法学 【昼】

キーワード　/Keywords

教育相談 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。
また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

＜到達目標＞
【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。
【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類ー２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

虐待　いじめ　悲しみから希望へ　楠凡之（著）　高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

生徒指導提要　文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談　津川律子、山口義枝、北村世都（著）　弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック　前川あさみ（編著）　金子書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
第２回：学校における教育相談の現代的意義と課題
第３回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
第４回：子どもの問題行動の意味（子ども理解を含む）
第５回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
第６回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
第７回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
第８回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
第９回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネージメント等）
第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
第15回：本講義全体のまとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート　40%
最終試験　60%
（出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90 分）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

教育相談 【昼】

キーワード　/Keywords
教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育心理学 【昼】

担当者名 /Instructor　山下　智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

＜到達目標＞
【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類ー２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版　鎌原 雅彦 (著), 竹綱 誠一郎 (著)　有斐閣

教育心理学 【昼】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。

第２回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。

第３回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。

第４回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。

第５回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。

第６回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。

第７回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。

第８回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。

第９回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。

第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。

第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。

第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達的変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。

第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。

第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。

第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・ ４０％
最終試験・・・ ６０％

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90 分）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード　/Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導 【昼】

担当者名 /Instructor　税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

（到達目標）
【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書　/Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：障害児の心理と指導について
第２回　障害の概念とノーマライゼーション
第３回　人々の障害者観：障害をどう捉えるか
第４回　障害の重積・深化の過程と発達援助
第５回　視覚障害について
第６回　聴覚障害について
第７回　知覚障害の理解と支援
第８回　まとめ・レポート課題1
第９回　姿勢・運動の障害について
第10回　知的障害について
第11回　障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
第12回　発達障害について①【自閉スペクトラム症】
第13回　発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
第14回　家族支援・地域支援について
第15回　まとめ・レポート課題2

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点（小レポート含む）　…　20%　　レポート課題　…　80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくること。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育社会学 【昼】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year	2年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

（到達目標）
【知識】
教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回オリエンテーション　ー教育に関する社会学とは
第2回学校をめぐる近年の動向　ー初等教育
第3回学校をめぐる近年の動向　ー中等教育
第4回子どもをめぐる社会の変化　～少子高齢化、地域・社会の変容
第5回諸外国の子ども・子育ての動向　～家族支援、教育支援
第6回諸外国の教育　～学校教育
第7回諸外国の教育　～青少年の社会参加・参画
第8回日本における教育政策・改革の動向
第9回子どもの生活の変化と指導の課題　～家族、少子化
第10回子どもの生活の変化と指導の課題　～孤食、栄養と食育
第11回子どもの生活の変化と指導の課題　～メディアと遊び
第12回子どもの生活の変化と指導の課題　～社会性、自主性
第13回学校と地域の連携　～地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
第14回学校や子ども活動での子どもの安全
第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・３０％、　課題レポート・・・７０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。。（必要な学習時間の目安は、予習60 分、復習60 分です。）

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

生涯学習学 【昼】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

（到達目標）
【知識】
生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
○雑誌『月刊　社会教育』旬報社
○雑誌『公民館』全国公民館連合会
○雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　生涯学習・社会教育の意義
第 2回　生涯学習ボランティア　–学習への支援と学習成果の活用–
第 3回　社会教育の内容・方法・形態–学級・講座の企画
第 4回　成人教育の国際的動向　–日本の特質と学習権–
第 5回　社会教育と生涯学習関連の法制度
第 6回　社会教育の歴史と発展–生涯学習関連施策の動向
第 7回　社会教育行政と事業　–学習相談、サービス、学習情報の提供
第 8回　社会教育施設　–地域公民館
第 9回　公民館の実践　ー社会教育と地域づくり
第10回　社会教育指導者と事業の連携・発展
第11回　社会教育施設–博物館
第12回　社会教育施設と生涯学習施設
第13回　社会教育施設–図書館
第14回　図書館、博物館における学習・グループ活動
第15回　住民の力量形成と地域づくり　–家庭教育・学校教育・社会教育の連携–

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート…７０％　　課題レポート…３０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

生涯学習学 【昼】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

歴史と政治 【夜】

担当者名 /Instructor　藤田　俊 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

歴史と政治	PLS110F

授業の概要　/Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

・本授業の到達目標
「知識」
　→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
　→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
　→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

テキストの指定はありません。教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用して講義します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　大学で学ぶ歴史
第2回　現代の起点としての第一次世界大戦
第3回　言論の「中立」化
第4回　国際協調体制と戦争の違法化
第5回　1920年代の日本と中国
第6回　近代日本と災害
第7回　政治の大衆化
第8回　軍縮をめぐる政治と世論
第9回　満洲事変と「熱狂」の創出
第10回　政党政治の崩壊と軍の政治的台頭
第11回　日中戦争の諸相
第12回　新体制運動
第13回　日米交渉・日米開戦
第14回　戦時体制下における情報・宣伝・報道
第15回　太平洋戦争の終結と聖断

歴史と政治 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意　/Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor　漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。
	コミュニケーション力		

ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]
DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識 を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能 を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分 の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原　朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。￥2700 + 税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津　由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田　直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回　ことばの不思議
第2回　ことばの要素
第3回　ことばの習得
第4回　普遍文法と個別文法
第5回　ことばの単位(1)：音韻
第6回　連濁
第7回　鼻濁音
第8回　ことばの単位(2)：語
第9回　語の基本：なりたち・構造・意味
第10回　語の文法：複合語・短縮語・新語
第11回　ことばの単位(3)：文
第12回　動詞の自他
第13回　日本語と英語の受動態
第14回　数量詞
第15回　まとめ

ことばの科学 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の態度・参加度…10%　　課題・期末試験...90%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意　/Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

生活世界の哲学 【夜】

担当者名 /Instructor　高木　駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生活世界の哲学	PHR110F

授業の概要　/Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。最後に、COVID(コビット)-19との関係の中で私たちの社会は今後どうあるべきか、どこへむかうのか、どうなったらいいのか、一緒に考えていきたいとも思います。

【到達目標】
《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや 判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

＊この講義は、哲学や倫理学、社会学とも密接な関係にあるので、関連講義を合わせて履修すると理解が深まります。ちなみに、僕が担当する講義には、「倫理思想史」があります。

教科書　/Textbooks

特定の教科書はありません。テキストを使用する場合は、授業内で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
・重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
・S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
・米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
・○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
・神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。
＊授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション：哲学って何？社会って何？
第2回　【古代】人間って何？①：善き生と徳（プラトン、アリストテレス）
第3回　【古代】共同体って何？①：支配と民主制（プラトン、アリストテレス）
第4回　【中世】人間って何？②：神と被造物（アウグスティヌス）
第5回　【中世】共同体って何？②：愛の共同体（アウグスティヌス）
第6回　【近代】共同体って何？③：社会契約と国家（ホッブス、ロック、ルソー、カント）
第7回　【近代】人間って何？③：自由と権利（カント）
第8回　【近現代】人間って何？④：産業の奴隷（マルクス）
第9回　【近現代】共同体って何？④：社会主義と資本主義（ハイエク）
第10回　【現代】公共性って何？：プライベートとパブリック（ハーバーマス ）
第11回　【現代】正義って何？：平等と格差（ロールズ）
第12回　【現代】フェミニズムって何？：男女の平等と差異
第13回　【現代】ジェンダーって何？：ジェンダーとセックス（バトラー）
第14回　【現代】優生思想って何？：命の法的管理
第15回　【現代】COVID-19と共にどう生きたらいいのか？

＊（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法　/Assessment Method

・毎回の小テスト 45%
（オンデマンドの場合は、グーグルフォームを使用します。）
・期末テスト 55%

＊授業を5回欠席した場合は、テストを受けても成績評価の対象とはなりません。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。僕のところに質問に来てもいいです。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意　/Remarks

・初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

大人数の講義になり、おそらくオンデマンド講義になると思われますが、なるべく双方向の講義になるようにしたいですね。哲学は、対話の学問で、一人ではできません、わかりません。一緒に勉強していきましょう。僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード　/Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛 【夜】

担当者名 /Instructor　戸蒔　仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

日本の防衛	PLS111F

授業の概要　/Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標
【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的 に身につけている。
【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自 分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身に つけている。
【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための 学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理したり、新作も作りたいと思います。（19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません）

1　ガイダンス　/　安全保障の考え方その１（抑止について）
2　安全保障の考え方その２（国際環境について）
3　安全保障とは何か　/　専守防衛と日本
4　安全保障と外交
5　自衛隊の海外派遣
6　安全保障の非軍事的な側面
7　日米同盟と自衛隊
8　自衛隊の任務
9　防衛出動　/　存立危機事態と集団的自衛権
10　海上警備行動
11　企画動画
12　安全保障流の地図の読み方
13　スクランブル
14　弾道ミサイル防衛（BMD)
15　イージス・アショアと代替

日本の防衛 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト（8回）100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、youTube配信なので、コメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

通信環境を整えてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード　/Keywords

生命と環境 【夜】

担当者名 /Instructor	日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

生命と環境	BIO100F

授業の概要　/Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、（１）宇宙と生命がどのような物質からできているか、（２）生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、（３）進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、（４）生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標
【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

現代生命科学　東京大学生命科学教科書編集委員会　2020年（羊土社）3080円
○もう一度読む数研の高校生物　第１巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1980円
○もう一度読む数研の高校生物　第２巻　嶋田正和他編　2012年（数研出版）1980円
宇宙と生命の起源―ビッグバンから人類誕生まで　嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年（岩波ジュニア新書）990円

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回	ガイダンス（日高・中尾）	
２回	自然科学の基礎（１）ミクロとマクロ（日高・中尾）	【物質の単位】【自然科学】
３回	自然科学の基礎（２）宇宙で生まれた物質（中尾）	【元素】【原子】【超新星爆発】
４回	自然科学の基礎（３）生命と分子（日高）	【DNA】【タンパク質】
５回	生物の多様性（１）生物の分類と系統（日高）	【種】【学名】【系統樹】
６回	生物の多様性（２）ウイルスは生物か（日高）	【ウイルス】
７回	生物の多様性（３）単細胞生物と多細胞生物（日高）	【細胞膜】【共生説】
８回	生物の多様性（４）生態系と進化（日高）	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
９回	生物の多様性（５）多様な生命（日高）	【生物多様性】
１０回	遺伝子の多様性（１）遺伝子の名前（日高）	【突然変異】【遺伝学】
１１回	遺伝子の多様性（２）多様性を生む生殖（日高）	【有性生殖】【減数分裂】
１２回	科学的な方法とは（１）科学と疑似科学（日高・中尾）	【血液型】【星座】
１３回	科学的な方法とは（２）太陽と地球の環境（中尾）	【太陽活動】【地球温暖化問題】
１４回	科学的な方法とは（３）人類の起源（日高）	【ミトコンドリア】
１５回	質疑応答とまとめ（日高）	

生命と環境 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【　】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。
・ 遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
・ 詳細については第1回目にMoodle上で説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード　/Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさも守ろう

情報社会への招待 【夜】

担当者名 /Instructor　中尾　泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

情報社会への招待	INF100F

授業の概要　/Course Description

本授業のねらいは，現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し，インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側，発信する側としての注意点

本授業を通して，現在の情報社会を俯瞰的に理解し，現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること，また，学んだ内容を基礎とし，変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

（到達目標）
【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また，この授業で学ぶICT（情報通信技術）は，国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち，「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて，これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　情報社会の特質 【システムトラブル，炎上，個人情報】
２回　情報を伝えるもの 【光，音，匂い，味，触覚，電気】
３回　コンピュータはどうやって情報を取り扱うか 【2進数，ビット・バイト】
４回　コンピュータを構成するもの 1【入力装置，出力装置，解像度】
５回　コンピュータを構成するもの 2【CPU，メモリ，記憶メディア】
６回　コンピュータ上で動くソフトウェア 【OS，拡張子とアプリケーション，文字コード】
７回　電話網とインターネットの違い 【回線交換，パケット交換，LAN，IPアドレス】
８回　ネットワーク上の名前と情報の信頼性 【ドメイン名，DNS，サーバ / クライアント】
９回　携帯電話はなぜつながるのか 【スマートフォン，位置情報，GPS，GIS，プライバシ】
１０回　ネットワーク上の悪意 【ウイルス，スパイウェア，不正アクセス，詐欺，なりすまし】
１１回　自分を守るための知識 【暗号通信，ファイアウォール，クッキー，セキュリティ更新】
１２回　つながる社会と記録される行動 【ソーシャルメディア，防犯カメラ，ライフログ】
１３回　集合知の可能性とネットワークサービス 【検索エンジン，Wikipedia，フリーミアム，クラウド】
１４回　著作権をめぐる攻防 【著作権，コンテンツのデジタル化，クリエイティブコモンズ】
１５回　情報社会とビッグデータ 【オープンデータ】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中に提示する課題 … 100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので，事前学習・事後学習に利用してください。また，Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます（必要な学習時間の目安は予習60分，復習60分）。
その他，ICTに関するニュースを視聴するなど，日常的，能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意　/Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ，「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば，随時，質問してください。

キーワード　/Keywords

情報社会，ネットワーク，セキュリティ，SDGs 4．質の高い教育を，SDGs 8．働きがい・経済成長，SDGs 9．産業・技術革命，SDGs 10．不平等をなくす，SDGs 17．パートナーシップ

環境問題概論 【夜】

担当者名 /Instructor　廣川　祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が帰属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

環境問題概論	ENV100F

授業の概要　/Course Description

【少人数による対話型（教員と受講生の双方向）の授業】

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。
また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、⑭捕鯨問題、⑥・⑮山の管理（治水・利水）、そして⑫経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）
【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　イントロダクション　-環境問題を見る視点について-
第2回　資源の在り方を問う
第3回　日本の捕鯨の行方
第4回　日本人の自然観
第5回　環境と経済の関係性
第6回　山を管理するとは？
第7回　環境問題の原因と焼畑農業
第8回　里山の開発①　- なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？ -
第9回　里山の開発②　- 映画監督 高畑勲氏からのメッセージ -
第10回　里山の開発③　- 動物視点で見る真の共生の形 -
第11回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ①　- 農業の多面的機能 -
第12回　「農業」とＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ②　-「共生」社会の在り方 -
第13回　復習
第14回　レポート試験の実施　（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
第15回　総括　- おわりに -

環境問題概論 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中の発言の回数やその内容：50%
レポート試験：50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後にレポート試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード　/Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

現代社会と文化 【夜】

担当者名 /Instructor　神原　ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既成概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代社会と文化	ANT210F

授業の概要　/Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身ににつけることを目的とする。 講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

（到達目標）
【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
○太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
○塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局
○陳天璽 2005『無国籍』新潮社
○本多俊和ほか 2011『グローバリゼーションの人類学』放送大学教育振興会
※そのほか必要に応じて講義中に指示する

現代社会と文化 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解するということ
第2回 文化を「知る」とはどういうことか？
第3回 ナショナリズムと文化
第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム
第5回 植民地主義と文化
第6回 レポートについての注意と課題レポート①の説明
第7回 マイノリティ文化の保護と多文化主義
第8回 多文化主義の可能性と限界
第9回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ
第10回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

第II部 文化の違いを超えて？
第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化
第12回 身体の近代化
第13回 医療の持つ権力と文化
第14回 癒しの多様性
第15回 課題レポート②の解説と課題レポート③の説明

成績評価の方法　/Assessment Method

課題レポート（3回）60%、毎回の授業課題 40%
毎回の授業課題については、提出時期や授業への貢献により得点が変化します。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・毎回何らかの課題があります。計画的に取り組みましょう。
・予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
・講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。
・高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意　/Remarks

・遠隔授業の場合は、オンデマンド配信となりますが、毎回の課題は提出時期により得点が変わるので、計画的に受講すること。
・受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。
・評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
・提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとすることが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
・「異文化理解の基礎」を受講済みの学生は理解が深まると思います。

キーワード　/Keywords

文化、ナショナリズム、マイノリティ、グローバリゼーション、多文化主義、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

自然史へのいざない 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor
日高　京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野　智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科（19～）
柳川　勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科（19～）

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

自然史へのいざない	BIO001F

授業の概要　/Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標
【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に 身につけている。
【思考・判断・表現力】自然史についての考え方を用いて論理的に思考し、 自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身 につけている。
【自律的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学 ひ゛を継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。（　）内は担当者。【　】はキーワード

1回　ガイダンス（日高）
2回　植物を鍵とした生物間相互作用（真鍋）【共生】【食物連鎖】
3回　生命の起源を探る（柳川）【極限環境】【微生物】
4回　北九州市周辺の地質と化石の多様性について（太田）【化石】【ジオパーク】
5回　博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化（大橋）【恐竜】【脊椎動物】
6回　鳥類の生態と進化（中原）【適応放散】【進化的軍拡競走】
7回　海産無脊椎動物の行動生態学（竹下）【無脊椎動物】
8回　多様性生物学と進化（蓑島）【進化】【生物多様性】
9回　石の歌がきこえる（森）【岩石】【考古】【文理融合】
10回　魚類分類学と多様性（日比野）【ホロタイプ】【分類学の歴史】
11回　博物館見学（日高）
12回　フィールドの地学と歴史を楽しむ（野井）【地学と歴史のかかわり】
13回　人新世におけるヒトと植物の関係（河野）【人新世】【科学史】
14回　課題研究（日高）
15回　まとめ（日高）

自然史へのいざない 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

・ 授業中ごとのMoodle課題（確認テスト、ミニレポート等）100％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle（e-learning システム）で提出すること。
https://moodle.kitakyu-u.ac.jp

履修上の注意　/Remarks

・ 第7回〜第9回は11月28日（日）博物館にて講義と見学の予定。
　（博物館までの交通費は自己負担とする）
・ 上記以外は遠隔授業（オンデマンド動画配信）の予定。
・ 第1回目Moodleで詳細について説明するので必ず閲覧すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を　14. 海の豊かさを守ろう　15. 陸の豊かさも守ろう

現代人のこころ 【夜】

担当者名 /Instructor	福田　恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス　非常勤講師
履修年次 /Year	1年次
単位 /Credits	2単位
学期 /Semester	1学期
授業形態 /Class Format	講義
クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		

現代人のこころ	PSY003F

授業の概要　/Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと，通常は，笑ったり，悲しんだり，怒ったりといったことを引き起こしているものと思い浮かべがちです。「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても，その人の「こころ」がわかるわけではありません。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のリンゴを見て指さすこと，これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら，目の網膜に映ったリンゴを，目の網膜の中にあるのではなく，あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに，リンゴは真っ赤で，噛むと口中に果汁が染みわたり，美味しそうだと思うこと，これも「こころ」の一部です。

「こころ」は目に見えるものではないので，「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察するとは，行動だけでなく，質問にハイ・イイエで答える単純なものから，実験室でモニター画面を見て答えてもらったり，そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は，さまざまな側面から「こころ」についてアプローチを行っています。

こういった基礎的な面を明らかにした上で，「こころ」の問題で苦手さや困難さを抱えている人たちを支えていこうとするのです。この授業では，さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

（到達目標）
【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

○福田恭介 (2018) ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援　あいり出版
○行場次朗・箱田裕司 (2014) 新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
○神奈川LD協会編 (2006) ふしぎだね!?LD (学習障害) のおともだち　ミネルヴァ書房
三浦麻子・佐藤博 (2018) なるほど！心理学観察法　北大路書房
○丸野俊一・子安増生 (1998) 子どもが「こころ」に気づくとき　ミネルヴァ書房
奥村隆　息子と僕のアスペルガー物語　https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura
○諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?自閉症のおともだち　ミネルヴァ書房
○諏訪利明・安倍陽子編 (2006) ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち　ミネルヴァ書房
○高山恵子編 (2006) ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち．　ミネルヴァ書房
○やまだようこ (1987) ことばの前のことば　新曜社

現代人のこころ 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1:　心理学とは：さまざまな「こころ」の側面
2:　知覚1：ものが見えるとは？
3:　知覚2：色はなぜ見える？
4:　知覚3：形はなぜ見える？
5:　知覚4：どうやって奥行きや動きを判断している？
6:　目の動きを観察して「こころ」を探る
7:　まばたきを観察して「こころ」を探る
8:　注意1：どうして騒がしい中でも会話ができるのか？
9:　注意2：意外と見落としやすい注意の機能
10:　数秒間の記憶によってストーリーは作られる
11:　昔の記憶は忘れることはない
12:　発達1：「こころ」どのように芽生えてくる？
13:　発達2：「こころ」はどのようにして人とやりとりできる？
14:　発達3：発達に苦手さを抱えるのはなぜ？
15:　まとめ：いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法　/Assessment Method

授業中のコメント：40点
レポート：30点
期末試験：30点

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前：Moodleにあげた資料を読んでください。
事後：授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート：もっとも関心のある本やウェブサイトを読んで，所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し，200字程度のコメントを書いてください。レポートを書くのは前期で1回限りです。所定の書式は最初の授業で紹介します。

履修上の注意　/Remarks

1．授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます（事後学習）。
2．次の時間，書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3．配付資料やコメントへの回答には，関連する本やウェブサイトを紹介しますので，それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード　/Keywords

知覚，目の動き，注意，短期記憶，長期記憶，ワーキングメモリ–，心の発達，発達障害

市民活動論 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者名 /Instructor　西田　心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

市民活動論	RDE001F

授業の概要　/Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。
「SDGｓ」の目標の中の「３.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

（到達目標）
【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　検討の枠組みについて
３回　枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
４回　枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
５回　市民活動の＜萌芽＞① - 政治と経済
６回　市民活動の＜萌芽＞② - 市民
７回　市民活動の＜再生＞① - 政治と経済
８回　市民活動の＜再生＞② - 市民
９回　市民活動の＜広がり＞① - 政治と経済
１０回　市民活動の＜広がり＞② - 市民
１１回　中間まとめ
１２回　北九州市における市民活動のうねり
１３回　今日の市民活動の＜展開＞① - 政治と経済
１４回　今日の市民活動の＜展開＞② - 市民
１５回　全体まとめ
※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

市民活動論 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢…　40％
期末試験…　60％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

この講義は「SDGｓ」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「３.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会 【夜】

担当者名 /Instructor　山下　剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		

企業と社会	BUS001F

授業の概要　/Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。

（到達目標）
【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤と なる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論　第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文眞堂、1991年 (○)
三戸公『随伴的結果』文眞堂、1994年 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回ガイダンス　【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
第3回「株式会社」の仕組み①　【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
第4回「株式会社」の仕組み②　【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
第5回社会における「大企業」の意味①　【大企業とは何か】【所有と支配】
第6回社会における「大企業」の意味②　【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
第7回社会における「大企業」の意味③　【官僚制】【科学的管理の展開】
第8回社会における「大企業」の意味④　【環境問題】【随伴的結果】
第9回社会における「大企業」の意味⑤　【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
第10回「家」としての日本企業①　人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
第11回「家」としての日本企業②　日本企業特有の組織原理【階統制】【能力主義】【企業別組合】
第12回「家」としての日本企業③　日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
第13回「家」としての日本企業④　「家」の概念　【日本企業の独自性】【家の論理】
第14回「家」としての日本企業⑤　今後の日本的経営　【原理と構造】【家社会】
第15回総括

企業と社会 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験･･･ 60%　　小テスト･･･ 40%

事前･事後学習の内容　/Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意　/Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード　/Keywords

財･サービス　株式会社　大企業　家の論理　社会的器官

SDGs8. 働きがい･経済成長、SDGs12. 作る･使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

現代の国際情勢 【夜】

担当者名 /Instructor
北　美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科, 大平　剛 / 国際関係学科
ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科, 下野　寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石　麻保 / 中国学科, 久木　尚志 / 国際関係学科
篠崎　香織 / 国際関係学科, 柳　学洙 / 国際関係学科
政所　大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科, 阿部　容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

現代の国際情勢	IRL003F

授業の概要　/Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標
【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　北　日系アメリカ人の歴史と今日（１）概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
第3回　北　日系アメリカ人の歴史と今日（２）現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
第4回　阿部　米中の技術覇権争いと日本経済　【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
第5回　政所　国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
第6回　政所　国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
第7回　久木　2010年代以降のイギリス（１）【政権交代】【国民投票】
第8回　久木　2010年代以降のイギリス（２）【EU離脱】
第9回　篠崎　東南アジアの多文化・多宗教社会【イスラム教】【上座仏教】【自律史観】
第10回　篠崎　世界文化遺産ペナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華僑華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
第11回　リーダー　Humour in British Politics（イギリス政治におけるユーモア）【British politics（イギリス政治）】【Protest（抵抗）】【Humour（ユーモア）】
第12回　白石　中国経済の課題と展望【経済成長】【SNA】【投資】
第13回　柳　朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
第14回　柳　北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
第15回　下野　台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】
※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回）100%

現代の国際情勢 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意　/Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていくきっかけにしてください。

キーワード　/Keywords

SDGsとの関連
第4回　阿部　9「産業・技術革命」
第5回、第6回　政所　16「平和と公正」
第9回、第10回　篠崎　11「まちづくり」
第12回　白石　17「グローバル・パートナーシップ」
第15回　下野　5「ジェンダー平等」、16「平和と公正」

メンタル・ヘルスI 【夜】

担当者名 /Instructor　中島　俊介 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		

メンタル・ヘルスⅠ	PSY001F

授業の概要　/Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは，病気や不適応事例の発生予防だけでなく，もっと幅広く，多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあっては，メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ，ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下，生活上の事故やミス，無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGｓ３）や平和と暴力（ＳＤＧｓ１６）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めどう行動するかを皆で考える授業である。

(到達目標) [自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書　/Textbooks

テキスト　「こころと人生」中島俊介　編著　　ナカニシヤ出版　2017　定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

「森田療法」　岩井　寛　著　講談社現代新書

メンタル・ヘルスI 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール
第1回　メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
第2回　心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
第3回　胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
第4回　幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
第5回　思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
第6回　青年期……同一性（アイデンティティ）の心理・LGBTの理解
第７回　若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
第8回　ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
第9回　発達障害についての理解１…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
第10回　発達障害についての理解２…実際の対応の仕方、留意点
第11回　成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
第12回　老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
第13回　平和と暴力１……社会的健康を阻害する暴力
第14回　平和と暴力２……人権と対話の文化を・SDGs（持続可能な開発目標）の理解
第15回　講義のまとめ……講義のまとめ・ふりかえり

成績評価の方法　/Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度（40％）②定期試験もしくは期末課題レポート（60％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にしていくことが大切だと考える。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード　/Keywords

ＳＤＧｓ３「健康と福祉」、ＳＤＧｓ16「平和と公正」に強い関連がある。

フィジカル・ヘルスI【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・ヘルスⅠ	HSS001F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

＜到達目標＞
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション
２回　（講義）運動と身体の健康
３回　（実習）仲間づくりを意図したウォーミングアップ
４回　（実習）運動強度測定
５回　（講義）運動の効果（精神的側面）
６回　（実習）ウエイトトレーニングのやり方
７回　（実習）体脂肪を減らすトレーニング
８回　（講義）運動の効果（身体的側面）
９回　（実習）レクリエーションスポーツ①（車椅子ソフトボール）
１０回　（実習）レクリエーションスポーツ②（ペタンク）
１１回　（実習）レクリエーションスポーツ③（キンボール）
１２回　（実習）レクリエーションスポーツ④（アルティメット）
１３回　（講義）運動の効果（社会的側面）
１４回　これからのスポーツ
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み …　７０％　　レポート …　３０％

フィジカル・ヘルスI【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前，運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し，怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意　/Remarks

授業内容（講義･実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード　/Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

担当者名 /Instructor　山本　浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　1単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　実技　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。

フィジカル・エクササイズⅡ	HSS082F

授業の概要　/Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の３つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
２回　バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
３回　スキル獲得テスト①
４回　基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
５回　基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
６回　サービスの練習
７回　ゲームの展開方法と審判法の習得
８回　ダブルスのゲーム法の解説
９回～１４回　ダブルスゲーム (リーグ戦)
１５回　スキル獲得テスト②

成績評価の方法　/Assessment Method

平常の授業への取り組み…７０％　　スキル獲得テスト…３０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前，運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し，怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【夜】

履修上の注意　/Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、４分の３以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障害の有無に関わらず 履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード　/Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

データ処理 【夜】

担当者名 /Instructor　廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

データ処理	INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
2回　正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
3回　ネットワークの光と影１【情報倫理】【セキュリティ】
4回　ネットワークの光と影２【著作権】【個人情報保護】
5回　表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
6回　見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
7回　関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
8回　グラフ作成の基礎【グラフ】
9回　グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
10回　表・グラフ作成演習
11回　データ処理の基礎【散布図】【相関】
12回　データ処理演習１【データ処理の計画】
13回　データ処理演習２【データ処理の実践】
14回　データ処理演習３【データ処理手法の見直し】
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 … 50%、
積極的な授業参加（電子メール送受信・情報倫理の理解等を含む） … 50%

データ処理 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことを復習して、課題を締め切りまでに間に合うように提出すること。タイピングや表計算ソフト Excel などのコンピュータ操作は、自主練習を行うこと。

履修上の注意　/Remarks

コンピュータの基本的な操作 (キーボードでの文字入力、マウス操作など) ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。それらの場合は、授業中に説明する。

キーワード　/Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

ミクロ経済学I 【夜】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学 I	ECN112M

授業の概要　/Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

（到達目標）
【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的 かつ総合的に身につけている。
【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身に つけている。
【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策 を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
・金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック　ミクロ経済学』新世社 (○)
・J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
2回　【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
3回　需要、供給、および政府の施策 (1) : 【価格規制】
4回　需要、供給、および政府の施策 (2) : 【課税】
5回 市場と厚生 (1) : 【余剰】
6回　市場と厚生 (2) : 市場の【効率性】
7回　需給分析の応用 (1) : 【価格規制の余剰分析】
8回　需給分析の応用 (2) : 【課税の余剰分析】
9回 市場と企業行動(1):【生産】【費用】【長期と短期】
10回 市場と企業行動(2) : 【限界分析】【限界収入】【限界費用】
11回 市場と企業行動(3):【利潤最大化】、供給曲線の導出
12回 様々な【市場構造】
13回 ミクロ経済学の展開 (1) : 【市場メカニズムの限界】
14回 ミクロ経済学の展開 (2) : 「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・課題・授業態度など　…　２０　％　　期末試験　…　８０　％

ミクロ経済学I 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートやを配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意　/Remarks

・「経済学入門Ａ・Ｂ」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・学生証を持参すること

キーワード　/Keywords

・経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor　朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学Ⅱ	ECN210M

授業の概要　/Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

（到達目標）
【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的 かつ総合的に身につけている。
【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身に つけている。
【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策 を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書　/Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済（○）
・金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック　ミクロ経済学』新世社（○）
・J. E. スティグリッツ（藪下史郎ほか訳）『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社（○）

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション:　経済と経済分析手法
2回　ミクロ経済学と数学：微分・積分
3回　家計の理論【消費者行動の理論】（１）：消費と選好、効用
4回　家計の理論【消費者行動の理論】（２）：無差別曲線、予算線
5回　家計の理論【消費者行動の理論】（３）：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
6回　家計の理論【消費者行動の理論】（４）：需要の決定要因
7回　【消費者行動の理論】とその応用
8回　企業の理論【生産者行動の理論】（１）：企業の目的、生産、費用、利潤
9回　企業の理論【生産者行動の理論】（２）：等量曲線、等費用線
10回　企業の理論【生産者行動の理論】（３）：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
11回　【生産者行動の理論】とその応用
12回　市場と市場の効率性（１）：【パレート最適】
13回　市場と市場の効率性（２）：「厚生経済学」の基本的考え方
14回　ミクロ経済学再考、展開
15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

・課題・授業態度など　…　２０　％　　期末試験　…　８０　％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

・授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートやを配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【夜】

履修上の注意　/Remarks

・新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学（微分・積分）の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

・学生証を持参すること

キーワード　/Keywords

・消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学 I	ECN113M

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

（到達目標）
【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（１）　【金融取引と金融市場】
３回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（２）　【株式の適正価値】
４回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（３）　【割引現在価値計算】
５回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（４）　【割引現在価値計算】【債券】【リスクと流動性】
６回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（５）　【資産価格バブル】【楽観的期待】【投機的取引】
７回　金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム（６）　【バブルと資源配分】
８回　GDPとマクロ経済循環（１）　【GDP】【付加価値】【最終財】
９回　GDPとマクロ経済循環（２）　【三面等価】【貯蓄投資バランス】
１０回　GDPとマクロ経済循環（３）　【GDPデフレーター】
１１回　ケインズの不況理論（１）　【GDPギャップ】【ベビーシッター組合の寓話】【45度線分析】
１２回　ケインズの不況理論（２）　【均衡の安定性】【比較静学】
１３回　ケインズの不況理論（３）　【貯蓄のパラドックス】【乗数効果】
１４回　ケインズの不況理論（４）　【財政の３機能】【財政政策】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

宿題：25%，　期末試験：75%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

マクロ経済学I 【夜】

履修上の注意　/Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 /Instructor　田中　淳平 / TANAKA　JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学Ⅱ	ECN211M

授業の概要　/Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズ的な短期モデル（＝45度線モデルやIS-LMモデル）を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、長期の経済成長モデルについて説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

（到達目標）
【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　ガイダンス
２回　45度線モデル（１）　【経済循環図】【45度線モデル】【均衡GDP】
３回　45度線モデル（２）　【財政政策】【ケインズ的財政政策の問題点】
４回　流動性選好理論（１）　【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
５回　流動性選好理論（２）　【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
６回　流動性選好理論（３）　【中央銀行】【公開市場操作】
７回　中央銀行と金融政策（１）　【中央銀行の目的と機能】【公開市場操作】【ハイパワードマネー】
８回　中央銀行と金融政策（２）　【貨幣乗数】【アベノミクス】
９回　仮想通貨について　【貨幣の条件】【仮想通貨と地域通貨】【ネットワークの外部性】
１０回　IS-LMモデル（１）　【IS曲線】【LM曲線】
１１回　IS-LMモデル（２）　【財政・金融政策】【クライディングアウト】
１２回　経済成長理論（１）【マクロ生産関数】【成長会計】
１３回　経済成長理論（２）【新古典派成長理論】【収束】
１４回　経済成長理論（３）【内生的成長理論】
１５回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

宿題：25%,　期末試験：75%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

マクロ経済学II 【夜】

履修上の注意　/Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

経済地理学I 【夜】

担当者名 /Instructor　柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学Ⅰ	ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション　【経済地理学】、【地域構造論】
2回　産業構造と産業立地　【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
3回　企業の立地行動(Ⅰ)・・・ 市場圏モデル　【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
4回　企業の立地行動(Ⅱ)・・・ 市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
5回　商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
6回　1～5回の復習と課題　【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
7回　企業の立地行動(Ⅲ)・・・ 最小コストモデル　【ウェーバー】、【輸送費】、【集積】
8回　素材/装置型工業の立地行動　【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
9回　企業の立地行動(Ⅳ)・・・ 労働力指向立地　【マッセィ】【バーノン】【空間分業】
10回　先端/組立型工業の立地行動　【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
11回　6～10回の復習と課題　【輸送費理論】【企業内空間分業】
12回　企業の立地行動(Ⅴ)・・・ 集積とネットワーク　【スコット】【マークセン】【ポーター】
13回　在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
14回　現代の立地行動～オフィスの立地論　【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
15回　全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・ 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学II、経済地理学特講や地域経済I・II、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

経済地理学I 【夜】

キーワード　/Keywords
立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【夜】

担当者名 /Instructor　柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学Ⅱ	ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学IIは、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学Iで学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　イントロダクション　【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
２回　オフィスの立地論　【オフィス】【本社立地】【支店立地】【フェイス・トゥ・フェイス】
３回　地点をめぐる立地競争　【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
４回　都市内システム　【都市】【バージェス】【ホイト】
５回　都市間システムと中枢管理機能　【中枢管理機能】【プレッド】【地方中枢管理都市】
６回　１～５回の復習と課題
７回　企業活動と地域　【企業機能】【地域間システム】【生活圏】
８回　立地政策（１）・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業　【全総】【拠点開発方式】
９回　立地政策（２）・・・三全総と組立型産業　【定住圏構想】【テクノポリス】
10回　立地政策（３）・・・四全総　【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
11回　６～10回の復習と課題
12回　産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン　【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
13回　立地から見た地域構造の変遷（１）　【立地論】【立地要因】【基礎的地域構造】
14回　立地から見た地域構造の変遷（２）　【現代の地域構造】
15回　全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題　…　100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

経済地理学II 【夜】

履修上の注意　/Remarks

経済地理学Iや地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
２、３、４、５、８、９、10、12回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード　/Keywords

立地論、都市システム、立地政策

環境経済学 【夜】

担当者名 /Instructor　牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの環境に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境経済学	ECN340M

授業の概要　/Course Description

＜授業の概要（ねらい・テーマ）＞

1. 環境問題の原因を経済学の視点から理解する。
2. 経済学が環境問題の解決に向けて有効な手段であることを理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

① 環境問題を改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
② メディアで取り上げられるような環境問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話を聴くだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

（到達目標）
【知識】
環境経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【思考・判断・表現力】
経済学の観点からの論理的な分析をもとに、環境・エネルギー政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

【自律的行動力】
環境・エネルギー問題への関心とキャリア意識を持ち続け、持続可能な社会に向けて貢献できる姿勢を身につけている。

教科書　/Textbooks

栗山浩一・馬奈木俊介（2016）、『環境経済学をつかむ 第3版』、有斐閣、2,592円

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

栗山・馬奈木（2008）、『環境経済学をつかむ』有斐閣
時政・薮田・今泉・有吉編（2007）、『環境と資源の経済学』勁草書房○
日引　聡、有村俊秀（2002）、『入門　環境経済学』、中公新書○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I　ミクロ経済学編』（第2版）東洋経済新報社○
R. K.ターナー他（2001）、『環境経済学入門』、東洋経済新報社○

環境経済学 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：環境問題と環境経済学
2回　環境問題を分析するための経済ツールの学習(1)、【トレードオフ】、【インセンティブ】
3回　環境問題を分析するための経済ツールの学習(2)、【需要】、【供給】、【市場】
4回　環境問題を分析するための経済ツールの学習(3)、【消費者余剰】、【生産者余剰】
5回　なぜ環境問題は発生するのか？(1)【市場の失敗】、【外部性】
6回　なぜ環境問題は発生するのか？(2)【ゲーム理論】
7回　経済学の視点からの環境政策(1)　【直接規制】
8回　経済学の視点からの環境政策(2)　【経済的手段】
9回　地球温暖化の経済分析　【温室効果ガス】、【京都議定書】、【排出権取引】
10回　廃棄物問題の経済分析　【循環型社会】、【ごみ処理手数料】、【3つのR】
11回　資源管理の経済分析　【枯渇性資源】、【再生可能資源】、【コモンズ】
12回　経済発展と環境　【成長の限界】、【持続可能な発展】、【環境グズネッツ曲線】
13回　グローバル経済と環境　【国際環境協定】、【比較優位】
14回　環境評価　【支払意志額】、【受入補償額】、【費用便益分析】、【仮想評価法】
15回　まとめ・復習

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法　/Assessment Method

原則　小テスト（12回）…40%、課題…10%、期末試験…50%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意　/Remarks

経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・II、統計学I・IIを事前に履修、またはこれらの講義内容を事前に学習していることが望ましい。
経済学を理解して、環境問題を考えます。その際、知識を覚えるだけでなく、環境問題解決に向けて理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

人的資源管理論 【夜】

担当者名 /Instructor　丸子　敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論	BUS310M

授業の概要　/Course Description

昨今，日本では様々な労働に関する問題が二ュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では，その多々ある切り口の一つとして，人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は，企業内の人々をいかに活き活きと働けるようにするかということを人事管理制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで，企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。
この講義を通して，巷にあふれる労働に関する問題について，さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下，各到達目標について
知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。
技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。
思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し，みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書　/Textbooks

教科書：奥林康司・上林憲雄・平野光俊（2010）編著『入門人的資源管理 第2版』中央経済社。
その他適宜配布。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

参考文献：平野光俊・江夏幾多郎（2018）『人事管理 - 人と企業，ともに活きるために - 』有斐閣ストゥディア。

人的資源管理論 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
　授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。
第2回 経営学の中での人的資源管理論（１）
　人的資源管理論とはどういう分野なのか，隣接研究分野との関係等から学びます。
第3回 経営学の中での人的資源管理論（２）
　人的資源管理論の主役はあくまでも人事管理というシステムです。この考え方について学びます。
第4回 人事等級制度
　人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。
第5回 人事考課制度と賃金制度（１）
　人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。
第6回 人事考課制度と賃金制度（２）
　人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，賃金制度について考課制度と関連付けながら学びます。
第7回 能力開発
　企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。
第8回 雇用管理
　日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。
第9回 労働時間（１）
　ここまで学んだ日本企業における人事管理の特徴から，労働者の働き方にどのような特徴が出てくるのか，労働時間に着目しながら考えていきます。
第10回 労働時間（２）
　日本労働者の労働時間について，今どのような問題が出てきているのか，それはどのような文脈からなのか，これらについて考えていきます。
第11回 労使関係と福利厚生制度
　日本的労使関係の特徴および，日本企業における福利厚生の特徴とその変化について学びます。
第12回 非正規労働者
　近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に非正規労働者というカテゴライズに着目して，その問題点等を学びます。
第13回 女性労働者
　近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に女性労働者というカテゴライズに着目して，その問題点等を学びます。
第14回 高齢労働者
　近年増加している新しい労働者のタイプのうち，ここでは特に高齢労働者というカテゴライズに着目して，その問題点等を学びます。
第15回 まとめ
　全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験50％，中間レポート50％で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

中小企業論 【夜】

担当者名 /Instructor　吉村　英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論	BUS313M

授業の概要　/Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税収など、わが国経済に直結します。

・企業数の割合　＝99.7%
・従業員数の割合　＝68.8%
・付加価値額の割合＝52.9%
（注：経済センサス(2016)による、個人事業主を含む）

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。
また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

（到達目標）
【知識】
中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。
【思考・判断・表現力】
中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。
【自律的行動力】
中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書　/Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　オリエンテーション
第2回　中小企業とは
第3回　製造業①･･･製造業で働きませんか？
第4回　製造業②･･･現状と展望
第5回　非製造業（流通業、小売業、サービス業など）･･･現状と展望
第6回　外部講師による講和①
第7回　ベンチャー企業
第8回　新事業展開
第9回　人材の確保と育成
第10回　海外展開
第11回　ベトナムにおける中小企業支援事例
第12回　外部講師による講和②
第13回　資金調達と金融機関の役割
第14回　国及び地方自治体による中小企業支援政策
第15回　まとめ
※授業計画・内容に変更があるときは、事前にお知らせします。

成績評価の方法　/Assessment Method

適宜、レポートを課します（50%）。期末試験は行いません。
授業の取組み度合についても評価の対象とします（50%）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意　/Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府は何を講じようとしていますか。小規模事業者持続化補助金って何ですか。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。中小企業は、身近な存在です。
・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
・ 自ら起業して経営する。
・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード　/Keywords

地方自治論 【夜】

担当者名 /Instructor　森　裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論	PAD211M

授業の概要　/Course Description

この授業は、受講生のみなさんに地方自治についての基本的な知識を理解してもらうことを目的とする。地方自治の理念から始まって、わが国における地方自治の沿革、地方自治制度のしくみ、そして近年の地方分権改革の様相、今後のあるべき地方自治の姿を考えることにいたるまで、特に歴史面を中心に基礎理解をめざす。

（到達目標）
DP３　思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。
DP１　知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。
DP２　技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

教科書　/Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　授業のガイダンス
２回　地方自治体の種類【都道府県】【市町村】【特別区】【指定都市】
３回　自治体首長と中央地方関係①【歴史】【明治の地方自治】
４回　自治体首長と中央地方関係②【歴史】【明治大正の地方自治】
５回　自治体首長と中央地方関係③【歴史】【戦前期の地方自治】
６回　自治体首長と中央地方関係④【歴史】【戦後民主改革】
７回　自治体首長と中央地方関係⑤【歴史】【高度経済期】
８回　自治体首長と中央地方関係⑥【歴史】【低成長期以降】
９回　自治体首長と中央地方関係⑦【歴史】【1990年代以降の改革】
10回　地方分権改革①【機関委任事務の歴史】
11回　地方分権改革②【地方議会と首長】
12回　市町村合併①【平成の大合併】
13回　市町村合併②　【合併の効果】
14回　現代の地方自治の動き①　【地方分権一括法の動向】
15回　現代の地方自治の動き②　【地方創生など】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験…100%（試験といっても，講義で習得した知識のみならず，日頃からの政治行政に対する観察力，そして諸知識の応用能力等の複数の項目から評価する方式によります）。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

地方自治論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

日ごろから新聞やニュースなど、行政に関連することに注意を向けておいてほしい。行政学をとっておくとより理解が深まる。自主練習を行い、授業の内容を反復すること。また、後期の地方行政改革論は地方自治論のより具体的な現代的な課題を講義しますので、セットで受講されるとより学習効果が増します。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

公務員試験に頻出の領域ですが、公務員試験への出題対策を学ぶというよりも、近年の地方自治をとりまく事情を中心に学びます。この授業はSDGｓの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

地方自治、地方自治体、中央地方関係、地方分権、地域づくり、地域活性化

福祉政策論 【夜】

担当者名 /Instructor　狭間　直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論	PLC217M

授業の概要　/Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本的特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

（到達目標）
【知識】社会福祉サービスについて基礎的な知識を身につけている。
【技能】社会福祉サービスを利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
【思考・判断・表現力】社会福祉サービスの課題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）
原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてＢ４判で配布します。

教科書　/Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　「社会福祉の意味」
第２回　「社会福祉の行財政」　社会福祉の専門機関
第３回　「社会福祉の行財政」　社会福祉の民間組織
第４回　「高齢者福祉と介護保険」　介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
第５回　「高齢者福祉と介護保険」　介護サービスと民間企業
第６回　「高齢者福祉と介護保険」　介護は社会化されたか？
第７回　「児童福祉」　児童福祉のサービス
第８回　「児童福祉」　保育所改革（公立保育所民営化など）
第９回　「児童福祉」　保育所改革（幼保一体化）
第１０回　「児童福祉」　児童虐待
第１１回　「児童福祉」　少子化対策。男女共同参画をめぐる議論
第１２回　「障害者福祉」　障害の定義
第１３回　「障害者福祉」　障害者福祉のサービス
第１４回　「障害者福祉」　障害者の雇用
第１５回　まとめ

福祉政策論 【夜】

成績評価の方法　/Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・ 100%
第２回～第１３回の授業において出席をとります。欠席は３回まで認められます。欠席４回目以降は欠席１回につき、３点減点します。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。大部分はレジュメから出題されます。１３回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、試験は、レポート試験に変更される場合もあります。
また、受講人数が多い場合、欠席による減点を緩和する場合があります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意　/Remarks

遅刻は授業開始から20分まで認められます。20分経過後の入室を禁止します。指示に従わず着席した人には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中の携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影、インターネットサイト閲覧等を禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特になし。

行政法総論 【夜】

担当者名 /Instructor　近藤　卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　4単位　学期 /Semester　1学期（ペア）　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論	LAW121M

授業の概要　/Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

（到達目標）
【知識】行政法学の作用法および組織法に関する知識を体系的に身につけている。
【技能】行政法学の作用法および組織法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
【思考・判断・表現力】行政法学の作用法および組織法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書　/Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

行政法総論 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回　ガイダンス、行政法とは
第2回　行政法の基本原理(1)【法律による行政の原理】
第3回　行政法の基本原理(2)【行政法の一般原則】
第4回　行政組織(1)【行政組織の概念】
第5回　行政組織(2)【国、地方の行政組織】
第6回　行政立法(1)【法規命令】
第7回　行政立法(2)【行政規則】
第8回　行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
第9回　行政行為(2)【行政行為の効力】
第10回　行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
第11回　行政行為(4)【職権取消しと撤回】
第12回　行政行為(5)【行政行為の附款】
第13回　行政裁量(1)【行政裁量の概念】
第14回　行政裁量(2)【裁量の存否】
第15回　行政裁量(3)【裁量審査】
第16回　行政契約
第17回　行政指導
第18回　行政計画
第19回　行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
第20回　行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
第21回　行政調査
第22回　行政手続(1)【行政手続の意義】
第23回　行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
第24回　行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
第25回　行政情報(1)【情報公開制度】
第26回　行政情報(2)【情報公開争訟】
第27回　行政情報(3)【個人情報保護制度】
第28回　公法と私法
第29回　進度調整
第30回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

期末試験80%、中間テスト20%
※授業形式（対面 / 遠隔）によって、変更することがあります。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGｓの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード　/Keywords

社会法総論 【夜】

担当者名 /Instructor　岡本　舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論	LAW140M

授業の概要　/Course Description

社会法は、私たちの日々の生活や職業活動を支える重要な法領域です。社会法として捉えられるのは、主として労働法と社会保障法であり、本講義では、これら2領域の基本的な問題について学びます。

講義では、具体的事例を挙げながら、労働者が労働する過程で起こる諸問題（労働法領域）や、私たちが生活する上で生じる諸問題（社会保障法領域）に、法がどのように関わるのかについて、理解を深めます。

（到達目標）

【知識】社会法の意義を理解し、労働法及び社会保障法に関する基礎的知識を身につけている

【技能】社会法（特に労働法及び社会保障法）を学ぶための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】社会法学（特に労働法及び社会保障法）に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書　/Textbooks

特に指定しません。適宜、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

予定は以下の通りですが、順序等につき変更の可能性もあります。

第1回　イントロダクション～社会法とは何か
第2回　労働法上の当事者
第3回　労働契約の締結過程と成立
第4回　労働条件決定システム
第5回　賃金に関する規制
第6回　労働時間に関する規制
第7回　年次有給休暇・休業に関する規制
第8回　労働契約の終了
第9回　労災保険制度①【労災補償制度の意義・沿革、労災保険の仕組み】
第10回　労災保険制度②【業務災害】
第11回　労災保険制度③【通勤災害、保険給付の内容】
第12回　労災民訴
第13回　雇用保険①【雇用保険制度の意義・沿革、適用関係、求職者給付】
第14回　雇用保険②【その他の給付、雇用保険二事業、求職者支援】
第15回　まとめ

成績評価の方法　/Assessment Method

小テスト（2回）・・ 100%

社会法総論 【夜】

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：配布資料に目を通すこと。
事後学習：文献等を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1．貧困をなくそう」「3．すべての人に健康と福祉を」「5．ジェンダー平等を実現しよう」「8．働きがいも経済成長も」「10．人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

教職論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　１年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、４年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、１類 - １　に該当する科目である。

到達目標　　教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編　「教職論」　学文社
文科省　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１．オリエンテーション　本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
２．教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
３．教員に求められる資質　その１　共感的理解と対話力
４．今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師　森恵美先生)
５．教員に求められる資質その２　生徒指導と学級経営(学級づくり)　-　実践報告を手がかりに
６．教員に求められる資質その３　教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
７．チーム学校と専門職との連携　その１「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
８．チーム学校と専門職との連携　その２　被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
９．教員に求められる資質その４　特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題　その１　セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12．現代社会における学校教育の課題　その２　部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題　その３　「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等)　５０点、レポート試験５０点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること

・授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育んでいくこと

・学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

教職論 【夜】

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理 【夜】

担当者名 /Instructor　児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year　1年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

課題
発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標
教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に 身につけている。
①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

（以下、平成26年度以降入学生）
この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類– 1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回　イントロダクション：教育とは何か
2回　教育の関係　：教育のモデル・家族・学校
3回　生涯にわたる発達と教育：生涯発達
4回　発達課題と教育支援：思春期・青年期
5回　教育思想①　：諸外国の教育思想
6回　教育思想②：日本の教育思想
7回　教育史①：西洋の教育史
8回　教育史②：日本の教育史
9回　学ぶ意欲と教育指導
10回　学校教育の機能：基礎集団としての学級
11回　学校教育の課題：学校で生じる問題
12回　メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
13回　国際化と教育：言語・文化
14回　仕事と教育：進路形成
15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ･資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学 【夜】

担当者名 /Instructor　税田　慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である（Butterworth, 1994）。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。
また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

（到達目標）
【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書　/Textbooks

藤村　宣之 編著　『発達心理学　　周りの世界とかかわりながら人はいかに育つか（いちばんはじめに読む心理学の本３）』　ミネルヴァ書房　￥2750

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

文部科学省（2011）「生徒指導提要」
その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回　オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
第２回　胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
第３回　乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
第４回　赤ちゃんのもつ能力と生後１年間の変化について
第５回　乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
第６回　愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
第７回　愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
第８回　まとめ　と　レポート課題1
第９回　乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
第10回　他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
第11回　児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
第12回　自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
第13回　成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
第14回　児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
第15回　まとめ　と　レポート課題2

成績評価の方法　/Assessment Method

平常点(小レポートを含む)　…　20%　　レポート課題　…　80%

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

教育制度論 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
3年次	2単位	1学期	講義	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

到達目標
(知識･理解)教育制度についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身に付けている。
(思考･判断･表現)教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
(生涯学習力)教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント･資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画･内容 /Class schedules and Contents

1回 教育制度の基本原理(1) 教育制度とは
2回 教育制度の基本原理(2) 日本の教育法制
3回 学校制度の基本的事項(1)機会均等、義務教育
4回 学校制度の基本的事項(2)中等教育、学校体系
5回 学校制度の基本的事項(3)就学･懲戒
6回 教科書に関する制度
7回 教員制度の基本的事項(1)教員免許法制
8回 教員制度の基本的事項(2)教員の指導力、研修
9回 教員制度の基本的事項(3)公務員としての教師、教員の待遇
10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
12回 学校関係者による協力支援の制度
13回 地域社会の変容と学校
14回 教育制度改革の動向
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 30% 最終課題(試験) 70%

事前･事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味･関心をもって臨むこと。
配布したレジュメ･資料をよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めする。

履修上の注意 /Remarks

夜間のみの開講です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	3年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

概要
教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標
教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するものの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1回　教育課程の基本原理（1）カリキュラムとは
第 2回　教育課程の基本原理（2）カリキュラムの類型
第 3回　教育課程の変遷と学習指導要領
第 4回　学力と教育課程（1）教育課程設計の前提となる「力」
第 5回　学力と教育課程（2）学習状況調査の影響
第 6回　諸外国の教育課程
第 7回　教育課程の編成（1）教科教育
第 8回　教育課程の編成（2）教科外教育
第 9回　学習環境のデザイン
第10回　教育課程の評価
第11回　教育課程の開発
第12回　カリキュラム・マネジメントと学校改善
第13回　今日的課題と教育課程（1）異文化理解
第14回　今日的課題と教育課程（2）ESD
第15回　まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況　30%　　最終課題（試験）　70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。
配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。
発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお薦めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科教育法Ｃ 【夜】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本授業では、社会科教育法I、IIの授業で学習した社会科の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科教師としてのより実践的な指導力の育成を目指す。

〈到達目標〉
・社会科の教員に必要な発展的な知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説することができる。
・社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて、指導計画と学習指導案を作成することができる。
・社会科における授業の価値について理解し、教師としての使命感を深く自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

「中学校学習指導要領解説　社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

二谷貞夫・和井田清司編　2007『中等社会科の理論と実践』学文社
日本教育方法学会編　2009『日本の授業研究 - Lesson Study in Japan - 授業研究の歴史と教師教育〈上巻〉』
・他にも、授業で紹介する。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション　授業目標・成績評価の方法・進め方
第２回：新しい学習指導要領における中学社会科と学問領域との関係
第３回：個が育つ教育　　授業分析の視座（教師・生徒・社会の立場から）
第４回：「単元」を意識した授業づくり　社会科の持つ連続性
第５回：授業研究・教材研究　　素材から教材・学習材への発展・ICTの活用
第６回：授業を捉えるために　　協働的な学びとアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）
第７回：授業を捉えるために　　授業を評価する（批判的思考とPDCAサイクル・改善の営み）
第８回：授業のデザイン　指導案および教材の作成（１）
第９回：授業のデザイン　指導案および教材の作成（２）
第１０回：各自の指導案の相互分析と評価・改善(１)　プレゼンテーションと意見交換
第１１回：各自の指導案の相互分析と評価・改善(２)　プレゼンテーションと意見交換
第１２回：模擬授業　実践と評価
第１３回：模擬授業　実践と評価
第１４回：模擬授業　実践と評価
第１５回：まとめ　教師としての学び

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

授業への参加度（授業デザイン発表や意見交換への参加）・・・ ３０％
最終試験・課題レポート・・・ ３０％
学習指導案の作成および資料作成・・・ ４０％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：講義内での配布資料の読み込み、指導案の作成など
　　ペアワーク・プレゼン発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）
事後学習：小レポートによる振り返り

社会科教育法Ｃ 【夜】

履修上の注意　/Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も指示された該当箇所・資料を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は3分の2以上している事が、単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード　/Keywords

社会科教育法Ｄ 【夜】

担当者名 /Instructor　下地　貴樹 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　3年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義・演習　クラス /Class　３年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

これまでの社会科教育法の内容を踏まえたうえで、模擬授業や授業検討を行い授業の実践力を養っていく。

〈到達目標〉
①社会科の教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて詳しく解説することができる。
②社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて模擬授業を行うことができる。
③中等教育における社会科、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に解説することができる。
④教師としての使命感を深く自覚して、行動することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ３」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

「中学校学習指導要領解説　社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

・二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科の理論と実践』学文社
・他に、授業で紹介する

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第1回：社会科教育法IVの目的・進め方・準備に関する説明
第2回：社会科指導案の作成と授業づくり１
第3回：社会科模擬授業１
第4回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
第5回：社会科模擬授業２
第6回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
第7回：社会科模擬授業３
第8回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
第9回：社会科模擬授業４
第10回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
第11回：社会科模擬授業５
第12回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
第13回：社会科模擬授業６
第14回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
第15回：講義のまとめ
学期末試験

成績評価の方法　/Assessment Method

模擬授業の実践および参加・指導案などの授業デザインに関するもの：60%
期末試験：40%

なお、出席回数10回以上がテストを受ける前提条件とする。

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
　　模擬授業に必要な教材開発など（受講人数によって課題の変更あり）

事後学習：学習指導要領に関する理解の確認や授業の反省についての確認。講義後に指示する。

社会科教育法Ｄ 【夜】

履修上の注意　/Remarks

模擬授業について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
受講人数によって、日程が多少変わりますが、模擬授業実践⇒検討の流れで展開します。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は、3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

これまでの社会科教育法で学んだことを発揮しつつ、よりよい実践としていくことがねらいとなります。
模擬授業が中心になりますので、いろいろな授業方法の工夫を期待しています。

キーワード　/Keywords

道徳教育指導論 【夜】

担当者名 /Instructor　舩原　将太 / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本授業では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとしたい。
本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書　/Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：オリエンテーション、道徳とは何か
第２回：社会における「正しさの基準」について
第３回：道徳教育の変遷①〜戦前
第４回：道徳教育の変遷②〜戦後
第５回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
第６回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
第７回：道徳教育の現代的課題①（グループ討論）
第８回：道徳教育の現代的課題②（グループ討論）
第９回：道徳教育の現代的課題③（グループ討論）
第10回：道徳教育の現代的課題④（グループ討論）
第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
第12回：道徳教育の教材研究①
第13回：道徳教育の教材研究②
第14回：指導案作成
第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法　/Assessment Method

学習指導案：50％
コメントシート：20％
小テスト：30％

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

キーワード　/Keywords

特別活動論 【夜】

担当者名 /Instructor　楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

１．文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。

２．学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。

３．子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。

４．生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説　「特別活動編」（平成２０年９月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編　2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ)　学文社
高旗正人他編　「新しい特別活動指導論」　ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回　オリエンテーション　-　特別活動の教育的意義
２回　学級活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章第１節他）　学級活動の実際　中学校
３回　学級活動の実際　その２　高等学校
４回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その１　対立解決プログラムについて
５回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その２　傾聴のスキル、アサーティブネス
６回　生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動　その３　ウィン・ウィン型の問題解決
７回　生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動　その４　対立の仲介のロールプレイ発表
８回　生徒会活動の目標・内容と指導計画（テキスト第３章２節他）
９回　学校行事の目標・内容と指導計画（テキスト第３章３節他）学校行事の実際　中学校
10回　学校行事の実際　-　高等学校
11回　学級の荒れを克服し、お互いを大切にする人間関係を築く学級活動の取り組み
12回　困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
13回　特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
14回　指導計画の作成と内容の取扱い（テキスト第４章）
15回　全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点（課題レポートなど）　期末試験　80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード　/Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

生徒・進路指導論 【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year	単位 /Credits	学期 /Semester	授業形態 /Class Format	クラス /Class
2年次	2単位	2学期	講義	２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標は「生徒指導に求められる基本的な知識を身につけている」である。
本授業の目的は以下のとおりである。
① 生徒指導の意義、生徒指導の３機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと

② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること

③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。

⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。 また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - ２」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第I部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規＋教育で考える 生徒指導ケース１００」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション ＋ 課題レポートの説明
２回 生徒指導の意義と原理（生徒指導提要ト第１章他）、生徒指導と生活指導
３回 教育課程と生徒指導（生徒指導提要第２章他） その１ - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
４回 教育課程と生徒指導 その２ 学級活動・学校行事と生徒指導
５回 生徒指導に関する法制度等（第７章他） その１
６回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
７回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
８回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
９回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
10回 進路相談のロールプレイ実習
11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と生徒指導
13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その１ 少年期
14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その２ 思春期
15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート２0%、期末試験８0%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合については、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

受け身的な受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード　/Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談 【夜】

担当者名 /Instructor　山下　智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。
また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

＜到達目標＞
【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。
【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類ー２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

虐待　いじめ　悲しみから希望へ　楠凡之（著）　高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

生徒指導提要　文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談　津川律子、山口義枝、北村世都（著）　弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック　前川あさみ（編著）　金子書房

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
第２回：学校における教育相談の現代的意義と課題
第３回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
第４回：子どもの問題行動の意味（子ども理解を含む）
第５回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
第６回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
第７回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
第８回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
第９回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネージメント等）
第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
第15回：本講義全体のまとめ
定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート　40%
最終試験　60%
（出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90 分）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

教育相談 【夜】

キーワード　/Keywords
教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習１ 【夜】

担当者名 /Instructor	児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	３年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

４年次の「教育実習」（実習校実習）に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。 その課題は以下の通りである。

１．教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
２．学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
３．生徒指導･学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

到達目標
･教育実習（実習校実習）に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
･教育実習（実習校実習）に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類–3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』（756円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーション
　　教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
２回 教育実習生の１日
３回 教育実習の体験から学ぶ（中学）
４回 教育実習の体験から学ぶ（高校）
５回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
６回 特別活動の模擬授業について（4年生の実演）
７回 教科教育の模擬授業について（4年生の実演）
８回 特別活動の模擬授業 その１
９回 特別活動の模擬授業 その２
10回 教科の模擬授業 その１
11回 教科の模擬授業 その２
12回 学級づくりと学級経営案
13回 教育相談のロールプレイ
14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価（６０％） 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価（４０％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。
一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要不可欠な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

教育実習 1 【夜】

キーワード　/Keywords
模擬授業、実践的指導力

教育実習２ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「IIIー４」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

１回	オリエンテーション	【勤務】【連絡】
２回	中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)	
３回	高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)	
４回	教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)	
５回	実習校実習②	【教育実習指導】
６回	実習校実習③	【教育実習指導】
７回	実習校実習④	【教育実習指導】
８回	実習校実習⑤	【教育実習指導】
９回	実習校実習⑥	【教育実習指導】
１０回	実習校実習⑦	【教育実習指導】
１１回	実習校実習⑧	【教育実習指導】
１２回	実習校実習⑨	【教育実習指導】
１３回	実習校実習⑩	【教育実習指導】
１４回	実習校実習⑪	【教育実習指導】
１５回	教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習３ 【夜】

担当者名 /Instructor	恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義・実習	クラス /Class	４年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに､学校教育についての理解を深める。

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III類ー４」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

３年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【 】内はキーワード

１回	オリエンテーション	【勤務】【連絡】
２回	中学校における教育実習に向けての諸注意 (外部講師の講演)	
３回	高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)	
４回	教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)	
５回	実習校実習②	【教育実習指導】
６回	実習校実習③	【教育実習指導】
７回	実習校実習④	【教育実習指導】
８回	実習校実習⑤	【教育実習指導】
９回	実習校実習⑥	【教育実習指導】
１０回	実習校実習⑦	【教育実習指導】
１１回	実習校実習⑧	【教育実習指導】
１２回	実習校実習⑨	【教育実習指導】
１３回	実習校実習⑩	【教育実習指導】
１４回	実習校実習⑪	【教育実習指導】
１５回	教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』､実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習１や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習２と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習２と同時履修 (教育実習の時間数の単位換算のため) 。
教育実習３のみ受講の場合は教育実習２で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習２の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習（中・高）【夜】

担当者名 /Instructor	楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year	4年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義・演習	クラス /Class	4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
				○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の４つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

本科目の到達目標は以下の通りである。

① 教師に求められる使命感、責任感、コンプライアンスの能力を身につけている。
② 教職員や保護者と連携、協同していくために必要な対人関係能力を身につけている。
③生徒指導と学級経営に必要な知識と指導力に身につけている。
④専門教科及び道徳に関する授業をしていくための基礎的な知識と指導力に身につけている。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、III類の４ に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
２回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
３回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
４回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
５回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
６回 教科の模擬授業 その１ 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
７回 教科の模擬授業 その２ 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
８回 教科の模擬授業 その３ ３つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
９回 教科の模擬授業 その４ ３つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
10回 学級経営案の報告と検討
11回 生徒指導に関するケーススタディ（グループ討論）
12回 保護者理解に関するグループワーク
13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その１（教科教育を中心に）
14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その２(教科外教育、生徒指導を中心に)
15回 学校現場でのフィールドワークの報告 その３（特別ニーズ教育を中心に）
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学級経営案２０％ フィールドワークレポート ２０％
毎回のノートと期末レポート ６０％ で評価する。
なお、授業を欠席し、補講を受けていない回があれば、１０％の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

教職実践演習（中・高）【夜】

履修上の注意　/Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。

毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。

卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

キーワード　/Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学 【夜】

担当者名 /Instructor　山下　智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　2学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子どものパーソナリティ理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

＜到達目標＞
【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類ー２」に分類される科目である。

教科書　/Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版　鎌原 雅彦 (著), 竹綱 誠一郎 (著)　有斐閣

教育心理学 【夜】

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

第１回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。

第２回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。

第３回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。

第４回：【学習③】学習における動機づけや原因帰属理論について学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。

第５回：【学習④】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。

第６回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。

第７回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。

第８回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。

第９回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。

第10回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。

第11回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。

第12回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達的変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。

第13回：【応用②】教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。また子どものパーソナリティ理解についても学びを深める。

第14回：【応用③】知能の定義や考え方の歴史的変遷や諸理論について学ぶ。また、知能の測定と知的障害の定義及び特徴について理解する。

第15回：【応用④】特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援について、教育心理学的観点から学ぶ。

定期試験

成績評価の方法　/Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・ ４０％
最終試験・・・ ６０％

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90 分）

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード　/Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学 【夜】

担当者名 /Instructor　恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - ２」に分類される科目である。

（到達目標）
【知識】
教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回オリエンテーション　ー教育に関する社会学とは
第2回学校をめぐる近年の動向　ー初等教育
第3回学校をめぐる近年の動向　ー中等教育
第4回子どもをめぐる社会の変化　～少子高齢化、地域・社会の変容
第5回諸外国の子ども・子育ての動向　～家族支援、教育支援
第6回諸外国の教育　～学校教育
第7回諸外国の教育　～青少年の社会参加・参画
第8回日本における教育政策・改革の動向
第9回子どもの生活の変化と指導の課題　～家族、少子化
第10回子どもの生活の変化と指導の課題　～孤食、栄養と食育
第11回子どもの生活の変化と指導の課題　～メディアと遊び
第12回子どもの生活の変化と指導の課題　～社会性、自主性
第13回学校と地域の連携　～地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
第14回学校や子ども活動での子どもの安全
第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・３０％、　課題レポート・・・７０％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。。（必要な学習時間の目安は、予習60 分、復習60 分です。）

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

人権教育論 【夜】

担当者名 /Instructor　河嶋　静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス　非常勤講師

履修年次 /Year　2年次　単位 /Credits　2単位　学期 /Semester　1学期　授業形態 /Class Format　講義　クラス /Class　２年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
			○	○	○	○	○	○			

授業の概要　/Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他者の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。
①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

教科書　/Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○)　/References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容　/Class schedules and Contents

１回　なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重　【世界人権宣言】
２回　学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、ＳＮＳ・インターネットによる人権侵害
３回　学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
４回　人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、（実践例など）
５回　部落差別と人権　【部落差別解消推進法】
６回　子どもの人権　【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
７回　障がい児・者の人権　【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
８回　「性の多様性」と人権　【SOGI】【性自認】【性的指向】
９回　外国人の人権　【ヘイトスピーチ解消法】
１０回　男性と女性の人権　【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
１１回　性と人権　「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
１２回　ホームレスの人々の人権　【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
１３回　高齢者の人権　【高齢者虐待防止法】
１４回　コロナ禍の中での人権　「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
１５回　振り返り

成績評価の方法　/Assessment Method

課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」（４０％）、課題（６0％）

事前・事後学習の内容　/Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

履修上の注意　/Remarks

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

新型コロナウィルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

キーワード　/Keywords

人権教育、子どもの人権　人権課題

ＮＰＯ論 【昼】

担当者名 /Instructor	楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科 狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP / 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		

科目名	ＮＰＯ論

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかというと必ずしもそうとはいえないのではないでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

＊『北九州NPOハンドブック（第６版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

（到達目標）
【知識】NPOに関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】NPOについて必要な情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】NPOについて複眼的に思考し、自分の考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○楢原真二編集代表『北九州ＮＰＯハンドブック［第５版］』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論–理論と実証の最前線–』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 導入–講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
２回 NPOの基礎知識(1)
３回 第１回講演会
４回 NPOの基礎知識(2)
５回 第２回講演会
６回 福祉NPO(1)
７回 第３回講演会
８回 福祉NPO(2) –社会福祉法人
９回 第４回講演会
10回 環境NPO(1)
11回 第５回講演会
12回 環境NPO(2)
13回 第6回講演会
14回 地域NPO(1)【多機関連携】
15回 地域NPO(2)【地縁団体化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 … 50% レポート… 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

ＮＰＯ論 【昼】

履修上の注意　/Remarks

第１回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。
遠隔授業になった場合も第１回目の講義で授業の進め方や成績評価について説明しますので、必ず視聴するようにして下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

ＮＰＯ、ＮＧＯ、福祉ＮＰＯ、アドボカシー、ミッション、寄付

ＮＰＯ論 【夜】

担当者名 /Instructor	楢原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科 狭間 直樹 / 政策科学科, 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

DP / 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる「技能」	次代を切り開く「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」	社会で生きる「自立的行動力」
PLC114M	○	△	◎		

科目名	ＮＰＯ論

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかというと必ずしもそうとはいえないのではないでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

＊『北九州NPOハンドブック（第６版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

（到達目標）
【知識】NPOに関する基礎的な知識を身につけている。
【技能】NPOについて必要な情報を収集し、分析することができる。
【思考・判断・表現力】NPOについて複眼的に思考し、自分の考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○楢原真二編集代表『北九州ＮＰＯハンドブック［第５版］』（2010年）。
坂本治也編『市民社会論–理論と実証の最前線–』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

１回 導入–講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
２回 NPOの基礎知識(1)
３回 第１回講演会
４回 NPOの基礎知識(2)
５回 第２回講演会
６回 福祉NPO(1)
７回 第３回講演会
８回 福祉NPO(2) –社会福祉法人
９回 第４回講演会
10回 環境NPO(1)
11回 第５回講演会
12回 環境NPO(2)
13回 第6回講演会
14回 地域NPO(1)【多機関連携】
15回 地域NPO(2)【地縁団体化】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 … 50% レポート… 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

ＮＰＯ論 【夜】

履修上の注意　/Remarks

第１回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご参加ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。
遠隔授業になった場合も第１回目の講義で授業の進め方や成績評価について説明しますので、必ず視聴するようにして下さい。

担当者からのメッセージ　/Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード　/Keywords

ＮＰＯ、ＮＧＯ、福祉ＮＰＯ、アドボカシー、ミッション、寄付